

社会福祉法人 雲柱社

2012（平成24）年度事業報告

目次

本部（世田谷区上北沢）	1	七峡小学童クラブ（荒川区町屋）	161
.....		汐入東小にこここすくーる（荒川区南千住）	162
愛の園保育園（小金井市貫井北町）	25	狛江市立岩戸児童センター（狛江市岩戸南）	163
五日市保育園（あきる野市五日市）	35	狛江市子ども家庭支援センター（狛江市岩戸南）	164
祖師谷保育園本園（世田谷区上祖師谷）	45	狛江市立和泉児童館（狛江市中和泉）	165
祖師谷保育園分園（世田谷区上祖師谷）	53	狛江市ファミリー・サポート・センター（狛江市中和泉）	
烏山保育園（世田谷区南烏山）	63	日野市立たまだいら児童館ふれっしゅ（日野市多摩平）	166
ともしび保育園（江東区東砂）	73	上池台児童館（大田区上池台）	167
神愛保育園（江東区森下）	87	目黒区立中央町児童館（目黒区中央町）	168
光の園保育学校（墨田区東駒形）	97	練馬区立高松小学童クラブ（練馬区高松）	169
墨田区押上保育園（墨田区押上）	109	
練馬区立光が丘第六保育園（練馬区光が丘）	117	江東区東陽子ども家庭支援センター（江東区東陽）	170
高根学園保育所（静岡県御殿場市）	125	江東区大島子ども家庭支援センター（江東区大島）	171
黎明保育園（葛飾区堀切）	135	江東区深川北子ども家庭支援センター（江東区高橋）	172
れいめい宝学童保育クラブ（葛飾区宝町）		江東区南砂子ども家庭支援センター（江東区南砂）	173
れいめい堀切学童保育クラブ（葛飾区堀切）		練馬区立光が丘子ども家庭支援センター（練馬区光が丘）	174
.....		練馬区立大泉子ども家庭支援センター（練馬区東大泉）	175
さくら橋コミュニティセンター（墨田区向島）	147	小平市子ども家庭支援センター（小平市小川東町）	176
墨田児童会館（墨田区墨田）	148	小平市ファミリー・サポート・センター（小平市小川東町）	177
文花児童館（墨田区文花）	149	小金井市子ども家庭支援センター（小金井市貫井北町）	178
外手児童館（墨田区本所）	150	小金井市ファミリー・サポート・センター（小金井市貫井北町）	
江東橋児童館（墨田区江東橋）	151	
江東区平野児童館（江東区平野）	152	賀川学園（小金井市貫井北町）	179
江東区亀戸児童館（江東区亀戸）	153	小金井市福祉共同作業所（小金井市中町）	181
江東区大島四丁目学童クラブ（江東区大島四丁目）	154	かがわサポートセンター・ウイングス（小金井市貫井北町）	183
江東区大島八丁目学童クラブ（江東区大島八丁目）	155	かがわの家（あきる野市、小金井市）	185
江東きッズクラブ明治（江東区深川）	156	小金井生活実習所（小金井市桜町）	187
江東区深川学童クラブ（江東区高橋）	157	かがわ工房（小金井市貫井北町）	189
汐入ふれあい館（荒川区南千住）	158	ワークスタジオかがわ（あきる野市引田）	191
町屋ふれあい館（荒川区町屋）	159	さくらの木（小金井市貫井北町）	193
汐入学童クラブ（荒川区南千住）	160		
汐入小学童クラブ（荒川区南千住）			

※狛江市子ども家庭支援センターと狛江市ファミリー・サポート・センターは、支援センターブロックですが、それぞれ児童館事業、岩戸児童センターと和泉児童館とで一体として運営しているため、児童館ブロックの中に入っています。

2012年度を振り返って

東日本大震災、福島原発事故などから2年目を経て、未だに現地の復興は途上にあります。さらに年度末に政権の交代があり、社会情勢の先行きは依然として混沌としています。社会福祉の世界では、大都市圏の保育所の入所待機児問題が大きくクローズアップされ、その解決は困難を極めています。また、一般企業の社会福祉事業への参入は勢いを増しつつあり、NPOの活躍も広がってきています。ここにいたって、公費によって事業を行っている社会福祉法人への風あたりも強くなってきました。

このような状況の中で社会福祉法人としての責務を果たすために、今年度も必要とされる事業に積極的に取り組んできました。結果、いくつかの新しい事業を立ち上げました

この取り組みは社会福祉法人として当然のことであり、特に「神と人に仕える」ことをミッションとする当法人は、なおのこと率先して必要なニーズに対応すべく事業の展開に力を尽くしてきました。創業者賀川豊彦の思想と実践（キリスト精神）を基本に据えて、「地の塩、世の光」としての役割を担うべく、全職員一体となってミッションを学び、ミッションに立ち、ミッションの具体化に力を尽くすことが出来たことを第一に心から感謝しています。

第二に、法人が運営する事業所の利用者と、そこに関わる全ての人々と関係機関に感謝いたします。

第三に、現場を担う職員の皆さんの労苦に対して感謝いたします。

第四に、多くの事業運営を裏方となって支える、法人本部事務局の皆さんに感謝いたします。

第五に、法人の経営に責任を持ち、指導、助言、支援をいただいた役員、評議員の方々に感謝いたします。

ここに2012年度の事業報告が出来ますことを心から感謝申し上げます。

2013年5月25日
社会福祉法人 雲柱社
理事長 服部榮

I：社会福祉施設の設置・経営、及び収益事業の設置・経営

法人の設立の原点に立ち帰り、「キリスト精神」にたつ事業展開を行った。具体的には聖書に示されたイエス・キリストの教えと行いに倣い、それに倣って生きた創立者賀川豊彦の思想と実践を継承する事業展開を行った。（事業は以下の通り）

社会福祉事業

	名称	個所
保育所	愛の園保育園、五日市保育園、押上保育園、烏山保育園、神愛保育園、祖師谷保育園、高根学園保育所、ともしび保育園、 <u>光の園保育学校</u> 、黎明保育園、 <u>練馬区立光が丘第六保育園</u> ※ <u> </u> は分園併設	11
児童厚生施設	<u>さくら橋コミュニティセンター</u> 、 <u>墨田児童会館</u> 、 <u>文花児童館</u> 、 <u>外手児童館</u> （墨田区）、 <u>汐入ふれあい館</u> （荒川区）、 <u>狛江市和泉児童館</u> （ファミリー・サポート・センター事業併設）、 <u>狛江市岩戸児童センター</u> （子ども家庭支援センター事業併設）（狛江市）、 <u>上池台児童館</u> （大田区）、 <u>たまだいら児童館ふれっしゅ</u> （日野市）、 <u>江東区亀戸児童館</u> 、 <u>江東区平野児童館</u> （江東区）、 <u>目黒区立中央町児童館</u> （目黒区）、 <u>町屋ふれあい館</u> （荒川区）、 <u>江東橋児童館</u> （墨田区） ※ <u> </u> は学童クラブ分室併設館	14
放課後児童健全育成事業	れいめい堀切学童保育クラブ、れいめい宝学童保育クラブ（葛飾区）、 <u>汐入学童クラブ</u> 、 <u>七峡小学童クラブ</u> 、 <u>汐入小学童クラブ</u> （荒川区）、 <u>江東区深川学童クラブ</u> 、 <u>江東区大島四丁目学童クラブ</u> 、 <u>江東区大島八丁目学童クラブ</u> （江東区）、 <u>さくら橋コミュニティセンター学童クラブ言問分室</u> （墨田区）、 <u>墨田区児童会館学童クラブ隅田分室</u> （墨田区）、 <u>墨田児童会館学童クラブ二寺分室</u> （墨田区）、 <u>墨田児童会館学童クラブ梅若分室</u> （墨田区）、 <u>文花児童館学童クラブ押上分室</u> （墨田区）、 <u>外手児童館学童クラブ業平分室</u> （墨田区）、 <u>外手児童館分室学童クラブ</u> （墨田区）、 <u>江東橋児童館学童クラブ菊川分室</u> （墨田区）、 <u>練馬区立高松小学童クラブ</u> （練馬区）、（ <u>さくら橋コミュニティセンター学童クラブ</u> ）、（ <u>墨田児童会館学童クラブ</u> ）、（ <u>文花児童館学童クラブ</u> ）、（ <u>外手児童館学童クラブ</u> ）、（ <u>江東橋児童館学童クラブ</u> ）、（ <u>汐入学童クラブ</u> ）、（ <u>和泉小学生クラブ</u> ）、（ <u>岩戸小学生クラブ</u> ）、（ <u>上池台児童館学童クラブ</u> ）、（ <u>江東区亀戸児童館学童クラブ</u> ）、（ <u>江東区平野児童館学童クラブ</u> ）、（ <u>目黒区中央町児童館学童クラブ保育クラブ</u> ） ※（ <u> </u> ）は、児童館併設学童クラブ、箇所は（ <u> </u> ）含む	28
児童発達支援センター	賀川学園	1
障害福祉サービス事業 （共同生活援助事業・共同生活介護事業）（グループホーム・ケアホーム）	かがわの家 シリウス、ベガ、ミラ、カペラ、ジュピター、 <u>ソレイユⅠ・Ⅱ・Ⅲ</u>	8
障害福祉サービス事業 （就労継続支援B型・生活介護・短期入所）	小金井生活実習所	1

障害福祉サービス事業 ◇ 居宅介護 ◇ 行動援護 ◇ 移動支援事業	かがわサポートセンター・ウイングス	1
障害福祉サービス事業 生活介護事業	かがわ工房、ワークスタジオかがわ	2

※□は2012年度開始

その他の社会福祉事業

地域デイグループ事業	さくらの木（知的障がい学齢児 個別・グループ学習）	1
心身障害者授産事業	小金井市福祉共同作業所（障がい者・高齢者共同 小金井市）	1
ファミリー・サポート・センター事業	狛江市全域（和泉児童館内）、小金井市全域（小金井市子ども家庭支援センター内）、小平市全域（小平市子ども家庭支援センター内）	3
子ども家庭支援センター事業	江東区東陽子ども家庭支援センター、江東区大島子ども家庭支援センター、江東区深川北子ども家庭支援センター、江東区南砂子ども家庭支援センター（江東区）、練馬区立光が丘子ども家庭支援センター、練馬区立大泉子ども家庭支援センター（練馬区）、狛江市子ども家庭支援センター（狛江市岩戸児童センター内）（狛江市）、小金井市子ども家庭支援センター（小金井市）、小平市子ども家庭支援センター（小平市）	9
放課後子どもプラン事業	汐入東小にこにこすくーる（荒川区）、土曜江東きつずクラブ（江東区）、江東きつずクラブ明治	3
家庭的保育事業（保育所実施型）	祖師谷保育園・同分園（実施園）「おうち」、 光の園保育学校（連携園）「ぶどうの木保育室」	9

※□は2012年度開始

収益事業

店舗賃貸ビル	和光プラザ	1
共同賃貸住宅	友愛コーポ	1

※賀川学園は児童福祉法改正に伴い、第一種社会福祉事業から第二種社会福祉事業へ変更となった。これにより、法人事業から第一種社会福祉事業がなくなった。

1. 第二次中期計画の推進

(1) 第二次中期計画の目標

法人のミッションに立つ

- ・より質の高いサービスの実現
- ・サービスを担う人材の育成
- ・働きやすく魅力ある職場の創出

(2) 第二次中期計画の推進

賀川豊彦の思想と実践の継承

① 法人研修における取り組み

- ・研修の際には、礼拝を守り聖書からの学びを行った。
- ・法人の事業基本理念（キリスト精神）の研修を全職員で学んだ。
- ・賀川豊彦の思想、実践を著作や伝記を通して学んだ。
セツルメント事業、子どもの権利、平和運動、生協運動等の多くの社会運動について

② 各施設における取り組み

- ・始業前・中などの時間を用いて、聖書を読みミッション理解を深める機会を継続した。
- ・毎月1回、近隣教会の牧師さんの協力を得て、聖書の教えを学び、ミッション理解を深める機会とした。と同時に近隣教会との交流を深めるために職員も礼拝に出席した。
これは、賀川豊彦が事業と教会の協働を願ったことの実現を目指すことでもあった。

③ ブックレットの発行

*現在下記のブックレットの発行の準備を継続中である。

「賀川豊彦のキリスト精神」、「賀川豊彦と子どもの権利」、「賀川豊彦とセツルメント事業」、「賀川豊彦と社会運動」

2. 地域別ネットワーク（地域型福祉事業）の構築と新たな展開

- ① 第二次中期計画は事業推進の形態を現行のブロック型事業形態を残しながらも、地域の多様な福祉ニーズに 대응していくために、地域型福祉事業形態に移行していくことを目指し、今年も準備を重ねてきた。次年度もこの計画を押し進める形で新しい事業展開を進めている。現状は、発展の途上の状況であり、さらに推進を図りながら時代のニーズに応える事業体の形成に取り組んでいく。

2012年度における新規事業一覧

区市名	事業項目	種別・ブロック・契約形態	(地域的な)ニーズ
荒川区	「町屋ふれあい館」受託開始	児童厚生施設等 ・児童館ブロック ・指定管理事業	・児童健全育成の充実 ・成人、高齢者支援の充実 ・子育て支援の充実 ・民間委託
墨田区	「江東橋児童館」受託開始	児童厚生施設（放課後児童健全育成事業） ・児童館ブロック ・指定管理事業	・児童健全育成の充実 ・子育て支援の充実 ・障がい児支援の充実 ・民間委託
	「ぶどうの木保育室」設置開設	実施園：光の園保育学校 保育所実施型（グループ型）家庭的保育	・待機児解消 ・子育て支援の充実
	「八広ぶどうの木保育室」設置準備 ・2013年11月開設予定	・保育ブロック ・法人設置（補助金）事業	・待機児解消 ・子育て支援の充実 ・東京都子育て世帯向け優良賃貸住宅
江東区	「江東きっずクラブ深川」受託準備 ・2012年度まで学童として実施。2013年度より放課後子ども教室を付加しきっずクラブとして開始	放課後児童健全育成事業等 ・児童館ブロック ・委託事業	・放課後子ども教室の実施 ・放課後学童クラブの実施 ・障がい児支援の充実 ・民間委託
練馬区	「練馬区立光が丘第六保育園」受託開始	保育所 ・保育ブロック ・委託事業	・待機児解消 ・子育て支援の充実 ・民間委託
	「練馬区立光が丘児童館」受託準備	児童厚生施設 ・児童館ブロック ・指定管理事業	・児童健全育成の充実 ・子育て支援の充実 ・民間委託
世田谷区	家庭的保育室「おうち」の増設	実施園：祖師谷保育園 保育所実施型家庭的保育 ・保育ブロック ・法人設置（補助金）事業	・待機児解消 ・子育て支援の充実
狛江市	「虹のひかり保育園」設置準備	認可保育所 ・保育ブロック ・法人設置（運営費）事業	・待機児解消 ・子育て支援の充実 ・障がい児支援の充実
	病後児預かり活動の開始	ファミリー・サポート・センター ・支援センターブロック ・委託事業	・ファミリーサポート・センター事業の拡充 ・就労支援の充実
小金井市	「ソレイユ」の設置準備と開設	ケアホーム ・かがわブロック ・法人設置（自立支援費）事業	・入居待機者解消 ・障がい者支援の充実 ・保護者支援の充実
	小金井児童発達支援センター業務受託の応募準備	障害児通所支援 ・かがわブロック ・委託事業	・障がい児支援の充実 ・子育て支援の充実

※障害児通所支援とは、児童発達支援、医療型児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援を指す。

3. 第二次中期計画の内実化を図るための研修の展開

① 研修の狙い

- ・法人のミッションに立ち、神と人に仕える仕事ができる職員の育成
- ・専門知識、スキルを身につけ、それを駆使して仕事ができる職員の育成
- ・地域福祉の時代を迎えて、多様な地域ニーズに対応できる職員の育成

以上の視点に立って職員の研修を展開し、職員の資質の向上を図った。

② 研修体系の整備と展開

●法人が実施する研修

1) 階層別研修

- ・職員の経験年数別ミッション研修を、各年1回、新人、2年目、4年目、5年目、中堅職員研修、の階層別で、礼拝・「キリスト精神」の研修・賀川豊彦の思想と実践に学ぶことなどを中心に実施。特に3年目職員研修は、山梨県にある障がい者施設での宿泊研修（2泊3日）で、ディートリッヒ・ボンヘッフアー著、森野善衛門訳「共に生きる生活」をテキストとし、障害をもつ方と生活と労働を共にし、職員の学びと交流の場としている。

2) テーマ別研修

- ・中堅職員を対象に時宜にかなったテーマ（危機管理やメンタルヘルス等）を取り上げて研修を行った。

3) 管理職研修

- ・各事業ブロックの施設長会・主任研修等で、聖書を用い、ミッション研修を行う。
- ・講話会

墓前礼拝の後、賀川先生と直接かかわりがあった人の講話を聴く。今年度は新澤誠治氏。

●事業ブロック別研修

- ・各ブロックの専門知識、スキルを中心とした研修

●職場内研修

1) 現場での問題や課題に即した研修

- ・OJTの実践－職場の実践に即して、管理職や先輩が実施する指導など

2) 近隣教会の牧師の協力を得て、毎月1回聖書研会を行っている。

3) 自己啓発研修の進め－職員自らが研修に取り組むこと－

- ・資格取得の推進と援助などの対応を検討中

4) 非正規職員研修

- ・2年未満対象者研修 ・2年以上対象者研修 ・各年1回
- ・礼拝、法人事業基本理念の学びを中心に

5) 管理職研修

- ・毎月行われる施設長会でミッション研修を行った。

③ 年度の研修を振り返って

- ・法人としての研修体系が出来上がり、それに従って研修を行った。
- ・ミッション研修（聖書の学び、キリスト精神、事業基本理念の理解）が中心となったが、回数を重ねるごとにミッション理解が深まりつつあることは感謝である。
- ・この背景には、入社する職員の皆さんが法人のミッションに共感して、応募されていることもあるのではないかと考えられる。
- ・ミッションに立つ事業展開において、利用者から評価をいただいていることはありがたいことである。

4. 働きやすく、魅力ある職場の整備

社会福祉事業への一般企業の参入などもあり、職員の確保並びに定着が大きな課題であることが明らかになった。

- ① 職員の健康管理については、定期健康診断受信の徹底化、産業医、衛生管理者の導入などを進めている。
- ② 社団法人日本産業カウンセラー協会の協力を得て、テーマ別研修の一環としてメンタルヘルス研修を実施した。

日時：2012年11月17日（土）9：30～12：30

内容：働く人のメンタルヘル～うつ病の予防と治療～

対象：8年目以上の職員及び管理職

- ③ モラルサーベイの結果を生かし、各職場に衛生委員を設置し、定期的に会を開催した。事業所内で職員自身が働きやすい職場について考え、環境整備を行い、自身や職場内でも健康管理についての関心が高まった。
- ④ 人件費が年々厳しさを増しつつある状況の中で、職員の間には疲労を感じるものが多い。職員の疲労感・負担感を減じるために、職員配置の課題を改善することが、利用者の安心・安全にも直結する、大きな課題である。
- ⑤ 職員の福利厚生を充実するために、リラックスコミュニケーションが提供する福利厚生制度を見直し、「JTB えらべるクラブ」に変更した。利用の促進を図るために、企画委員会・IT 広報委員会による、簡単に利用できるという利点を社内報等で職員へ伝えた。
- ⑥ 地域型福祉事業形態の形成を踏まえた産業医・衛生管理者の導入と活動の展開

* 墨田区内並びに小金井市の各地域に所在する事業所職員の健康管理と増進を目指して産業医と衛生管理者の導入を進めた。産業医・衛生管理者は一定の条件があてはまる事業所には法的に導入を義務づけられているため、今後も各地域で導入を進める。

2012 年度墨田地区衛生委員会

第 1 回

日時：2012 年 5 月 24 日（木）13：45～15：30

場 所：光の園保育学校

出席者：産業医、保育園長、衛生管理者、看護師、事務局

- ① メンタルヘルス不調を理由とする休職者について。労務管理者及び事務局より経緯説明をし、産業医より復職までのアドバイスを受ける。（3 ケース）
- ② その他

第 2 回

日時：2012 年 7 月 6 日（金）13：45～15：30

場 所：光の園保育学校

出席者：保育園長、衛生管理者、看護師、

- ① 職員健康調査票について

第 3 回

日 時：2012 年 9 月 14 日（金）13：45～15：30

場 所：光の園保育学校

出席者：産業医、保育園長、衛生管理者、看護師、児童館館長、事務局

- ① 職員健康調査票について継続検討
- ② ストレスチェックリストについて
- ③ 事例検討（4 ケース）

第 4 回

日 時：2012 年 11 月 9 日（金）13：45～15：30

場 所：光の園保育学校

出席者：産業医、衛生管理者、看護師、児童館館長 2 名、理事長、事務局

- ① 事例検討（1 ケース）
- ② 職員健康調査票について継続検討
- ③ 各事業所から報告

第 5 回

日 時：2013 年 1 月 25 日（金）13：45～15：30

場 所：光の園保育学校

出席者：産業医、保育園園長 2 名、衛生管理者、看護師、児童館館長 2 名、事務局 2 名

- ① 事例検討

- ・パニック障害について

- ② 健康調査票の活用方法について
- ③ 健康診断の法的根拠、実施方法について

小金井地区衛生委員会

第1回

日 時：2012年10月23日（火）11：00～12：00

場 所：愛の園保育園

出席者：産業医、障害児者施設長2名、小金井子ども家庭支援センター長、保育園園長、
保育園主任、衛生管理者、理事長、事務局

- ① 2012年度委員会での検討事項確認
- ② 墨田区衛生委員会の取り組み報告
- ③ 情報交換等
 - ・職員健康診断
 - ・インフルエンザ予防接種について
 - ・休憩について

第2回

日 時：2012年12月18日（火）11：00～12：00

場 所：愛の園保育園

出席者：産業医、障害児者施設長2名、小金井子ども家庭支援センター長、保育園園長、
保育園主任、衛生管理者、常務理事、事務局1職員

- ① 健康調査票について
- ② 職員のメンタルヘルス事例検
- ③ 情報交換、相談

第3回

日 時：2013年2月26日（火）10：30～12：00

場 所：愛の園保育園

出席者：産業医、障害児者施設長2名、小金井子ども家庭支援センター長、保育園園長、
衛生管理者、事務局2職員

- ① 職員健康調査票について
- ② 職員のメンタルヘルス事例検討
 - ・職場復帰プロセスについて
- ③ 情報交換
 - ・健康診断実施状況等

5. 社会の変化と多様なニーズに対応できる法人組織の再構築

過去 10 年間に事業規模が急激に拡大した当法人の組織は、至るところで軋みを露呈し始めている。この現実を直視し時代の変化に対応していくために、以下のような取り組みを行ってきた。

① 役員会の定期的開催

担当理事と常務理事の役割を明確にし、理事会と理事会の間に生じる諸問題の対応を行ってきた。

② 本部事務局体制を強化し、総務部門（法務、各種監査及び指導対応、情報の管理・保存及び公開、採用事務等）、経理部門（財務分析用データの作成、現場での会計処理サポート）、給与部門（給与計算、社会保険、労務管理補助等）を設置し、事業所と協し合理化、効率化を図った。

③ 経営委員会の設置：今後の法人経営について検討し理事会に具体策を提案するための作業を行った。メンバーは、常務理事、各ブロック担当理事ほか各ブロックの代表者。

④ 専門委員会：第二次中期計画を推進するために設けられた専門委員会は、今年も各委員会がそれぞれの課題を遂行してた。

・政策委員会

法人が直面している問題について検討を重ね、職員にそれらを伝える啓蒙活動を行った

・障がい者施策の現状と問題点、推定管理制度の現状と問題点など

・各施設における BCP（災害時における事業継続プラン）の推進を行った。

・社会問題学習会の実施。

会津放射能情報センター代表片岡輝美氏を招き、放射能から子どもを守る運動の現状を学習し、法人として、また職員各個人として原子力発電について今後のあり方を考える場とした。

・研修委員会

2012年度の研修計画の策定と研修の実施に携わった。研修委員会の働きにより、今年度の予定された研修はおおむね実施し成果を得ることができた。

・企画委員会

法人60周年記念行事の検討、JTBベネフィット【えらべるクラブ】の質的向上の検討、法人組織改善への提言などを行った。

・人材組織委員会

正規職員、非正規職員の就業規則を検討し、素案作りに取り組んだ。

・IT・広報委員会

社内報「うんちゅうしゃ」の編集、発行に取り組んだ。社内報は4号まで発行した。

6. 2013年度に向けて新たに取り組んだ事業

2013年度以降の施設改築

- ① 五日市保育園本園舎改築工事着工 2013年2月完成
- ② 神愛保育園改築に向かつてのマスタープラン委員会の活動開始
- ③ 黎明保育園改築に向かつてのマスタープラン委員会の活動開始
- ④ 愛の園保育園・賀川学園改築マスタープラン委員会活動継続
- ⑤ 八広ぶどうの木保育室の設置検討開始

7. その他の活動、集会など

- ① 苦情対応第三者委員会-年2回実施（6月28日、11月26日）
年2回、各施設に上げられた苦情とその対応について懇談の時を持った。
- ② 関係教会牧師懇談会
日ごろ職員のミッション研修でお世話になっている関係教会の牧師さんにお集まりいただき、懇談の時を持った。
- ③ 賀川豊彦召天記念墓前礼拝
2012年4月21日（土）13:00~13:30（多磨霊園）
奨励： イエスの友会 日本基督教団埼玉大通り教会牧師 東海林 昭雄
- ④ 三法人理事長会
三法人に共通する事項について検討する場となっている。2012年度は三法人の防災対策室の設置及び全体会について検討した。
- ⑤ 三法人全体会（社会福祉法人全体会）
2013年3月24日（土）13:30-16:00に、すみだ産業会館で二部構成で実施。第一部では三法人の職員が一堂に介し、新年度に向かつての課題や活動計画について、報告を聞く機会とした。
- ⑥ 社会福祉法人全体会
三法人全体会二部として実施。永年勤続者表彰、新入職員紹介、新管理職紹介などを行った。
- ⑦ 法人施設長全体会
第1回
日時：2012年4月23日（月） 10:30~17:00
場所：法人本部 礼拝堂
 - ・礼拝
 - ・2012年度事業方針の確認
 - ・経営委員会の立ち上げと取り組むべき課題等
 - ・2011年度の総括と2012年度新たな試み

・2012年度各専門委員会の取組み課題

第2回

日時：2012年10月22日（月） 10:30～17:00

場所：賀川豊彦記念 松沢資料館 礼拝堂

- ・礼拝
- ・経営委員会で取組み検討している課題等
- ・専門委員会より報告
- ・BCP策定に関して、各地域ごとの連携について
- ・施設長研修「発達障害の基礎」講師：伊藤英夫（文京学院大学教授 評議員）

第3回

日時：2013年2月18日（月） 10:30～17:00

場所：賀川豊彦記念 松沢資料館 礼拝堂

- ・礼拝
- ・専門委員長会より報告
- ・施設長研修「管理職と人材育成」 講師：岸川 洋治（横須賀キリスト教社会館館長）

8. 理事会、評議員会の開催（別紙）

法人主催及び他の団体と協力して開催する集会、研修等

名称	内容	主催	開催日	参加人数
新入職員研修(正規、嘱託)①	法人のミッション聖書の学び、雲柱社の歴史、事業基本理念Ⅲ・Ⅳ、法人事業の展開、資料館のレクチャーと見学	法人	2月26日	44
新入職員研修(正規、嘱託)②	法人のミッション聖書の学び、賀川豊彦について、事業基本理念Ⅰ・Ⅱ、賀川豊彦のキリスト精神、雲柱社で働くために(就業規則・倫理・個人情報保護規程等)	法人	3月4日	45
新入職員研修(正規、嘱託)③(フォロー)	法人のミッション聖書に学び、事業基本理念Ⅰ・Ⅱ、賀川豊彦のキリスト精神、賀川豊彦研究、雲柱社の歴史、事業基本理念Ⅲ・Ⅳ、法人事業の展開	法人	4月14日	10
2年目研修	法人のミッション聖書の学び、法人からの報告、事業基本理念の理解、賀川豊彦研究「子どもの権利」、話し合いまとめ、交流	法人	9月8日	40
3年目研修①	共同生活、労働における職員の学びと交流、あさひ福祉作業所で作業	法人	5月26日～5月28日	24
3年目研修②	共同生活、労働における職員の学びと交流、あさひ福祉作業所で作業	法人	9月29日～10月1日	17
4年目研修	法人のミッション聖書の学び、法人からの報告、法人事業基本理念の検証、賀川豊彦研究「スラムにおける実践とその思想」、話し合いまとめ、交流	法人	6月9日	59
5年目研修	法人のミッション聖書の学び、法人からの報告、事業基本理念を実質化、賀川豊彦研究「社会事業の思想と実践」、話し合いまとめ、交流	法人	5月12日	42
10年目研修	法人のミッション聖書の学び、賀川豊彦研究、法人事業基本理念と中期計画、10年目職員の課題～理念の具現化を目指して我々は何を担うのか～、話し合いまとめ、交流	法人	2月9日	16
新入常勤職員研修	法人のミッション聖書の学び、事業基本理念Ⅰ・Ⅱ、賀川豊彦のキリスト精神、事業基本理念Ⅲ・Ⅳ、具体的な事業との結びつき	法人	3月24日	19
中堅職員研修	法人のミッション聖書の学び、法人からの報告、賀川豊彦研究「救済思想から協同組合運動へ」、基本事業理念の内実化、まとめとレポート	法人	1月26日	33
パート研修Ⅰ	法人のミッション聖書の学び、法人事業基本理念について～キリスト精神に基づいて～、ホスピタリティ、話し合いまとめ	法人	6月23日	63
テーマ別研修Ⅰ	法人のミッション聖書に学び、苦情対応受付けの役割とは～現場での対応力UPを図る～、意見交換	法人	6月16日	30
テーマ別研修Ⅱ	法人のミッション聖書に学び、子ども家庭福祉におけるケースワークの実際、意見交換	法人	9月15日	30
テーマ別研修Ⅲ	法人のミッション聖書に学び、働く人のメンタルヘルス～うつ病の予防と治療、意見交換	法人	11月7日	37
家庭的保育研修①	家庭的保育補助者の研修	法人	11月10日	7
家庭的保育研修②	家庭的保育者の認定研修	法人	12月7日他5日間	2
家庭的保育研修③	家庭的保育者の認定研修	法人	12月10日他5日間	1
家庭的保育研修④	家庭的保育者の認定研修	法人	12月11日他5日間	1
全体施設長会	礼拝、2012年度事業方針の確認、経営委員会の立ち上げと取組むべき課題等、2011年度の総括と2012年度新たな試み(各ブロック)、2012年度各専門委員会の取組み課題、事務局連絡	法人	4月23日	37
全体施設長会	礼拝、経営委員会で取組み検討している課題等、専門委員会より(4委員会)、BCP策定に関して、各地域ごとの連携について、各ブロック担当理事よりの報告、発達障害の基礎	法人	10月22日	39
全体施設長会	礼拝、法人本部報告等、各ブロック担当理事よりの報告、専門委員会より(5委員会)、管理職と人材育成、質疑応答	法人	2月18日	39
全体会(会場:墨田産業会館)	礼拝、雲柱社憲章唱和、2011年度の総括と2012年度の展望、永年勤続表彰、新人職員紹介	法人	3月24日	229
経営学習会	社会福祉法人の給与制度について(講師:横須賀基督教社会館 神作 正一郎氏)	法人	5月20日	10
実務講習(経理①)	小口現金について、仮払金について	法人	2月4日	7
実務講習(総務)	VPNの本部(公開用)の中に入っているデータ等について(諸規程等)、書式について(事故報告書、苦情ほか)、HPの更新について	法人	2月12日	9
実務講習(給与)	雇用契約書作成について、36協定・24協定等について、勤務状況集計表の作成について	法人	2月19日	9
実務講習(経理②)	稟議書、業者との契約について、報酬者との契約について	法人	2月22日	10
実務講習(経理③)	予算書、試算表の見方について	法人	2月25日	10
墓前礼拝	墓前祈禱会、雲柱社管理職研修	法人	4月23日	39
全体事務局会議	法人のミッション聖書の学び、2012年度本部事務局体制の変更等について、各部署の2012年度事業計画目標、研修「チームで仕事をするための基本確認」、連絡(タイムレコーダー)	法人	6月20日	21
全体事務局会議	法人のミッション聖書の学び、各部署の反省と事業計画(2012年度各部門の上半期の反省と下半期の事業計画、2013年度各部門の事業計画)、避難訓練、話し合い	法人	12月21日	19

外部団体が開催する研修等

名称・内容	主催	開催日	参加人数
社会福祉法人向け新会計基礎対応セミナー「クラウドで実現する新たな情報システムのご提案」	NEC/NECネクサソリューション	5月25日	2
「社会福祉施設における組織管理ガイドライン研修会」	東京都福祉保健財団	5月29日	7
H24年第1回社会福祉法人協議会総会 講演:昨今の制度改正に社会福祉法人はどのように向きあうか	社会福祉法人/東京都社会福祉協議会	6月8日	3
社会保険事務講習会「算定基礎届事務」講習会	財団法人東京社会保険協会	6月16日	2
H24年度「人権問題雇用主研修会」	渋谷公共職業安定所	6月21日	1
H24年度「外国人労働者雇用管理セミナー」	渋谷公共職業安定所	6月21日	1
うつ病講座「回復の一步を踏み出すために」うつ病の知識と最新医療	杉並区役所	6月29日	2
うつ病講座「回復の一步を踏み出すために」うつ病からの社会復帰とケア、社会復帰のステップと体験談	杉並区役所	7月9日	2
SMILEBS ご担当者オンラインセミナー	樺太大塚商会マーケティング本部	7月19日	2
社会福祉施設開設・経営実務セミナー「社会福祉法人経営と会計・総務について」	独)福祉医療機構 経営支援室	7月12日、7月13日	2
スミセイ「経済後援会」 「日本経済の再生に向けて」	住友生命保険相互会社	7月23日	2
H24年度障害者委託訓練下半期受託機関募集説明・相談会	(公財)東京しごと財団	7月24日	1
第49回社会福祉セミナー 21世紀の貧困と社会福祉-社会的正義と公正の実現に向けて-	財団法人 鉄道弘済会	7月26日、7月27日	1
H24年度全国福祉教育推進セミナー 社会福祉で変わる、福祉教育が変わる	社会福祉法人/全国社会福祉協議会	8月8日、8月9日	2
社会福祉法人・施設会計実務研修会基礎コース	社会福祉法人/東京都社会福祉協議会	8月20日、8月21日	2
社会福祉法人・施設会計実務研修会実務コース(イ) 従来の社会福祉法人会計基準クラス	社会福祉法人/東京都社会福祉協議会	8月28日、8月29日	2
社会福祉法人・施設会計実務研修会実務コース(C) 保育所向けクラス	社会福祉法人/東京都社会福祉協議会	8月30日	2

労働基準法等に関する基礎研修会	社会福祉法人／東京都社会福祉協議会	9月6日	7
H24年度秋の社会保険事務講習会 健康保険の給付と手続き	財団法人東京社会保険協会	9月14日	1
「子どもの発達障害を考える」発達障害のある子どもの育ちと子育てについて	世田谷区発達障害相談・療育センター	9月29日	1
日本病児保育協会設立記念シンポジウム～新しい病児保育の時代に向けて～	財団法人 日本病児保育協会	9月29日	1
「新社会福祉法人会計基準への移行研修会」共通コース	社会福祉法人／東京都社会福祉協議会	10月2日	4
「新社会福祉法人会計基準への移行研修会」選択コース 旧社会福祉法人会計基準からの	社会福祉法人／東京都社会福祉協議会	10月5日	3
「新社会福祉法人会計基準への移行研修会」選択コース 授産施設会計基準又は就労支援事業会計基準からの移行パターン	社会福祉法人／東京都社会福祉協議会	10月5日	3
障害者施設経営セミナー「障害者総合支援法案（仮称）から見る今後の方向」	独）福祉医療機構 経営支援室	10月5日	3
H24年度東京都中高年勤労者福祉推進員養成講座	東京都産業労働局雇用就業部労働相談情報センター	10月2日、10月4日、10月9日、10月11日、10月15日、10月17日、10月19日	1
芝大門人権講座「ホームレスの人々と人権」	公益財団法人人権教育啓発推進センター	10月4日	1
安産衛生管理講習会（社会福祉施設）	三鷹労働基準監督署第2方面安全衛生担当	10月17日	1
H24年度秋の社会保険事務講習会 メンタルヘルスセミナー（一般従業員向け）	財団法人東京社会保険協会	10月19日	1
H24年度秋の社会保険事務講習会 パート・アルバイト社員への社会保険の適用	財団法人東京社会保険協会	10月24日、10月25日	4
H24年度社会福祉法人協議会 第一回経営者セミナー	社会福祉法人／東京都社会福祉協議会・社会福祉法人協議会	10月24日	1
H24年度秋の社会保険事務講習会 メンタルヘルスセミナー（管理職向け）	財団法人東京社会保険協会	10月26日	1
精神科・職業リハビリテーション推進フォーラム「第5回うつ病休職者の職場復帰支援を考える」	東京都立中部総合精神保健福祉センター、独）高齢・障害・求職者雇用支援機構	10月31日	2
H24年度秋の社会保険事務講習会 パート・アルバイト社員への社会保険の適用（追加日程）	財団法人東京社会保険協会	11月2日	2
調布市市民活動支援センター運営団体選考の公開プレゼンテーション	調布市	11月6日	2
第11回中堅職員研修会	日本キリスト教社会事業同盟	11月7日～11月9日	2
年末調整等説明会	北沢税務署、世田谷区課税課	11月13日、11月14日	3
SMILE BS ご担当者オンラインセミナー（人事給与 年末調整のポイント）	株式会社商會マーケティング本部	11月14日	2
社会福祉法人 人事・労務管理研修会	社会福祉法人静岡社会福祉協議会、静岡県社会福祉施設経営者協議会	11月16日	3
H24年度社会福祉施設経営者研修施設トップによる「みんなが長く働ける」職場作り	調布市社会福祉協議会	11月16日、12月6日	2
「働く・働きたい女性のためのアサーション講座～アサーションで快適な人間関係を～」	世田谷区、（公財）世田谷区産業振興公社	11月20日	2
「企業の社会的責任と人権」セミナー	公益財団法人人権教育啓発推進センター	11月21日	1
最新の労働問題事例を学ぼう！～使用者として押さえておきたい解決のポイント～	東京都労働相談情報センター八王子事務所	11月28日、12月4日	2
新社会福祉法人会計基準に関する研修会	社会福祉法人／東京都社会福祉協議会	11月28日	1
H24年度社会福祉法人協議会 第二回経営者セミナー「社会福祉法人に期待すること」	社会福祉法人／東京都社会福祉協議会・社会福祉法人協議会	11月29日	1
H24年度秋の社会保険事務講習会 年金に関する講習会	財団法人東京社会保険協会	11月30日	1
社会福祉施設における危険予知活動実践セミナー	中央労働災害防止協会	12月11日	5
H24年度こころの健康講習会 精神科で使われるくすり～安全で効果的な処方～	調布市社会福祉協議会	1月15日	2
衛生推進者養成講習	㈱ウェルネット	1月16日	2
中小企業BCPミニ講座 BCPで首都直下地震対策！	世田谷区、東京商工会議所世田谷支部	1月29日	1
保育所経営セミナー「子ども・子育てに関する政策動向とこれからの保育所の経営について」	独）福祉医療機構 経営支援室	2月1日	2
H25年度冬の社会保険事務講習会セミナー 60歳からの雇用保険と社会保険	財団法人東京社会保険協会	2月20日	1
第7回 企業メンタルヘルスを推進するセミナー	（社）東京精神科病院教会、NPOメンタルヘルス協議会	2月21日	2
東京都民間社会福祉施設サービス推進費（保育所）新規交付施設説明会	東京都福祉保健局少子化社会対策部保育支援課保育助成係	2月22日	2
採用担当者向け研修Ⅰ 先手必勝！新卒者獲得に向けた採用活動	東京都福祉人材センター	2月26日	2
H25年度申告・申請に係る「障害者雇用納付金制度事務説明会」	独）高齢・障害・求職者雇用支援機構 東京高齢・障害者雇用支援セン	2月28日	1
H24年度「マネジメント」研修 社会福祉の専門家としての職員成長を支える 職場内の「マネジメント」の進め方	東京都社会福祉協議会、東京都社会福祉人材センター研修室	3月1日	2
苦情対応セミナー	㈱損害保険ジャパン、日本興亜損害保険、㈱福祉保険サービス	3月5日	1

2012年度理事会

() は書面出席

名称	議案	開催日	出席人数
第一回理事会	第一号議案 2011(平成23) 年度事業報告に関する件	5月19日	9
	第二号議案 2011(平成23) 年度監事の監査報告及び決算報告に関する件		
	第三号議案 光の園保育学校隣地手付金の精算（仮払金評価損）に関する件		
	第四号議案 2011(平成23) 年度資産総額に関する件		
	第五号議案 苦情対応の第三者委員の選任に関する件		
	第六号議案 新規事業の事業計画及び予算に関する件		
	第七号議案 狛江市新設保育園新築に伴う借入に関する件 ・借入金額について（独立行政法人 福祉医療機構） ・担保提供について ・保証人について		
第一回緊急理事会	第一号議案 かがわサポートセンター・ウィングス運営規程変更に関する件	6月23日	9 (2)
	第二号議案 鳥山保育園園庭遊具設置業者随意契約及び予備費の流用に関する件		
	第三号議案 (仮称) 狛江市新設保育園予定管理職人事に関する件		
	第四号議案 小金井ケアホームの土地の基本財産に計上する件及び定款変更に関する件		
第二回緊急理事会	第一号議案 狛江市の新設保育園（仮称：雲柱社保育園）入札参加業者選定基準内容変更に関する件	8月18日	9 (3)
	第二号議案 狛江市の新設保育園（仮称：雲柱社保育園）本体工事入札参加業者決定に関する件		
	第三号議案 賀川学園中規模修繕計画に関する件		
	第四号議案 墨田区及び練馬区プロポーサル応募に関する件 ・墨田区押上保育園 ・練馬区立光が丘子ども家庭支援センター		
	第五号議案 賀川学園の定款上の事業名称に関する件		
	第六号議案 (仮称) 小金井ケアホーム資金計画に関する件		
第三回緊急理事会	第一号議案 狛江市の新設保育園本体工事入札結果に関する件	9月22日	8
	第二号議案 五日市保育園改築計画に関する件		
	第三号議案 五日市保育園仮設園舎入札参加業者選定基準に関する件		
	第四号議案 賀川学園中規模修繕入札参加業者選定基準に関する件		
	第五号議案 2013年度施設長人事に関する件		
	第六号議案 職員通勤車両管理規程に関する件		
第四回緊急理事会	第一号議案 賀川学園中規模修繕工事入札参加業者の承認に関する件	10月20日	8 (2)
	第二号議案 五日市保育園経理区分第一次補正予算について		
	第三号議案 五日市保育園改築のコンサルフィー契約に関する件		

第五回緊急理事会	第一号議案 五日市保育園仮設園舎工事入札参加者決定に関する件 第二号議案 かがわの家の運営規程変更に関する件	11月2日	8 (1)
第二回理事会	第一号議案 2012(平成24)年度資金収支第一次補正予算に関する件 第二号議案 賀川学園中規模修繕工事入札結果及び契約に関する件 第三号議案 五日市保育園仮設園舎工事入札結果に関する件 第四号議案 虹のひかり保育園に関する件 ・事業計画について ・初度調弁について ・2013年度当初予算について 第五号議案 かがわの家運営規程変更に関する件	12月1日	9
第六回緊急理事会	第一号議案 五日市保育園本園舎工事入札参加者選定基準に関する件 第二号議案 2013年度管理職人事に関する件 第三号議案 公印取扱規程に関する件 第四号議案 2012年度福利厚生制度（「JTBえらべる倶楽部」）残金の活用に関する件 第五号議案 法改正に伴う旧賀川学園運営規程の廃止及び賀川学園（児童発達支援センター）運営規程制定に関する件	1月12日	10
第七回緊急理事会	第一号議案 五日市保育園本園舎工事に伴う入札参加者決定に関する件 第二号議案 小金井市福祉共同作業所の事業内容変更に関する件 第三号議案 2013年度管理職人事に関する件 第四号議案 2013年度賞与の支給率の変更に関する件	2月16日	10 (2)
第三回理事会	第一号議案 2012(平成24)年度資金収支最終補正予算に関する件 第二号議案 児童館ブロック職位・職階の制度案に関する件 第三号議案 2013(平成25)年度管理職人事に関する件 第四号議案 2013(平成25)年度事業計画に関する件 第五号議案 2013(平成25)年度資金収支当初予算に関する件 第六号議案 公印取扱規程に関する件 第七号議案 評議員改選に関する件 第八号議案 理事長の互選及び常務理事の指名に関する件	3月9日	9(4)

() は書面出席

2012年度評議員会

名称	議案	開催日	出席人数
第一回評議員会	第一号議案 2011(平成23)年度事業報告に関する件 第二号議案 2011(平成23)年度監事の監査報告及び決算報告に関する件 第三号議案 光の園保育学校隣地手付金の精算（仮払金評価損）に関する件 第四号議案 2011(平成23)年度資産総額に関する件 第五号議案 苦情対応の第三者委員の選任に関する件 第六号議案 新規事業の事業計画及び予算に関する件 ・練馬区立光が丘第六保育園 ・町田ふれあい館 ・江東橋児童館 第七号議案 狛江市新設保育園新築に伴う借入に関する件 ・借入金額について（独立行政法人 福祉医療機構） ・担保提供について ・保証人について 第八号議案 （仮称）小金井ケアホーム新築工事業者決定の件 第九号議案 祖師谷保育園分園敷地の「世田谷区保育事業に係る公有財産の有償貸付」に関する定期借地権設定契約に関する件	5月19日	15
第二回評議員会	第一号議案 2012(平成24)年度資金収支第一次補正予算に関する件 第二号議案 賀川学園中規模修繕工事入札結果及び契約に関する件 第三号議案 五日市保育園仮設園舎工事入札結果に関する件 第四号議案 虹のひかり保育園に関する件 ・事業計画について ・初度調弁について ・2013年度当初予算について 第五号議案 かがわの家「ソレイユ」に関する件 ・基本財産（土地）の変更について ・定款変更について ・資金計画について 第六号議案 虹のひかり保育園に関する件 ・入札参加者選定基準内容の変更について ・本体工事入札参加者決定について ・本体工事入札結果について 第七号議案 賀川学園中規模修繕に関する件 ・中規模修繕計画について ・入札参加者選定基準について ・中規模修繕工事入札参加者の承認について 第八号議案 五日市保育園改築に関する件 ・新築計画について ・コンサルフィー契約について ・五日市保育園改築工事に伴う土地の賃貸契約について ・仮設園舎工事入札参加者選定基準について ・仮設園舎工事入札参加者の決定について 第九号議案 かがわサポートセンター・ウィングス運営規程変更に関する件 第十号議案 かがわの家運営規程変更に関する件 第十一号議案 賀川学園の定款上の事業名称に関する件 第十二号議案 2013年度施設長人事に関する件 第十三号議案 職員通勤車両管理規程に関する件	12月1日	13

第三回評議員会	第一号議案 2012(平成24)年度資金収支最終補正予算に関する件 第二号議案 児童館ブロック職位・職階の制度案に関する件 第三号議案 2013(平成25)年度管理職人事に関する件 第四号議案 2013(平成25)年度事業計画に関する件 第五号議案 2013(平成25)年度資金収支当初予算に関する件 第六号議案 公印取扱規程に関する件 第七号議案 役員改選に関する件 第八号議案 五日市保育園改築に関する件 ・本設園舎工事入札参加業者選定基準について ・本設園舎工事入札参加業者の決定について 第九号議案 法改正に伴う旧賀川学園運営規程の廃止及び賀川学園(児童発達支援センター)運営規程制定に関する件 第十号議案 小金井市福祉共同作業所の事業内容変更に関する件 第十一号議案 2013(平成25)年度賞与の支給率の変更に関する件	3月9日	16
---------	---	------	----

2012年度役員会

名称	議案	開催日	出席人数
第1回役員会	1. 2012年度法人の課題について ・児童館ブロック統括者(担当理事代公)の位置づけと役割について ・法人組織の再構築について ・担当理事(役員会)の役割及び責任について ・役員会及び経営委員会運営規程について ・経営委員会の法人組織での位置づけ、役割について ・会計責任者の役割について 2. 災害時の対応について(4/3暴風雨対応をもとに) ・4/3暴風雨対応時の労務管理について 3. 2012年度正規職員の異動等について 4. 事業ブロック内地域での非常勤職員募集・採用について 5. 岩戸児童センター-児童館事業(小学生クラブ)、子ども家庭支援センター事業の管理体制について 6. 祖師谷保育園分園公有地有償化について 7. 祖師谷保育園分園認可定員変更について 8. 五日市保育園新築計画について 9. 研修委員の選出について 10. 4月全体施設長会のプログラムについて 11. 5/19役員・評議員会懇談会の内容及び陪席施設長について	4月7日	8
第2回役員会	1. 経営委員会の専決事項について(引き続き継続審議していく) 2. 2012年度正規職員の異動等について 3. 5/19理事会・評議員会の議案について 4. ケアホーム資金計画について 5. 平成24年度国家資格等試験対策講座の開催予定のご案内の取扱いについて 6. 災害時の対応について	5月2日	9
第3回役員会	1. 職員アンケートについて→次回も継続して審議 2. 夏期賞与について 3. 6/23緊急理事会議案について 4. 各ブロックからの報告 (児童館ブロック) ・石浜ふれあい館プロポーサル応募の件 (支援センターブロック) ・小金井市子どもセンター 次年度以降の事業についての市との話し合いの件 (保育ブロック) ・練馬区立光が丘保育園開園の件(順調で大きな問題発生なし) (法人より) ・法人組織の再構築の進捗状況の件 ・6/28苦情第三者連絡会実施の件事前に苦情一覧目を通して欲しい ・11/19関係牧師懇談会実施の件(14:00~)	6月5日	11
第4回役員会	1. 職員アンケートの件 ・9月に配布予定 ・アンケート結果をどう風にか活かしていくか→次回、何を目的としていくか提案する。 2. 各ブロックからの報告 (児童館ブロック) ・石浜ふれあい館、一次審査で落選の件 ・世話人会を実施し、館長会で諸問題について話し合っていくことを協議検討している。 ・担当理事代行として月2回位、他の児童館に係わるよう心がけている ・墨田児童館、規模大きく施設長不在の穴は大きく、施設長代理を立てる等の対策を施設長会で検討していきたい。 (支援センターブロック) ・狛江ファミリーサポートセンターで出病児・病後児保育について話し合いがおこなわれている。 ・支援センターは新任施設長多く、現状電話対応でフォロー実施(訪問する時間が作れない) ・現状、ブロック内施設で大きな問題の発生なし。各センター長が適切に対応している。 ・光が丘子どもセンターの指定管理期間が終了する。練馬区では初となり職員も戸惑っている。 ・ブロック内でタイムド導入(狛江支援センター除く)、課題は仕事の実態が1日に何度も出入があり、カードにすべて記載することが難しいこと。 (保育ブロック) ・グループ 保育型家庭の事業ぶどうの木(光の園が実施園)6/18よりスタート。 ・今年4月開園の練馬区立光が丘保育園、勝手がわからないことも多いが一致団結し運営。 ・第一回目のブロック内パート研修実施。研修で統一が必要な事項は施設長で検討していく。 ・臣愛保育園改築について区役所と話し合い。仮園舎の土地近隣に見当たらない状況。 (法人より) ・7月の緊急理事会延期。理由は狛江市新設保育園のスケジュールに変更が生じた為。 ・8/4 14:30~緊急理事会を予定。 ・苦情対応の為の第三者委員会が開催された。	7月3日	11

<p>第5回役員会</p>	<p>1. 職員アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ブロックでおこなうことを決定。 ・アンケート内容は法人にて雛形を提示しプラス項目等はブロック毎に決めて実施する。 ・9月にアンケート実施。10月の役員会でデータ共有をおこなう。 <p>2. プロポーザルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・墨田区押上保育園と練馬区光が丘子ども家庭センターについては必ず応募することを確認。 <p>3. 各ブロックからの報告 (かがわブロック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアホーム建設、共作の事業内容変更等、児童発達支援センターへの移行に伴う運営規程変更など、動きが激しい。職員の働き方についても再検討することが必要となっている。 <p>(支援センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練馬区立光が丘子ども家庭支援センターが委託から指定管理へ変更。 ・区のひろば事業の考え方が変わってきている。 ・家にひきこもっている人にも来てもらえるような工夫を示唆されている。 ・虐待対策リカーは精神的疲労あり、3～4年で交代する必要があると感じる。又、ひろば事業経験を踏まえリカー職が望ましい。 <p>(保育ブロック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保を目的とし就職フェアに参加。概ね盛況だった。又、児童館希望者も数名いた。 ・人材確保の為、9月には保育ブロック全体で異動等の希望を共有する予定。他のブロックの方もできれば9月に保育ブロックへの希望があるかを知らせて欲しい。 ・保育所の利用者だけでなく在宅で問題を抱えている親の受入や相談もおこなっていく。 ・事故報告について法人と市町村の報告様式統一して欲しい。 →どちらかの用紙を記入して両方に知らせる方法で結構（法人より） <p>(法人より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/1より小金井地区に産業医を配置する件。 ・小金井市の自動発達支援センターの見積りを提出の件（行政よりの依頼） ・ファミサポと保育室の見積り提出の件（大田区子ども家庭支援センターよりの依頼） ・ともしびの隣地との境界線対応の件 ・光の園の底地対応の件 ・黎明の建物の一部の所有権取得対応の件 ・八広子育て有料マンションFでのグループ型家庭的保育事業の開園の件 ・法人・新会計基準への移行検討会実施（8/30）の件 ・事業所でのBCPマニュアル作成の書式作成の件 	<p>8月7日</p>	<p>11</p>
<p>第6回役員会</p>	<p>1. プロポーザルの件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江東区深川学童クラブのさっずクラブ移行の件 ・光が丘児童館の件 <p>2. 9/22緊急理事会の議案確認の件</p> <p>3. 各ブロックからの報告 (かがわブロック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規事業（小金井市児童発達支援センター）の件 <p>(児童館ブロック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労務管理上のばらつき ・主事の役割と新館制度見直しの件 <p>(支援センターブロック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の他ブロックへの異動希望の共有（10月役員会）の件 <p>(保育ブロック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狛江保育園、押上保育園について、他の事業者からの応募者が無かった件 ・施設長人事検討の件 <p>(法人より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積立金の積立方針と目標額設定の件（進捗状況） <p>4. 各専門委員会からの報告の件</p>	<p>9月5日</p>	<p>10</p>
<p>第7回役員会</p>	<p>1. 10/20緊急理事会の議案の確認</p> <p>2. 役員報酬規程の表記訂正の件</p> <p>3. 各ブロックからの報告 (かがわブロック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアホーム開設スケジュールの件（12/1スタート） ・小金井市児童発達支援センターのプロポーザルの件 ・共作の建物耐震工事実施時期未定の件と障害サービスの新体系への移行の件（新体系への移行に伴い2つのサービスをおこなうことにより事務が煩雑となる） <p>(児童館ブロック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒川区石浜ふれあい館の指定管理業者決定の件（㈱日本デイケアセンター） ・練馬区光が丘児童館のプレゼンテーション実施の件 ・児童館担当理事のブロック内事業所の現状把握状況の件 ・タイムカードの導入による労務管理強化の件 ・親館制度の見直しの件 <p>(支援センターブロック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練馬区光が丘子ども家庭支援センターのプロポーザル応募、プレゼンテーション実施の件 ・江東区内4センターの耐震工事実施状況の件 ・各種研修（対人援助、相談者、虐待対策研修）の充実化の件 <p>(保育ブロック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狛江新設保育園の名称決定（虹のひかり保育園）の件 ・押上保育園のプレゼンテーション実施の件 ・次期園長、主任候補への研修の件 <p>(法人より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新会計への移行の件 ・児童館、学童クラブのガイドライン公表に伴う職員の育成の件 ・ブロック間の異動の件 ・正規職員採用予定の件 ・4ブロック人材育成調整会議実施の件 ・社会福祉施設における危険予知活動実践セミナー参加調整の件 	<p>10月3日</p>	<p>11</p>

第8回役員会	<p>1. 12/1理事会の議案確認の件</p> <p>2. 各ブロックからの報告 (かがわブロック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共作の新体系移行準備状況の件 (児童館ブロック) ・ タイムカード導入の件 (半数の施設に導入予定) ・ 施設長不在施設の代行者 (主事) の件 ・ 親館制度の面倒の見方にはばらつきがあり、親館制度の見直し検討の件 ・ 育成制度の件 ・ 深川学童クラブ名称変更 (江東きつずクラブ深川) の件 (支援センターブロック) ・ 練馬区立光が丘子ども家庭支援センターの継続と施設長人事の件 ・ 小平市、狛江市、江東区での虐待対策ワーカーの必要資格の件 (保育園ブロック) ・ 施設数増加に伴うブロック内を東・西地区に組織分割の件 ・ 主任制度、リーダー育成の件 ・ 八広の開所に伴う保育園からの援助体制の件 (法人より) ・ 担当理事の施設不在を解消する為に役員会の開催を隔月にする件 ・ 委員会の組織図を整理する件 	11月2日	9
第9回役員会	<p>1. 定款準則等の確認の件</p> <p>2. 公印取扱規程に関する件</p> <p>3. 五日市保育園本園舎工事入札参加業者選定基準に関する件</p> <p>4. 2013年度管理職人事に関する件</p> <p>5. 2012年度福利厚生制度 (JTBえらべる倶楽部) 残金の活用に関する件</p> <p>6. 1/12理事会の議案の確認の件</p> <p>7. 各ブロックからの報告の件 (法人より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 黎明保育園改築に関する件 	1月8日	11
第10回役員会	<p>1. 30時間常勤職員研修の件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各ブロックでの30時間常勤職員の位置づけ・考え方が異なる為、各ブロック毎実施。 <p>2. 各事業ブロック職員配置の確認の件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主事補は各ブロックでの決定事項だが「所定の研修」のキャリアは役員会で決める事項 ・ ブロック毎の手当別表を作成し、就業規則変更時「手当別表」を提示する。 <p>3. 給与表の改定の件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材育成と連動した給与表の改定方針 <p>4. 介護休暇の無給・有給についての確認及び規程変更の要否の件</p> <p>5. 3/9理事会・評議員会の議案の確認の件</p> <p>6. 2013年度スケジュールの確認の件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体施設長会、法人研修、2012年度決算スケジュール、第一回定例理事会・評議員会懇談会 <p>7. 保育士等処遇改善補助事業の件</p> <p>8. 各ブロックからの報告の件 (法人より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理事・評議員改選の件及び理事長の互選及び常務理事の指名について ・ 法人で統一した領収書の使用について ・ 役員及び評議員の報酬等に関する規程別表の変更について ・ 各施設長会運営規程について 	3月6日	9

2012年度苦情解決第三者委員

名称	議案	開催日	出席人数
第一回第三者委員会	<p>1. 2011年度下半期法人の苦情対応現状報告</p> <p>2. 2012年度法人の苦情対応現状報告</p> <p>3. 今後の苦情対応についての助言・協議</p>	6月28日	6
第二回第三者委員会	<p>1. 2012年度上半期法人の苦情対応現状報告</p> <p>2. 2012年度法人の苦情対応現状報告</p> <p>3. 今後の苦情対応についての助言・協議</p>	11月26日	6

2012年度関係牧師懇談会

名称	議案	開催日	出席人数
第三回関係牧師懇談会	<p>1 法人の現状と課題 ～職員のミッション理解をどう促進するか～ 小議常務</p> <p>2 懇談 関係牧師懇談、陪席者 (各専門委員) との懇談</p>	11月19日	11

法人の第Ⅱ次中期計画を具現化するため、現場を支える法人本部事務局体制・機能の整理強化を進めた。

- 1 採用、異動、退職等労務管理手続きの円滑化
 経理規程の遵守、人事データ管理
 契約（業務委託、指定管理等）の遵守と法人内諸規程の整備
- 2 収益事業管理体制のマニュアル化
 - ・収益事業の管理業務を行う常勤職員を 2012 年度配置した
 - ・テナント、ビル管理の業者等の緊急連絡先一覧を整備した
 - ・友愛コーポの耐震強度の問題から、入居者に理解を頂いた上で退去を進めている
- 3 専門委員会、法人（企画）研修の運営補助
 - ・原則各委員会には事務局が同席し必要に応じ、作業の支援を行った
- 4 墨田区五児童館での事務管理体制構築へ向けての検討
 - ・事務局が墨田児童会館に出向き、墨田採用（配属）の非常勤事務職員と打ち合わせをし、墨田地域の 5 児童館の事務を、墨田児童会館の館長の指示・命令を受け、総括して墨田児童会館の事務職員（非正規）が墨田区内 5 児童館の事務を行うことを目指している。2013 年度は更なる情報及び作業の一元化を目指す
- 5 文書管理業務の向上（システムの導入など）
 - ・和光文書管理室に、常勤職員を追加配置し、資料の整理及びデータ化を進めた。2013 年度は、より明確に優先順位を明らかにし作業を進める
- 6 IT 環境の整備、施設改築のプロジェクトチームの運営補助
 - ・各事業ブロックの施設長会でブロックのスタンダードを確認し、機器の導入・環境の整備を進めた
 - ・施設改築のプロジェクトチーム
 - ① 虹のひかり保育園（2013 年 3 月 21 日竣工・引き渡し）
 - ② 五日市保育園（あきる野市のまちづくり条例により、道路としての土地の提供問題）
 - ③ 神愛保育園
 - ④ 黎明保育園（堀切教会との協働・共存の問題を教会と法人とで検討）
 小金井地域（KAGAWA 館の土地交換問題が頓挫し休眠状態。ただし、地域での取り組みとして、2012 年度には産業医と契約し衛生委員会の活動を開始した。

7 働き方検討委員会、人事制度検討委員会の運営補助

- ・30時間常勤職員の制度確立については継続審議
- ・人事制度（65歳継続雇用等）の新構築は引き続き検討中
- ・労働衛生管理体制の構築
 - ① 2012年度、新たに小金井地域で産業医を導入し、2ヶ月に一回本部事務局も同席し、衛生委員会を開催した
 - ② 墨田地域での衛生委員会では、具体的なケース（メンタルヘルス、腰痛など）検討を行い、「職員健康調査票（案）」を作成、法人としてより細やかな職員の健康管理を目指す。
 - ③ 安全衛生管理規程の作成
 - ④ 衛生推進者会議（仮称）の実施は来年度の課題となった

8 広報業務の強化

法人の事業方針を踏まえた、IT広報委員会編集による社内報を年4回発行した

9 事務局の専門性の強化

【経理部門】

- ・各行政の運営費等の制度について学習し、補助金請求時などに生じるミスを軽減した
- ・施設整備について、会計士の指導を受けながら適切な決算を行う

【給与部門】

- ・労働関連法令の改定について、その都度正確な情報を得、法人の就業規則とも照らし合わせ、労務管理責任者に情報提供すると共に適切な給与事務を行った

【総務部門】

- ・新規事業の立ち上げ補助
光が丘児童館民間委託について、プロポーザル資料の作成から行った。事業立ち上げ事務について手順の確認及びマニュアル化を進めた。

10 狛江市新保育園開設の補助

2012年度、毎週実施された虹のひかり保育園工事事務所（トーヨー建設設置）での現場打ち合わせに事務局も毎会同席。園長予定者及び主任予定者の補助を行うとともに必要な事務手続きを行った

11 評議員会・理事会、役員会、専門委員会等運営事務を行った

- 12 他団体と協力する集会、研修の運営補助など
 アドベント礼拝、賀川豊彦召天記念墓前祈祷会と講話会
 本所地区施設職員合同職員研修会

- 13 内部統制監査実施及び監事監査補助
 ・2012年度実施内容

6月26日	外手児童館	10:30～	内部統制監査
		14:00～	監事監査
8月28日	町屋ふれあい館	10:30～	内部統制監査
		14:00～	監事監査
9月18日	小金井市子ども家庭支援センター	10:30～	内部統制監査
		14:00～	監事監査
10月23日	南砂子ども家庭支援センター	10:30～	内部統制監査
		14:00～	監事監査
12月25日	愛の園保育園	10:30～	内部統制監査
		14:00～	監事監査
3月26日	神愛保育園	10:30～	内部統制監査
		14:00～	監事監査

上記以外でも、平野児童館や練馬区立光が丘第六保育園等、行政に対する財政援助団体への対応として事務局による業務チェックも実施した。

- 14 法人本部事務局体制・機能の整理強化

- ・日常の法人運営及び事業所の運営のコンプライアンスの確認を中心に、事務局内の業務整理を行った。その一環として、2012年度は特に保育ブロックのリスクマネジメントを中心に現状の確認を行った。(この結果を受けて、保育ブロックでは施設長・主任が中心となり、2013年度ブロックとしてのリスクマネジメントの見直しを図ることとなった)
- ・事故速報のフォームを作成し、法人執行部に即時情報が伝達されるようにし、かつ事故番号で管理することで、法人内でリスクを分析し再発防止を目指した
- ・社会環境の変化に対応した健全な法人運営を遂行すべく、法人全体の決算、予算管理、資金管理、金融対策、経営分析等のデータを役員会・理事会に提供した
- ・新規事業の立ち上げ事務をスムーズに実行するために、光が丘児童館の引継ぎ等の際に、手順

の確認を館長予定者とも行い、マニュアル化を進めた。

特に、2012年12月より会計士と理事長・常務理事（事務局同席）とで開始した、法人組織再編のための会議（以降「法人組織再編会議」）は、法人の中長期の展望（第Ⅱ次中期計画）の成果を得るための「有機的な集合体」としての組織とは、どのような組織であるのかを、討議・検討するため、毎月定例で行っている。

一方で、2011年度より設置された（任期2年。2012年度満期）専門委員長会議でも、2年間の活動の成果のひとつとして「仮）企画部」構想が出された。

2012年度（2013年）3月20日に開催された緊急理事会終了後、執行部の意向で、特別役員会を開催した。定例の役員会に構成員以外の理事にも出席を願い、法人組織の再構築を図っている現状を報告することを目的とした特別役員会を開いた。そこでは、専門委員長会議より提案された「仮）企画部」の構想及び、施設長が担当役員を兼務する役員会による現在の決議機関のあり方が話し合われ、2015年度（子ども・子育て新システムや新会計基準以降年度）までに、組織の再編（責任・権限の整理と委任内容）を果たすことが確認された。

具体的には、まず、「人材の育成」の機能について充実を図る。人材育成にはある種の管理が必要であるが、育成についての方針が明確になっておらず、そのための管理もなされていない。すなわち、「法人として求める職員の資質」とは何か。この資質を育成するために必要な研修体系の確立、賞罰規程を含む労務管理の整備、キャリアパスの構築等が急務である。

「法人の職員」は地域で、利用者のためのネットワーク構築を、既存の法人の団体（個人）と構成できるのか。法人の理念（キリスト精神）や賀川豊彦の実践が、現代でどのように活かされ・発展するのかを検証しつつ、常に法人の人材育成の内容や、手段アプローチを見直し・修正を図る。

以 上

法や制度の枠を超え、幼児期から学齢期、成人期にわたって知的障がいと自閉症児・者及びその家族の地域での安定した暮らしと成長を支援することを目指し、以下の事業を障がい児・者ブロック 8 事業所が連携・分担し、実施してきた。

・きょうだいの会（ライオンクラブ）事業

障がいのある子どものきょうだいと家族を支える会として、毎月1回の定期活動と8月と3月にキャンプを実施した。また3月にジュニアスタッフ活動としてディズニーランドへ行き、会員同士の親睦を深めることができた。会員(小学生)8名、ジュニアスタッフ会員(中学1年～大学2年)25名

・小金井市委託事業(日曜クラブ)

小金井市在住の障がいのある小学生～高校生の余暇支援として毎月第3日曜日に活動を実施した。登録児童は16名、事業はさくらの木・ウイングスが担当して行われた。(2013年度は廃止)

・東京都障害者(児)移動支援従事者養成研修事業

ヘルパー確保と障害児・者の理解を目的にガイドヘルパー養成研修講座を6月に開催、参加15名内、ウイングスの登録者1名

・小金井貫井北町地区交流・連携事業

貫井北町地区を中心に乳幼児期から児童期の多岐にわたる総合的な支援の展開を目指し、貫井北町にある事業所(愛の園保育園・子ども家庭支援センター・賀川学園・かがわ工房・ウイングス)で連携の在り方を検討した。11月15日には合同で他事業理解・見学を行った。

・さくらの会運営事業

・さくらの会事務局では卒園生・現役・退所利用者を対象に会員365名、旧職員18名、特別会員13名による会の名簿作成、会費の徴収(年会費1,000円)を行った。

・さくら前線の発行は年4回(4月・7月・10月・2月)さくらの会会員、及び法人関係やお世話になった方を対象に配布した。(発行部数637部)

・合宿の企画運営

夏合宿A 8月1～2日 (山中湖) 小・中学1年生対象 参加者11名

夏合宿B 8月23～25日 (野辺山) 中学2年生～成人対象 参加者17名

スキー合宿 1月20～22日 (苗場) 小学生以上の利用者とその家族参加者72名

・後援会主催バザー

今年度もグループかがわ後援会が、グループかがわの事業を支えることを目的に11月10日(土)にバザーを行った。同窓生の集う場として地域住民との交流の理解を深める場として大切な役割を果たすことができた。最終収益1,014,285円

・全体職員会の企画運営

7月21日(土) ・講演会「発達障がい児・者の防災について」

高瀬 祐二氏 (社会福祉法人滝乃川学園成人部 施設長)

・実践報告合評会 ・他事業体験研修報告

12月8日(土) ・アドベント礼拝 (国分寺教会 願念望牧師) 愛の園保育園合同

・講演会「親として想う事…」

中村文子氏 (NPO法人若駒ライフサポート代表 ・かがわ保護者)

・他事業体験研修報告

・障がい児・者ブロック事業総括について報告

3月23日(土) ・障がい児・者ブロック事業計画について報告

社会福祉法人 雲柱社 愛の園保育園 2012（平成24）年度 事業報告

記入者 小山 正弘

① 室内環境について

- ・研修や他園の見学を通して知ったこと考えたことを参考にしながら、それぞれのクラスでより良い室内環境づくりに努めてきた。やってみなければわからないことも多いため、年度の途中で何度か室内環境を変えるケースも見られたが、子どもの動線・子どもの視線を念頭に見たときの環境作りが、少しずつ要領を得て整いつつあることを感じている。各クラスに置く玩具についても、あらかじめ写真を撮っておき、片づけてもどんな玩具があるかを分かるように整理しておくなどし、次年度に繋がるものになってきている。

② 目の前の子どもの姿から考えることに関して

- ・障がい児枠の子どもの他にも、特別な支援を必要とする子ども（アレルギー・てんかん等）が増えている。巡回指導を受け、その都度ケアに努めているようにしている。
- ・ひとり親家庭やメンタルヘルスにサポートの必要な保護者（両親ともにというケースも）の件数も増えている。子ども家庭支援センターとの連絡も頻繁になってきている。
- ・月案をもとに保育者同士、情報交換や意見交換を試みるが、昼間の時間では時間や人手の制限があり、充分に出来なかった。次年度は月案検討をする時間帯を夕方にして、進め方を再検討することになっている。

③ 地域福祉について考える

- ・11月にかがわブロック職員・小金井市子ども家庭支援センター職員とともに合同の学習会を行った。お互いの仕事内容について学びあったり、愛の園保育園の室内を見てもらうなどした。ほとんどが近隣にある施設で同じ法人内の職場でありながら、今までお互いに知らなかったことが多くあることにあらためて気付かされた。研修後、職員から「お互いの仕事内容がわかり良かった」「今後も色々な形で合同研修の機会があると良いと感じた」「職場体験研修をしてみたい」等という感想が聞かれ、一定の成果が見られたものと思う。次年度はもう一歩踏み込んだ研修を企画していきたいと考えている。

④ マニュアル化・整理について

- ・行事のあり方については今までも先輩保育士が整理していたはずなのだが、口頭での引継だったため伝え漏れも多かった。今年度改めて「行事計画書」を作成し、整理をはじめた。書面に整理することで、次年度は今年度の反省をもとに積み重ねていけることが確認できた。しかし行事の「目的・ねらい」の見直しは今年度できなかつたため、2013年度には、その点を重視して見直しを行う。
- ・「生活の流れ(デイリープログラム)」、「各クラスで遊ばせたおもちゃのリスト」について整理を始めることが出来た。他にも年度により、保育士が代わるとおもちゃの置き場所を変えてしまうので、書面化していこうという声があがってきている。それらを毎年確認していくことを繰り返していくことで積み重ねていけると考えている。また、今まで愛の園保育園で大切にしてきた「担当制」の保育については、職員ひとりひとりのイメージがかなり曖昧になっていることがわかってきたので、次年度は皆でもう一度学びあい、整理していけたらと思う。

⑤ 礼拝に関して

- ・幼児クラスはクラス単位の礼拝を積み重ねてきた。牧師が保育園にいらっしゃること、お話を聞くことを楽しみに待つ子どもの姿も少しずつ見られるようになってきている。
- ・食前のお祈りは、職員が自分の言葉でお祈りするようになってきたが、少しずつこのもち方にも慣れてきている。「感謝」「願い」「誰かのために祈る」ということを今後も大切にしていきたいと考えている。子どもたちも大人のお祈りを聴いているので、(もちろん強制ということではない範囲で)子どもが自分の言葉で祈る場面があってもよいかと考えている。

- ・クリスマス会は、各クラスごとにやってみようという職員からの要望があり、今まで行っていなかった0、1、2歳児についても、簡素なクリスマス礼拝とおたのしみ会を組み合わせ実施した。短くともその年齢なりの礼拝の時がもてたことは感謝である。今後も続けていけると良いと考えている。
- ・職員会議の前に牧師に来ていただき聖書研究をしているが、あわただしい中でじっくりと学ぶ機会にはなっていない。我々雲柱社の職員としては大切なことなので、牧師や園長を通して聖書や祈りに触れる機会を大切にしていきたいと願っている。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・一時預かり事業実施
- ・零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員 18名）
- ・産休明け保育実施
- ・延長保育実施（1時間延長後30分は自主事業）
- ・延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・障がい児保育事業実施（2名受け入れ）
- ・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施(15名)

イ 地域子育て推進

- ・育児講座 年3回実施
- ・退所児童との交流 年3回実施
- ・小中高生の育児体験受入れ 2012年度は28名受入れ
- ・育児相談 随時実施
- ・園庭開放 毎日
- ・プール開放（7月、8月に実施。とても好評であった。）
- ・年末保育（0名・・・今年度は希望者無しであった。）

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障がい児数	備考
つぼみ	0歳	6名	18名		
たんぽぽ	1歳	4名	20名		
ちゅうりっぷ	2歳	4名	24名		
はな	3歳	3名+加配パ1名	26名	1名	
ほし	4歳	2名+加配パ1名	24名	1名	(年度途中で2名退園)
つき	5歳	2名	26名		
その他常勤		4名			看護師、栄養士、調理師
一時保育		2名	10名定員		
その他短時間パート		31名			保育補助、事務、調理等
合計		60名	138名	2名	

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 293日
24日	24日	26日	25日	27日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	24日	23日	23日	23日	25日	

ウ 健康管理

健康診断

- 0歳 毎月1回
- 1、2歳 年3回（5月8日、11月9日、2月12日）
- 幼児 年2回（5月8日、11月9日）
- 歯科検診 年2回（乳児が5月30日、幼児が5月31日と11月7日）
- 蟯虫卵検査 年1回（5月7日）

エ 保 育

各組の保育目標

つき組（5歳児）の年間目標

- ・ 様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ・ 様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
- ・ 健康、安全に必要な基本的な習慣や自主、自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ・ 様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ生活の経験を広げる。
- ・ 異年齢や様々な人と関わる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
- ・ 人の話をよく聞き、自分で考え自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・ 自分の持つ好奇心や知的探究心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり、感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

評価・課題

担任は4月当初、子どもたちが、「不安そうな・イライラしている・人のことが気になるなどの姿が多いように感じた」ということから、以下のように努めた。

①まず室内環境づくりに力を入れた。子どもの「覚えたい」「もっと知りたい」「こんなこともしてみたい」「明日も続きがしてみたい」という欲求に合致し、それぞれ自らやりたいことを見つけ集中する姿が見られるようになった。子どもたちの様子を見ながら、どんどんステップアップ出来る遊具を準備し、提供をしていく。

②「生活力を高められるように」考えた。まず一日の流れが決まってくることで安心して生活できるようになった。配ぜんや掃除など、子どもたちが自分で気づきひとりでも出来るような工夫をした。自らの生活力が高まったことで子どもたちが落ち着き、結果的にイライラが少なくなってきたように感じられた。

③友達に選ばれてリーダーの役割を担ったり、友達のために何かを作ってもてなしてみたりなど自分が友達に協力する経験から自信を積み重ねたように思う。その結果、子どもの心境も「失敗が怖いからやらない」から「もしかしたら出来るかも知れない」に変わっていったようだ。

ほし組（4歳児）の年間目標

- ・ 一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ・ 友だちと遊ぶ事の喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
- ・ 意欲的に色々な事に挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・ 健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ・ 人の話を聞いたり、自分の経験した事や思っている事を話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ・ 自然や身近な事柄にふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、その事を表現しようとする。

評価・課題

- ①ひとりひとりの気持ちに出来るかぎり寄り添って話を聞いてきたことで、基本的には安心して過ごした。遊びでいたいこと、トラブル、生活で困った時など、自分の気持ちや要求をだんだん上手に大人に伝えられるようになってきている。
- ②集団遊び・体を動かす遊び・ルールのある遊びは、年間を通じ意識して取り入れてきた。ルールの理解も出来、友達と一緒に遊ぶことの喜びや楽しさを感じている。園庭に出ると、「〇〇鬼しようよ」など子ども同士で誘いあう姿が増えてきた。
- ③基本的な生活習慣は身につけている。だが、着替えやうがい、帰りの支度など出来るのに適当に済ませてしまう姿も見られる。
- ④朝・帰りの会で大人の話や自分の思っていることを皆に話したりを、年間を通し経験してきた。恥ずかしさ、自信の無さから手をあげられない子どもが多かったが、少しずつ自信をつけ、自から手を挙げ発言出来るようになってきている。
- ⑤秋の紅葉・どんぐり・松ぼっくりなどに触れ、その色や形に興味をもち夢中で拾い集めたりしていた。冬は、雪や霜柱、氷に触れ、感触を楽しんだり、氷の厚さに声をあげ驚いたり感動して喜ぶ姿があった。
- ⑥年度途中で利用者の都合により二名が退園し二名欠けで年度を終えた。

はな組（3歳児）の年間目標

- ・ 生活が自立してくる事で自信を持ち、自分のやりたいことが表現できるようになる。
- ・ 外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。
- ・ 食事・排泄・睡眠・衣服の着脱などの生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ・ 自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、友だちと一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ・ 様々な物を見たり触れたりし、面白さ、美しさなどに気づき感性を豊かにする。

年間目標 評価・課題

- ①早朝・夕方の保育をホールで行うことにした。
3歳児保育室は、早朝・夕方の保育(年齢混合)でも使う部屋であった。このため、部屋に用意しておくおもちゃ、子どもの動線を考えた環境づくりがとても難しく、毎年の課題となっていた。そこで、2012年の夏から職員が話し合い、早朝・夕方の保育をホールで行うことにした。3歳児保育室は3歳の子どものに適した空間として整えやすくなった。
- ②お昼寝をする空間としての保育室。
4,5歳クラスは給食を食べた後別室(ホール)で昼寝をすることになっていた。一方でこれまで3歳児クラスのみ、同じ保育室内で「給食を食べたら寝る」という流れであった。早く食べ早く寝る子どももいれば、ゆっくり食べてゆっくり寝る子どももいる。
給食の介助とお昼寝の介助両方ともに中途半端になることもあり、職員も支援しづらかった。卒園式終了後からではあるが、3,4歳がホールで昼寝をし、5歳クラスは同じ室内で休息をとるように変更を試みた。その結果、3歳児クラスの室内が整え易くなり、子どもも動きやすくなった。
- ③特別な配慮を必要とする子どもに対して、リソースルームの検討、職員の動き方が今後も大きな課題と言える。

ちゅうりっぷ組（2歳児）の年間目標

- ・ たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け入れてもらう事で、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ・ 身体を動かす事が楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ・ 簡単な身の回りの活動や仕度を自分でしようとする。
- ・ 保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ・ 大人やまわりの事に興味を持ち、見立て、つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

評価・課題

学習会や見学研修を参考にしながら、子ども達の室内の遊びや子ども達の居場所となる空間作りに工夫を凝らした。その結果、コーナーの作り方や室内環境を子どもの動きや導線を考え直しながら行われることになり、充実してきたように思われる。一人ひとりがゆっくりと遊ぶ環境づくりをめざし、その成果も見られた。2歳児は24人いるため、「こいぬ」と「こねこ」の2グループに分け保育を行っているが、朝・夕方の時間はグループにとらわれずに子どもが自由に行き来して遊ぶなど柔軟に保育している。保育者同士がお互いに隣のグループとの連携を大切に保育しようとしている姿勢が感じられる。

外遊びや散歩に出かける時には2階の長い廊下を経て正面玄関から外へ出る必要があり、建物の構造上少し不便な面も見られるが、少しでもスムーズに進むように工夫している。

てんかん発作をもっている子どもや複雑な家庭環境にある子どもをはじめ、気になる子が何人かおり、その子の動きがクラス全体に影響をあたえてしまう場面がみられる。その子たち及び家族に対する今後の対応が課題である。他機関とも相談連携しながら進めていきたい。

たんぼぼ組（1歳児）の年間目標

- ・ 一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と、情緒の安定を図る。
- ・ 保育者に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い身体を動かすことを楽しむ。
- ・ 安心できる保育者との関係の下で、食事、排泄などを自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ・ 安心できる保育者に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ・ 身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心を持つ。

年間目標 評価・課題

・ 「この時期は、嘔む・嘔まれる時期」というフレーズを払しょくすることが課題。ひと時、嘔みつきが続き、職員の意識が「1歳クラスは仕方がない」という考え方で終わってしまわぬように、職員間で話し合い以下のように取り組むことにした。

①保育の流れ、職員の動きの確認。

子どもが不安定になりやすい時間帯はいつか、大人の動きは適切かななどを点検する。

②保育環境の見直し

③日常的に保護者とのコミュニケーションを大切にする。

④職員同士の伝達・共通理解を大切にする。

⑤同じ子が「嘔んで」いる場合は、その子を取り巻く状況がどうなっているかを把握し、個別の対応を行う。

・ 1歳児クラスは低月齢「ひよこ」と高月齢「うさぎ」に分かれている。どちらも10人ずつ園児がいるが、「うさぎ」の方が部屋の面積が広い。3学期に真ん中の間仕切りを動かし、面積がほぼ同じになるよう変更した。低月齢・高月齢の違いはあるものの、1日の保育士の動きについて、お互いの共通理解を強め、より連携を深めるよう努力した。

つぼみ組（0歳児）の年間目標

- ・ 一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ・ 安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を変えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ・ 衛生的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活が出来るようにする。
- ・ 一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
- ・ 個人差に応じて離乳を進め、色々な食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ・ 優しく語りかけたり、発生や喃語に応答したりして、発語の意欲を育てる。
- ・ 聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能の発達を促す。
- ・ 安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを見たり、触ったりする機会を通して、身のまわりのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

月齢により2グループに分かれてはいるが、今年度は、小さい月齢の子どもは2人であとの16人は大きい子であった。

それぞれのグループが、食事コーナー・遊びのコーナー・昼寝のコーナー等を工夫しながら整えている姿が見られた。散歩に行く手順・玄関まで行く手順などなど、統一すべきことを紙面化するなど、「もも（低月齢）」「すみれ（高月齢）」両グループともお互いに連絡をとりあい、連携を取り合う姿が見られた。これは今後に繋がっていくものと思われる。

育児担当制をとりながら、子どもたちの生理的欲求にタイムリーに伝えていくためには、どこに重点を置き、どの部分を柔軟な対応をするのが課題となった。「担当制」については、職員によりイメージが違うため、今後、皆で学びあい、確認しあっていくことが重要である。

つくし組（一時保育）の年間目標

- ・ お家の生活リズムにあわせながら、安心して過ごせるようにする。
- ・ 安心できる環境、人的環境を考え、居心地の良い空間を提供していく。
- ・ 思いを受けとめ信頼関係を作り、情緒の安定を図る。

年間目標 評価・課題

定期、不定期を問わず利用希望者がとても多い。定期利用といえども毎日利用することは出来ず、保育園で調整し、週2、3日利用にしていただかないと、必要な人が理由できなくなってしまう。それでも、子ども家庭支援センター等から受け入れできないかという問い合わせがあり、「一時保育」の必要度が増してきていることを実感する。

複雑な家庭環境の子どももあり、必要に応じ子ども家庭支援センターと連絡をとり情報交換をしている。保護者との面談も随時行っている。保護者からは預かってもらえるので安心であるとの声も多く聞かれ、保育所とは違う、一時保育事業の必要性を改めて感じさせられる。

2012年度実施行事

- 4月3日 入園式
- 14日 保護者会総会（父母会主催）
保護者懇談会（保育所主催）
- 5月5日 救命救急講習会
- 6月2日 地域お楽しみ会、まきばの会（ケアの必要な子どもを支える会）
- 25日 プール開き・地域プール開放

- 7月 6日 0歳父親懇談会
- 14, 15日 年長お泊り保育
- 7月 28日 地域講座、一年生の会
- 9月 14日 Welcomeday (祖父母の集い)
- 10月 13日 運動会
- 25日 3歳クラス遠足(くじら公園)
- 26日 4.5歳クラス遠足(昭和記念公園)
- 29日 地域講座(わらべうた講座)
- 11月 10日 秋祭り
- 12日 感謝祭礼拝(16日に豚汁づくり)
- 12月 14日 乳児クリスマス会(クラスごとに実施)
- 12月 15日 幼児クリスマス会、0Bクリスマス会
- 1月 11日 餅つき会
- 3月 5, 6日 新入児説明会
- 16日 卒園式
- 22日 進級を祝う会

年間行事 評価・課題

職員の異動などもあり、行事の意義などがうまく伝わっていないため、行事としての形は残っているが意味合いなどあやふやになっている、という声から職員から時折聞かれる。年度の途中からではあるが、年間行事等を整理を進めてきた。行事担当者の役割・反省を生かしての企画・他の職員への周知などこれらを踏まえて進めてきた。少しずつ行事の整理を行っていきたい。

オ 栄養管理

- ・ 集団給食施設栄養報告 年4回
- ・ 栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
- ・ 季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
- ・ 給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

放射線量の問題があり、食材は市場に出回っているものは安全の基準を守っているものであるという国の見解だけを鵜呑みにせず、肉・野菜・米などはその産地等に気をつけながら仕入れることにした。また、市の測定機を使い、食材の放射線量測定を定期的実施している。いまのところ問題があるという測定結果は出ていない。保育園の園庭に実った夏ミカンも測定で確認した後マーマレードにし、子どもたちに提供した。

アレルギー児がますます増えてきている。必要な子どもにはアレルギー除去食を用意するが、調理、盛り付け、配膳等、場面ごとに複数回、複数の職員でチェックをし間違えないように注意している。

一時保育の子どもの中にアレルギーの子どもの場合、いつも同じ子が来ているわけではないため、通常保育と比べて更に難しい対応が必要となる。アレルギーショックを起こさないことを第一と考え、今後はエピペンを保護者から預からなければならない子どもがでてくることも考えられるので、保育園でどこまでアレルギー除去食を提供していくことが適正であるのか、考えていくことが課題となる。

給食食材のきざみの大きさ、メニュー、食事の時間帯、介助指導等、これからもより良いものを求めて皆で点検していくことにした。

カ 安全管理

- ・非常災害時の避難訓練 毎月 1 回
- ・引き渡し訓練の実施（10 月 21 日）

安全管理 評価・課題

①「防災委員」を選任し、毎回の避難訓練の反省と次回の計画について綿密に検討実施することが出来た。焦点を絞って繰り返し訓練をすることが出来、職員の意識も高まり、また子どもの動きも迅速になった。夕方の時間帯でも実施。最後にホールに集合し、保護者の協力も得ながら訓練をする経験も出来た。

②課題としては、早朝・延長保育の時間帯など職員の人数が極端に少ない時間帯、卒園式などホールに子どもや保護者など大勢の人数が集まっている時、土曜保育中の避難の方法等を考え、訓練することが必要と考えている。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1 名
主任	1 名
保育士	19 名
調理員	3 名（栄養士含む）
看護師	1 名
嘱託医	2 名（非常勤）
臨時職員、パート職員	30 名

イ 健康管理

- ・職員健康診断 年 1 回（7～9 月）
- ・細菌検査 年 12 回
（調理、0 歳児調乳担当のみ）

ウ 職員会議

- ・職員会議（毎月 1 回） ・行事前打合せ会（随時） ・反省会（中間反省会・年間総括）
- ・リーダー会（月 1 回） ・乳児・幼児打ち合わせ会（週 1 回）
- ・クラス別打ち合わせ会（月 1 回）

会議 評価・課題

会議・打ち合わせの内容や進め方については、再検討が必要と感じている。

①こまごまとしたことの確認、行事準備などに追われ、月案の検討がなかなか出来ないのが実状である。どのタイミングでどのように情報交換・意見交換していくかが大きな課題であるといえる。

②職員会議や園内研修の時に「運動会の在り方について」「喃みつき・引っ掻きから保育を考える」「デイリープログラムの現状と課題について」等のグループディスカッションを行うことが出来た。全員で話し合っていないような意見交換がなされた。これらをもとに今後の対応を検討し実行していきたい。会議がスムーズに進まず、問題が先送りになるケースが多い。優先順位を付け、課題をひとつひとつ解決して歩んでいかねばならないと考えている。

エ 研修報告

- ・法人内研修 ・保育ブロック研修
- ・学習会（園内研修）
園分寺教会、願念牧師に来ていただいて聖書の学びをしている。（月 1 回）
発達の気にかかる子の巡回指導（月 1 回）
他園の見学研修後、気づきを報告し、実践に生かす。
影山竜子先生「子どもの最善の利益」「乳児幼児の保育環境」

依田先生「子ども家庭支援センターの働き」

かがわブロック、小金井市子ども家庭支援センターとの合同学習会「互いの仕事を知りあう」

・法人外研修

小金井こどもの地域ケア連絡会

東社協保育団体研修 食事研修

リトミック・ミニ研修

研修 評価・課題

影山竜子先生をおよびして「進化する施設を目指して」「乳児・幼児の保育」という視点から研修を受けた。その後いくつかの保育園を見学したことなどを参考にしつつ、「一日の生活の流れ」や「遊び空間」などに関して、もう一度自分たちの保育を点検しながら見直しを行った。その結果、子どもたちの姿からまた更に改善することが出来、良い学びの時となった。まだまだ話し合いを重ねたり、意見・情報交換しなければならぬことも多いが、今後も研修で学んだことを保育に活かしていく。

聖書については、職員会議の前に牧師を通して学ぶ機会があるが、より深めていけるようにしたいと考えている。

オ 退職・福利厚生

- ・独立行政法人福祉医療機構 退職共済制度加入
- ・東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- ・株式会社 JTB ベネフィット えらべる倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

特に月案を通して職員がお互いの見方・考え方を確認していくことに大きな意味があると感じている。月案の内容がどのくらい日常の保育に生かしているを今後も検証していきたい。短時間パート職員にも情報を共有することができるようにしているが、今後も続けていく必要があると考えている。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の修繕

設備関係 評価・課題

暖房器具・照明・ドアのカギ部分、ホール床・棚やロッカー・給食室床や網戸・0歳児クラスの椅子・放送機器等、修繕を必要とする箇所が増えてきている。内容によっては新たに購入しなければならない場合もあり、今後も優先順位を決めて対応していく必要がある。

2階からの避難滑り台は、乳児が避難するには難しいのが実状。あらたな避難具を設置することを検討する。

(3) 備品関係

- ア 備品購入
- イ 保育用品購入
- ウ 給食用品購入
 - ・食器補充等
- エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

子どもの生活環境について意見を出し合い、おもちゃ棚や柵などで区切るなどし環境を整え、遊びを充実させるなど職員が試行錯誤を続けた結果、子ども達が落ち着いて遊んでいる姿が見られるとの報告も出ている。

子どもたちが自分で朝の支度ができるようにロッカーを整えていき、さらに自立にむけての支援ができるようにしていきたい。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月 1 回実施

「防災委員」を選任し、避難訓練の反省と次回の予定を綿密に行うことができた。

イ 防災設備の点検委託

年 2 回 (内、届け出 1 回)

ウ 非常食糧の備蓄

- ・ (全園児数 + 全職員数) × 3 食 × 3 日分

災害対策 評価・課題

月に一回避難訓練を行なうことで、火事や地震などが起こったらどうしたらよいかを子どもたちにその都度話することができ、避難の仕方も回を重ねるごとに上手になってきている。非常食も防災訓練の日に昼食として食べながら、本当に地震が起こっても保育園には食べるものがある事を伝えるとともに、在庫を新しいものに更新するようにしている。

3 地域社会との連携

- ・ 地域の子育て中の家庭を対象に親子通園、プール開放、育児講座、お楽しみ会などを行った。

地域社会との連携 評価・課題

気になる在園児のご家庭の事を、小金井市子ども家庭支援センターと連絡を取りながら必要に応じて対応してきた。

在園児保護者、一時保育利用者等、保護者のメンタル部分でのケアも必要とするケースが増えているため、近隣のこうした施設との連携はますます欠かせないものとなっている。

地域に向けてのお楽しみ会、プール開放などはとても喜ばれている。

メンタル面で支援を必要としている情報がくることもあり、必要に応じて一時保育を受けるなど、出来る対応をしている。

4 その他

- ・ 2013 年 2 月に利用者に対するアンケート調査の実施を行った。

「職員の言葉遣い、呼び捨てなどで気になる職員がいる。」「父母の会活動などで負担とを感じるものがある」などの記述がみられた。内容を吟味し、必要に応じて改善に努めていきたい。

- ① 2012年度は児童数90名からスタートした。0歳児は4月の時点で4名であったが、9月には9名（定員6名）となる。幼児クラス（4歳、5歳児）は年間を通し定員が欠けた状態であった。この五日市地域においては今後子どもの人口増加は期待できない。そこを考慮した上で次代に向けての戦略が必要となる。
- ② 例年行っている引き渡し訓練のやり方を検証し、必要な事項については変更した。防災委員会を立ち上げ、委員が中心となり緊急時、災害時への備えや対応を考えている。今後予測される地震に備えるため、月に1回の全園児避難訓練に加え、クラス毎による訓練もおこなった。
- ③ 園内研修においては、年間計画の見直しを図った。地域のセーフティネットとしての役割を果たすことのできるよう、保育者として福祉職としての姿勢や基本を学ぶ一年間とした。また、「気になる子どもへの対応」について保育ブロックの研修と合わせ、園内研修でも全職員が賀川学園を見学し、今後の姿勢・対応を考えることができた。ミッション研修は、毎月、牧師による「聖書研究」と職員会議では「園長の話し」に加え法人の事業理念について掘り下げて考える時間を設けた。そのことにより普段の保育を理念というフィルターを通し立ち止まって考える機会となった。
- ④ 委託された子育てひろば事業『子育てひろばいつかいち』では、利用者数が伸びる一方で環境的に受入れが困難な場合が出てきた。また、初めて「利用者アンケート」を実施し、ひろばに対しての思いやニーズを受け取ることができた。このように現状を踏まえながら、地域のセーフティネットとしての役割を如何に全うしていくことができるのかを職員間で検討している。
- ⑤ 園舎建て替えに向けてあきる野市と協議してきた。施設整備補助金事業として、10月のあきる野市議会においても承認され、改築に向けて本格的に動き出すことになった。仮設園舎の建設地として、園舎から程近い空き地を不動産業者を仲介に賃貸契約を結んだ。本園舎の完成は2014年2月初旬。現在の課題として、隣接する民家の家屋が一部園庭に入りこんでいる件についてどのような解決方法が見いだせるのかを検討している。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児定員：6名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障害児保育事業実施（その他：2名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年35日受け入れ

- ・保育所体験 年 10 回実施
- ・出前保育 年 11 回実施
- ・年末保育 2012 年 12 月 29 日に実施。

(2) 児童の処遇

ア クラス編成 (3 月現在)

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
つぼみ	0 歳	3 名	9 名		+パート 1 名 (看護師)
たんぼぼ	1 歳	2 名	13 名		+パート 1 名
ちゅうりっぷ	2 歳	2 名	16 名	1 名	+パート 2 名
れんげ	3 歳	2 名	19 名		+パート 1 名
すみれ	4 歳	1 名	18 名		+パート 1 名
いちよう	5 歳	1 名	15 名	1 名	+パート 1 名
合 計		11 名	90 名	2 名	

イ 月別保育日数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合 計 293 日
24 日	24 日	26 日	25 日	27 日	23 日	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
26 日	24 日	23 日	23 日	23 日	25 日	

ウ 健康管理

- ・健康診断
 - 乳児 毎月
 - 幼児 年 2 回 (4 月 18 日、10 月 17 日)
- ・歯科検診 年 1 回 (6 月 6 日)
- ・蟯虫卵検査 年 1 回 (5 月 14 日配布。17 日回収)

エ 保 育

各組の保育目標

いちよう組 (5 歳児) の年間目標

- ・神と人から愛され、自分がかげがいのない存在であることを感じる子ども
- ・健康で体力のある子ども
- ・自分で出来ることを自分でする。
- ・意欲的に物事に取り組む子ども
- ・友達と遊ぶことを楽しむ子ども
- ・色々な人との関わりの中で相手を思いやりつつ、自己発揮できる子ども
- ・自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じとり、表現する子ども

年間目標 評価・課題

乳児時期より遊び、食事は個別での対応からはじめ小グループ、集団へと順を追って環境を変えてきた。その結果、幼児クラスになると一人ひとりが一日の流れに見通しを持ち生活を送ることができた。

また、保育室内の環境については職員研修（保育環境）の成果も有り、子ども自身が他者（子ども同士）との関わりを楽しみや喜びを感じ行事、遊びにも意欲的に取り組む姿を多く見る事ができた。

すみれ組（4歳児）の年間目標

- ・保育士との関わりの中で、自分が大切にされ、安心して自分が出せる子ども
- ・身近な遊具や用具を使い、体を十分に動かし楽しむ子ども
- ・自分で出来ることを自分でする
- ・異年齢児に関心やいたわりを持つ。簡単なルールのある遊びを楽しむ子ども
- ・自然事象、動植物への関心や愛護の心、身近な社会事象などにも興味関心を持つ子ども

年間目標 評価・課題

室内のコーナー保育は春先から環境が整えられ、子どもたちの活動がスムーズに進められてきた。いつも同じ流れで進められたので、保育の流れが子どもたちにも理解でき、子どもたちが自分で出来る部分が少しずつ多くなってきたのではないかと感じている。ルールを守りながら友達と関わる点・遊びの広がりについては、今後の課題として残った。

れんげ組（3歳児）の年間目標

- ・保育士との関わりの中で、自分が大切にされていると感じ、安心して自分が出せる子ども
- ・散歩や戸外遊びなどで、自ら楽しんで体を動かす子ども
- ・身の回りのことで、自分で出来ることをしようとする。
- ・ごっこ遊び等友達と仲良く遊びを楽しむ子ども
- ・身近な自然や小動物に興味をもつ子ども

年間目標 評価・課題

自由選択活動もよく集中して取り組み、また朝登園すると活動に向かう姿が多く見られ集中して遊びに取り組む習慣が身に付いてきた。食事のマナーもよい。身の回りのことを自分で行ったり、排便の始末も自分で出来るが多かった。3歳後半になると外遊びでは、2、3人の気の合った子とよく遊ぶ姿が見られ、喧嘩してもお互いの話し合いで解決することもできるようになった。

ちゅうりっぷ組（2歳児）の年間目標

- ・自分の要求を大人の援助を受けながら言葉で伝えようとする子ども。
- ・体を思い切り動かして遊ぶ子ども（走る、はねる、飛び降りる等）
- ・保育士に声をかけられながら、自分で出来ることをしようとする子ども

- ・少人数の友達と関わって遊ぶことを楽しむ子ども
- ・身の回りの事物や自然などに興味を持つ子ども

年間目標 評価・課題

環境については、食事、自由活動、机上、図書コーナーと用途に応じたコーナーを設け、行動にメリハリを持つことができた。『いつもと同じ様に』、『いつもの同じ場所で』を大切にしながら、コーナーをなるべく変えることなく「子どもにとってどうか」という意識深めながら、関わることにした。そして大人全員が謙虚に同じ目で見るようにした。毎日の生活がそこから見通せるようになり、子ども自身よく活動し落ち着いて過ごすことが出来ていた。

子どもの構成は、月齢の高い子が多く、幼児クラスへの準備も早くから出来た。

たんぽぽ組（1歳児）の年間目標

- ・保育士に受け止められながら、自分の世界を広げていく子ども
- ・自由に体を動かして遊んだり、色々な道具を使い一人遊びを楽しむ子ども
- ・自分でしようとする気持ちを持ちながら、少しずつ基本的な習慣が身についてくる
- ・大人からの話掛けや、絵本の読み聞かせを喜び、自分でも片言で話すことを楽しむ子ども
- ・子ども相互のふれあいや、人とのふれあいを経験する

年間目標 評価・課題

1歳半を過ぎた頃から徐々に食事のマナーも少しずつ覚えた。食事は時差でとった。保育者が一人付きながらクラスの子どもを3グループに分けて食べる。食べた後はエプロンを片づけるなど一人でもできることに取り組んでいった。そして保育者の声掛けも理解し、「自分で」と言って動けるようになった。食事中は、スプーンを持って自分で口に運びこぼさずに食べれるようになった。

遊びは、指先の活動が活発になり、いろいろなことを経験できた

また、今年度は、1歳児の月齢の低い子を、1歳児でも4月から7月まで0歳児クラスにおき、徐々に子どもの様子を見ながら移行していった。しかし、1対1で対応することが多くなるため、きちんとした対応が出来ず、そのため職員の動きに無理が生じた。2013年度は引き続き低月齢の移行について考えて行きたい。

つぼみ組（0歳児）の年間目標

- ・特定の保育士との愛着関係が出来、安心して過ごせる。
- ・はいはい、伝い歩き等を経ながらしっかりと歩けるようになっていく。
- ・基本的な生活習慣が芽生え、徐々に離乳食が完成していく。
- ・簡単な言葉を理解したり、言葉を発したり、大人の真似を楽しむ。
- ・身近な人の働きかけや言葉かけを通して、身の回りのものに関心を示す。

年間目標 評価・課題

ゆるやかな担当制をとり、それぞれに安心出来る職員との愛着関係が出来たのでないかと思う。年度当初から園児数が大きく変わらず、年度途中における職員の変更がなかったため、例年に比べると大きな混乱が生まれにくかったのではないかと。毎年月齢の様々な子

どもたちがいるので、室内外に用意するおもちゃの種類をより充実させていきたいと考えている。

2012年度 実施行事

4月2日	入園式・進級式
5月18日	遠足（幼児は親子遠足）
6月15日	花の日 老人ホーム訪問
7月7日	夏祭り
7月13、14日	お泊り保育
8月3、4日	卒園児キャンプ
9月14日	祖父母の集い
10月13日	運動会
10月19日	2歳クラス親子遠足
11月2日	遠足(2歳クラス以外)
11月9日	感謝祭 豚汁大会
12月15日	クリスマス会
1月7日	新年挨拶会
1月19日	6年生同窓会
2月8日	子ども食堂
3月15日	卒園式
月例行事	誕生会 園開放

年間行事 評価・課題

園開放は、特に行事や簡単な課題を提供した。その為か、参加者も増えてきた。2011年9月から「あきる野市子育てひろば事業」が市より委託された。特に宣伝はしていないが、人から人へ伝えられ、実施日は数十人遊びに来るようになる。保育園に興味を持つ見学者や園解放に参加される方たちが増えた。今後の課題としては、園内の雰囲気・子どもの様子を見ていただき、利用者の目線に立った企画を考えて行きたい。今年度からは誕生日会とは別に、園児の誕生日当日には誕生日シールを子どもの胸に付け、「おめでとう」と声を掛けることにしたが、子どもたちや保護者の方はとても喜んでくれている。（例えば一緒に室内で遊んだり、給食を食べたりする日を設けるなど）

オ 栄養管理

- ・ 集団給食施設栄養報告 年 4回
- ・ 栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
- ・ 季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
- ・ 給食供給者としての諸管理
- ・

栄養管理 評価・課題

乳幼児期における成長・発達を促すエネルギー量、たんぱく質量を考慮し、季節感を取り入れ、栄養素のバランスのとれた献立を作成し、実施することが出来た。

今後も引き続き、子どもたちに食の大切さを伝えていきたい。（クッキングデー他）

他団体での白玉での窒息事故を受け、安全面から「餅つき」及びお餅や団子等を提供中止とした。また栄養管理に気をつけながらアレルギー児に対する除去食及び代替食実施をしてきた。

アレルギー児の除去食対応で間違いがないように調理と保育との連絡を密に行った。

市による給食食材の放射能物質検査は定期的に行なわれ検査結果は不検出となっている。

カ 安全管理

- ・非常災害時の避難訓練（月1回）
- ・引き渡し訓練の実施（9月1日）
- ・ヒヤリハット研修の実施（11月8日）

安全管理 評価・課題

五日市小学校のグラウンドを使い引渡し訓練を行った。前年度の反省から防災委員会において様々な想定からより安全でスムーズな引き渡し方法を検討してきた。また、東日本大震災における保育園の記録映像（DVD）から、職員間で危機意識を共有し、自らの保育園に引き寄せ、いざという時の備えと職員の姿勢、立ち位置などを考えることにした。

「死を招いた保育」をテキストに職員間で安全な保育について考える時間を持った。決して他人事ではなく、油断や驕り、慣れによりいつでも起こりうる事故であることを確認した。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	2名（内1名看護師）
保育士	13名
育休職員	1名（2013年12月より復職予定）
調理員	3名（栄養士含む）
看護師	1名（主任兼務）
嘱託医	2名（非常勤）
臨時職員、パート職員	27名

イ 健康管理

健康診断	年1回（10月25日）
細菌検査	年12回（乳児）

ウ 職員会議

- ・定例職員会 毎月1回
- ・事前リーダー打ち合わせ会 毎月1回

- ・クラス内打ち合わせ 毎月1回
- ・乳児カリキュラム会議・乳児クラス打ち合わせ 毎月各1回
- ・幼児カリキュラム会議・幼児クラス打ち合わせ 毎月各1回
- ・反省会（2013年2月7日）

会議 評価・課題

事前に乳児ブロック・幼児ブロックのリーダーと議題を確認することで各ブロック内での調整が可能となった。そのことにより、会議では乳児・幼児ブロック毎の報告を行うことで内容と時間の合理化を図ることが出来た。

各会議の目的、ねらいを明確に打ち出した。また、リーダーの役割を1年間かけて検討してきた。組織における自分の役割と責任を職員一人ひとりが認識し、職員間で共有できるような働きかけを行ってきた。

エ 研修

- ・園内研修 毎月1回
- ・法人内研修（階層別研修・職種別研修・他職場体験研修等）
- ・他保育園見学研修
- ・保育団体研修 東京都社会福祉行議会主催研修
- ・非常勤職員研修

研修 評価・課題

非常勤職員が多く在籍しており、職員会に出ていない職員には決定事項が伝わりにくい。そこで今年度月に1回クラス打ち合わせには、クラスに関わる非常勤職員も出席することにした。連絡事項や子どもの様子が共通して把握することが出来てよいと職員たちからは好評だった。また昼間と夜の時間を使い、非常勤職員研修（対人援助スキル等）を行った。勤務時間の関係から日常的にあまり会わない職員同士もいるので、これを機会に関係が密になり、良かったのではないかと感じている。法人内の研修は、その内容が多岐に亘っており、充実していたと思われる。保育内容については、非常勤職員も正規職員も同じように外部の研修に参加できたら良いと思う。また、皆が同じ他施設の見学研修に出掛けることで、共通のイメージが出来、とても大きな刺激になったようだ。新たな検討課題を見つけることに大いに役立つと感じている。

オ 退職・福利厚生

- ・独立行政法人福祉医療機構 退職共済制度加入
- ・東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- ・株式会社JTBベネフィット えらべる倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

- ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

会計事務においてはファイルの整理ができており、業務も行いやすくなってきている。今後もパソコン等の導入で処理しやすく合理化につなげていきたい。VPNによるネットワークにより事務作業がかなりしやすくなった。

(2) 設備関係

- ア 固定遊具の設備点検
- イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係 評価・課題

- ・園舎の改築
- 2011年度に行った耐震診断結果より園舎改築を行うこととなった。2012年度より現園舎解体が始まった。

(3) 備品関係

- ア 備品購入
- イ 保育用品購入
- ウ 給食用品購入
- エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

ヒムプレーヤー：ミッション理解の一端としてより多くの讃美歌を知り、歌うことでキリスト精神の学びと神様への賛美の時を持つことを目的に購入。
子ども讃美歌のレパートリーを広げ、園児にも色々な讃美歌があることを知ってもらいたい。

(4) 災害対策

- ア 避難訓練
 - 毎月1回
- イ 防災設備の点検委託
 - 年2回（7月27日、1月21日）
- ウ 非常食糧の備蓄
 - （全園児数＋全職員数）×2食×1日分

災害対策 評価・課題

避難訓練はほぼ予定通りに行われ、非常食糧の備蓄も出来ている。より現実的に災害を想定して訓練を実施した。土曜日・朝夕・延長保育時間等、職員の人数が少なくなっている時間帯・曜日での避難訓練も行うことができた。

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

近隣の老人ホームや他法人の障がい者施設とは行事等を通して交流を続けている。特に障害者施設は近いこともあり、散歩のときにお互い立ち寄るなど無理なく交流が継続出来ている。小中高生の職場体験等も可能な限り受け入れ、様々な人との交流が出来るようにしている。

4 その他（特記）

- (1) 園舎改築・・・ 事業総額： 311,850,000 円 （仮設園舎建設、解体含む）
 内 補助金交付額 195,161,000 円
 機構借入金 78,000,000 円
 自己資金 38,689,000 円

計画概要・・・所在地：東京都あきる野市五日市 345

構造・規模：鉄骨造 地上2階

敷地面積：861.55 m² (260.6 坪)

建築面積：409 m² (123.7 坪)

延べ面積：757 m² (228.9 坪)

竣工予定：2014 年 1 月上旬

スケジュール	仮設園舎建設	2013 年 1 月 15 日から
	仮設園舎受渡	3 月 22 日
	仮園舎引越し	3 月 23 日
	本園舎解体	4 月 15 日から
	本園舎起工式	6 月 15 日(予定)
	本園舎完成	2014 年 1 月中旬予定

- (2) 母親講座・・・2013 年 1 月 26 日実施。地域で活躍しているヨガ講師を招き、母親の心身のリフレッシュを目的に実施した。参加者は 15 名。
- (3) 利用者調査・・・12 月に利用者に対するアンケート調査を実施した。
- (4) 父母の会との連携・・・父母の会との連携・協働の強化に努めた。震災以降の人と人との絆や協働の重要性から父母の会内部（保護者同士）の連携と保育園職員との協働関係の構築を目指した。
- (5) 利用者に対するアンケート調査の実施を行った。

社会福祉法人 雲柱社 祖師谷保育園 2012（平成24）年度 事業報告

記入者 菊地 せい子

2012年度は、本園と分園の一体化運営の初年度であったが、園長が本園と分園との兼務、本園主任が分園副園長になった以外、本園・分園職員間の配置転換もせずスタートした、新任の若い主任以下職員が一丸となって頑張り、保護者からの大きな苦情もなく、大過なく1年を終わることができた。

福島原発事故による放射性物質の問題に関しては、2011年度より引き続き給食食材について、安全・安心な給食を提供できるよう産地に注意し仕入れ、産地を保護者に公開している。さらに近年中に首都圏を大規模地震が襲う可能性が高い中で、食糧備蓄を増やしたが、防災マニュアルの作成などまだ課題はある。

また、昨年度から伝承遊びを子どもたちに伝えることに力を入れた。まず、社会福祉協議会との連携により、地域のお年寄りを年4回招待する「はびねすの会」を開き、子どもたちと食事をしたり伝承遊び（こま、けん玉、あや取り等）を教えてもらったりした。そのことをきっかけに多くの子どもが伝承遊びに興味を持ち、また根付いている。さらに、本園、分園、家庭的保育合同の園内研修では、伝承遊びを学ぶ一環として講師を招きわらべ唄遊びも学んだ。

家庭的保育については3年目を迎えたが、区の待機児解消のため1月から既存の6か所を7か所に増やした。

2013年度は本園から3人の職員の分園への配置転換があり、本園・分園のさらなる一体化を目指したい。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障がい児保育事業実施（特児対象：4名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 小中高生の育児体験受入れ 50日間受入れる
- ・ 保育所体験 延べ500人以上受入れ実施
- ・ 出前保育 年7回実施
- ・ 育児困難家庭への支援

ウ 家庭的保育事業との連携

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
うさぎ組	0歳	3名	9名		看護師
あひる組	1歳	3名	14名		
はな組	2歳	3名	18名	1名	
つき組	3歳	2名	22名		
ほし組	4歳	2名	24名		
ゆき組	5歳	1名(1名)	24名	1名	
家庭的保育	0歳～3歳	(7名)	(35名)		支援者
	その他	2名			
合計		16名(8名)	111名(35名)	2名	

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 293日
24日	24日	26日	25日	27日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	24日	23日	23日	23日	25日	

ウ 健康管理

・健康診断

乳児 毎月(1回～2回) 幼児 年2回(5月、10月)

視力検査(4、5歳児)年1回(10月)

歯科検診 年1回(5月)

蟯虫卵検査 年1回(5月)

エ 保 育

各組の保育目標

ゆき組(5歳児)の年間目標

- ・様々な活動に取り組み、仲間に認められる事によって自信を得、自己発揮する。
- ・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かす事を楽しむ。
- ・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
- ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
- ・人の話を良く聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・自分のもつ好奇心や知的探求心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

今年自分たちで考え、友だち同士が協力して保育園生活を創り上げていくことを大切にしてきた。生活面では当番活動を中心に生活に必要なことを自分たちで行ってきたが、行事前などは準備に追われ慌ただしくなってしまうことも多かった。また、年間を通して歌や合奏などに力を入れ、練習の成果を発表すること

により、みんなで行うことの楽しさを実感すると共に、一人ひとりの自信にもつながっていった。

ほし組（4歳児）の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
- ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ・自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標 評価・課題

日々の保育や行事をみんなでやり遂げる体験や集団遊びを通じ、友達と一緒に過ごす楽しさ、友達の大切さを感じられるよう努めてきた。さらにコマ遊び、綾取りなどの伝承遊びにも取り組むことにより挑戦する気持ちを育てていくことができた。

つき組（3歳児）の年間目標

- ・基本的な生活習慣の自立に重点を置き、一人ひとりに合わせて丁寧にに関わり、子ども達が自分でできる流れを作るようにした。そのため初めは差があったが最終的には一応の自立ができたと思う。
- ・環境的なこともあり異年齢の交流が少なかった。保育園の良さを生かすことが課題。
- ・クラス、仲間というところでは関係ができていたが小さくまとまりがちだった。

年間目標 評価・課題

- ・食事、排せつ、手洗い、うがい等、基本的な生活習慣が身についていくように心がけて保育をした。
- ・戸外遊びを多く取り入れ、身体をつかって遊ぶことの楽しさを伝え、昆虫や自然と多く触れ合えるような保育を心がけた。
- ・指先、手先を使った遊びや、集団遊びの導入があまりできなかった事は反省点。

はな組（2歳児）の年間目標

- ・身の回りのことを自分でできるようになるので、自立の要素を受け止め困った時は手助けをしながら自分でできる喜びを持たせる。
- ・保育者や友達と一緒に全身を使った遊びや、ごっこ遊びをする楽しさを体験できるようにする。
- ・反抗したり強く自己主張するようになるが、自我の芽生えとの時期と受け止め、自信をもって行動できるように援助していく。

年間目標 評価・課題

- ・メダカ、ザリガニなど生き物の飼育を通して、子ども達の興味、関心を育て、命の大切さを伝えてきた。
- ・季節ごとの制作にも力を入れ、ハサミや糊を使って鬼のお面やおひなさま、お散歩バックなども作った。

- ・生活面では着脱や手洗い、うがいなども小グループで丁寧に見守ることで子ども達も少しずつ身につけていくことができた。

あひる組（1歳児）の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ・保育者に見守られながらの様々な生活や遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ・安心できる保育者との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ・身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもち

年間目標 評価・課題

- ・かみつきやひっかきには、その都度双方の気持ちを受け止め代弁するよう努めてきた。
- ・子ども達の気持ちを受け止めつつ、こちらの思いも丁寧に伝え、子ども自身が考え葛藤する時を大切に見守った。このことで子ども自身が自分で気持ちを切り替えられるようになってきた。
- ・保育者の入れ替わりがあったが、職員間で出来る限り情報を共有し共通の関わりあいを持てるよう心がけ、子どもたちや保護者が不安にならないように務めた。

うさぎ組（0歳児）の年間目標

- ・一人ひとりの子ども甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る
- ・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
- ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
- ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ・優しく語りかけたり 発語や保育者とのやりとりを楽しむ。
- ・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能の発達を促す。
- ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具など、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

- ・家庭と連携を取りながら離乳を進めた。個々の体力、体調に応じて休息を取り、生活リズムを整えた。
- ・季節に応じて水・泥・葉・花など自然物に触れる機会を持ち、室内外で手足を動かす遊びを積極的に取り入れた。ゆったりした雰囲気の中で見立て遊びを楽しんだ。
- ・こだわり、自己主張、甘えを丁寧に受け止め、子どもの気持ちを満たすことで、子ども達は安心して関わる世

界をひろげていった。

- ・ゆるやかな担当制をとり、子どもとの関わりを継続して持つことで情緒の安定を図った。また、朝早くから遅くまでの長時間保育の子が多く、1人ひとりの生活リズムや体調を大切に、一日を通して機嫌よく過ごせるように配慮した。また、月齢の高い子も多く、テラス・園庭散歩などの戸外遊びを十分に楽しむことが出来た。

2012 年度実施行事

- 4月 入園式 クラス懇談会 3, 4, 5歳児親子遠足
- 6月 花の日子どもの日礼拝 一週間縦割り 5歳児お泊り会 (分園)
はびねすの会
- 7月 夕涼み会 プール開き 5歳児お泊り会 (本園)
- 8月 卒園生遊ぼう会
- 9月 ほのぼの会 はびねすの会
- 10月 運動会 5歳児プラネタとお泊り会 (分園)
- 11月 そしがや祭り 収穫感謝祭 はびねすの会
- 12月 クリスマス礼拝 卒園生クリスマス
- 1月 餅つき 1週間縦割り
- 2月 豆まき はびねすの会 大きくなったよ会 各クラス懇談会
- 3月 思い出遠足 お別れ会 卒園式 進級式

年間行事 評価・課題

行事に取り組む際には、必ずその目的や取り組みを会議などで確認、検討し全体で共有している。また、地域のお年寄りを招く「はびねすの会」を年4回開催した。

オ 栄養管理

- ・集団給食施設栄養報告 年 2 回
- ・栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
- ・季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
- ・給食供給者としての諸管理
- ・放射能汚染食品を取り入れないよう検査済み食品や産地に気を付けての食品購入

栄養管理 評価・課題

- ・食事は季節の物を取り入れながら、見た目でも食欲がわくように心掛けている。
- ・保育園の畑で育てた野菜を使つてのクッキングや各年令ごとに出来るだけクッキングを取り入れ、食を身近に楽しめることが出来ている。
- ・郷土料理、伝統食作り、そして地域で採れた野菜を使用したり、もっといろいろな「食」に身近に触れる機会を作っていきたい。
- ・栄養管理に気をつけながらアレルギー児に対する除去食及び代替食実施をしてきた。

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練

引き渡し訓練の実施 (9月9日 (木))

安全管理 評価・課題

毎月安全点検をし、安全な環境を常に心がけている。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	1名
保育士	17名
調理員	2名(栄養士含む)
看護師	1名
嘱託医	1名(非常勤)
リトミック講師	1名(非常勤)
パート職員	13名

イ 健康管理

健康診断 年 1回(6月)
細菌検査 年 12回

ウ 職員会議

定例会 毎月 1回 乳幼児打ち合わせ 毎月 2回
行事前打合せ会(随時) クラス、食事打ち合わせ
期別反省会(年 2回) 主任会

会議 評価・課題

昨年同様、司会者は職員が意見を出しやすいような雰囲気づくりに努めた。また、議題を整理し、時間内で治まるよう工夫した。保育のため出席できない職員には記録、報告により周知徹底を図った。

エ 研修

- ・園内研修
- ・法人内研修
- ・全国私立保育園連盟研修
- ・東京都社会福祉協議会研修
- ・世田谷区の研修
- ・自主研修

研修 評価・課題

・子どもの「文化」「ゆずりは」「子ども総合研究所」の講座には多数の職員が参加した。
・研修参加者自身はそれなりの成果があったが、それを全職員が共有する場を持てなかったのが反省点。

オ 退職・福利厚生

- ・独立行政法人福祉医療機構 退職共済制度加入
- ・東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- ・株式会社 JTBベネフィット えらべる倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務
- ・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

- ・昨年同様、分園、家庭的保育事業の小口、業者支払いも含む事務処理を本園で非常勤職員が一括処理している。
- 1月中旬から本部事務局の職員が月数日間来て家庭的保育事務を行っている。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係 評価・課題

- ・ホールに伝承遊び用具を置く棚を作ったことで、伝承遊びをいつでもできるようになった。
- ・また数十年前からある大型積み木を削り直したことにより、使用可能となりホールでの遊びが広がった。

(3) 備品関係

ア 備品購入

- ・椅子 11脚、テーブル2台、敷布団4枚、ホワイトボード2台、クリーナー3台、
- ・ネームランド、整理棚、プロジェクター、防災頭巾、ピアノカバー、物置、

イ 保育用品購入

- ・畳、功技台、

ウ 給食用品購入

- ・食器、鍋、トレー

エ 固定資産物品購入

- ・なし

備品関係 評価・課題

- ・卒園の記念品として毎年保護者より工技台を少しずつ贈呈してもらっている。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×3日分

災害対策 評価・課題

- ・ 9月保育ネット烏山の合同避難訓練に参加し、地域の保育施設との災害時の協力体制を確認する。

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

- ・ 出前保育では地域の公園に出向き、地域の親子と一緒に様々な遊びを楽しんだり、園開放ではリトミック、おやつを試食、発育相談などを行った。

4 人事

- ・ 退職職員 1名
- ・ 短時間パート退職 1名

その他（特記）

- ・ 1月に利用者に対するアンケート調査を実施
- ・ 家庭的保育事業の年間目標等については、祖師谷保育園分園の事業報告へ記載している。

社会福祉法人 雲柱社 祖師谷保育園分園 2012（平成24）年度 事業報告

記入者 菊地 せい子

2012年度は、本園と分園の一体化運営の初年度であった。本園園長が分園との兼務、本園主任が分園副園長（園長代行）として常駐する体制でスタートした。園長が常駐していないことに対する不安や不満が、保護者にあったが、信頼関係の構築に努力したことや、本園・分園一体化のメリットを活かし、園児・職員の人事交流、遊具や絵本等の積極的な購入、園庭の整備や門扉の幅を広げるなど避難経路の整備などが進むにつれて、保護者の一体化への理解も進んでいった。一体化に伴うそれぞれの役割の役割の明確化など課題もある。

福島原発事故による放射性物質の問題に関しては、2011年度に引き続き給食食材について、安全・安心な給食を提供できるよう産地に注意して仕入れ、産地を保護者に公開している。それでも不安な保護者には、個別対応（水を持参すること）を認めている。

また、近年中に首都圏を大規模地震が襲う可能性が高い中で食糧備蓄を増やしたが、防災マニュアルの作成などまだ課題はある。

人材育成にも力を入れ、時間外研修にも参加するように勧めたところ、それに応え多くの職員が研修に積極的に参加した。また、本園、分園、家庭的合同の園内研修では、伝承遊びを学ぶ一環として講師を招きわらべ唄遊びも学んだ。

2013年度は本園からの三人の職員の分園への配置転換があり、本園・分園のさらなる一体化を目指したい。

1 施設運営

（1）実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障碍児保育事業実施（特児対象：2名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 小中高生の育児体験受入れ 5日間受入れる
- ・ 中学講師の体験受け入れ 1日間受入れる
- ・ 老人施設訪問8回（内3回は来園）
- ・ 緊急一時保育（1名受入れ）

ウ 家庭的保育事業との連携

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
つくし組	0歳	3名	9名		看護師
すみれ組	1歳	3名	14名		
たんぼぼ組	2歳	3名	15名		
ちゅうりっぷ組	3歳	2名	15名		
ひまわり組	4歳	1名	14名	2名	
さくら組	5歳	1名	13名	2名	
家庭的保育		7名	35名		支援者1名保育者7名
園長		1名			
合計		21名	115名		分園80名家庭的35名

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 293日
24日	24日	26日	25日	27日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	24日	23日	23日	23日	25日	

ウ 健康管理

・健康診断

乳児 毎月(1回) *耳鼻科検診 年1回(5月)
 幼児 年2回(5月、10月) *視力検査(4、5歳児)年1回(10月)

・歯科検診 年1回(6月)

・蟯虫卵検査 年1回(5月)

エ 保 育

各組の保育目標

さくら組(5歳児)の年間目標

- ・様々な活動に取り組み、仲間に認められる事によって自信を得、自己発揮する。
- ・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かす事を楽しむ。
- ・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自立の態度を身につけ、理解して行動する。
- ・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
- ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
- ・人の話を良く聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・自分のもつ好奇心や知的探求心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり、感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

・今年度のクラスの大きな目標は「積み上げ」だった。1つ1つ丁寧に、そして個別の関わりをしっかりとってや

ってきた。また、本分園一体化の1年目ということで本園との連携をとるよう心がけていった。とてもいい状態で連携がとれ、職員同士はもちろん子どもたちについても、小学校へ行っても本園分園関係なく、子どもたちの関係が築いていけると思っている。

課題としては、配慮の必要な子どもの対応をもう少し個別にしたかったという点。手と目と言葉をかけてあげると、きっともっと良い環境にできるだろうと考えながら十分に手が届かず残念だった。

ひまわり組（4歳児）の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
- ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・健康面、安全面等で基本的な生活習慣を徐々に身に付ける。
- ・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉が伝わる楽しさを味わう。
- ・自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標 評価・課題

- ・個別差はあるものの集団生活や遊びの中で相手の思いに気づいたり、自分の思いを伝えることが出来るようになった。まだ上手く伝えられない児もいるので伝え方を伝えていく。
- ・4、5歳で協力して散歩へなるべく多く出掛けるようにした。冬や行事の時になかなかいけなかったのが残念であったが、折に触れて季節を楽しめた。
- ・当番活動やグループでの活動を取り上げた事で生活のリズムが出来て意欲的に取り組む姿が見られた。

ちゅうりっぷ組（3歳児）の年間目標

- ・生活が自立してくることで自信を持ち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ・外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。
- ・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにしていく。

年間目標 評価・課題

- ・身の周りのできることをやろうとする意欲を増やし、自信につながっていた。遊びや普段の関わりの中から、友だちとの関わりが増えていったが、大人が提供する遊びが少なかつたため、後半に遊びを詰める形となってしまった。子どもの様子を見つつ、年間計画の段階で、おおよその時期や具体的な内容例も挙げられると良かった。

たんぽぽ組（2歳児）の年間目標

- ・たくさんの自己主張や思いのあらわれを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるようになる。
- ・体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ・大人やまわりのことに興味をもち、みたて・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標 評価・課題

- ・年間目標としていたものは、ほとんど目標をスムーズに進めることが出来た。
- ・集団遊びを保育者からもっと提供していくべきであった。
- ・散歩に行く頻度が高く、上手に歩けるようになったので、来年度も継続していく

すみれ組（1歳児）の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保存と情緒の安定を図る。
- ・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ・身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ

年間目標 評価・課題

- ・子どもの生理的欲求や甘えを受け止め、一人ひとりの子どもの月齢に合った保育をすることができた。ただ職員体制の変化などにより、不安になったり、落ち着きがなくなったりした子どもに対し、対応が遅れてしまうこともあった。公園への散歩や本園との交流を積極的に行うことによって、地域の中にある保育園ということ意識できた。

つくし組（0歳児）の年間目標

- ・一人ひとりの子ども甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えるための運動をしたり、移動したり等のいろいろな身体活動を十分に行う。
- ・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
- ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
- ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。

- ・優しく語りかけたり発語や保育士とのやりとりを楽しむ。
- ・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能の発達を促す。
- ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具など、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

- ・室内環境を細目にかえ、安全で過ごしやすく、健やかな成長ができる設定が出来た。
- ・個々にきめ細やかに、かつ柔軟に接することにより、信頼関係を深めることができた。
- ・様々な体験をすることにより、興味や好奇心の芽生えを促した。

家庭的保育の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図り、きめ細やかに保育し、やさしい温かい家庭的な保育を目指す。
- ・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えるための運動をしたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ・子どもたちが安全かつ健康で情緒の安定した生活が出来るよう、本園分園との連携を取りながら一人ひとりの子どもたちの最善の利益を守る
- ・身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心を持つ。

年間目標 評価・課題

- ・一人ひとりの家庭の事情や生活リズムに柔軟に対応し無理なく過ごせた。
- ・各“おへや”での保育を基本にし、異年齢での活動や同年齢での活動等保育内容に変化をつけた。
- ・本園や分園の園庭や保育室を活用し、保育環境の幅を広げたり、同年齢児との交流ができたが今後保育計画をしっかりと立て保育を行えるようにする。
- ・栄養士、看護師との連携をより深めていくために何が出来るかを考える。（会議の参加、おやつ喫食状況の把握、保護者への離乳食相談、アレルギー児の把握等）

家庭的保育事業実施場所：世田谷区上祖師谷 1 丁目 16-16 パークサイド

上祖師谷 101、102、103、105、106 号室、

世田谷区上祖師谷 7 丁目 1-8 フジハイツ 101 号室

世田谷区上祖師谷 5 丁目 11-17 ビクトワール 101 号室 計 7 か所

2012年度実施行事

4月	入園式 各クラス懇談会	3・4・5歳児クラス親子遠足
6月	花の日こどもの日礼拝	5歳児お泊り会（分園）
7月	夕涼み会	5歳児お泊り会（本園） プール開き
8月	卒園生遊ぼう会	
9月	ほのぼの会	
10月	運動会	5歳児プラネタリウム（本園合同）
11月	そしがや祭り	収穫感謝祭
12月	クリスマス礼拝	卒園生クリスマス
1月	餅つき	
2月	各クラス懇談会	豆まき
3月	思い出遠足 お別れ会	卒園式 進級式

年間行事 評価・課題

- ・5歳児のお泊まり保育を本園と合同で行う。（分園・本園一泊ずつ）他にも本園の行事を見に行くなど、分園の職員が本園に行く機会が増えた。
- ・夕涼みでは、プロのパントマイムを呼んだり、灯籠やハッピーを作ったり、盆踊りを盛り上げたりし、保護者の会でも全園児に手ぬぐいを配るなど大盛況で良い反響も得られた。

オ 栄養管理

- ・集団給食施設栄養報告 年2回
- ・栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
- ・季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
- ・給食供給者としての諸管理
- ・放射能汚染食品を取り入れないよう検査済み食品や産地に気を付けての食品購入

栄養管理 評価・課題

- ・食事では、季節や行事に配慮し、おいしさを第一に栄養バランスのとれた献立作成を行った。
- ・食育では、食の関心や経験を広げるために、各年齢に合わせた食材の話やクッキングを行った。魚の解体や野菜の展示をすることにより、命の大切さや食べ物を食べるということについて関心を持つことができた。次年度も引き続き行っていきたいと思う。
- ・次年度の課題として、イラストの媒体や食材を使用し、食育を行っていく機会をもう少し増やしていかれたらと思う。また、行事や郷土料理の際には五感で食事を感じることができるよう、見た目にも配慮できたらと思う。
- ・栄養管理に気をつけながらアレルギー児に対する除去食及び代替食実施をしてきた。

カ 安全管理

- ・非常時災害時の避難訓練
- ・引き渡し訓練の実施（9月10日）

安全管理 評価・課題

- ・引き渡しの確認、人数の把握と受け渡しを事務所で副園長が行う。
- ・地域の受け入れ体制も整えたが、参加者はいなかった。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名 (兼務)
副園長	1名
家庭的支援者	1名
保育士	12名
調理員	2名 (栄養士含む)
看護師	1名
嘱託医	1名 (非常勤)
リトミック講師	1名 (非常勤)
体操教室講師	1名 (非常勤)
家庭的保育者	6名
パート職員	15名

イ 健康管理

- ・健康診断 年 1回 (6月)
- ・細菌検査 年 12回

ウ 職員会議

- ・定例会 (毎月1回)
- ・行事前打合せ会 (随時)
- ・期別反省会 (年2回)
- ・乳幼児打ち合わせ (毎月2回)
- ・クラス、食事打ち合わせ (毎月1回)
- ・リーダー会 (毎月2回)

会議 評価・課題

- ・職員会議開始が、職員数が少ない為、数人でのスタートとなってしまいが伝達を大切にしたい。
- ・会議内容によっては個人情報に気をつけながら、パート職員へも伝えるようにしていった。
- ・期別反省会は、保育士の為の自己評価チェックリストや死を招く保育の本を読んでの話し合いなど保育の質の向上につながった。

エ 研修

- ・園内研修
- ・法人内研修
- ・全国私立保育園連盟研修
- ・東京都社会福祉協議会研修
- ・世田谷区の研修
- ・保育ブロック研修
- ・自主研修

研修 評価・課題

- ・園内研修では、わらべ歌あそびやカプラを講師から学んだり、本園の職員との交流が持てた。
- ・自主的に学びたい研修（外部）に行く職員が多く、その成果は保育を見ていて感じられた。

オ 退職・福利厚生

- ・独立行政法人福祉医療機構 退職共済制度加入
- ・東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- ・株式会社JTBベネフィット えらべる倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

- ・本園と一体化になり、事務のシステムが変わった。分園で行う事務処理の整理をし、一体化の事務処理に移行することになった。
- ・保健の時間を作り保健指導の機会を予定していたが、実行できなかった。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係 評価・課題

- ・避難経路を確保するため、乳児と幼児の園庭扉とたんぼぼ前の扉を乳母車が通れる広さに変えた。また、乳児園庭からもエントランスに避難できる扉を付けた。
- ・インターホンが、事務室だけでなく、保育室でも受けれるように工事した。

(3) 備品関係

ア 備品購入

- ・テレビ ・冷蔵庫 ・畳

イ 保育用品購入

- ・各クラスの絵本や玩具の購入 ・0、1歳時食事エプロン等 ・跳び箱

ウ 給食用品購入

- ・食器類

エ 固定資産物品購入

- ・園庭遊具 ・自転車置き場屋根設置

備品関係 評価・課題

- ・光の子文庫を設置する為、絵本棚を作った。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回(内届け出1回)

ウ 非常食糧の備蓄

(全園児数+全職員数) × 3食 × 3日分

災害対策 評価・課題

- ・避難訓練は、放送が聞こえない場合、状況判断で避難するよう指導していった。
- ・家庭的保育事業とも連携して、災害など合同避難訓練を行った。
- ・防災プロジェクトを設けたが、職員が入れ替わってしまったため、来年度新たに取り組んでいきたい。
- ・不審者訓練では、実際に行ったことで確認点が見えてきた。

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

- ・保育ネット烏山に加わり世田谷区の3園(烏山・祖師谷本園・分園)共同で入園相談を行う。
- ・要保護児童支援烏山地区協議会研修参加
- ・老人施設(ロングライフ成城・ツクイサンシャイン)の訪問や上祖師谷中学校の学生や先生の体験受け入れを積極的に行う。

4 人事

- ・異動職員 4名(虹のひかり保育園)
- ・退職職員 2名

5 その他

- ・3月に利用者に対するアンケート調査を実施した。
- ・家庭的保育事業で、「おうち」会議を毎月行った。

社会福祉法人 雲柱社 鳥山保育園 2012（平成24）年度 事業報告

記入者 伊藤 美代子

立ち上げから6年間経ち、0歳児で入園してきた子どもが雲柱社の保育を6年間受け、卒園する年となった。長時間保育を行っていることもあり、「雲柱社の鳥山保育園」としての責任を強く感じる。2011年度に確認した「一人ひとりを大切にし、日々の成長を楽しみ、保護者と共有する」という保育の基盤を、2012年度は、実践していくことに力を入れた。その観点から、重点課題に沿って、以下のように報告する。

- I. 子どもの姿を丁寧に把握し、気持ちを汲み取り、適切な支援を行っていく。子どもたちの「やりたい」「やってみたい」気持ちに沿った「満足」できる充実した保育を行う。

- II. 子どもを中心に、日々の保育の共有をはかり、保護者との連携を強める。
→保護者の信頼や安心のための「満足」から、子ども中心の「満足」への方向転換をゆるやかに行ってきたが、今年度はそれが保育の成果に顕著にあらわれた。行事の内容も日頃の保育中心に見直し、保護者への連絡も必要なものを残し、過度な部分をあらため、それに要していた時間を明日への保育の準備に充てていくよう努力した。

- III. 上記のことが実現できるよう、日常業務の中で工夫を行い余裕をつくり、保育内容の向上を目指す。
→職員会議の機能を見直し夜の会議は年4回にした。そのほかの月は夜クラスの打ち合わせを行い、主任・副主任とともに丁寧に保育について検討することにより、保育内容が深まった。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・0歳児保育特別対策事業実施（0歳児取扱人員：13名）
- ・産休明け保育実施
- ・延長保育実施（0歳児の受け入れ、4時間延長） *月延長登録児…平均60名
- ・休日・年末保育 *休日利用…日平均、8～9名 *年末保育（2日間）…25名
- ・障がい児保育事業実施（2名）
- ・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施（6名）

イ 地域子育て推進

- ・出前保育 6回
- ・パートナー保育登録 40人
- ・中・高生の育児体験受入れ 延べ50人受入れる
- ・地域交流事業 年9回・概ね140人
- ・卒園生交流 年6回・概ね60人
- ・育児困難家庭への支援 2名受入れ

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
ひよこ組	0歳	5名	13名		看護師1名 パート2名
ちょうちょ組	1歳	4名	19名		パート2名
うさぎ組	2歳	4名	21名		パート1名
たんぼぼ組	3歳	2名	22名		パート1名
やま組	4歳	2名	22名		
ひ組	5歳	2名	22名	2名	
	その他	休日、延長4名			
合計		23名	119名	2名	

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 361日
30日	31日	30日	31日	31日	30日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
31日	30日	30日	28日	28日	31日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月（1回）

幼児 年3回（5月、プール前、10月）

- ・視力検査（4、5歳児）年1回（10月）
- ・歯科検診 年1回（5月）
- ・耳鼻科健診 年1回（9月）
- ・身体測定 毎月1回
- ・蟻虫卵検査 年1回（5月）
- （胸囲、頭囲 年2回）

・各クラスでその都度必要なテーマで保健指導を行った。栄養士と協力して「食育保健活動」（パクモリタイム）も行い、身体の大切さ、生活習慣確立の大切さを伝え、意識づけることが出来た。

・日頃より、職員一同環境整備に努め、また、子どもへの保健指導、保護者へは保健便り等を通して、健康管理の大切さや情報を伝え、感染症の拡大を抑えることが出来た。

エ 保 育

各組の保育目標

ひ組（5歳児）の年間目標

- ・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かす事を楽しむ。
- ・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自立の態度を身につけ、理解して行動する。
- ・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
- ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。

- ・人の話を良く聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・自分のもつ好奇心や知的探求心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

子どもの個性を十分に認め一人ひとりが集中して取り組める遊びを提供した。また、その為に環境を何度も見直してきた。(個性の強い子もクラスの一員として互いに認め合える様に関わってきた)

遊びが充実する中で(どろけい、ドッジボール、ハンター鬼ごっこ、手紙ごっこ等)子ども同士でも互いに認め合える関わりを持てるようにしてきた。互いに納得し合えるまで、クラス全体で、(トラブル時も含めて)話し合う経験を大切にしてきた。

やま組(4歳児)の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
- ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を徐々に身につける。
- ・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ・自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動する中で関心が深まり、そのことを表現しようとする。

年間目標 評価・課題

子どもたち一人ひとりが好きな遊びや得意なことを見つけられるように心掛けた。友達と一緒に相談する機会を多く持ち、自分の思いを伝えると共に、話を聞く機会も大切さも経験した。

遊びの中で紐の結び方や箸の使い方などの生活面も経験できるようにし、身に付く環境を考慮した。

たんぼぼ組(3歳児)の年間目標

- ・生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ・外遊びを十分にするなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。
- ・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

年間目標 評価・課題

基本的な生活習慣では排泄、着脱、食事とその都度個別または少人数で丁寧に関わりを持つことで、パンツへの移行、介助無しでの着替えが身についていった。

遊びでは保育者が中心となり、鬼ごっこ、リレーごっこ等のルールのある遊びを友達と一緒に楽しみ、子ども同士だけで楽しむ姿も見られるようになった。

うさぎ組（2歳児）の年間目標

- ・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ・身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ・大人やまわりのことに興味を持ち、みたく・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標 評価・課題

少人数のグループでのかかわりを通して、保育士と子ども一人ひとりとの関係を十分に築き、個々の成長、発達に合わせた援助が出来た。また、「自分でやりたい」気持ちに寄り添い大切にすることが出来た。

ちょうちょ組（1歳児）の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ・身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

年間目標 評価・課題

少人数のグループでの活動を心掛け、子どもたちが安心して自分を出せるよう配慮することが出来た。安心できる保育者に十分受け止めてもらえたことで、自分で生活を進めようとする姿につながられたと思う。また、十分に身体を動かせるよう活動を考えたが、大きな怪我等無く過ごせたことが良かった。

ひよこ（0歳児）の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め、快適な生活ができるようにする。
- ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
- ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ、幼児食への移行を図る。
- ・優しく語りかけたり 発語や保育士とのやりとりを楽しむ。

- ・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
- ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具など、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

食事の関わりを大切に、一人ひとりを丁寧に見ていく事を特に意識した。担任全員が13人に対し離乳食から完了食に移行していく過程を把握し、個々に無理なく食事の介助を進めてきた。また、長時間保育児に対しては、夕方の過ごし方を工夫するよう努め、安全にも十分に留意した。

つき・ほし組（延長保育）の年間目標

- ・家庭的で落ち着いた雰囲気で行う。
- ・個々の子どもの状態を深く捉えて愛情を注ぎ、細かい配慮によって楽しい時間を過ごす。

年間目標 評価・課題

個々の子どもの家庭状況等に配慮し、柔軟な対応を心掛け、支援の姿勢を持ち続けてきた。そして、長時間保育の子どもが安心して、楽しい時間の中でお迎えを待つことが出来る事を目標とし実行してきた。また、遊びの面での工夫に力を注ぐと共に、一人ひとりの気持ちに寄り添う事を大切にしたい。

にじ組（休日保育）の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ・安心できる大人の見守りの中で、他の子どもにも関心を持ち、一緒に遊ぶ楽しさを知る。
- ・一人ひとりのペースを考慮して、無理なく食事や午睡をする。
- ・異年齢児間で、世話をしたり世話されたりする喜びを知る。

年間目標 評価・課題

一人ひとりが満足して、十分に楽しめるような保育を年間通して考えてきた。保育者と対一の時間を年齢に関係なくそれぞれに作ることで、遊びだけではなく、情緒面でも落ち着きが見られた。今後も同日に利用する子どもの年齢差が大きいことが予想されるので、引き続き個々を大切にしていきたい。

2012年度実施行事

- | | |
|-----|---------------------------|
| 4月 | 進級式・入園式 |
| 5月 | 保護者会 4、5歳児遠足 |
| 6月 | 5歳児多摩動物園遠足 プール開き |
| 7月 | 夏祭り 七夕 笹もやし 5歳児お泊り保育 |
| 9月 | プールじまい お月見会 |
| 10月 | 運動会 |
| 11月 | 3、4歳児遠足 敬老の集い 収穫感謝祭 |
| 12月 | 生活発表会 クリスマス会 |
| 1月 | お正月あそび |
| 2月 | 節分 おやじの会（クラス看板づくり）保護者会 |
| 3月 | 雛まつり 卒園式・卒園を祝う会 5歳児さよなら遠足 |

年間行事 評価・課題

昨年見直した行事の内容や日程を、再度保護者に説明し実行した。運動会、生活発表会など当日のことだけでなく、それまでの過程（練習など）を大切にした。また移譲後6年目になり、クリスマスにむけてのアドベント期間を各クラスで持ち、年齢に応じたプログラムを行うことができた。

オ 栄養管理

- ・ 集団給食施設栄養報告 年2回
- ・ 栄養素の質、量のバランスを考えて献立表を作成
- ・ 季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
- ・ 給食供給者としての諸管理
- ・ 放射能汚染食品を取り入れないよう検査済み食品や産地に気を付けて食品の購入をしてきた。
- ・ 食物アレルギー児への対応

栄養管理 評価・課題

保育内容（過程）にあわせた食育を保育士と連携を取りながら進めていくことができた。打ち合わせの中で、栄養士と保育士が十分に話し合いをしながら各クラス、月に4～5回食育の取り組みを行うことができた。乳児においても、簡単にできるお手伝いや、目の前で調理を見せることを積極的に取り入れ、子ども達の関心も高まっていった。活動内容をその日に写真掲示し保護者に伝えていたことで、保護者の食への関心も高まり、家庭で食育の取り組みをすることが増えたようだ。また、園に対する食育への期待度も高まった。

食において、保育士、栄養士、調理員、看護師、保護者それぞれがつながりを持って進められたことで、給食の残菜も減り、食の知識以外に情緒面の発達などたくさんの成長が見られた。次年度も継続して行っていきたい。

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練

引取り訓練の実施

安全管理 評価・課題

不審者訓練も、初年度の内容を見直し、合図を子どものわからないものにし、子どもの動揺が少なくするための工夫した。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	1名
副主任	1名
保育士	23名
看護師	1名
栄養士	3名（調理師含む）
パート職員（調理、見回りも含む）	14名

リトミック講師 1名
 嘱託医 1名（非常勤）

イ 健康管理

健康診断 年1回
 細菌検査 年12回
 給食、職員・非常勤毎月1回

ウ 職員会議

- ・職員会 月1回（夜、昼）
- ・運営会①（園長、主任、副主任）月2回
- ・乳児、調理打ち合わせ会 月1回
- ②（上記と乳児、幼児リーダー）1～2回
- ・キリスト教勉強会 隔月1回
- ・幼児打ち合わせ会 月3回
- ・延長、休日打ち合わせ 月1回
- ・クラス打ち合わせ会 月に1回
- ・献立、離乳食打ち合わせ 月1回
- ・安全委員会 月1回

会議 評価・課題

昨年同様クラス打ち合わせを丁寧に行い、主任・副主任も出席しアドバイスした。後半、運営会の回数が減ってしまい、急ぎょ集まって話し合うことが多くなってしまった。そのほかの打ち合わせは、職員主導で計画的に行うことができた。

エ 研修

- ・園内研修（中間年間保育まとめを含む）
- ・法人研修
- ・保育ブロック研修
- ・世田谷区の研修
- ・全国私立保育園連盟研修
- ・東京都社会福祉協議会研修 他

研修 評価・課題

今年度は「一人ひとりを大切に作る保育」をテーマに園内研修を行った。前期は0歳児の食事の様子を、ビデオに撮って職員で関わり方を見直した。また、気になる子について、法人でも特別保育研修で講演会や、事例検討会を行い、それに参加した職員より報告を受け、内容の共有化をはかり、実際には2名の園児について、クラス担任や管理職とケースの検討を行った。

オ 退職・福利厚生

- ・独立行政法人福祉医療機構 退職共済制度加入
- ・東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- ・株式会社 JTB ベネフィット えらべる倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務
- ・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成

- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

事務関係 評価・課題

園長、主任、副主任の3名で、効率よく役割を分担することができた。非常勤の事務担当者が、書類の整備のアイデアをだし、事務の効率化がはかれた。次年度は園長交代も視野に、主任・副主任に加え、統括リーダーを置き、連携を強化したい。

(2) 設備関係

- ア 園庭大型遊具購入
- イ クラス用玩具棚購入
- ウ 職員用トイレ和式から様式へ

設備関係 評価・課題

区の建物で自由に手がいれられないこともあり、今年は園庭の環境を充実させた。古タイヤやテーブルと椅子にペンキをぬったものや、バスマットなどを設置したことで、ごっこ遊びが広がっていった。園庭遊具も、保育園には合わないジャングルジムや滑り台を撤去し、木製の2～3歳児用のアスレチックを設置した。

ジャングルジム等を撤去したことで安全配慮のための配置職員が複数名から1名で済むことになり、職員がより遊びに関われるようになった。

(3) 備品関係

- ア 備品購入
 - ・テラス倉庫
 - ・掃除機
 - ・裏庭遊歩道材料他
 - ・砂場用砂の入れ替え
- イ 保育用品購入
 - ・0歳児用ベット
 - ・幼児用いす 70個
 - ・玩具他
 - ・一輪車練習用玩具
 - ・砂場用トレーラー
- ウ 給食用品購入
 - ・食器
 - ・調理器具他
 - ・特注サンプルケース
- エ 固定資産物品購入
 - ・大型書類、絵本庫

(4) 災害対策

- ア 避難訓練
 - 毎月1回
- イ 防災設備の点検委託
 - 年2回（内、届け出1回）
- ウ 非常食糧の備蓄
 - （全園児数＋全職員数）×3食×3日分

災害対策 評価・課題

- ・園長が防火管理者再講習を受け、消防計画を見直し、備蓄品を増やした。
- ・保育ネット鳥山の合同避難訓練に参加し、地域の保育施設との災害時の協力体制を確認した。

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

- ・地域交流（園開放）は、人数の設定をし、年6回、無理なくまた深く利用者と関われるようにした。
- ・近隣の公園へ、出前保育を年6回行った。天候に左右され実施できない日が多く、振り替えを行った。
- ・保育ネット鳥山をとおして、地域のお祭り「すくすくメッセ」に関わった。地域の関係者と知り合うよい機会となった。

4 その他

- ・1月に利用者に対するアンケート調査を実施した。

年主題 「協働する」 法人事業理念 保育理念にそって

創立 60 周年を迎えた節目の年であった。秋の記念会に向けては当初から準備委員会を立ち上げて取り組んできた。当日は手作りのささやかな会であったが、温かな記念会を行うことが出来た。日常の保育では震災から 1 年が経ったが、放射線の空間線量や食材・牛乳の産地などは引き続き、定期的に区役所が計測に来たが、園でもシンチレーションカウンターを購入して、食育で育てた野菜なども計りながら安全を確認してきた。

「協働する」という年主題を掲げたにもかかわらず、職員の間関係の難しさに心を痛めた年でもあった。新入職員や異動職員との連携はクラスだけに負わせるのではなく、管理職やリーダーが介入して早めに対応することが大切であると感じた。“問題のない人間関係はない”というカウンセリング研修での言葉に励まされ、その時々話しあい個人面談をしてきた。職制と役割分担を整理していくことの必要性を感じた。職員同士同じ方向を向き、足りない部分を補いあって、お互いの気持ちを配慮しあえる職場環境をめざしていきたい。

第三者評価の利用者調査は今年も同じ評価機関で取り組んだ。昨年より回収率は下がったが 62 パーセントの回答があった。年度ぎりぎりに結果がでたので、最終日に保護者に配布することが出来た。概ね満足であるという評価を頂き、特に職員への評価が高いことが嬉しかった。

保育方針 「神と人から愛されかけがえのない存在であることを知る」

「一人ひとりを大切にする」

保育目標 神と人から愛されていることを知り、自分やまわりの人を大切にする子ども

1. ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
2. のびのびとしなやかに、からだを動かして遊ぶ子ども
3. 基本的生活習慣が身につく、見通しをもってできることを自分でする子ども
4. さまざまな人との関わりを大切にし、思いやりをもって共に生きる子ども
5. 自然や命あるものとの出会いを大切にし、豊かに感じとり表現する子ども

配慮点

- * 誰もが神と人から愛され、かけがえのない存在であることを知るように保育する。
- * 子ども達一人ひとりの個性や権利を尊重して保育する。
- * 保護者が安心して働くことができ、子ども達が心身共に健やかに育つよう保育する。
- * 保護者と共に、地域との交流をもって子育てを援助する。

事業の内容と展開

1 非定型一時保育の満 1 歳児の受け入れの検討

- ・ 満 1 歳を過ぎた子の年度途中での受け入れを可能にしたいと準備の話合いを進めたが、結果、江東区の保育計画の中に無ければ、予算が認められないということで実行することは

困難であるとの見解となり残念であった。

2 職員研修

- ・自主研修への補助を増額したためか、外部研修(子どものことば研究所主催、年齢別研修を通年を通して通う等)への参加者が増えた。各年齢の研究会なども積極的に通い、各年齢のクラス運営に役立てていた。
- ・アレルギーの事故を反省に、アレルギー児除去食対応のフローチャートを作成し活用をしてきた。(乳児・幼児クラス)

3 子育てひろばの充実

- ・地域の親子がゆったり保育園で遊べる、オープンスペース用のコーナーついたてを購入。しかし、在園児にとっては不自由な面もあり、環境設備にはまだまだ課題が残る。また、地域の子どもも在園児も使う多目的室の衛生管理も定期的に必要となってくる。母親のための座談会「ティータイム」と食事会は引き続き人気であった。

4 創立 60 周年記念会への取組

- ・在園児のための会を 11 月 2 日。地域・元職員のための記念会を 11 月 3 日、午後は、卒園児と保護者のための会と 3 部構成で行った。記念品も高価なものではなかったが、職員の出し物や劇などで手作り感あふれる記念会をすることが出来た。

施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・零歳児保育特別対策事業実施(零歳児取扱人員:12名)
- ・産休明け保育実施
- ・延長保育実施(2時間延長)
- ・障害児保育事業実施
- ・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・非定型一時保育(4時間を超える)実施

イ 地域子育て推進

- ・育児講座 年6回 延べ61名
- ・お年寄りとの交流 年10回実施
- ・退所児童との交流 年6回実施
- ・中高生の育児体験受入れ 年間延べ137名
- ・育児相談 随時実施 年間100件
- ・保育所体験 毎週水・金 年間27組 57名
- ・子育てサークル支援 年8回実施 延べ71名

- ・子育て情報誌の発行 年 12回 429 通
- ・外国人児童受入れ (4名受入れ在籍)
- ・年末保育 12/29 実施希望なし
- ・育児困難家庭への支援 2 ケース
- ・出前保育 年 6回実施 延べ 68名

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
ひよこ	0歳	4	12		看護師 1
りす	1歳	4	19		保育補助 1
うさぎ	2歳	3	19		
こぐま	3歳	2	20		
ぱんだ	4歳	1	21		幼児保育補助フリー 2
きりん	5歳	1	20		
こあら	一時保育	1	10		保育補助 2
合 計		16	111 (一時保育含 めず)		

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 293日
24	24	26	25	27	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	24	23	23	23	25	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月 1回 (0歳児クラス)

幼児 年 2回 (5月、10月)

歯科検診 年 2回 乳児 (6月、11月) 幼児 (5月 、10月)

歯科指導 (年 5回)

蟻虫卵検査 年 2回 (5月、11月 配布)

年間目標 評価・課題

「のびのびとしなやかに自分のからだを動かして遊ぶ子ども」

- ・ 月の目標、配慮、保健指導、保護者への働きかけやおたより等 年間計画に沿って保健業務を行った。受診に至る怪我は18件。昨年と比べて減少しており、頭部打撲による念のための受診もあった。環境設定等、安全面について考え直すことが必要であり、危険な箇所はどうするかその都度話し合った。
- ・ 感染症については、年度始めの4月に2名インフルエンザに罹患する子どもいたが、その後は冬期になってもひとりも罹患者がいなかったのは今までにないことであった。さらに予防方針を検証していきければと考えている。
- ・ 保育ブロックの取組として午睡時チェック表を全クラスで行った。大変ではあるがSIDSの予防として継続していきたい。また、0歳児クラスに呼吸器モニターを半年レンタルし、低月例児の午睡のチェックに役立った。
- ・ 今後の課題は、安全面と危機管理の見直しを継続して行い、よりよい方向へ向かうよう検討していくことが必要となる。

エ 保 育

各組の保育目標

きりん組（5歳児）の年間目標

- ① 様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ② 様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して身体を動かすことを楽しむ。
- ③ 健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自立の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④ 様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ生活の経験を広げる。
 - ・ 異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・ 人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤ 自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

- ・ 基本的な生活習慣が身に着き、生活や遊びを自分たちで進めていく力がついていった。
- ・ 友達との遊びや関わりを通して、自分の気持ちを言葉で伝えたり、相手の言葉にも耳を傾けられるようになってきた。
- ・ 様々な活動や行事を通して、協力することや達成感を味わい、自信を得て、自己発揮につながった。

ぱんだ組（4歳児）の年間目標

- ① 一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ② 友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、身体を動かして遊ぶことを楽しむ。
 - ・ 意欲的にいろいろなことに挑戦し、身体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③ 健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④ 人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っている事を話したりして、言葉で伝える楽

しさを味わう。

- ⑤ 自然や身近な事柄にふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標 評価・課題

・意欲的にいろいろなことに挑戦する姿が多く見られ、その姿を大切にしてい見守っていった。また、出来たことに対しては共に喜び自信に繋がるようにしていった。
 ・友達の前で話す機会を作っていた。言葉で伝える楽しさ、難しさを味わうと共に、伝えることの大切さや友達の話に耳を傾ける大切さも話していった。
 ・「とじこめ鬼」等、集団で遊ぶことも多くなった。全員が楽しめるために「決まり」が在る事を伝えたり、トラブルになった時は、皆で相談して自分たちでルールを作り、更に楽しめるようにしていった。

こぐま組（3歳児）の年間目標

- ① 生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ② 外遊びを十分するなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。
- ③ 食事・排せつ・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④ 自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、友だちと一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤ 様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づきか感性を豊かにもつ。

年間目標 評価・課題

・食事の量も増え、苦手なものでも食べられるようになった。また、こぼす量も少なく、たとえこぼしたとしても、きちんと自分で始末出来るようになった。
 ・子ども主体で生活できるようになっていった。保育者にたよらず、友達同士助け合いながら考えて行動できるようになった。
 ・年上の子を真似て、いろいろな事が出来るようになり自信につながった。（逆上がり・フラフープ・縄跳び・うんていなど）

うさぎ組（2歳児）の年間目標

- ① たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちをだせるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ② 身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③ 簡単な身の周りの活動を自分でしようとする。
- ④ 保育士を仲立ちとして生活や遊びのなかで、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤ 大人やまわりのことに興味をもち、見立て・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標 評価・課題

・自己主張が出来るような雰囲気をつくることで、子ども達のがびのびと過ごせるように

した。たくさんの自己主張を保育者に受けとめてもらい、少しずつ気持ちの切りかえが出来るようになってきた。

- ・戸外に出る機会をたくさんつくり、体を動かしてのびのびと遊んだ。
- ・保育者に援助されながら身の回りのことをやってみることで、段々と自信がつき自分で出来るようになってきた。
- ・手遊びや歌を歌うことを多く取り入れていったところ、子ども達がごっこ遊びの中で保育者の真似をするなどの表現をしている姿が多く見られた。

りす組（1歳児）の年間目標

- ①一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③安心できる大人との関係のもとで食事・排せつ等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④安心できる大人に見守られる中で、他のこどもにも関心を持ち、関わろうとする。
- ⑤身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

年間目標 評価・課題

- ・夏頃までは低月齢、高月齢のそれぞれのグループでの生活を大切にし、子ども達が新しい生活や保育者に慣れ、落ち着いて過ごせるようにしていった。
- ・秋頃から子ども達の様子によって低月齢、高月齢と一緒に活動する時間を増やしていき、グループを越えた関わりを多く持てたことは、子どもにとっても良い刺激になったと思う。
- ・今年度、遅番の部屋を低月齢の子ども達のいる部屋にしたことで、低月齢の子が保護者の出入りに不安がることなく、高月齢の子どもにとっても、日中過ごしていない部屋で、夕方、新鮮な気持ちで過ごせて良かったと思う。
- ・アレルギーの誤食事故があり、そのお子さんと保護者に辛い思いをさせてしまった。二度と事故を起こさないために、園全体で対策に取り組んだ。

ひよこ組（0歳児）の年間目標

- ①一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行なう。
- ③保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排せつなどの生理的欲求をみだし、情緒の安定を図る。
 - ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食に慣れて幼児食への移行を図る。

- ④ 優しく語り掛けたり、発音やなん語に応答したりして、発語の意欲を育てる。
- ⑤ 聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
 - ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

・ひよこ組にとって最も大切なこと、それは子ども達が安心して過ごし、安定した情緒で過ごすこと。そして、保護者が安心して仕事に取り組めるような環境作りだと思う。前半はなかなかそれができなかった。クラスのチームワークもうまくいかず、複数担任で保育する難しさを感じた時期もあった。年度途中で担任交代をしてからは、少しずつそれらが改善され、子ども達も安定してすごせるようになった。お互いがお互いを信頼しあい連携して動いていくことが、いかに大切かを感じさせられた1年だった。

・低月齢児の午睡時の安全確認のため、呼吸器モニターのレンタルをした。今後も引きつづき利用していきたい。

こあら組（一時保育）の年間目標

- ① 一人ひとりの子どもの欲求を十分満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ② 保育士に見守られながら、様々な生活や遊びを通して身体を動かすことを楽しむ。
- ③ 一人ひとりの家庭での生活リズムに考慮して、無理なく食事や午睡をする。
- ④ 安心できる大人の見守りの中で、他の子どもにも関心を持ち一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤ 身の回りの様々なものを見たり、触れたりして、自然や事象に興味・関心をもつ。

年間目標 評価・課題

・室内の環境（棚の配置等）を見直していった。ままごとコーナーは棚が高く、トラブルがあっても見えづらかったり、受け入れスペースのソファも高く怪我をする子もいたので無くした。低い棚や空間を広くしたことで、保育者の見通しもよくなり、子どもも集中して遊べるようになった。

・定期的に登園してくる子どもが決まってきて、お互いに顔や名前を覚え、保護者同士も声をかけあうようになった。

・毎年の利用者のアンケートの中で、保護者の想いを知ることが出来、一時保育の大切さを改めて実感した。

2012 年度実施行事

- 4月 1日 入園式
- 5月18日 親子遠足（舎人公園）
- 6月11日 子どもの日花の日礼拝
- 7月 7日 夕涼み会
 - 19～20日 年長お泊まり保育（ファミリーロジック五日市）
 - 25～27日 小中学生（卒園児）キャンプ（深沢溪 自然人村）

7月23日～8月31日 中高生ボランティア受け入れ

9月13日 祖父母会

10月13日 ファミリーデー

10月19日 いもほり遠足（幼児）

11月 3日 60周年記念会

11月 8日 収穫感謝祭

12月15日 クリスマス礼拝・祝会

地域ともしびクリスマス

1月10日 餅つき会

2月22日 大きくなったね遠足

3月15日 卒園式 卒園を祝う会

卒園アルバム

月例行事 誕生会

年間行事 評価・課題

- ・震災から2年経ち、放射線の空間線量や食材の被爆量の検査などは江東区を通して定期的に行われ、安全確認をしてきた。このため、遠足やお泊まり保育などは震災以前の時と変わらない場所で行う事が出来た。
- ・年長きりん組が同法人の神愛保育園の年長ひまわり組とお泊まり保育で一緒にスイカ割りをしたり、年明けに荒川土手の凧あげや食事も交流することができた。
- ・年間を通して大きな行事、小さな行事が大変多く、幼児クラスはそのための製作も多い。子どもにとってどうか職員の負担はどうか、を考えて行事の取り組みを再考していく必要がある。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年4回

食事年間目標

- 1.食べ物の大切さ、食事の楽しさ、感謝する気持ちを伝える。
- 2.クッキングを通して作る事の楽しさを知る。
- 3.食育を通じて「食」に興味を持つ。

栄養管理 評価・課題

- ・子どもと一緒に食事をする中で、食べることの楽しさやマナーを伝え、日々の食事のありかたが食育につながっていることを感じ、大切にしてきた。
- ・食物アレルギー児に対しては、4月早々におおきな誤食事故があり、そのことの反省をふまえてチェックリストとなるフローチャートを作成した。保育士と密に連絡をとり、誤食が起きないように常に意識を持ち注意を払うことができた。
- ・引き続き、放射能による内部被曝のリスクを減らすため、食材を検査済みのものや、産地

を限定し安心できるものを選んだ。

カ 安全管理

救急救命講座 AEDの使い方講習会 2月21日（職員対象）

非常災害時の避難訓練 毎月一回

引き渡し訓練の実施（9月3日） 緊急時・災害時カードの導入 緊急メールの活用
危機管理マニュアルの整備

安全管理 評価・課題

- ・大小あわせて多くの地震が発生した。放射能への対応としては、シンチレーションカウンターを購入し、園庭や屋上の空間線量を計ったり、幼児が育てた食材も計り安全性を確認した。
- ・簡単メールは、登録者は99%になる。保護者との速やかな連絡を緊急時のみでなく、感染症や行事のお知らせなど頻繁に活用してきた。
- ・日本全体が余震や地震が群発してきている。首都直下型を想定して具体的で現実的な避難マニュアルとともに、BCP計画を作成していくことが課題である。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	1名
副主任	1名
保育士	16名
調理員	2名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	2名（非常勤医師・歯科医師）
嘱託職員	1名
非常勤職員、パート職員	18名

イ 健康管理

健康診断 年 2回（5月11日・9月以降 寿康会健診センターにて個々に健診）
細菌検査 年 12回（職員全員）

ウ 職員会議

定例会 毎月1回 乳児・幼児カリキュラム会 毎月1回
行事前打合せ会（随時）
期別反省会（年3回） 年度末会議6回

会議 評価・課題

- ・会議の持ち方を工夫してきた。話し合いに集中できるようホールの机とパイプ椅子を使い、全員の顔がよく見渡せるような形にしてきた。
- ・行事等の進め方（ファミリーデーなど）については事前準備委員を設置し、打ち合わせを多くしたので、以前より早く進めることが出来た。
- ・子どもへの理解については、じっくり話し合い、共通認識を持つ為の会議を例年より多く取り入れることができた。

エ 研修計画

- ・園内研修 年5回
- ・法人内研修 階層別・職種別研修
- ・私保連カウンセリング研修 4名参加
- ・厚労省・江東区保育課・全国保育協議会・東京都社会福祉協議会・全国私保連東京民保協などによる研修

研修 評価・課題

- ・自主研修を奨励して費用援助を今年は多くしてきたので、指定された研修の他に職員が自分で選んで、年齢別保育の連続講座等に参加する職員が増えた。進んで取り組んだので現場の保育に活かされた。
- ・園内研修はアレルギー児への対応として、除去食のフローチャート（チェック項目）を作成したり、エピペンの講習を行った。
- ・保育カウンセリング研修は引き続き、保護者面談や相談の多いリーダークラスの保育士を参加させて。

オ 退職・福利厚生

- ・独立行政法人福祉医療機構 退職共済制度加入
- ・東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- ・株式会社JTBベネフィット えらべる倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

- ・事務専任職員を週3日で雇用した。一時保育のパソコン入力や主任の事務の補助などを担った。
- ・年度末は管理職交代で引き継ぎや残務処理に管理職が追われてしまった。会計関係や運営費の計算など、事務仕事の内容を整理して事務職員の日常業務にしていく必要がある。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

・

イ 設備の点検・修繕

- ・転倒防止器具
- ・収納家具修繕
- ・LEDスポット照明
- ・園内消毒、害虫駆除

設備関係 評価・課題

- ・年度早々に布団棚の修繕をして、幼児クラスの布団を大きくして来たので扉の故障がへった。
- ・また、地震対策として転倒防止の器具を設置する工事を行い、幼児のロッカーやピアノを固定した。
- ・園庭は雨が降る度に土や砂が流れてしまい凹凸が増えて来ている。次年度は予算を組んで、大規模な園庭整備を行っていかねばならないと考えている。
- ・屋上の芝生がだいぶはがれ、風の強いときは砂が舞い散る。近隣からの苦情もあり部分的に撤去するか芝生を再度植え直す必要がある。

(3) 備品関係

ア 備品購入

- ・シンチレーションカウンター
- ・洗濯機
- ・蚊取り器
- ・トランシーバー
- ・パイプ椅子
- ・加湿器

イ 保育用品購入

- ・新年度準備用品
- ・各クラス遊具
- ・コーナー j i b パネル、ポール

ウ 給食用品購入

- ・ 新年食器類の補充
- ・ オープンレンジ

エ 固定資産物品購入

- ・ 取得無し

オ 保健関係用品

- ・ 呼吸器モニターレンタル

備品関係 評価・課題

- ・ 年度の終わりにドアフォンの取り替え工事をした。乳児クラスの子機の故障がなくなり解除もしやすくなったが、外線と内線の音が同じでやや使い方が煩わしくなる。
- ・ 各クラスの保育室の環境設定では小さな遊具を揃えたり、手作り遊具を作るなど工夫して出費を抑えた。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月 1 回

避難降園訓練（引き渡し訓練）9 月 4 日

イ 防災設備の点検委託

年 2 回（内、届け出 1 回）

ウ 非常食糧の備蓄

- ・ スーパー保存水 4 ケース・アルファ米 5 K× 4 箱・炊き出しセット五目御飯 5 k× 2 箱
豚汁 30 人分× 3 缶・白粥 4 0 g× 2 4 袋・保存用ビスコ 4 箱
非常用備蓄おやつ 7 袋× 7 個 その他使い捨て容器（お椀・皿・スプーンなど）
防災用品の購入

災害対策 評価・課題

- ・ 毎年の施設強化推進費補助金（1 5 万円）を利用して、クラス内の家具の転倒防止器具を設置することができた。
- ・ 非常時備蓄食料も、9 月には幼児クラスで非常食を食べる日を決め、買い換えを進めた。
- ・ 空間放射線量や食材の線量を計ることができる、シンチレーションカウンターを購入して必要なときに計測し安全を確認した。

3 地域社会との連携

- ・ コーラスともしび（中高齢者コーラス活動）との交流、園行事の参加
- ・ 東陽・大島・深川北・南砂子ども家庭支援センターとの連携
- ・ 近隣の中高生の保育ボランティアの受け入れ（延べ 126 名）

地域社会との連携 評価・課題

- ・コーラスともしびのメンバーは講師の先生や会員の高齢化もすすみ、今年度をもって解散することになった。今までのお礼にピアノカバーや楽譜たてなどの記念品を頂いた。
- ・第五砂町小学校との5・5交流は、3年目となり定着してきた。学校探検や学校給食と一緒に食べるなど、積極的な学校との交流をすることができた。
- ・また、地域の保・幼・小・中学校の交流も年に2回行われ、今まで余り交流のなかった私立幼稚園や公立保育園の情報なども得ることが出来た。

4 その他

- ・利用者に対するアンケート調査を実施した。

社会福祉法人 雲柱社 神愛保育園 2012（平成24）年度 事業報告

記入者 鶴澤 由記子

- 建物の改築について、江東区内の施設長に集ってもらい、地域のニーズやいろいろなアイデアを集めたいと願い、何度か話し合いをした。理事長にも出席してもらい、法人としての動きを持っていくことになった頃から法人としての改築に向けての動きが加速した。江東区とも話し合いを進め、法人としてマスタープラン委員会を立ち上げ、江東区の待機児対策に貢献できるか話し合いを始めたところである。建物としては41年が経ち、コンクリート造りではあるものの改築は必須となっている。
- 子育て支援は節目の20年目を迎えた。発行しているたんぼ通信も100号となり、記念号を発行し、初めの頃の思いに立ち返る機会となった。スタッフは途中から産休に入ったが、経験者が産休代替として入ってくれたこともあり、いつもと変わらぬ事業を続けられたことは良かった。パートスタッフの力がしっかりあったこと、利用している母親たちの力の大きさなど十分に評価されてよいと思う。
- 子どもの育ちを長い目で見ていこうとしている卒園児支援プログラム。特に大きな行事である「卒園児キャンプ」は神奈川県「このまさわキャンプ場」に場所を移し、初めての会となった。多くの人の助けがあったことはもちろんだが、混乱もなくいつもと同じようにできたキャンプであった。これも長く続けてきている大きな力と言えるだろう。もうひとつの柱の卒園児支援プログラム「あそび道場」も地域に浸透してきており、卒園児のみならず、その友達の地域の子が増えてきているのはうれしい。小学生にとっての“もう一つの居場所”としての位置付けをしっかりと意識し、職員全体でこれからも取り組んでいきたい。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児のスポット受入れ）
- ・ 障がい児保育事業実施（今年度は在籍2名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年6回実施
- ・ お年寄りとの交流 年10回実施

- ・小学生との交流 年15回実施
- ・小中高生の育児体験受入れ 年12日間受入れ
- ・育児相談 随時実施
- ・保育所体験 年10回・20人受入れ実施
- ・出前保育（あおぞらひろば） 年11回実施
- ・プレママプログラム 年9回 40人受け入れ
- ・子育てサークル支援 年30回実施
- ・子育て情報誌の発行 年5回発行

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障がい児数	備考
つくし	0歳	3	9	0	
たんぽぽ	1歳	2	10	0	
もも	2歳	2	14	0	
ちゅうりっぷ	3歳	1	15	0	
ひまわり	4歳	1	16	1	
ひまわり	5歳	1	15	0	
子育て広場	その他	1			
合 計		11	79	1	

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 293 日
24	24	26	25	27	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	24	23	23	23	25	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月

幼児 年2回（5月、10月）

歯科検診 年2回（6月、10月）

蟻虫卵検査 年2回（6月、10月）

エ 保 育

各組の保育目標

ひまわり組（5歳児）の年間目標

- ・ 様々な活動に取り組み、仲間認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ・ しなやかな体で、のびのびと自分の体を動かして遊ぶ。
- ・ 人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手、あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・ 友だちと同じ目的に向かって活動するようになり、自分のやらなければならないことや、必要性がわかってくる。
- ・ 異年齢や様々な子ども達とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようになる。
- ・ 友だちと共通のイメージを持って、自分たちの遊びをより楽しいものにしていく。
- ・ 自分の持つ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり、感じたことや思ったこと、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

今年度は担任が体調不良であり休みがちになったこともあり、フリーの保育士にクラスに入ってもらっての運営となった。行事等に向けて準備することが多いひまわり組だが、何とか協力してやってきた。子どもたちは、ひとつひとつの行事を体験するごとに自信をつけて、生き生きと活動していた。子どもの優しさや力を見せてもらったと思う。

ひまわり組（4歳児）の年間目標

- ・ 友だちとの楽しい経験を重ねることで、自分の気持ちに気づき、行動しようとする。
- ・ 意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・ 人の話を聞いたり、自分の思っていることを話したりして、言葉で伝え合う楽しさを味わう。
- ・ 友達と遊ぶことの喜びや楽しさをお互いに感じ、一緒に遊ぶ中他の子ども達の考えも受け入れようとする。
- ・ 異年齢の子どもにも関心をもち、かかわりを広める。
- ・ 遊びの中から想像力が豊かになり、それを表現する。
- ・ 自然の身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心を深め、その事を表現しようとする。

年間目標 評価・課題

4・5歳児混合クラスの4歳児。今年度は担任が初めての幼児でなかなか見通しを持たず、クラスの中で活動が滞ってしまいがちになることもあったが、まわりの職員と協力して進めてきた。子どもたちは、年長と一緒に様々な活動に取り組み、お話を聞く、伝える、友達と遊ぶ楽しさを共有する等、成長を見ることが出来た。

ちゅうりっぷ組（3歳児）の年間目標

- ・ 生活が自立してくることで自信を持ち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ・ 色々な遊びをとして、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・ 自分の思ったことや感じたことを言葉に表現し、保育者や友達と言葉を楽しんで使う。
- ・ 気の合う仲間と一緒に遊ぶことを楽しむ。
- ・ 友だちの事がわかるようになり、助けてあげたり手伝ってあげるようになる。
- ・ 体験したことをもとに色々なことを発想してごっこを作っていく。
- ・ 自然の中で身近な動植物に触れあいたくさん遊ぶ。

年間目標 評価・課題

昨年と同じ担任となったが、今年も年間を通して食育や表現活動を計画的に進め実践してきた。子どもたちと一緒に楽しみながら、担任間で話し合い、共有しながら進めていくことができた。配慮が必要な子どもも複数いて悩みも多かったが、抱え込まず保育者同士や保健所、子ども家庭支援センター等へ相談しながらやってこられたことは良かったと思う。保護者への対応では、伝え方等課題も残るが、子どもたちの成長は保育者をも成長させることになった。

もも組（2歳児）の年間目標

- ・ たくさんの自己主張や思いの表出を保育者に受けとめてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちをきりかえられるようになる。
- ・ 体を動かすことが楽しくなり、体をいっぱい動かしてあそぶ。
- ・ 保育者に助けてもらうことで、自分の気持ちを言葉で伝えようとし、思いがぶつかった時も、“どうしようかな”と少しずつ考えようとする。
- ・ 他の子ども達と遊ぶことが楽しくなり、一緒に遊びたいと思う仲間ができてくる。
- ・ 保育者や周りのことに興味を持ち、みたて・ふり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。
- ・ 自然物や生き物を身近に感じ、喜んで触れ合う。

年間目標 評価・課題

子どもたちが自分の気持ちを十分に表し受け止めてもらうことを、一つ一つ担任間で確認しながら、またこんな時はどうしたらいいのか話し合いながら連携を取って進めてきた。その中で保育者も子どもの思いを受けとめることを学び共有している。活動としては乳児ながら食育を意識した取組を積極的に行っており、子ども達の喜びともなっていた。夏野菜のみならず冬野菜の栽培にもチャレンジし、給食室と連携をとりながら様々な調理活動にも取り組んだ。

たんぼぼ組（1歳児）の年間目標

- ・ 「ジブンノ」「ジブンガ」の主張に見られるような自我が芽生え、その表出を保育者に受けとめてもらうことにより、安心して自分の思いを出す。
- ・ 歩くことを喜び、体が動くことを楽しむようになる。また、手指など自分の体をつかって、探索活動を十分に楽しむ。
- ・ 保育者と子どものゆったりした信頼関係の中で、ことばやしぐさで自分の思いを伝える。そして、その中で覚えた言葉を使うことを楽しむようになる。
- ・ 安心できる保育者に見守られる中で、他の子どもにも関心を持ち関わろうとする。
- ・ 身近な保育者の様子を真似しながら、みたて・ふり遊びを楽しむ。
- ・ 身近な自然とのふれあいを十分体験する。また、小動物に対する興味や関心が育つ。

年間目標 評価・課題

近隣に認証保育所が増えて、近くの公園がいっぱいになることが度々ある。公園のはしごをしなくてはならなかったりする状況も生まれてきているが、それでも積極的に戸外に出かけ、たくさんの散歩を楽しんだ。保育者同士の連携のまずさから苦情が来たこともあったが、その後は改善し対応している。子どもたちは十分に自分を表出し、色々な遊びを楽しむことが出来たと思う。

つくし組（0歳児）の年間目標

- ・ 一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。また、一人ひと

りの生活リズムを大切に、食欲、睡眠、排泄などの生理欲求をもたし、生活の安定を図る。

- ・ 大好きな人や欲しいものに興味を示し、自分から近づいていこうと姿勢を変えたり、移動するなど体を十分に動かす。
- ・ 寝返り、おすわり、はいはい、伝い歩き、歩くなどそれぞれの状態にあった遊びを楽しむ。
- ・ 聞く、見る、握る、つまむ、たたく、ひっぱる、しゃぶるなどの遊びを楽しむ。
- ・ 嬉しい、悲しいなどの感情が育ち、泣く、笑う、表情、しぐさ、喃語、片言などでじぶんの気持ちを表す。
- ・ 保育者が歌う唄を喜んで聞いたり、手足や体を動かして楽しむ。また、保育者の動作を見て、まねをする喜びを味わう。
- ・ 身近な自然とのふれあいを十分に体験する。

年間目標 評価・課題

生活リズムがとても大切な0歳児。今年は特に月齢が低く、生活を組み立てるのにも工夫が必要だったが、リーダーを中心に看護師、給食室とも連携を取りながら進めてきた。新入職員もいたが、教える方、教えて貰う方、双方とも忍耐強く取り組めたと思う。子どもたちは、今年の2月でやっと全員1才になり、みんなが歩けるようになって1歳児に進級することとなった。色々な経験から感情、表情も豊かになってきた。

2012年度実施行事

- 4月 2日 入園式
- 6月19日 こどもの日、花の日
- 6月 8日 親子遠足
- 7月 3日 プール開き
- 7月19日～21日 4・5歳児キャンプ
- 8月 3日～ 5日 卒園児キャンプ
- 9月14日 おじいちゃん、おばあちゃんと親しむ会
- 10月13日 運動会
- 10月25日 いもほり遠足（3～5歳児）
- 10月30日 収穫感謝礼拝
- 11月11日 神愛まつり
- 12月15日 クリスマス会
- 1月 9日 餅つき
- 2月16日～22日 作品展示
- 3月16日 卒園式
- 3月21日 お別れ会
- 月例行事 誕生会・隔月で園外保育

年間行事 評価・課題

年間行事については、ねらい、内容、改善点等を洗い出し、確認しての実践となった。手作りの温かさを大切にしながら、乳児にとって、幼児にとってという視点を忘れず、子ども達それぞれの年齢にふさわしい楽しい経験としていきたい。変えたところも多かったのですが、行事後に保護者のアンケートを取りながら進めてきたが、良かったという意見と並行して今までの良さがきえて残念という意見もあった。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

年間を通して、季節の素材を積極的に取り入れた献立をたてること、安心・安全な食材を使用していくことは、園としての大事な考え方である。長く続けている栄養士は、「食の保育士」の意識も高く、多少の大変さはあってもクラスとの連携を取りながら食育をすすめてきた。

またアレルギー児への取り組みも、江東区のアレルギーマニュアルにのっとり、丁寧に進めてきた。このことは、特に幼児の保護者にはしっかりと見えており、昨年、今年と続けて卒園を祝う会で、給食の担当職員に特別なお礼の言葉があったことがそのことを証している。また、放射能に関する情報提供も続けており、日々の食材の産地表示を励行し、仕入れ業者（生協）の人を招いて保護者と一緒に勉強会を開催した。

カ 安全管理

交通安全教育（11月14日）

非常災害時の避難訓練 毎月

引き渡し訓練の実施（9月1日）

安全管理 評価・課題

避難訓練は子どもたちの中に浸透してきており、上手に避難できるようになっている。課題として非常滑り台の使い勝手の悪さがあり、どうしていくか未だ答えは出ていない。大きな地震・津波を想定した訓練も年2回行い、屋上に避難する訓練も行った。引取り訓練は、第2次避難場所を「深川小学校」に変更したことから、深川小学校の校庭をお借りし、深川小学校と同日に、時間だけずらして行った。初めてのことであったので、幾つかの反省はあったがその反省を活かしながら今後も続けていく。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園 長	1 名
主任保育士	1 名
保 育 士	11 名
調 理 員	3 名（栄養士含む）

看護師	1名
嘱託医	1名（非常勤）
嘱託歯科医	1名（非常勤）
臨時職員、パート職員	16名

イ 健康管理

健康診断 年 1回（9月～11月）
 細菌検査 年 2回（5月、10月）
 給食、0歳児調乳担当のみ毎月1回

ウ 職員会議

定例会 毎月 2回
 行事前打合せ会（随時）
 期別反省会（年 2回）

会議 評価・課題

今年では会議の時間を30分短くし、いかにその中で最も必要なことを話し合うかを念頭に進めてきた。会議の中で最も語り合わなければならないのは、やはり子どものこと、保護者のこと。議題の組み立てを変え子どもの姿を中心に話し合う月案検討の時間を最優先にした。それから行事についても、変えたところが結構あったので、そこの振り返りを中心とした内容だった。時間内に終わる課題として、司会の進め方もさることながら、職員みんながその意識を持つことが必要だろう。昨年はSDSシートを期別反省会で取り上げたが、職員から本音を書けないという声が上がっており、管理職のみが見ることとした。

エ 研修計画

- ・園内研修（年5回）
- ・法人内研修
- ・キリスト保育連盟研修
- ・子どもの文化学校研修（保育内容関係）
- ・東社協保育士会研修（保育内容関係）
- ・行政主導の研修（東京都主催、保健関係）
- ・江東区私立園長会研修・公私立園長会研修

研修 評価・課題

外部の研修は近場に出かけることが多かったが、職員が自分で学びたいと思うところには良かったと思う。職員みんなで共有していくために、会議の冒頭に研修報告の時間を入れるようにしているが、だんだんとおざなりになってきてしまい、後半は殆ど報告の時間を取れずに過ぎてしまった。何を共有し、全体で学んでいくか取捨選択をしながら、報告の時間も大切にしたい。荒馬に関する研修はこれからも園の伝統として行っていくので研修には全額補助を行っていく。

オ 退職・福利厚生

- ・独立行政法人福祉医療機構 退職共済制度加入
- ・東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- ・株式会社 J T B ベネフィット えらべる倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成・日誌・児童票
- ・給食献立表等の作成・給食日誌
- ・健康診断記録表等の作成・保健日誌

事務関係 評価・課題

会計事務、管理事務とも研修・相談を通じ事務局の人の助けを借りながら、把握するように努めている。事務のパート職員も4年目になり、園内のことが色々分かってきて随分と助けられている。しかし、園長自身、確認しているつもりだが、慣れもあり、おろそかになっていると反省している。パソコンの台数も増やし、いつでもできる時に事務が出来るようにしたが、保育、給食の事務はまだ難しい部分が残っている。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

- ・乳児室床磨き
- ・1階保育室の床の補修
- ・ひだまりの壁紙の張り替え

設備関係 評価・課題

施設の建物自体の老朽化と設備の老朽化と双方を考えなければならない。見渡せば更新したい場所はいくらかでもある。老朽箇所を直す優先順位、改築との兼ね合いもありいつも悩まされる部分である。法人としての方針を明らかにしてもらう中で進めていきたい。

(3) 備品関係

ア 備品購入（子どもトイレ便座カバー、寒冷紗（寒さよけの布）、シュレッダー、発電機）

イ 保育用品購入（乳児用連絡帳、球根、巧技台、遊具棚）

- ウ 給食用品購入（食器、箸、炊飯器、冷蔵庫）
 - ・非常食の追加購入（パンの缶詰、お粥、混ぜご飯、水）
- エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

防災、節電に関わる備品の購入がほとんどであった。これでも十分とは言えないのだが、少しずつでも進んで来ている実感はある。（発電機など）

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（2日）分

災害対策 評価・課題

災害時の非難訓練も予定通り実施。実際に発生した時はどうなるのか課題は一層緊迫したものになっているが、話し合いながら、必要なものを揃えながら進めていくしかない。園で用意している避難靴、防災頭巾なども職員分も含め、十分なのか検討していく必要もある。現実的にはコンクリートの避難滑り台を訓練ですら使う怖さがあり、実施できない。また、今年も防災の日に、非常食を食べてみて子ども達にもその意識を持って欲しいと考えて実行した。非常食はアレルギー児用も含め、1階、3階と分散して保管することで様々な非常時に備えられる様になっている。

3 地域社会との連携

- ・花の日に近くのデイサービスホームを訪問する。
- ・江東区子ども発達センター、親子教室との連携
- ・近隣の小中学校との連携は今年から神社が運営する幼稚園にも入ってもらい、近隣の5園が協力し行うことになった。年長児の保護者対象に小学校の校長先生にお願いした講演会は、場所の確保（保育するスペースも含め）がなかなか難しかったが、今年は神社の社務所と神社に併設の保育園の保育室を貸してもらうことができ、しかも4回と回を重ねてきた効果か、参加者がグンと増えたことはとてもうれしい。その他にも保育士と教員の交流や園児と児童の交流などを積極的に進めている。また、夏の保育園体験ボランティアにも協力していただいている。反対に小・中学校の職場体験も受け入れ、相互交流となっている。
- ・また今年も教育委員会主導の「保幼小中連携」も始まり、相互（小中）の授業参観や懇談会などがあり、参加した。

- ・近隣地域の保育施設の勉強会も回数を重ね、少しずつ定着してきていると感じている。保育ママさんの参加はとても少ないが、根気よく誘っていきたい。
- ・江東区深川北子ども家庭支援センターとの共催で、センター利用者向けの看護師や栄養士との話し合いの会を年4回実施した。

地域社会との連携 評価・課題

子育て支援事業を進めていく上で、みずべとの協力関係はもちろん、保健センターとの連携も努力していく必要があると感じながら、今年もなかなか取り組むことができなかった。地域にひだまりの広報をしていくことはこの場を知ってもらうのに欠かせないので、これからも積極的に考えていきたい。

学校との連携では、小学校長の講演会や交流等の連携を幼稚園を含めた近隣5園の協力のもとに進めてこられたのはよかった。幼稚園が入った意味は大きいと思う。しかし「保幼小中」連携はどうしても学校中心になりがちなので、学校の先生に幼稚園や保育園を見てもらう機会を是非作っていきたく願う。行政主導の会を今後どう発展できるかを探っていくことが課題となりそうだ。卒園児が訪れる事もある小学校、中学校の体験学習は、より良い体験の場としての交流をこれからはかかっていきたい。そして、夏休みに行っている卒園児を中心とした地域の小、中学生のボランティア体験は、とても良い経験になっているので、これからも大切に続けていきたい。

4 その他

- ・利用者に対するアンケート調査を実施した。

社会福祉法人 雲柱社 光の園保育学校（平成24）年度 事業報告

記入者 三幣 典子

- 本園：墨田区東駒形 4-6-2 保育対象：1歳児から5歳児
外手分園：墨田区本所 2-1-16 保育対象：0歳児
ぶどうの木保育室：墨田区東駒形 4-4-1 保育対象：10か月以上3歳児未満（15名）
- 光の園保育学校は「キリストの愛により共に育ち合う」ことを保育方針としている。保育を通して、子どもだけではなく、保護者も家庭も職員も、そして地域も、キリストの愛によって共に育つことをめざしてきた。そうした中で子どもたちは「神と人から愛されていることを知り、自分や周りの人を大切にできる子ども」としての成長を願い、大切に保育していることを、新入園児説明会や入園式の時や、4月と5月の園だよりやクラス懇談会、父母の会等を通して全園児の保護者に機会あるごとに伝えてきた。
- 今年度はモラルサーベイを継続しながら、墨田地区安全衛生委員会を2カ月に1度開催してきた。墨田区内の保育園（光の園、押上）、5つの児童館、本部事務局と産業医の小玉医師と連携しながら、労働災害の防止と快適な職場環境の整備を図り、職員の安全と健康を（メンタルヘルスも含む）を学びつつ職員の入社後の健康調査表を検討しながら作成することができた。まずは保育園ブロックで実施した。
- 利用者に対するアンケート調査を行い（第三者評価及び園独自のアンケート）、全職員で保育の質の向上に繋がるよう話し合い、今年度は2月のクラス懇談会前にアンケート結果内容や園としての回答や考え方を各家庭に配布した。懇談会ではこのことを踏まえ保護者と共にいろいろなことを考え意見を伝え合い課題を共有できた。いつの時も利用者にとっての最善の利益を考え園が大切にしていることを伝えながら保育をしてきた。保育は一人で負うのではなくチームワークで行うことを確認し、管理職、保育士、看護師、調理（栄養士）、事務、サポーターがそれぞれの役割を担いながら連携していくことの大切さを学び合うことができた。今後も保護者対応や一人一人の子どもに寄り添う関係を大切にしていける保育を目指していく。
- 環境整備については、建物や備品が古くなってきているので修理、修繕に費用が多くかかっている。
今年度はピロティの天井や園庭の壁を明るくした。
- 地域との連携
 - ・ 本所賀川記念館、東駒形教会、光の園保育学校の三法人で行っている「地域連絡懇談会」が定着してきて、地域の主任児童委員、民生委員の方、小学校の校長からのお話を聞き、「地域から見えてくる地域福祉」「学校教育の現場から見えてくるもの」を学び合うことができた。
 - ・ 幼、保、小、中、連絡協議会に参加し地域の学校との連携や、気になる子どもたちの保育、生活等心理の先生を通して相談や、アドバイス、指導を定期的に受けることで、保育者にとっても良い学びの時となっている。
- 今年度は6月に本園の近くにグループ保育型家庭的保育事業「ぶどうの木保育室」を設置し、実施した。生後8か月～2歳児までの11名の子どもを受け入れ、保育者3名、補助者1名、支援者1名で運営している。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：18名）
- ・ 産休明け保育実施（43日から）
- ・ 延長保育実施（2時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障がい児保育事業実施（特児対象：2名、その他：7名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 家庭的保育をおこなうものとの連携年30回（ぶどうの木）
- ・ お年寄りとの交流 年26回実施
- ・ 退所児童との交流 年6回実施
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年11日間受入れ
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 年30回 300人受入れ実施
- ・ 外国人児童受入れ 3名受入れ在籍
- ・ 年末保育 12/29実施 14名、
- ・ 在宅支援 パートナー登録者 40名
- ・ 出前保育 年6回 1回につき約 97名 約47組
- ・ ナースリールーム 年10回 1期5回15組、2期5回15組、

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障がい児数	備考
つぼみ組	0歳	7名	18名	0名	内分園リーダー1名
もも組 さくら組	1歳	4名	24名	0名	
たんぼぼ組 すみれ組	2歳	4名	24名	0名	心室中隔欠損症：1名 結節性硬化症：1名
ちゅうりっぷ組	3歳	2名	28名	0名	心理相談：3名
ばら組	4歳	2名	28名	0名	心理相談：4名
ゆり組	5歳	2名	28名	0名	心理相談：2名
その他		2名			地域活動担当等
合計		23名	150名	0名	

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 293日
24日	24日	26日	25日	27日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	

26日	24日	23日	23日	23日	25日	
-----	-----	-----	-----	-----	-----	--

ウ 健康管理

健康診断

乳児	毎月	1回
幼児	年2回	(5月、10月)
歯科検診	年2回	(5月、10月)
蟯虫卵検査	年2回	(6月、11月)

エ 保 育

各組の保育目標

ゆり組（5歳児）の年間目標

- ・さまざまな活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ・さまざまな遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しみ、新しい体験にチャレンジする。
- ・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自立の態度を身につけ、理解して行動する。
- ・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
- ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
- ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・自分のもつ好奇心や知的探究心を発揮することにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

昨年度より取り入れた「帰りの集まり」を引き続き行い、翌日への期待を持ち一日の振り返りをした。これにより、見通しを持って生活ができていた。また、就学に向け「日直活動」を取り入れ、見通しを持って行動できる足がかりにしていくことができた。その中で子どもたち同士で意見を出し合い、クラスをより良くするために話し合いも多く持つことができた。お泊り保育やファミリーデー、クリスマスページェント等の行事を通し、一人ひとりが自己発揮すると共に、友だちと認め合いながら生活していく中でクラスとしてのまとまりができてきた。異年齢児との関わりでは、興味を持ち、様々なことをお世話と一緒に遊ぶことを、楽しむことができより関係が深まっている姿が見られた。また日中の活動に少人数が小さいクラスに参加し、食事、午睡の手伝いをする機会を持つことができ互いが楽しい交わりの時を経験することができた。表現活動では廃材を利用しイメージしたものを形に表す力も育ってきた。

ばら組（4歳児）の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ・友達と遊ぶ喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
- ・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ・自然や身近な事がらに触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標 評価・課題

戸外遊びを通して体を動かし、自然への探求の場を多く持つことで、子どもたちの自然への興味が広がり、散歩での虫探し等を楽しむ姿が見られるようになった。また友だちと一緒に、ルールのある遊びをすることで楽しさやおもしろさを互いに共有しながら展開していく姿が見られるようになった。遊びや生活を通して、自分と相手の思いの違いがわかり言い合う姿もみられたが、それぞれに自分の言葉で相手に伝えようと工夫している姿も段々と増えてきている。職員はそれを傍で丁寧に見守り互いの思いが伝え合えるようにしていくことが大切である。女兒には友だち同士の話を聞いたり、仲立ちしようと仲裁に入る姿も見られコミュニケーション力を発揮する姿も見られる。5歳児クラスとの関わりは年間を通して、多く持ってきた。ペアを組んだり、4、5歳混合グループ（ゆばりら）でコーナー遊びを楽しんだり、一緒に食事をしたりする中で年長児に対しての憧れも育ってきている。乳児との関わりでは1階テラスでの関わりができたが、今後計画的に機会を作っていくことも考えていきたい。

ちゅうりっぷ組（3歳児）の年間目標

- ・生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ・外遊びを十分するなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。
- ・食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ・様々なものを見たり触れたりして、面白さ、美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

年間目標 評価・課題

2歳児クラスから3歳児クラスになると、12人のクラスから、28人の大きい集団のクラスになるので、一年間を通して2グループの小さい集団で生活することを大切にしてきた。少人数で友だちや保育者とじっくり関わったり遊ぶことで子どもが満たされて安心して生活できるように配慮した。遊びの中に筋力、体力、手先、指先反射能力を鍛えられる動きや玩具を用意していったことで大きな怪我の防止にもなった。また玩具の入れ替えも期ごとに行っていき、子どもたちが常に遊びたいものがあり、遊びたい欲求を満たしていくことができた。トラブルやそれぞれの思いが伝わらない時、子どもたち同士で話しあおうとしている時には見守っていき、相手の思いを聞いたり自分の思いを相手に伝えられるようにしていくことができて良かった。

たんぽぽ組 すみれ組（2歳児）の年間目標

- ・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せると共に、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ・身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ・大人やまわりのことに興味をもち、みため、つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標 評価・課題

生活面では前期は月齢差、個人差が大きいので個別に関わることを大切にし、後期は自分で出来た達成感を味わい自信につながるような援助をしてきた。担任同士、時にはクラス

を超えて、協力し合い保育者と子どもと一対一の時間を作り個別対応ができるようにした。戸外では忍者ごっこなどで積極的に体を動かせるようにし、室内でもリズムあそびやリトミックなどで楽しく体が動かせるようにした。職員は、関わりの中で子どもたちの葛藤を見守り、時には思いを言葉で代弁したりしながら、待つことを大切にしてきた。ままごとやブロックあそびなど子どものイメージが広がるよう援助してきた。また、植え込みなどに配慮しながら戸外遊びを積極的に行い、自然物に触れたり、季節の移り変わりに気付けるように豊かな時を大切にしてきた。

もも組 さくら組（1歳児）の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

年間目標 評価・課題

どんな場面においても、子どもたちの自我の芽生えによる自己主張をまずは受けとめることを心がけた。培った保育者との信頼関係が根底にあるので、子どもたちはありのままのじぶんを表現するようになっていった。時に起こる玩具の取り合いなどのトラブルにおいては保育者が仲立ちをしてお互いの気持ちを言葉で代弁することで、徐々に自分の言葉で相手に伝える姿が見られた。年間を通して戸外へ出かけることを保育者も共に楽しみ、季節、気温に応じた戸外での過ごし方を工夫することで生活のリズムも整っていったように思われる。散歩先では子どものつぶやき、発見に共感しそれを皆で共有していくことができた。

つぼみ組（0歳児）の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行なう。
- ・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
- ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
- ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品になれ幼児食への移行を図る。
- ・優しく語りかけたり、発声や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
- ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

ゆるやかな担当制をとることで子ども一人ひとりの甘えや欲求を細やかに受け止め発達を促すことができた。一人ひとりを受け止めるということはどういうことなのかを具体的に出し合い、まずは、肯定的な言葉がけについて話し合いをおこない実践した。冷凍母乳も保護者のニーズに応え今年も対応していただくことができた。低月齢、高月齢に分かれているが、18

名の子どもたちを全員で見守るように心がけてきた。できるだけ戸外に出て自然を感じたり、外手児童館に遊びに行き地域の方々との関わり持つように配慮した。又、0歳児の地域交流を広めるなど地域との関わりを心がけた。一人ひとりの発達に応じて玩具、絵本などの入れ替えをし、自ら興味を持って動きだしたくなるように環境を整えてくることができた。食事に関しては栄養士と担任が連携し合い食材の形態など、個々に合わせて離乳食を進めることができた。また、アレルギー対応についても看護師のアドバイスをもらい、細やかな対応ができた。今後も子どもと関わる全ての職員が「一人ひとりを大切にする」保育を全員で行えるように見直しを行い、振り返り保育を行っていく。

2012年度実施行事

4月	1日	入園式	3日～9日	家庭訪問	9日	イースター礼拝
5月	18日	幼児親子遠足（4、5歳児）				
6月	9日	だんご虫広場（1年生の会）	11日	子どもの日花の日		
	29日	プール開き				
7月	12～13日	お泊り保育（年長）		20～21日	お泊り保育（年中）	
9月	3日	引き渡し訓練	6日	創立記念日	14日	祖父母招待会
10月	13日	ファミリーデー	19日	芋ほり遠足（5歳児、4歳児）		
	26日	3歳児親子遠足				
11月	3日	バザー	24日	収穫感謝祭	25日	料理パーティー
12月	15日	クリスマス礼拝（ページェント）、卒園児クリスマス				
	27日	6年生の会				
2月	22日	お別れ食事会（ホワイトリリー）				
3月	16日	卒園式	19日	年長親子お別れ遠足	28日	進級式
月例行事		誕生会		身体計測		

年間行事 評価・課題

今年度は親の要望もあり親子遠足の見直しをして4、5歳児親子遠足と3歳児親子遠足、年長の親子お別れ遠足の3回に分けて実施した。保育園時代だからこそできる親子の行事が良い思い出となるように企画実行していくことができた。

他の行事に関しては、楽しく無理なく行うことができたと思う。特にファミリーデーは天気に恵まれ、外手小学校の校庭で行うことができたことは非常に良かった。クリスマス礼拝、ページェントのビデオ撮影を遠慮していただき、保護者には、ご自分の目で見、心にとどめておけるように、子どもたちに集中して参加できたことは、子どもと同じ気持ちになれて大変良かった。保育参加、保育参観については、期間中に出来ない保護者には、都合のよい日に参加していただき満足してもらえた。子どもたちの成長発達に即して行事を実施できたことは子どもの自信にもつながり良かった。

オ 栄養管理

- ・ 集団給食施設栄養報告 年4回
- ・ 栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
- ・ 季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
- ・ 給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

- ・ アレルギー児の代替え食対応が増えているので、個人献立表を作成し毎週行っているカリキュラム会議でも確認し合ったり、調理室内での朝のミーティングを密にして間違いがないようにしてきた。
- ・ 調理と保育との連絡を密におこなった結果、間違い無く、アレルギー専用の食器やトレーを使

用し、名前カードをつけ、誤食がないように配慮し、それぞれの子どもに正しく提供した。

- ・食育やクッキング保育は年間カリキュラムをたて調理と保育とが連携し、見通しを持って進めることができた。今年度も子どもたちに好評だったのは一匹丸ごと、さんまを焼いて食べたこと。食育という視点からも良い経験となった。区の意向として、ノロウイルスのため12月から3月までクッキング保育が中止になったため餅つきも中止になった。
- ・今年度は区を通して食材の放射線量の測定を月1回ずつ1日の昼食、おやつの献立分を実施したが、全て不検出だった。

カ 安全管理

- ・交通安全教育（2月14日） その他、随時各クラス散歩の度に行なっている。
- ・非常災害時の避難訓練（9月3日）
- ・引き渡し訓練の実施（9月3日）
- ・防犯訓練（6月15日）

安全管理 評価・課題

- ・防犯訓練
マニュアルに基づいて定期的に「さすまた」やセキュリティの点検をする。
今年はピロティで幼児クラスの子どもたち対象に警察の方に来ていただいて行う。子どもたちにわかりやすく話をしてくださり「いかのおすし（知らない人についていかない、知らない人の車に乗らない、大声を出す、すぐ逃げる、何かあったらすぐ知らせる）」「さすまたの使い方の実演」「防犯に関する映画」を見て学ぶことができた。
- ・交通安全
4、5歳児対象に交通ルールを警察の方が腹話術や映像を見せてくださり、分かりやすく学ぶことができ良かった。
- ・引き渡し訓練
消防署員立ち合いのもと、区の要綱に沿って実施する。本園では昨年の反省から乳児クラスはピロティに集合した後、各クラスで保護者のお迎えを待って引き渡し訓練を行い、幼児クラスはそのままピロティで引き渡し訓練をしたことで混雑することなく、スムーズに実施することができた。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	1名
保育士	23名（内 育児休暇中1名、）
栄養士	3名（内 育児休暇中1名）
看護師	1名
嘱託	保育士2名 調理1名
嘱託医	2名（非常勤内科医師、歯科医師）
産業医	1名
非正規職員、パート職員	28名（調理員4名含む）
講師	4名

イ 健康管理

- ・健康診断 年1回

- ・細菌検査 年6回
- 給食、0歳児調乳担当のみ毎月1回

ウ 職員会議

- ・定例会 毎月 1回
- ・行事前打合せ会（随時）
- ・0歳児、乳児、幼児、食事等各カリキュラム会議(月1回)
- ・期別反省会（年3回）

会議 評価・課題

会議の内容について主任、リーダー会で協議、検討していくことで会議内容を共有し把握することができた。月1回の職員礼拝では牧師に「主の祈り」について学び、意味を知り祈りをささげることができた。会議の内容について各自事前に資料を読み、会議の中で自分の言葉で発言できるように司会者は傾聴を心がけ、思いを受け止めながら会議を進行することができた。次年度は3年目以上の職員が司会を担い、ファシリテーターとしてスキルアップできるように年間役割を分担していく。幼児、乳児、0歳児のカリキュラム会議では検討事項、課題、報告等ポイントをしぼり要領よく話し合うことができた。0歳児カリキュラム会議は前半は夕方からの会議時間としたが後半は午睡時間に会議の時間を設定することができた。次年度も継続していく。

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修 年7回
- ・法人内研修 ・保育ブロック研修
- ・保育団体の研修 全国私立保育連盟研修参加
墨田区保育協会主催の研修（年4回）約2万円
東社協の研修

研修 評価・課題

園内研修がスキルアップにつながるように、今学ぶべきことをリアルタイムでグループに分かれて学び合った。看護師による救急法や嘔吐などの応急手当てを学ぶことで、具体的に保育の中で使える内容を学んだ。また、自己研修のテーマを考え一年間かけて学んだことを園内研修でそれぞれがまとめ、グループごとに発表し、分かち合うことができたことは大変良かった。（環境チェック、救急法、発達障害と児童虐待等）また、区、私立保育園協会で開催している上尾市の事故「死を招いた保育」の研修にも職員の参加が多く、再度各自で本を購入し読み、今の自分の立場でどのように感じ、そうならないためには何をどのように日々の園生活の中で実践したらよいかなどをレポートし、提出することで大きな学びになった。危機管理研修も看護師により具体的に実技研修することでスキルが身についてきた。

オ 退職・福利厚生

- ・独立行政法人福祉医療機構 退職共済制度加入
- ・東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- ・株式会社JTBベネフィット えらべる倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務 ・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・ 保育指導計画等の作成
- ・ 給食献立表等の作成
- ・ 健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

- ・ 園長、主任、事務員での職務分担を話し合い実践を重ねることで、事務作業に追われながらも対応できるようになってきている。
- ・ 職員の事務作業に関して、PC 対応が必要なものが増えてきているので、安全でスムーズにいくように配慮して設置した。DVD なども含めて必要機種などを購入し、保守点検やメンテナンスを充実してきた。今年度は保守やメンテナンスを大塚商会からリコーに代え新事務室から直接事務室へ印刷、コピーができるように工事した事で、利便性が高まった。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

- ・ 保育室サッシのカギ取り換えと修理
- ・ 調理室部品取り付け
- ・ 1歳児テラス出入り口クッションマット取り付け（2か所）
- ・ ピロティや園庭の塗装をした。

設備関係 評価・課題

- ・ 園舎が老朽化しているため修理、補修が常に必要となっている。今年度は1歳児テラスの柵で怪我が2回発生したので、安全のためクッションマットを設置した。ピロティの天井や園庭の壁の塗装をし、明るい環境で子どもたちが遊んでいる姿が見られる。課題として保育室の出入り口がきしんでいる箇所が多く、対策を検討する。

(3) 備品関係

ア 保育用品購入

- ・ 各クラス用遊具

イ 給食用品購入

- ・ 食器、器具など

ウ 固定資産物品購入 なし

備品関係 評価・課題

職員の仕事の合理化のために IT 環境を整えることにした。また子どもたちの生活や遊びの環境を保証し整備することの大切さから遊具を整え、安全で楽しく過ごせるように、常に安全チェック表をつけ、不備がないように全員で確認し、共有していくことにした。また、延長時間の間、好きな遊びが一人ひとりでき、安心して落ち着いて過ごせるような玩具を整えてきた。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×3日分と水を備蓄

災害対策 評価・課題

備蓄している物の賞味期限を定期的に点検する。それとともに期限前に順次消化していき、そのたびに補充している。

防犯訓練を今年は1回行なったが、建物の構造上、誰でも出入りが出来るので、ピロティへの鍵や2階のセキュリティドアを時間により施錠するようにした。保護者の方にも協力していただき、現在は暗証番号で出入りをしている（分園と本園2階）。また、地震も発生しているので、その都度園内放送でTVからの情報を伝え、子どもの安全を第一に守り園生活を過ごした一年間であった。

墨田区より地震津波警報機をいただき、本園、分園に設置している。

3 地域社会との連携

- ・東駒形教会、賀川記念館との連携及び法人地域関係機関との連携。
- ・墨田福祉保健センター「みつばち園」「横川小学校」「本所中学校」とのネットワークを強めていくことができた。
- ・来年度以降、子育て支援総合センターとの連携を必要に応じておこなっていく。

地域社会との連携 評価・課題

- ・本所賀川記念館内の三法人で連携しながら館設備のことや事業内容等について月1回報告、検討し合っている。行事関係や子どもや職員の礼拝等大きな支えとなっている。
- ・今年度は地域連絡懇談会の中で2名の地域の民生委員の方から「地域から見えてくるもの」や地域の小学校校長から「学校教育の現場から見えてくるもの」のテーマで学び合うことができた。（6月、2月）
- ・地域の横川小学校との就学前プログラム等の連携を持ち、年長組の子どもたちと小学校の子どもたちや先生と豊かな交流を持つことができた。また、賀川記念館学童クラブとの交流を通して、年長組の子どもたちも、学校、学童への認識や楽しさを感じたりしながら過ごしている姿が見られた。
- ・幼、保、小、中の連絡協議会に参加し、互いの状況や、情報の共有、相談等の連携を作り繋がりを大切にしている。
- ・これからも子どもをとりまく地域との関わりが広まり、繋がり、顔が見える関係が構築できるように関わりを作っていくことを大切にする。

4 ぶどうの木保育室

6月16日にぶどうの木保育室が開所した。10か月から2歳児の子どもたちが11名入所した。3名、3名、5名のグループになって生活する。保育者がそれぞれのグループに1めいずつ担当し5名のグループに1名補助者がつき、全体の支援士として1名がつく体制である。一つのお部屋で温かい保育が展開されている。子どもたちは好きな遊びが落ち着いてできるようにコーナーを設定し、食事や午睡をしたり散歩に出かけたり本園に遊びに来たり園の行事に参加したりしながら、園と連携しながら事業を実施している。オプションで本園で調理した給食を提供している。保護者の方からも喜ばれ、地域のニーズも高い。

5 その他

- ・災害対策委員会を設置する

園長、主任、リーダー、分園リーダー、調理リーダー、看護師をメンバーとし災害対策マニュアルの見直し、有事の時に備えることを再確認した。

- ・産業医の小玉医師と法人、光の園保育学校、押上保育園、区内の法人児童館5館で安全衛生委員会を設置し、光の園に集まり、それぞれの抱えている衛生管理上の課題を話し合い、産

業医から、情報を得、指導を受けることができたことは大変心強く、次の目標を掲げ、それに向かってプログラムを立て実行していくことができた。他施設と情報や学ぶことを共有しながら、問題意識を持ち寄れる場としている。小金井地域の安全衛生委員会とも確認し、法人職員の入職後の健康調査表を作成することができた。

- ・ 2012年6月には、近隣にグループ型家庭的保育事業として、「ぶどうの木保育室」を立ち上げ実施園として事業を開始した。
- ・ 2013年度は、次の新しいグループ型家庭的保育事業として、八広に開始される予定で、2012年度より準備を進めている。
- ・ 11月から12月にかけて第三者利用者アンケートを実施した。2月のクラス懇談会時に保護者と一緒に課題を出し合い、話し合い共有することができ、思いが繋がったので次年度も継続できたら良いと思う。

以上

社会福祉法人 雲柱社 墨田区押上保育園 2012（平成24）年度 事業報告

記入者 松長 とも子

2012年度をふりかえって

- 民営化4年目の実績を踏まえて次の受託(指定管理)の為にプレゼンテーションを行った。4年間の保育実践を通して、基本的には公立保育園の保育内容を踏襲する事によって保護者も子どもも見通しを持って生活が出来、思いの他早い段階で落ち着いた日常の保育を行うことができた。その理由は、職員の退職や異動が最小限度に抑えられたことにより保育内容の共有化や課題についても継続して検証する事が出来、保育が1年ごとに深められたとにあると思われる。
4年の実績が認められ、平成26年4月1日から平成31年3月31日までの指定管理が決まった。
今年度も職員3名が産休育休をとることになり、年度途中での資格者の採用の厳しさ知らされたが、タイミングよく産休代替職員が決まり、スムーズに引き継ぎをすることが出来た。
- 保育内容に関しては昨年同様、行事や保育内容に関しての変更は保護者からの同意を得てから行うようにしているが、今年度は特に大きな変化がなかった。概ね理解と協力を得られている。
- 今年度は区の検証として利用者アンケートを行い、年度末に園としての利用者アンケートも行った。アンケートの結果は回収率58%と低く、もっと声をかけるべきだったと反省させられた。結果内容は概ねよい回答を得られたが、安全対策上の心配として朝1時間門が開いている事や、親が参加しやすいような行事日程への配慮等の要望が出された。これらの意見を次年度に活かしていく。
- 働きやすい職場を目指し、今年度もより職員同士が理解し合えるよう、カウンセリングの手法を用いた研修プログラムを午後の時間に設定し行なった。また、会議の運営、内容を整理し、意見が偏らないように、一人一人の意見が出しやすくするために司会も職員が行なうことにした。その結果、会議での意見も多く出されるようになり、クラスを超えた連携が良くなった。また、非正規雇用の方々の不満や要望の把握に努めた。
時には仕事の指示が不適切なため、苦情につながった事もあるので、日々の連絡の仕方、保育観の共有を図る為に現場内パート研修などを計画していく。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（4時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ スポット保育事業
- ・ 障がい児保育事業実施（その他：1名）
- ・ アレルギー児に対する除去食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 退所児童との交流 年1回実施
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 外国人児童受入れ
- ・ 年末保育 12/29～12/30 実施

- ・墨田区子育て安心ステーション事業
- ・園庭開放（定時）

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障がい児数	備考
いるか組	0歳	4名	9名		
りす組	1歳	4名	14名		
うさぎ組	2歳	4名	18名		
こあら組	3歳	2名	20名		
ぱんだ組	4歳	2名	20名		
らいおん組	5歳	2名	20名		3月に1名欠員
ぺんぎん組	0～5歳まで	1名	4名定員		
合計		19名	101+4		

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 293日
24日	24日	26日	25日	27日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	24日	23日	23日	23日	25日	

ウ 健康管理

健康診断

- 乳児（0歳児） 毎月3回
- 幼児 年2回（6月、10月）
- 歯科検診 年2回（5月、2月）
- 蟯虫卵検査 年2回（6月、11月）

エ 保 育

各組の保育目標

らいおん組（5歳児）の年間目標

- ・基本的な生活習慣の自立を目指し、見通しを持っていきいきと生活する。
- ・集団の中で自己主張をし、人の立場を考えながら行動できる。
- ・集団生活や遊びを通して、協力しあう大切さを知り、仲間意識を深める。

年間目標 評価・課題

昨年は落ち着きに欠ける面のあったクラスだったが、様々な経験を通し年長児としての自覚も生まれ、お友達とも協力し合い1つの事をやり遂げることのできるクラスに育った。また今年はスカイツリーの開業に伴うイベントに年長のクラスを中心に参加したがとても楽しんでいる姿が見られた。その他にも光の園保育学校や小梅保育園との交流会、言問小学校との学校訪問などの機会を通し、たくさんの人との触れ合う体験ができた。障がいの認定は受けてはいないが、区の心理相談員のケースとして挙がっているお子さんがクラスの友だちと一緒に生活する中でお互いがわかりあえる良い関係ができた。

ぱんだ組（4歳児）の年間目標

- ・基本的な生活習慣を身につける
- ・自分の気持ちを言葉で表現し、相手の気持ちにも気づいていく
- ・集団遊びを楽しみ仲間関係を広げていく
- ・いろいろな経験をする中で、やってみようとする気持ちを持ち楽しく生活する

年間目標 評価・課題

4歳クラスと5歳クラスの保育室は、隣り同士ではないが、今年から意識的に5歳児との関わりをとっていきようにした。5歳児との関わりだけでなく他クラスへ自由に「入れて」といって入っていく姿が多くなり自然に異年齢児交流がみられた。近くのスーパーに買い物に行き、買ったお芋でクッキングができたことも大きな経験になった。

こあら組（3歳児）の年間目標

- ・基本的な生活の仕方が分かり、自分からしようとする。
- ・自分の要求や思ったことを相手に言葉で伝えられるようになる。
- ・友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知り、互いに共感できる関係を作っていく。
- ・手指や身体全体をたくさん使って、色々な遊びを楽しむ。

年間目標 評価・課題

活発な子どもたちの遊びが「戦いごっこ」一辺倒になったことから「ごっこ遊び」の展開について年間を通して工夫をおこなった。可動遊具や積み木がすぐ遊び出せるようにしたり、「お相撲遊び」が出来るような環境設定をしたりしたが、まだまだ環境が整理されていないので遊びの継続ができていないと思われる。職員間の連携を密に行ない、他クラスでの園庭遊びに少人数加えてもらったり、散歩に一緒に行ったりする事により子どもたち同士の自然な関わりができた。

うさぎ組（2歳児）の年間目標

- ・生活習慣が身についていく。
- ・いろいろな経験を通して、自分の思いや要求を言葉で伝えようとする。
- ・保育士や友だちと楽しく遊ぶ。
- ・身体を使った遊びを十分に楽しみながら丈夫な身体作りをしていく。

年間目標 評価・課題

今年度もトイレの誘導の問題があり、職員の動きについて共通認識が確立するまでしばらく落ち着かなかった。その間、怪我や噛みつきが続いたのでさらに職員間の連携が必要となった。年度途中で産休に入った職員がいたが、非正規職員とも連携を強め、特に混乱なく過ごすことができた。

りす組（1歳児）の年間目標

- ・食事、排泄、睡眠、衣類の着脱など、自分でやろうとする。
- ・歩行が安定し、身体を十分に動かして遊ぶことを楽しむ
- ・ひとり遊びを楽しむ
- ・身近なものに興味を持ち、探索活動を十分に楽しむ
- ・保育士が子どもと子どもの仲立ちをして、生活や遊びの中で言葉のやり取りを楽しむ
- ・色々な思いや要求を言葉や態度で表現しようとする

年間目標 評価・課題

昨年度、環境の見直しで変えた食事の場所と午睡の場所は今年度も引き続き継続することにした。生活を整えたことによりとても落ち着いて生活ができた。年度途中で産休にはいった職員もいたが、新しく入った産休代替職員もチームの一員として良い対応をしてくれて混乱なく過ごすことができた。

いるか組 (0 歳児) の年間目標

- ・よく寝て、よく食べ、よく飲み、機嫌良く過ごす
- ・快、不快や、要求を泣いたり、声を出して表現し、また心地よさを知る
- ・意欲的に生き生きと遊ぶ
- ・大人や友達との関わりを喜ぶ
- ・見る、聞く、触れるなどの外界の刺激しっかりと受け止める
- ・発達の道筋にそって体を動かすことを喜ぶ

年間目標 評価・課題

保護者の方たちが落ち着いているクラスだった。そのことが影響している為か子どもたちもおっとりタイプが揃ったので、あえて遊びの範囲を広げず室内での遊びを中心に行った。後半からはホールでの遊びやお散歩も十分に取り入れた。緩やかな担当制をとり子ども1人ひとりに十分手をかけることが出来た。ただ、区立園から0歳保育が大切にしてきた「ベビーマッサージ」を年間計画の中で実施することになっているが実際はなかなか行なえない実態がある。スキンシップの良い機会として行なう意味は十分わかっているが行なえなかった理由を明確にし、続けていく為の工夫を考えていくことになった。

2012 年度実施行事

4月 1日	進級 入園おめでとうの会	
5月	保護者会 (1日毎に各クラス)	
6月 18日	蟻虫検査	
6月 21日	プール開き	
8月 30日	プールおさめ	
9月 6日	おじいちゃん・おばあちゃん会	(3歳4歳クラス)
9月 7日	同上	(5歳クラス)
9月 15日	親子遠足	(5歳クラス)
10月 6日	運動会	
10月 23日	バス遠足 (お芋ほり)	(5歳児、4歳児)
12月 7日	お楽しみ会	
12月 14日	餅つき会	
12月 20日	クリスマス会	
12月 29日	年末保育	
12月 30日	年末保育	
1月 23日	ごっこ遊び	
2月 1日	節分	
2月 7日	お茶会	
2月	保護者会 (1日ごとに各クラス)	

3月 5日	3歳遠足
3月 9日	卒園式・茶話会
3月 13日	4歳児遠足
3月 22日	らいおんさんおめでとうの会
月例行事	誕生会

年間行事 評価・課題

行事の為の行事ではなく、日々の中から積み重ねてきたことを運動会やお楽しみ会の内容にしていきたいとの職員の共通認識の上で行ったが、まだまだ行事に対する考え方の違いがあり、話し合いを継続していく必要がある。年長児親子遠足は時期を9月に変更しておこなった。子どもたちはもちろんの事、保護者と自然の中で遊んだり食事を作って食べたりすることを通し、より雲柱社の保育を理解して頂く機会になった。

オ 栄養管理

- ・ 集団給食施設栄養報告 年4回
- ・ 栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
- ・ 季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
- ・ 年間クッキング保育を作成
- ・ 給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

- ・ アレルギー児の除去食対応で間違いがないように調理と保育との連絡を密に行った。
- ・ クッキング保育に関しては、区からノロウイルス感染症が広がっている時期は控えるように言われ、3カ月中止となった。年長のクラスは計画していたことがなかなか実施出来ず、卒園間近になってやっとうどんやパン作りをすることができた。
- ・ 子どもたちが自分で盛り付ける事や配膳をすることが、子どもたちの食への興味や喜びにつながるよう保育と調理が共通の認識に立って協力しあった。
- ・ 区による給食食材の放射能物質検査は定期的に行なわれた。結果は不検出となっている。

カ 安全管理

- ・ 交通安全教育 (6月、9月)
- ・ 非常災害時の避難訓練 (9月1日)
- ・ 引き渡し訓練の実施 (9月1日)
- ・ 防犯訓練 (年3回)

安全管理 評価・課題

- ・ 交通課より、交通安全の指導を受けた。
- ・ 防犯訓練は本所警察の指導を受けてさすまたの使い方等の訓練をおこなった。
- ・ 危機管理プロジェクト委員会を立ち上げ、首都直下地震等による災害発生時に出勤が可能かどうか職員アンケートをおこない、どんな体制で対応できるか把握した。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	2名（1名副主任）
保育士	19名
調理員	3名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	2名（非常勤）
臨時職員、パート職員	18名

イ 健康管理

健康診断	年 1 回
細菌検査	年 1～2 回
全職員	毎月 1 回

ウ 職員会議

定例会	毎月 1 回
昼礼	毎日 1 回
行事前打合せ会（随時）	
0歳児、乳児、幼児、食事等各カリキュラム会議（月 1 回）	
期別反省会（年 2 回）	

会議 評価

会議の中で意見を出しやすくするように担当を振り分けたり、小集団での話し合いをしたりと参加型の会議を今年度も継続して行なってきた。一人一人の気づきが保育に反映し、だいぶスムーズになってきた。例えば、毎日行なっている昼礼の内容が不必要な事柄も報告するため、時間が取られてしまっているとの意見が出され必要な事項を重点に報告し合うことにした。

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修 年 5 回
- ・法人内研修 ・保育ブロック研修
- ・保育団体 全国私立保育連盟研修参加 なし
墨田区保育園協会主催の研修（年 5 回）
東京都社会福祉協議会の研修
- ・区の研修

研修 評価・課題

- ・環境研修の受け入れ園として、どんなところを見て頂くのか皆で話し合い「荒馬」の取組みや各クラス的环境を保育の様子を伝えながら見ていただいた。押上保育園の良い点や課題を共通認識するよい研修となった。
今年度も法人の研修、区主催の研修もあり、学ぶ機会がたくさんあったが、研修のフィードバックができなかったのは反省点である。
- ・法人の主任全員が出席した「加藤繁ゼミ」で学んだテキストを用いたり、職員の保育日誌から学び合ったりして保育者の対話能力の向上を図った。

オ 退職・福利厚生

- ・独立行政法人福祉医療機構 退職共済制度加入
- ・東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- ・株式会社 J T B ベネフィット えらべる倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務
- ・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育課程の作成
- ・保育指導計画等の作成
- ・健康診断記録表等の作成
- ・保育要録の作成

事務関係 評価・課題

雲柱社の保育目標を初年度から項目別に話し合っ理解を深めてきた。来年度は墨田区のものに代えて、雲柱社の保育目標を用いることになった。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

なし

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

- ・床研磨（階段部分のみ）
- ・ベランダのペンキ塗り
- ・リフト（ダムウエーダー）のロープ張り替え

設備関係 評価・課

床がささくれていて裸足保育では危険があると判断し、昨年度に引き続き床研磨をした。2階のベランダの柵が腐食しさびが床に落ちていて危険な為、ペンキ塗りを行った。

(3) 備品関係

ア 備品購入

特になし

イ 保育用品購入

- ・各クラス用遊具

ウ 給食用品購入

- ・食器補充（0歳用コップ）

エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

区の担当者が変わり、備品台帳の整理を求められ、園舎中のたな卸しを行った。台帳に記入されている

ものが実際にはない物もあり、整理をする事が出来た。スピーカーやアンプの器具、食器洗浄機、冷蔵庫も年代ものなので点検業者には買い替えを進められている。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

（全園児数＋全職員数）×3食×3日分

エ 防犯訓練 年3回

災害対策 評価・課題

- ・アルファ米が区から支給されたので避難訓練の中で子ども達に作り方をみせ、食事として提供した。本所警察に依頼し保育者が防犯指導を受けた。
- ・引き取り訓練は小梅消防署の要請がかなわなかった。代わりに地域の消防団の方が6名も来て下さった。このつながりを強めていきたい。

3 地域社会との連携

- ・東駒形教会との連携
- ・同法人児童館との連携

地域社会との連携 評価・課題

東駒形教会関連施設として年に一回開催している合同研修に今年度は全職員が参加。地域の施設との良い交流の時となり、また地域福祉の視点で学び合ういい機会となった。

法人内の保育園・児童館との連携を少しずつ行ない始めた。児童館の職員にクリスマス会のサンタクロース役をお願いした。今後も地域の連携を密にしていく方向で関わりを増やしていく予定である。

4 その他

・職員体制

産休・育休職員・・・3名（保育士2名、栄養士1名）

育児時間取得職員・・・1名（保育士 4月1日～3月21日）

産休代替職員・・・保育士2名採用

調理パート職員・・・1名採用

- ・利用者に対するアンケート調査を実施した。

社会福祉法人 雲柱社 光が丘第六保育園 2012（平成24）年度 事業報告

記入者 佐藤 いずみ

◎委託

本委託1年目の今年度、昨年度までの第六保育園の保育を踏襲することを第一に考え、子どもたちと保護者が安心して保育園に通ってもらえることを目標に保育を行った。委託が始まってからの変化は大なり小なり保護者の不安感につながるので、公営のやり方をなるべく変えず、ていねいに子どもと保護者に関わることで信頼を得てくれたと思う。大きな苦情もなく、保護者の理解もあり、1年を無事に終えることができた。年度の最後には、保護者の方々から感謝の言葉をたくさんいただき、職員一同、1年間の努力がむくわれた思いがしている。

◎職員

各園から異動してきた職員、新規採用の職員、また、新卒者も多く、職員同士のコミュニケーションの難しさを感じながら、報・連・相の徹底に努めた。

新卒者が多い中で、子どもとの関わり、保護者との関わり、記録の書き方、職員のスムーズな動き方など、指導すべきことが多かったが、主任を中心に、リーダーたちもよく関わり新入職員の成長が大きく見られた。

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・0歳児保育特別対策事業実施（0歳児取扱人員：10名）
- ・延長保育実施（2時間延長）
- ・障がい児保育事業実施
- ・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・中高生の育児体験受入れ
- ・地域交流事業 年9回（ふれあい給食の実施）
- ・卒園生交流 年1回（1年生の会）

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障がい児数	備考
たんぽぽ組	0歳	4名	10名		看護師
ちゅうりっぷ組	1歳	5名	22名		パート2名
なのはな組	2歳	6名	22名	2名	パート1名
あさがお組	3歳	3名	22名		パート1名
こすもす組	4歳	3名	22名		
ひまわり組	5歳	2名	21名	2名	パート1名
	その他	主任1名			
合計		24名	119名	4名	

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 293日
24日	24日	26日	25日	27日	23日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	24日	23日	23日	23日	25日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児0歳 毎月（1回）

乳児 年2回（5月28日、11月26日）

幼児 年2回（4月23日、10月22日）

歯科検診 年2回（6月6日、11月）

蟻虫卵検査 年2回（4月、11月）

エ 保 育

各組の保育目標

ひまわり組（5歳児）の年間目標

- ・自分がかげがえのない人であることを感じ、自信を持つ
- ・自分で考え、行動できるようになる。
- ・友だちと協力し、目的に向かって取り組む

評価・課題

・保育園生活最後の1年が委託1年目であり、保護者の不安は大きかったと思う。その中で、保護者に積極的に声を掛け、コミュニケーションを図り信頼してもらえるように努力した

・昨年度の引継ぎにおいては、子どもとなるために4歳児クラスに入ることが多かったため、5歳児の保育の年長としての行事の取り組み方、就学を意識しての取り組み等の見通しがうまく持てず、取り掛かりが遅くなるなどの反省点はあったが、行事それぞれに子どもたちの成長がしっかり感じられ、成長している姿を見ることができた。

・朝の会で、自分のことを話す機会などを取り入れ、互いに興味を持ち合い、他者を受容しあう環境づくりに力をいれた。そのことにより自分を知るきっかけにも結び付いた。

・次にどうしたらよいか、何をすべきか、生活の流れの中で積み重ねを繰り返し、少しずつ自分で考えて行動する力がついてきた。

こすもす組（4歳児）の年間目標

- ・園生活を楽しみ、いろいろな活動に意欲的に取り組む。
- ・日常生活に必要な基本的な習慣や集団生活のルールを身につける。
- ・人の気持ちをわかろうとし、友だちとつながりを広げ、一緒にあそぶ楽しさを知る。

年間目標 評価・課題

- ・クラス全体的に人との関わり方の下手さがあり、自分の気持ちを伝える、人の気持ちを考える、思いやるといったことが苦手な姿があった。年間を通して、トラブルの時など大人が入り、気持ちの伝え方を教えて行ったり、人の好い所に気づく機会を作るなどを大事にしてきた。
- ・エネルギーがある子ども達だが、そのエネルギーが落ち着かない方向に向かいがちなので、子どもたちが興味を持って継続していかれるような活動を意識して取り入れていった。忍者修行やお化け屋敷ごっこ、お店屋さんごっこなど、ちょっとヒントを与えると発想の豊かさが出て、楽しい活動にすることができた。
- ・保護者も、こちらからまめに声をかけていかないと思いがたまってしまう親が多く、朝夕の送迎時には保護者とのコミュニケーションも心掛け時間をかけた。

あさがお組（3歳児）の年間目標

- ・身の回りのことが自分でできるようになる。
- ・自分のしたい遊びに取り組み、友だちとのつながりを広げていく。
- ・自分の感じたことや思ったことを自分なりの言葉で伝える。

年間目標 評価・課題

- ・コーナーの設置、そこでの遊具の充実を図ることで、それぞれのコーナーで集中して遊べるようになった。
- ・外遊びも多く取り入れ、特に散歩では散歩先で鬼ごっこやマラソンなどたっぷり体を動かすことを取り入れ体力作りができ、そういった活動を取り入れることで、遊びの満足感、欲求が満たされ、その後の活動、食事、睡眠などにも落ち着いて取り組めるようになった。
- ・生活の流れも、次への行動の切り替えには、見通しが持てるように声をかけ、遊ぶときは遊ぶ、静かに話を聞くときは聞く、頑張る時は頑張るといったメリハリを大事にすることで、子どもたちの生活にリズムができた。

なのはな組（2歳児）の年間目標

- ・簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
- ・自分でやりたい遊びを見つけて十分に楽しむ。
- ・自分の要求や思いを出す中で少しずつ友だちと関わる楽しさを知る。

評価・課題

- ・22名が一つの部屋で過ごすため、小グループの単位を作って生活の流れを少しずつずらして保育を行った。大人の動きがスムーズに行くことが必要となるが、職員も障がい児2名の担当、短時間パートも含め7名の大所帯だったので、初めは横の連携がうまくいかず苦労した。しかし、リーダーを中心に、伝え方も工夫し、改善されていった。
- ・コーナーわけをしたことで遊びが落ち着いた。
- ・年度の初めに保護者から、子ども同士のトラブルでひっかきやかみつぎがあったとき、やってしまった親にきちんとそのことを伝えてほしいという要望があった。要望に沿うようにするか否かはケースバイケースで対応することにした。しかし、ことがあるたびに相手に伝えたのかどうかを気にする保護者も多く、実際はほとんど伝えざるえない状況になっている。

ちゅうりっぷ組（1歳児）の年間目標

- ・さまざまな生活、遊びを通して“自分で”の気持ちが芽生える。
- ・自分の気持ちや要求を言葉やしぐさで伝えようとする。

- ・ひとり遊びや、探索活動を楽しむ。

年間目標 評価・課題

- ・10名が進級児、12名が新入児というクラスで、年度当初は本当に大変であった。室内の動線も使いにくく、また、送迎時に親に荷物やノートを手渡ししなければならなかったり、食事のワゴンを何度も運びにいかねばならなかったり、雑巾やおしぼりを室内の水道で洗えず、遠くの水場まで行かなくてはならないなど、子どもに手をかけたいところが、別のことに手を取られるといった不便さがあり苦労した。
- ・担当制で密に子どもたちと関わり生活の安定が図れた。
- ・もう少し、環境設定を考え、少人数で遊んだり、一人遊びの充実を図れたら良かった。

たんぽぽ（0歳児）の年間目標

- ・ありのままの姿を受け止め、気持ちよく過ごせるようにしていく。
- ・好きな保育者がいて、安心して一緒にあそんだり、一人で遊んだりする。

年間目標 評価・課題

- ・一人ひとりの生活の姿をできるだけ担当の保育者が保護者に細かく伝えることで、信頼関係を築いていくことができた。
- ・個々の生活リズムを理解し、それに担当保育者がしっかりと寄り添えるように低月齢、高月齢それぞれのグループや担任の中で、連携することができた。
- ・担当制で担当が中心に関わることで、一人一人の子どもたちへの理解が深まり親密な信頼関係を築いていくことができた。そのことが子どもたちの心の安定につながった。大好きな大人に見守られている安心感が遊びの広がりや他児と関わる喜びへとつながっていった
- ・わらべうたなどを通して、ゆったりとふれあい遊びを楽しむことなどを心がけて保育を行ってきた。そのことがクラス全体の落ちついた雰囲気につながったのではないかと思っている。

2012年度実施行事

4月	1日（入園説明会）	保護者会	12日（新入進級お祝い会）
	26日（子どもの日お祝い会）		
5月	16日（委託園交流会）		
6月	1日（バス親子遠足）	保育参加 保育参観	21日（プール開き）
7月	6日（七夕）	7日（夕涼み会・保護者の会主催）	
8月	29日（一年生の会）	31日（プールじまい）	
9月	6日（おじいちゃんおばあちゃんと遊ぼう会）		
10月	13日（運動会）	秋の園外保育	おもいで遠足
11月		保護者会	
12月	13日（おたのしみ会）		
1月	10日（新年お祝い会）		
2月	1日（節分）	保護者会	15日（春のつどい）
3月	3日（雛まつり）	保護者会	15日（卒園祝い会） 19日（お別れ散歩）

年間行事 評価・課題

公営のやり方を大枠では踏襲し、具体的な中身の所で自分たちでやりたいことを取り入れていった。行事ごとにかなり細かい打ち合わせを行い、どの行事もスムーズに行うことができた。保護者参加の行事では、昨年度との違いを保護者は感じ

やすいため、保護者目線にも立ち、よりよくなったと感じてもらえる方向で考えるようにした。大きな行事については毎回アンケートをとったが、そこでの意見を参考に次の行事につなげていくことができた。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 2 回

練馬区の保育園献立を使用。

区の栄養、調理マニュアルに基づき衛生管理をしっかりと行いながら、給食提供を行う。

区の栄養士会議に参加する。

栄養管理 評価・課題

練馬区においては、衛生面での管理が厳しく、そのやり方に慣れ、軌道にのるまで細かく配慮した。区の巡回では来るたびに安全が確認され評価してもらった。栄養士1名が、6月で退職、その後、採用した調理師も続かず、採用には苦勞したが、現在は落ち着いた。練馬区の献立で給食提供することになっているので、独自性を出すことが難しい。また、衛生面から調理保育、クラス配膳等できないことが多い。そのため、食育の難しさ、食べることの楽しさをどう感じさせたらよいかなど、特に異動してきた職員は、今まで、普通にしてきたことが出来ず、残念に思うことが多かった。区の方針が職員給食が出せないとして、今年度から、指導食として、子どもの量だが、幼児のクラス担任のみ出せるようになったので、良かったと思うが、職員の給食実施が望まれる。

カ 安全管理

救命救急研修の開催

非常災害時の避難訓練（毎月1回）

引き渡し訓練の実施（9月）

伝言ダイヤル、ブロードバンド体験訓練

不審者訓練

安全委員会 毎月1回開催

安全管理 評価・課題

避難訓練については、園長だけでなく、職員も担当し一緒に訓練の経験をしていくことをしたかったが、1年目は、それが機能しなかった。

園内の安全点検は委員会を作り、毎月チェックを行う。不備があれば用務職員が対応し改善するなど滞ることなく行えた。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	1名
保育士	23名
看護師	1名
栄養士	3名
調理師	1名
用務	1名

パート職員（調理含む） 18名
嘱託医 2名

イ 健康管理

健康診断 年 1回
細菌検査 年12回（給食、職員・非常勤毎月1回）

ウ 職員会議

（夜） 定例会 毎月1回 乳児、幼児、調理カリキュラム会議 毎月1回
（昼） 行事打合せ会 毎月1回（2ヶ月後のもの）
幼児打ち合わせ 毎月2回
乳児打ち合わせ 毎月1回

会議 評価・課題

細かな打ち合わせが必要だったため、昼間の会議が多くなってしまい、職員には負担感があつたかもしれない。しかし、細かく打ち合わせをすることで、円滑な運営ができたと思う。

踏襲することが主で、トップダウンでおろすことが多かったことなどから、職員会議は報告が主になってしまった。全員がそろそろ時間帯も短く、会議の時間のとり方が難しかった。

エ 研修報告

- ・法人内研修 ・保育ブロック研修 ・練馬区の研修（障がい児保育研修、乳児保育研修）
- ・園内研修（中間年間保育まとめを含む）
 - ・職員会議の中で礼拝をし、理事長、各施設長に来ていただいております。
 - また、12月には、各園のクリスマス会に全職員を研修として参加させてもらい、保育園の子どもたちと迎えるクリスマスを体験する。
- ・法人外研修
 - 東社協保育団体研修
 - 全国私立保育園連盟研修
 - 東京都社会福祉協議会研修
 - リトミック研修
- ・学習会（園内研修）
 - オフィスオン「救命救急研修」
 - 新澤誠治氏「子どもに寄り添い、親と共に育てる」
 - 齊藤一紀氏「子どもの遊びと発達」（乳児編）（幼児編）

研修 評価・課題

法人内研修、練馬区の研修を優先に今年度は研修の機会を設ける。リトミックは、2011年度の引継ぎ中十分に体験できなかったもので、幼児担当者全員が研修に参加できるようにした。

園内研修では、各園から移動してきた職員の保育に対する考え方の違い、また、練馬区立光が丘第六保育園の保育が固まっていないこともあり、遊びについて、みんなで同じ話を聞きたいという要望から、2回講演を入れた。光が丘子ども家庭支援センターにも声を掛け一緒に学べたことは良かった。講演を受けて、自分たちでどう取り入れていくかの話ができて、コー

ナー作りや遊具選びに生かされたと思う。

キリスト教の学びについては、保育で出せない分、必要度が高いが、どのように行っていくか難しい。しかし、今年度、各施設長に来てもらって話していただいたこと、また、各園のクリスマス会に出たことで、クリスマスの本当の意味などに気づきがあり、どの職員も、保育に出せない分きちんと知っていく、考えていくことの必要性を感じてくれている。

オ 退職・福利厚生

- ・独立行政法人福祉医療機構 退職共済制度加入
- ・東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- ・株式会社 J T B ベネフィット えらべる倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

事務職員を置いていないので、園長と主任の事務負担は大きい。特に主任は、日誌をみたり、保育に入っていくことが必要だが、それもなかなかままならない状況の 1 年になってしまった。用務職員にも事務仕事をしてもらえるような体制をつくるなど、少しずつ工夫もしている。

2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係 評価・課題

改修工事後 1 年半がたち、扉や鍵などの不具合が目立った。設備修理に関しては、区が負ってくれるので、連絡をして修繕のお願いをしているが、対応が迅速ではないのが困っている。

(3) 備品関係

ア 備品購入

- ・パソコン 5 台
- ・テレビ（事務室用）

イ 保育用品購入

- ・2、3、4、5 歳児用椅子、テーブル
- ・三輪車

ウ 給食用品購入

- ・食器（麦茶用コップ50）
- ・電気釜 2台 ・麦茶ポット
- ・電気ポット

エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

いすの老朽化、いすとテーブルの高さがあっていないなど、子どもにとって良くない面があったので、木製のもの買い替える。部屋の雰囲気も変わり、子どもたちがとても気持ちよさそうに過ごしている。

遊具など、もう少し買い揃えてもよかったかと思う。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1～2回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

- ・（全園児数＋全職員数）×3食×3日分

災害対策 評価・課題

非常食の備蓄が区の既定の量だと少ないと思われるので、買いたしが必要。災害時の職員体制について、通勤時間に時間のかかる職員が多いため、日中時の災害では、園に長くとどまれる準備の必要性がある。また、反対に、保育時間外での災害では、職員を徴集できないという不安がある。練馬地区（支援センター、学童、児童館）での助け合いも考えていきたいと思う。

3 地域社会との連携

- ・家庭福祉員との連携（ふれあい給食の実施）
- ・地域の方に絵本読み聞かせ、お手玉などのボランティアをしていただく。
- ・光が丘子ども家庭支援センターとの連携
- ・光が丘地区子育ての輪に参加
- ・練馬区委託園交流に参加

地域社会との連携 評価・課題

家庭福祉員さんは、直當時よりも気軽に園に来てもらえるようになってきていると思う。今までのボランティアさんのほかに、近くのインターナショナルスクールの生徒さんが遊びにくるなど、広がりがあった。

支援センターとは、在園児について共通の情報があり、近況など報告し合っている。

4 その他

3回の運営委員会、委託後のアンケートが行われ、保護者の意見を聞く機会が多く持てた。厳しい意見もあるが、アンケートでは、総合的に満足、どちらかといえば満足が93パーセントという結果がでた。意見については、職員と共有し改善に努めている。

社会福祉法人 雲柱社 高根学園保育所 2012（平成24）年度 事業報告

記入者 土屋 恵子

2012年度をふりかえって ～事業の内容と展開～

今年度は低年齢児の入所希望者が多く、0歳児は最終的に10名であった。なお、園児総数は134名（定員120名）であった。今年度新たに、近くに在るYMCA東山荘のネイチャープログラムに参加し、普段の生活では体験出来ない野外での活動が出来た。子どもたちは冒険心を十分満喫することができたので、今後は年齢層を広げていく予定である。

昨年に引き続き、保護者の勤務状況が多様なため、自由参観日を1週間にわたって実施した。大変好評で、保育内容により参観日を選んだり、祖父母の参加も複数回あり、保育への理解や関心が深まった。

子ども達が、集団生活を通じて社会性をはぐくむ為に様々な活動を展開した。具体的には、お茶のお点前を22年間継続実施してきた。礼儀を学び人を思いやることができるようにとスタートしたが、効果が十分みられ定着した事業となった。また、元保護者であるネイティブスピーカーの協力を得て、英語で遊んだりする機会を引き続き実施した。小さいクラスほどよりネイティブに近い発音ができ、身の回りのことや歌を英語で表現して楽しんでいる。クリスマス発表会では、英語で歌う子ども達に大きな拍手が送られた。

保護者を対象に東日本大震災の復興活動と地域防災について「神戸からの学び、東日本からの学び、しんどいけれど継続しよう」というテーマで講師として佐久間真人氏（YMCA東山荘副所長）をお招きして講演会を行った。防災についての意識が高まった。

子育て支援センターでは、昨年に引き続き、2地区へ積極的に出ていく保育を行い好評を得ている。今後も、地域とより密接な関係を構築していく。また、妊婦対象の「ママの会」を引き続き開設し、情報提供や交流の場をつくり、安心して子育てができるように支援した。また、食事体験（一日4組）は、ほとんど毎日定員いっぱい、食育をはじめ味付け、食材等様々な情報を提供した。様々な活動の結果、子育て支援センターの利用者が増え、3,711名（延べ利用者）の利用があった。

これらのことを進めていくうえで基本となる「神と人ともに仕える仕事をする」ため、御殿場教会中島牧師を招いて、賀川豊彦の思想と実践（キリスト精神）を学んだ。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・延長保育実施（1時間延長）年間延べ649名利用
- ・乳幼児保育事業（零歳児の受入れ）
- ・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・一時預かり事業

イ 地域子育て推進

- ・地域子育て支援拠点事業（センター型）

- ・ 育児講座 年6回実施 179名参加
- ・ お年寄りとの交流 年4回実施
- ・ 退所児童との交流 年2回実施
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年間受入れ延べ150名
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 年6回、28人受入れ実施
- ・ 子育てサークル支援 1才児クラブ14回(284名)、2才児クラブ14回(256名)
- ・ 子育て情報誌の発行 年12回発行
- ・ 外国人児童受入れ 2名
- ・ 出前保育(サロンを含む)36回

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
ちゅうりっぷ	0歳	4	10		
たんぽぽ	1歳・2歳	3	19		
ひまわり	2歳	5	21		
もも	3歳	2	28		
すみれ	4歳	1	30		
ゆり	5歳	1	26		
	その他	5			子育て支援2、一時預かり2 フリー1(延長)
合 計		21	134		

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 293日
24	24	26	25	27	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	24	23	23	23	25	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 年2回(5月、10月)

幼児 年2回(5月、10月)

歯科検診 年1回(5月)

蟯虫卵検査 年1回(5月)

エ 保 育

各組の保育目標

ゆり組（5歳児）の年間目標

- ・ 様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ・ 様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
- ・ 健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自立の態度を身につけ、理解して行動する。
- ・ 様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
- ・ 異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
- ・ 人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・ 自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

行事を通して仲間意識も深くなり自信にもつながった。体操教室で学んだことが集団遊びへと発展し、ドッジボール、氷鬼ごっこを楽しんだ。うがい、手洗いの習慣も身に付き、進んで行う姿が見られた。植物や野菜を育てた。興味の広がりについてひとつひとつ寄り添っていくことで、大切な事の発見に気づき喜び合うことができた。3学期には、考えや思いを文章にして書く機会を多くつくった。グループでの話し合いの機会を増やすと良かった。

すみれ組（4歳児）の年間目標

- ・ 一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ・ 友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
- ・ 意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・ 健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ・ 人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ・ 自然や身近な事からにふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする

年間目標 評価・課題

体操教室を楽しむ中で氷鬼を知り、人気の遊びとなった。紙芝居、絵本の読み聞かせを沢山取り入れたので言葉の数が増え、会話がはずんだ。生き物を育てることに興味、関心を示し、皆で世話をして大切にしたい気持ちとやさしい心が育った。人の話を聞いたり、自分の経験したことを伝えることをもっと取り入れられれば良かった。

もも組（3歳児）の年間目標

- ・生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ・外遊びを十分にするなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。
- ・食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に基本的な習慣が身につくようにする。
- ・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

年間目標 評価・課題

生活習慣についてもっと丁寧に関われれば良かった。食事面では「おかわり」を取り入れることによって頑張っ食べようとする子が多く見られた。落ち葉、どんぐり、雪、氷などの自然物を使った遊びを喜んだ。もう少し集団での遊びを取り入れたかった。

ひまわり組（2歳児）の年間目標

- ・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ・身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりと楽しむ。
- ・大人やまわりのことに興味をもち、みため、つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標 評価・課題

低月齢クラス：一人ひとりの発達や性格に合わせ、言葉掛けを工夫していった。信頼関係ができてくると、より自己主張もでてきたので、想いを受けとめながらも通ることと通らないことを根気よく伝えていった。後半は、行動するとき「次はどうするのか」と自分で考えられる場を作っていた。言葉にできない想いを保育者が言葉にし、気持ちを受け止めていくよう心がけていくことができた。散歩の距離をのばしたり、リトミックなどを取り入れ、全身運動がもっとできると良かった。

高月齢クラス：自己主張の表れからトラブルになることもあったが、保育者に受けとめられ、代弁することで、思いやる気持ちが持てた。うがい、手洗いの仕方、衣服の着脱を覚え、進んで取り組み姿も見られた。遊具や用具を使って体を動かして遊んでいると他児との関わりも増え、ルールのある遊びへと発展していった。散歩の回数を増やし、距離も伸ばしていければ良かった。リズム遊びももっと取り入れられれば良かったと思う。

たんぼぼ組（1歳児）の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。

- ・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもち、

年間目標 評価・課題

保育者が子どもとの関わりを丁寧にする事で安心して生活ができていた。ホールでの遊び、外遊びをする時に危険な事はしっかり伝えた。年度当初は一人遊びが目立ったが、保育者が仲介することで気の合う友だちとの遊びを喜ぶようになった。外遊びをすることにより、室内では感じられない草花、水遊び、雪等、季節の移り変わりに気付いたり、楽しい活動ができたが、回数を増やしてもっと経験できれば良かった。

ちゅうりっぷ組（0歳児）の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
- ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
- ・甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れさせ幼児食への移行を図る。
- ・優しく語りかけたり、発音や喃語に回答したりして、発語の意欲を育てる。
- ・聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
- ・安心できる人的物的環境の下で絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

自分の気持ちや欲求を言葉で伝えることができないので、小まめに身体の様子や機嫌を見ていった。初めての集団生活になるので、安心して生活できることを第一に考えて、表情、発音、喃語から子どもたちの気持ちをくみ取れるようにスキンシップを大切にしてきた。もう少し戸外で過ごす機会をつくれれば良かった。

2012 年度実施行事

4月 4日 入園式

5月21日 春の親子遠足 22日 さつまの苗さし

6月11日 花の日の礼拝と訪問 22日ネイチャープログラム 27日 花火教室

7月 9日～13日 保育参観（3歳以上児クラス） 14日 懇談会

- 7月 9日～8月31日 プール実施
- 7月31日 卒園生のつどい
- 9月15日 運動会
- 10月 6日 学園まつり 29日 芋掘り・焼芋大会
- 11月 2日 秋の親子遠足 8日 幼児祝福式 15日 球根植え 29日 もちつき
- 11月15日、16日 保育参観（3歳未満児クラス） 17日 懇談会
- 12月15日 クリスマス会 18日 イブ礼拝
- 1月23日 観劇
- 2月 9日 お茶会 23日 保育参観と講演会
- 3月 6日 ふれあいピクニック 16日 卒園式
- 月例行事 誕生会

年間行事 評価・課題

今年度も自由参観日を一週間にわたって実施した。保護者をはじめ祖父母の参加もあり、保育の理解や関心が深まった。次年度もこの形で保育参観を継続していきたい。

オ 栄養管理

- ・集団給食施設栄養報告 年1回
- ・給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

食品衛生監視監査で厨房の清掃の頻度を見直すことが望ましいとの指導があったので、清潔になるよう心掛けた。

アレルギー児の除去食対応で間違いがないように調理と保育との連絡を密に行った。

放射能物質関係としては、市からの指導により「きのこ類」を給食に使用しない等の対応を行った。

カ 安全管理

- ・交通安全教育（6月28日、11月7日、2月18日）交通指導員による「子どもの安全教室」
- ・非常災害時の避難訓練（11月26日）
- ・引き渡し訓練の実施（11月26日）

安全管理 評価・課題

災害時に備えて毎月1回御殿場市地域防災無線通信訓練を行っている。東日本大地震の際は、電話が使えなかったが地域防災無線により情報を交信することができた。緊急地震速報を感知して通報動作を行う機器を市が設置した。

交通指導員による「子どもの安全教室」を年3回開き、交通事故の防止に努めた。また、地域の「高根防犯まちづくりの会」に加入し、のぼり旗を立てたり、登降園時に巡視し近隣の方々と声かけをし、連絡を密にした。東日本大震災の復興活動と地域防災について保護者が

学ぶ機会を設けた。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	1名
保育士	21名
栄養士	1名
調理員	2名
事務員	1名
嘱託医	2名(非常勤)

イ 健康管理

健康診断 年 1回 (11月と2月に分かれて)
 細菌検査 年 24回
 調理師、保育士 毎月 2回

ウ 職員会議

定例会 毎月 1回
 期別反省会 (年 2回)

会議 評価・課題

会議に先立ち牧師からの言葉をいただき、会議を開いた。この為、職員が何を大切にしていけるかが理解でき、積極的な意見が出やすくなってきている。

エ 研修計画

- ・園内研修
- ・法人内研修 ・保育ブロック研修
- ・保育団体研修 (県保育所連合会、市保育の会等 その他研修)

研修 評価・課題

御殿場教会の中島善子牧師を招いて、聖書の学びを行った。「神中心という事」このテーマで聖書の学びを行った。全ての研修参加者は研修レポートを提出して、それを全職員に回し職員に伝達研修ができた。保育団体研修にも積極的に参加し、資質を高め共有化を図った。

オ 退職・福利厚生

独立行政法人福祉医療機構 退職共済制度加入
 静岡県社会福祉協議会 従事者共済会加入
 株式会社JTBベネフィット えらべる倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・健康診断記録表等の作成
- ・保育要録の作成

事務関係 評価・課題

特に問題はなかった。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係 評価・課題

特に問題はなかった。

(3) 備品関係

ア 備品購入

御殿場市住宅地図 1冊

ロングライトバスG1台（おさんぽカー）

おさんぽカー用カバー

雨具・傘立て兼用スタンド2台

イ 保育用品購入

保育マットアニマル3枚

ウ 給食用品購入 なし

エ 固定資産物品購入 なし

備品関係 評価・課題

点検の結果、すべて問題がなかった。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回(内、届け出1回)

ウ 非常食糧の備蓄

○(全園児数+全職員数)×3食×1日分

災害対策 評価・課題

非常食の点検をして飲料水を増やした。

ツナ缶・おかず缶・乾パン・ビスケット・ごはん類 140名×3食×1日分 飲料水2日分

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

周辺小学校とお便りなどの情報を交換し合い、交流を図った。また、子育て支援センターでは、地域福祉団体と連携し、地域子育てサロン事業の手伝いをした。

4 その他

- ・11月に御殿場市の保護者会主催の利用者アンケートが実施された。
- ・10月19日に静岡県の指導監査があった。改善指導、助言指導はなかった。

社会福祉法人 雲柱社 黎明保育園 2012（平成24）年度 事業報告

記入者 上松 恵子

2012年度は職員の異動がほとんどなく、職員体制が安定して園運営ができた。園内研修、外部研修、SDSの取り組み、会議などを通して、保育の質の向上、職員の育成を目指した。SDSは2年目となり、全員が各自のテーマを持って取り組み発表を行った。保育ブロックの実践研究発表がよい刺激となった。園内研修は非常勤職員も含め、全員が「死を招いた保育」を読み、それを基に「黎明の保育」の見直しを2回にわたって話し合った。その他にもテーマを決めて話し合う研修を行ったことによって、より職員同士の思いをわかり合い、保育について考えることを深めることができた。更なる質の充実を目指し今年度も継続して取り組んでいく。また、学童と保育園の職員の連携がスムーズに取れるようになり、良い形で保育を行うことが出来ている。

今年度は一時保育の利用が減少した。近隣で一時保育実施園が増えたことも要因と思われるが、よりニーズに応え、保育内容等も充実させていくことが課題である。地域活動の内容を多少変更し、プレママ講座を新設した。参加者は多くはないものの好評である。

将来的な建て替えに向けて堀切教会との話し合いもスタートし、2013年3月には第1回目の建築マスタープラン委員会が行われた。話し合いを重ね、具体的にどのような事業が必要とされ、展開できるのか2013年度中には方向性を打ち出していきたい。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：10名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業（1歳以上児受入れ）
- ・ 障がい児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・ 一時保育事業

イ 地域子育て推進

- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年20日間受入れ
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 年20回・20人受入れ実施
- ・ 出前保育 年7回実施
- ・ プレママ講座 年6回実施
- ・ 子育て情報誌の発行 年10回発行
- ・ 育児困難家庭への支援（1名受入れ在籍）

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
ひよこ	0歳	3	10		看護師1名
うさぎ	1歳	3	15		
こあら	2歳	3	20		
ひつじ	3歳	2	18	1	
ぱんだ	4歳	1	19		
きりん	5歳	1	16	1	
一時保育		2	10名定員		
フリー		1			
合計		16	98	2	1

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 293日
24	24	26	25	27	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	24	23	23	23	25	

ウ 健康管理

健康診断

0歳児 毎月

乳児・幼児 年2回(6月、11月)

歯科検診 年2回(6・11月)

蟯虫卵検査 年1回(5月)

エ 保 育

各組の保育目標

きりん組(5歳児)の年間目標

- ・年長児としての自覚を持ち、生活の仕方などを確認し、決まりや約束を守って行動する。
- ・自分たちで考えたことを遊びの中で実現したり、表現したりする楽しさを体験する。
- ・自分で考え行動へと移すことができる。
- ・自分の思いや考えを相手に伝え、友だちに自分の思いを聞いてもらう喜びを味わう。

年間目標 評価・課題

行事やクラスで行うことなどは子どもたちとクラス全体でどのように進めていくかを話し合い、各々の考えを聞き、子どもたち主体で取り組んでいくようにしてきた。活動に取り組む中で「どうすればいいのか」を考える姿が段々と増えてきた。その中で自分の考えを伝えたり、他の意見を聞き、それを受けてクラス全体が一つのことを楽しめる姿が増えた。また、異年齢クラスとの関わりを通して年長児としての自覚を高めることができた。

ぱんだ組（4歳児）の年間目標

- ・友達と一緒に充分遊ぶ。・自分の持っている力を出し合って行動する。
- ・物事に関心を深め、考え表現する。・基本的生活習慣が身につく

年間目標 評価・課題

集団遊びを通して友達と遊ぶ楽しさを感じられるようになっていった。年度後半の検定遊びではできないからというためらう姿もあったが“やればできる”にかわり、段々と取り組む子どもが増えていった。お互いに同士で教えたり、教えられたりいい関係性が持てた。クリスマス会など皆の前で発表となると緊張や照れから消極的な面がみられた。卒園式に向けて皆の前に出ることが増し、十分に褒められることで子どもたちの自信につながっていった。もう少し早い段階からそのような機会や場を設け、取り組めるとよかった。

ひつじ組（3歳児）の年間目標

- ・自分で出来ることは、自分でする。・体を使ってよく遊ぶ。
- ・みんなで遊ぶ楽しさを知る。・自分の思いや感じたことを言葉で伝える。

年間目標 評価・課題

前期は並行遊びが主であったが、簡単なルールのある集団遊びを取り入れていき、他児の存在に気づき一緒にの楽しさを感じるようにした。後期になり様々な行事参加を通してクラス意識の高まりとともに皆で遊ぶ楽しさを知っていった。遊びを見つけれない、集団のルールを守って遊ぶことが難しい子どもには個別対応を進めながら、他児との関わり遊びへの仲介をしてきた。

生活習慣をつけるために行う活動については、子ども達の様子を見ながら前年度よりゆっくりと始めた。子どもたち、一人ひとりの個性を受け止め、個別に関わりながら定着を図った。自分の気持ちを伝える時の口調がきつくなってしまい、トラブルが長引いてしまうことがある。話し方について仲介に入ったり、代弁をしたりしながら伝えていく必要がある。

こあら組（2歳児）の年間目標

- ・自分のことは自分でしようとする。・周りの人に興味を示し、要求を言葉で伝えようとする。
- ・遊びに集中し楽しむ。・全身を使った遊びを楽しむ

年間目標 評価・課題

身の回りのことは個々に丁寧に援助して身につけることができた。「できるから一人でやってみよう」と励ましながらもその時々の子どもの頑張りを褒めていった。その後、子ども自らが「一人でできるから見てて」という姿が多くなった。個々の遊びを大切にしながらも体操やリズムで子ども同士の関わり合いやペアを意図的に組み込むことで「友だち」の存在や共感の経験を積み重ねることができた。昨年度からの新たな取り組みについては担任同士で話し合いはあったものの活動にとり入れることが遅くなってしまったことは今後の課題として残った。

うさぎ組（1歳児）の年間目標

- ・ひとり一人の自我の芽生えを大切にして気持ちを受け止めていく。
- ・できた時の達成感を共感し、ほめて自信につなげる。
- ・友だちとのやりとりの中で仲介に入り、交友関係を深めていく。

年間目標 評価・課題

子どもを集団で動かさず、少人数グループの担当制にして主に食事、着脱、午睡などの生活面や移動の際、担当の保育者が関わることで個々の安定につながる事ができた。遊びの面では子どもの発達や体調に合わせてグループ編成を変え、個々に応じることができた。後半噛みつきがなくなって、排泄や着替えに一人ずつ丁寧に関わることで、一人ひとりの意欲を引き出すことにつなげることができた。

ひよこ組（0歳児）の年間目標

- ・よく遊び、よく食べ、よく眠り気持ちよく過す。
- ・発達にあった手足、身体の動きが見られるようになる。
- ・個々の要求や欲求を表し求めようとする

年間目標 評価・課題

月齢の高い集団であったため、トイレトレーニング、着脱など生活習慣の獲得については家庭と連携を取り協力し合って進めていくことができた。遊びも例年より月齢が高いため室内を工夫し集中して遊びこめる環境づくりをした。他のクラスとの交流を計画的に取り入れるのが難しかったことは反省である。玩具を毎日消毒し、交換も心掛け、清潔な環境を保障し、感染症の予防に努めることができた。

こぶた組（一時保育）の年間目標

- ・保育士や子ども同士の関わりを通して安心して園生活を送ることができる。
- ・一日の生活を無理なく、楽しく過す。

年間目標 評価・課題

新規利用児の安定を図ることで定期利用児も不安になることなく落ち着き、一人ひとり安心して過ごすことができていた。障がい児、低月齢児が定期利用することで保育内容を工夫する必要が多くあった。そのため担任間で役割分担を明確にし、スムーズに保育の流れができるようにした。

登録の面談のみではシステムを十分わかってもらえず、利用者に度々尋ねられることがあった。面談用紙をもっとシンプルなものにし、利用者のニーズに応えられるよう工夫していくことが次年度の課題である。

2012年度実施行事

4月 2日 入園式

11日 イースター礼拝

5月 19日 親子遠足（幼児）

26日 ウェルカムパーティー

- 6月2日 親子遠足（乳児） 6・7日 こどもの日・花の日礼拝訪問
 7月 3日 プール開き 12・13日 お泊り保育
 9月14日 おじいちゃん・おばあちゃんと遊ぼう会
 10月 6日 運動会 19日 芋掘り遠足 27日 おまつり広場
 11月14日 収穫感謝祭礼拝・豚汁パーティー
 15日 収穫感謝祭訪問
 12月15日 クリスマス礼拝・祝会
 1月11日 もちつき会
 2月27日 お別れ遠足
 3月17日 卒園式

月例行事 誕生会・身体測定・避難訓練

年間行事 評価・課題

子どもたちに無理のない形で行えるよう見直しを行い、行事の目的や内容を職員間で毎回確認し、実施した。企画から反省まできちんと記録を残すことを徹底してきた。

オ 栄養管理

- ・ 集団給食施設栄養報告 年 2 回
- ・ 栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
- ・ 季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
- ・ 給食供給者としての諸管理
- ・ 放射能汚染食品を取り入れないよう検査済み食品や産地に気を付けて食品購入

栄養管理 評価・課題

旬の食材を意識し、積極的に取り入れた。年度途中で栄養士が変わったこともあり、食育への取り組みがあまりできなかったことは反省である。次年度は調理室から発信してクラスに声かけしながら食育を進めていきたいと考えている。また栄養管理に気をつけながらアレルギー児に対する除去食及び代替食実施をし、今年度事故はなかった。

カ 安全管理 毎月1日安全点検

交通安全教育

非常災害時の避難訓練（毎月）

引き渡し訓練の実施（9月1日）

環境教育、ゴミ処理を通してリサイクルの大切さを学ぶ（11月）

安全管理 評価・課題

災害時に備えての備蓄品などを整備した。毎月、安全点検を行い危険個所をチェックし、改善してきた。区清掃事務所の方による環境教育を実施した。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任	1名
保育士	17名
調理員	2名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	1名（非常勤）
臨時職員、パート職員	18名

イ 健康管理

健康診断	年1回
細菌検査	年12回

ウ 職員会議

職員会・毎月1回 リーダー会・月1回
行事前打合せ会・随時
乳児・幼児・食事カリキュラム・月1回
保育のまとめ、振り返り（年2回）

会議 評価・課題

職員会は会議が時間内に効率よく行われるようになってきた。保育園、学童、一時保育が一緒の職員会だが、報告だけで終わるのでなく、議題を吟味、話す内容を深めることができた。

エ 研修計画

- ・園内研修（6回）
- ・法人内研修
- ・葛飾区子育て支援課・葛飾区私保連・全私保連・厚生労働省・東京都社会福祉協議会
ムジカ音楽教育研究所・キリスト教保育連盟・子どもの文化研究所

研修 評価・課題

法人の研修、外部研修に出来る限り参加し、保育の質の向上を図る。研修報告を職員会の中に組み込んだが時間が十分取れず、どのように職員間で共有していくかが課題である。今年度も全員で SDS に取り組み、年度末にまとめの発表を行った。次年度は更に取り組みを深めていけるようにしていきたい。

オ 退職・福利厚生

- ・独立行政法人福祉医療機構 退職共済制度加入
- ・東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- ・株式会社 JTB ベネフィット えらべる倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

- ア 会計事務、管理事務
 - ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
 - ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）
- イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）
 - ・保育指導計画等の作成
 - ・給食献立表等の作成
 - ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

保育園、一時保育、学童保育クラブの仕事内容を確認し、園長、主任、職員で、事務の役割分担を明確にしてきた。スムーズに取り組めてきているが事務量の多さは何とか改善したい。児童処遇の書類は主任が中心となって記入の仕方など職員へ指導しながらすすめてきた。法人統一書式にも慣れてきた。

(2) 設備関係

- ア 固定遊具の設備点検
 - 園庭の固定遊具のメンテナンス
- イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

エアコンの故障が相次ぎ、修理が多かった。暖房設備のボイラーを取替える。2階テラスの床面がささくれだち、板を取り換えたり、ゴムマットを敷いたりして安全策を講じている。

(3) 備品関係

- ア 備品購入
- イ 保育用品購入
- ウ 給食用品購入
- エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

特になし

(4) 災害対策

- ア 避難訓練
 - 毎月1回
- イ 防災設備の点検委託
 - 年2回（内、届け出1回）
- ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（3日）分

災害対策 評価・課題

避難訓練は色々な時間帯で行った。非常食、備品の整備をした。

3 地域社会との連携

- (1) おまつり広場、地域活動、もちつき会、保育ボランティア活動、卒園児学童キャンプ
運動会、卒園式、一時保育登録児クリスマス

地域社会との連携 評価・課題

行事を通して地域の施設を訪問したり、教会の方を招いたり、また地域の行事にも参加し、交流を持つ。教会とは月一回の連絡会で話し合いを持ち、協力関係を保っている。一時保育・出前保育、子育て講座など地域活動での在宅子育て家庭への支援も認知度が高まり、利用、参加が増加している。

その他

- ・利用者に対するアンケート調査を実施した。

学童クラブ事業部門 （れいめい堀切学童保育クラブ）

事業の評価と今後の課題

今年度は、受け入れ人数の増加があった。製作を含め、運動遊び、各学年ごとの集団活動を多く取り入れることで、子どもたちの気持ちが落ち着いて過ごす様子が見られた。堀切学童保育クラブと宝学童クラブとの交流やイベントを行うことで、子どもたちの輪の広がりが見られた。

今後は、障がい児を含め、気になる子どもの支援を職員・パート職員同士連携をとり行っていく必要がある。また、地域や学校での関わりを多く持ち、子どもたちの育ちを色々な方面から手助けをしていきたい。

クラブ在籍数－学年別、男女別－

学年別	1年生		2年生		3年生		その他		合計	延長保育 (実 利用者数)
	女	男	女	男	女	男	女	男		
4月	16	10	9	8	10	9	0	1	63	7
5月	16	10	9	8	10	9	0	1	63	7
6月	16	10	9	8	10	9	0	1	63	7
7月	16	10	9	8	10	9	0	1	63	7
8月	16	9	9	8	10	9	0	1	62	7
9月	16	9	9	8	10	9	0	1	62	7
10月	16	9	9	8	10	9	0	1	62	7
11月	16	9	9	8	10	9	0	1	62	7

12月	16	9	9	8	10	9	0	1	62	7
1月	16	9	9	8	10	9	0	1	62	7
2月	16	9	9	8	10	9	0	1	62	7
3月	16	9	9	8	10	9	0	1	62	7
合計	192	112	108	96	120	108	0	12	748	84

事業報告

～日常活動～

(一日保育)8:00登所-9:00勉強タイム-10:00自由タイム-12:00昼食-13:00食後のんびりタイム・自由遊び-15:00おやつ・掃除・自由遊び(校庭開放)-17:00帰りの会
室内ではままごと・オセロ・ブロック遊び。庭ではドッジボール・縄跳び。校庭では、一輪車・鬼ごっこなどで遊ぶ。

～延長保育～

18:00～19:00 室内で宿題やおもちゃ遊びで過ごす。

～おやつ～

フルーツやひと手間加えたものを多く提供し、市販の菓子ばかりにならないように配慮した。
手作りおやつでは、季節行事やイベントにちなんだおやつを提供した。

～グループ活動・誕生会等～

誕生会(毎月実施)・ゲーム会・工作・学習などを行う。
生活班グループを作成し、おやつを食べたり、掃除やお祈り当番のグループ活動を行なった。

行事・外出

月	行事名	内容
4月11日	イースター礼拝	ののとはなどのイベント(注)
5月26日	ウェルカムパーティー	学童保育クラブ春のお祭り
6月6日	子どもの日・花の日礼拝	ののとはなどのイベント(注)
6月15日 16日	お泊り合宿	宝学童保育クラブと合同合宿 体育館プログラムを行い保育園に泊まる。
7月25日	警察署による防犯訓練	本田警察署員との訓練
8月1日～ 3日	サマーキャンプ	宝学童保育クラブ・高学年と合同キャンプ キャンプファイヤー・水遊び・製作などを行う。
8月10日	プラネタリウム	郷土と天文の博物館にてプラネタリウム鑑賞。
9月15日	氷川神社祭り	地域町会のイベントへの協力
10月24日	ハロウィンパレード	仮装して地域を回る

11月14日	収穫感謝礼拝	ののほなのイベント（注）
12月16日	クリスマス会	学童保育クラブのクリスマス会
1月25日 26日	お別れ合宿	3年生限定のお別れ合宿

（注）＜ののほな＞礼拝（堀切教会の子どものための教会）の子どもたちとのイベントのこと

その他の活動—個人面談、保護者会、他

4月入所式 5月保護者会 7月キャンプ説明会 9月・10月個人面談 2月新入所児面接
3月新入所児説明会・お別れパーティー 10月保育園運動会に参加 11月保育園おまつり広場に参加
3月卒所児を対象に鍋パーティー&スポーツ大会を実施(10名ほど参加)

学童クラブ事業部門（れいめい宝学童保育クラブ）

事業の評価と今後の課題

今年度は年間を通して入所と退所の変動が激しく、在所児童の特徴も多種多様で、4名の障がい児、6校からの入所、外国籍の児童、アレルギーを持つ児童など保護者も含めて様々な支援、対応を必要とした。職員の専門性や知識の向上が今後の課題である。活動の様子としては、今年度より毎月堀切学童保育クラブとの交流遊びを設けたことで活動の幅・友だちの輪が広がり、キャンプや合宿もスムーズに行なうことができた。今後の課題としては、三年生の人数が少ないので、下級生をリードできるよう促し、自主性を育てていきたい。

クラブ在籍数-学年別、男女別-

学年別	1年生		2年生		3年生		その他		合計	延長保育
	女	男	女	男	女	男	女	男		
4月	7	9	3	4	4	7	1	1	36	3
5月	8	8	3	4	4	6	1	1	35	10
6月	7	8	3	4	4	6	1	1	34	8
7月	9	8	3	4	4	6	1	1	36	9
8月	10	8	4	4	4	6	1	1	38	8
9月	10	8	4	4	4	6	1	1	38	7
10月	9	8	4	4	4	6	1	1	37	6
11月	9	8	4	4	4	6	1	1	37	6
12月	9	7	4	4	4	6	1	1	36	6
1月	10	6	3	4	4	6	1	1	35	6
2月	10	6	3	4	4	6	1	1	35	6
3月	10	6	3	4	3	5	1	1	33	6
合計	108	90	41	48	47	72	12	12	430	81

事業報告

～日常活動～

<一日保育> 8:00登所 9:00学習タイム 10:00自由遊び 12:00昼食 13:00昼食後のんびりタイム 14:00自由遊び(公園や季節の活動)
16:00おやつ 16:30掃除 17:00帰りの会 (学校終了後から同様に保育)

～延長保育～

18:00～19:00 室内で宿題やおもちゃ遊びで過ごす。

～おやつ～

16:00(複数の学校の為、登所時間を考え遅めのおやつ)
手作りのおやつを提供し、様々な食に触れる機会を増やした。また、アレルギー児に配慮した手作りおやつを提供することで、学童保育クラブの子ども達にもアレルギー食のことを考えさせながら行った。職員だけでなく、学童クラブ全体で共有できるきっかけとした。

～グループ活動・誕生日会等～

グループ活動・・・掃除当番、食前・食後のお祈り、帰りの会の挨拶当番
誕生日会・・・人数が少ないこともあり、それぞれの誕生日に誕生会を実施。誕生日の児童に関する『お友達クイズ』を行なった。

～行事・外出～

月日	行事名	内容
5月26日	ウェルカムパーティー	新しい入所児、保護者を受け入れるパーティー
6月15,16日	お泊り合宿	夕食作り、お楽しみ会（スポーツ大会）
8月1, 2, 3日	キャンプ	君津亀山少年自然の家 川あそび、ナイトハイク、ハイキング、キャンプファイヤー、制作
8月23日	縁日ごっこ	子どもたちで企画、お店屋さんとお客さんにわかる
10月24, 25, 26日	ハロウィンパーティー	仮装しお世話になっている地域の方々の所を訪問
12月15日	クリスマス会	学童児の出し物発表
1月26日	3年生お別れ合宿	夕食作り、先頭、お楽しみ会

その他の活動－個人面談、保護者会、他

- *保護者関連 ・ 5月保護者会・7月キャンプ説明会・10月個人面談・2月新入所児面接・3月新入所説明会
- *その他活動 ・ 毎月れいめい堀切学童保育クラブとの交流イベント・10月黎明保育園運動会参加
11月黎明保育園おまつりひろば参加・1月卒所児対象のイベント

施設名 さくら橋コミュニティセンター
記入者 山田 英

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ（本館・言問分室）	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動																																																																																																																
事業の総括	<ul style="list-style-type: none"> 地域での子育て、子育て支援の拠点となるよう、今年度は地域へと出て行く活動を展開、発信をしていった。 「乳幼児とお母さんのつどい」の活動を中心に、在宅で子育てをしているお母さん同士が気軽に日常の中で、情報交換や友達作りができる場を設ける。乳児だけでなく、幼児、父親参加の活動にも目を向け、様々な形の子育て支援プログラムを行った。同時にいつでもほっとして立ち寄れるような居場所作りや環境整備を行った。また、親子で参加できる行事「ファミリーコンサート」などのプログラム作りを心がけ、地域で安心して子育てをしていけるよう支援に努めた。 在宅で育児をしている方の支援プログラムをより多く企画して「仲間とともに楽しい育児」を行った。 「お母さんのための七宝焼教室」は開館以来26年の歴史がある。区が主催する体験講座にはこの七宝焼教室の参加者が、講師として協力している。また、子どもたちへの指導にも関わるなどボランティアや幅広いセンターのプログラム展開につながっていった。 その他現在、子育てをしているお母さん方にも講師をしていただき、体験講座を行って行くことができた。（らくがき会・ままヨガベビーサイン） 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちにとって、家庭に代わる安心・安全な生活の場としての活動を行なった。 ひとり一人に配慮し、寄り添うことで充実した毎日を通せるように、見守り、援助していくよう努めた。 学童クラブの仲間として、ひとつの集団で遊び、友達関係の輪を広げ、生活経験を豊かにするため児童館部門のコミュニティクラブと連携を取った。 保護者の就労を支援していくためのお便り作りや交流活動（キャンプなどをはじめとした地域の方との交流、イベントへの参加） 墨田区学童クラブ条例に基き、家庭にかわる安全で楽しい生活の場としての役割を担った。 言問小学校分室も4年目となり登録希望者は増えてきている。今年度は他の小学校からの児童も受け入れることになった。言問分室は地域の方々の支援が大きいので、それらの人々との関わりを大切に育てて活動を行った。 本館学童クラブは児童館併設、分室は学校内施設のよさを活かして活動を展開した。また両クラブ同士、連携を行い育成の交流の機会を持った。（合同プログラムの実施。） 特別支援学校に通う児童も、区の移動支援を利用してセンターへ来館。放課後を地域の友達と過ごすことができた。 生活不安・心理的不安などにおびやかされている児童に対しては、家庭への配慮（他施設との連携）をきめ細かく行った。 	<ul style="list-style-type: none"> センターのイベントや日常のグループ活動を中心にたくさんの方との友達と知り合い、友達関係を広げ、生活経験を豊かにしていくプログラムを行った。 年齢や学年に応じ子どもたちひとり一人が自分の力を発揮できるような活動を展開し、後半には実行委員会をつくってお祭りをおこなった。 友達と力を合わせて取り組む楽しさを体験するイベントを多く実施した。地域の育成委員会や町会、子ども会などと協力し地域での体験も行った。 生活スキルの向上（クッキング等） 体力増進活動の展開（様々な運動プログラムに挑戦） 保護者の方々と共に子どもたちの居場所づくりに努める。（安心・安全対策を中心とした交流。それに加え、体験事業などの実施の中で学ぶ。） 世界の現実にも目を向けたボランティア活動への取り組みを行った。 児童文化に触れる機会を作り、子どもたちが情操を深める場とした。特に日常の中で職員が読み聞かせを行うなど、遊びの中から大切なことを伝えていった。 身近なエコ活動への取り組み（エコキャップ収集・アルミ缶収集・古切手収集。子どもたちと作業をして取り組んだ） 学習支援への取り組み 地域のボランティアの方々の協力の下、地域活動に参加することで自分たちの住んでいる地域について理解を深めることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 常に中・高校生たちと話し合いの機会を持ち、仲間同士でも、ひとりで来館しても利用できるプログラムを用意した。 活動を通して他者を思いやる気持ちを育てた。スポーツ、学習、遊び、イベントを通して仲間の大切さや関わりを深める場とした。 夜間の利用が主となるため、常に家庭との関わりを密にし、中・高校生たちが充実して過ごせるようなプログラムを展開した。（18：00～21：00） 同じ目的を持った仲間との交流（音楽室活動、体験キャンプ（8月）など） 学習支援活動の時間を設けいつでも学習のできる体制をとった。学習会：火・木曜日 体育館の自由利用（夜間利用名簿あり） 障がい児の受け入れ 子どもまつり、縁日等でブースのお手伝いをする等、ボランティア活動に参加 「音楽室活動」については利用者のOBやOGの専門的な音楽知識・スキルに大変助けられている。26年にわたる公設民営児童館の中高生活動の中で素晴らしいボランティアが育ってきていることは誇りである。 																																																																																																																
	<p>活動・行事報告</p> <p><乳幼児とお母さんのつどい> (10：30～11：30) 0歳児（ばんだ）…毎週金曜日 ※年度後半には低月齢のクラス（こばんだ）も実施 1歳児（うさぎ）…毎週木曜日 2歳児（りす）…毎週火曜日 3歳児（こあら）…毎週月曜日 ※幼稚園2年保育の方の支援クラス <幼児クラス>（14：30～15：30） 3歳児クラス…4歳、5歳児クラス <日常利用> ・幼児室の安全衛生面などの整備に努める。 9：00～18：00の自由利用 ・プレイルーム…広い体育室を利用した活動遊具を準備し、交流の場として開放 水、土の午前中及び午前クラス活動終了後 ・ランチタイム…11：45～13：00 <年間行事>運動会、プレイルンド、よみきかせ、クリスマス会、子育て講座・講演会<その他> ・各機関との連携（保健師、子育て相談員、保健センター、女性センター、民生委員他との交流・意見交換・学習会なども継続していく。 ・子ども服リサイクル 6月 11月実施 ・子育てサークルへの支援 ・ひととき保育（午前中）の実施 *自主事業 1階のトイレ「誰でもトイレ」 ・オストメイト対応、幼児用便座、車椅子対応用便座は利用者にとって必要で設置については好感を持たれている。 *区の子育てマップやバリアフリーマップに掲載し、より区民の方に利用していただくよう環境設定に努めた。 *保育園や幼稚園の子ども達に来てもらい、異年齢児とのふれあいを深めるとともに、下記施設との交流をより深めていった。 小梅保育園（認証保育所）・押上保育園 保育ママ（家庭保育室）・言問幼稚園</p>	<p><定員> *本館（さくら橋コミュニティセンター内） 40名 最大受け入れ枠50名（障害児含む） *分室（言問小学校内） 40名 最大受け入れ枠40名（障害児含む） <対象> 1年～3年（特別な事情がある場合6年迄） <育成時間> 通常 下校時間～17：00 延長 17：00～18：00 学校休業日 8：30～ 4月 入会式 6月 センター合宿 8月 おでかけ 9月 オータムキャンプ 10月 おでかけ 12月 クリスマス会 3月 お別れ会・3年生送る会・ハイキング <日常活動> 公園あそび ・学童クラブレクリエーション 買い物体験 ・誕生日会 ・季節のイベント ・手作りおやつ ・観劇 ・グループ活動 <その他> 保護者との連携 保護者会・個人面接アンケート（区作成）実施 1月実施 *区のイベントへ参加 11月 食育キャンペーン参加 12月 ふれあいフェスティバルにミュージックベルで参加した。（ボランティア講師の方からのお声がけから実現）手話や盲導犬体験も参加させていただいた。</p>	<p><利用時間>下校時（9:00～）18:00まで *グループ活動 <低学年コミュニティクラブ 1年生～3年生> ・学年別の定例活動 週1回 期ごと ・毎週 火、木、金曜日 ・内容：スポーツ、手作り、生活技術体験、野外活動、ハイキング、キャンプ他 <高学年コミュニティクラブ 4年生～6年生> ・学年を越えての活動 ・週2回程度 水、土曜日 ・内容：スポーツ、レクリエーション、おかしづくり、イベントへの準備、ボランティア活動、学習、野外活動キャンプ、ハイキング 映画鑑賞、講座（しゃべり場）等 ・地域の福祉施設との交流 ・法人内児童館との交流イベント 自由利用 <日常プログラム> ・スポーツ活動・設定スポーツ、自由遊び ・文化活動・・・映画、工作、手芸、うた、よみきかせ、おかしづくり、料理、伝承遊び 他 自分自身を見つめる機会や創造力を養う体験をする。 ・レクリエーション ・体力増進活動 子どもたちの成長に合わせた交流プログラムや体力増進の活動をおこなう。 <クオレ>（ショートステイ事業）の実施 *自主事業 ・在宅で子育てをしている家庭への支援として（小1～小6まで） <年間行事>こどもの日フェスタ、えんにち、ハイキング、キャンプ、クリスマス、コミュニティ（ポイント）ラリー、ひろば（子どもまつり）、田植え・稲刈体験 その他：地域のお祭り、各町会の集まり ほか 墨田区育成委員会との共催事業 *東京芸術大学とのワークショップ(10月)…作品を商店街に飾るなど盛大に行われた。</p>	<p><利用時間> 下校時（9：00～） 月、水、金曜日 19：00 火、木、土曜日 21：00 日曜日、祝祭日 19：00 <中学生コミュニティクラブ> <高校生コミュニティクラブ> ・体育館を利用してのスポーツ活動 設定スポーツ、他館とのスポーツ交流 ・文化活動 ・ボランティア活動 ・学習会 火、木曜日 19：00～20：00 ・中高生タイム 18：00～19：00・21：00 ・イベント ・体験学習キャンプ「ワークキャンプ」実施 <音楽室活動> ・バンド活動 音楽室の利用者会議、機材の整備 コンサート（12月・3月） 2回実施 <ボランティア登録> ・センター行事のお手伝い ・プログラムの計画、実施を行う ※現在では中学生から中高年までの幅広い登録がある 区にて募集「夏ボランティア」も参加 <学校との連携> 中学生実習、奉仕活動 高校生実習、奉仕活動 大学・保育、教育専門学校実習受け入れ 区役所 夏ボランティア ほか</p>																																																																																																																
登録者・来館者	<p>（登録数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児A</td> <td>41組</td> </tr> <tr> <td>0歳児B</td> <td>97組</td> </tr> <tr> <td>1歳児</td> <td>89組</td> </tr> <tr> <td>2歳児</td> <td>73組</td> </tr> <tr> <td>3歳児A</td> <td>9組</td> </tr> <tr> <td>3歳児B</td> <td>35組</td> </tr> <tr> <td>4歳児</td> <td>34組</td> </tr> <tr> <td>5歳児</td> <td>30組</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>408組</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	計	0歳児A	41組	0歳児B	97組	1歳児	89組	2歳児	73組	3歳児A	9組	3歳児B	35組	4歳児	34組	5歳児	30組	計	408組	<p>（在籍児数）学童クラブ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>本館</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> <th>分室</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>17</td> <td>1年生</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>21</td> <td>2年生</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>13</td> <td>3年生</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4年生</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>5年生</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>6年生</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>27</td> <td>26</td> <td>53</td> <td>計</td> <td>20</td> <td>12</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table>	本館	男	女	計	分室	男	女	計	1年生	8	9	17	1年生	7	3	10	2年生	12	9	21	2年生	10	4	14	3年生	6	7	13	3年生	2	5	7	4年生	0	0	0	4年生	1	0	1	5年生	0	0	0	5年生	0	0	0	6年生	1	1	2	6年生	0	0	0	計	27	26	53	計	20	12	32	<p>（2012年度来館者数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>4,424</td> <td>3,787</td> <td>8,211</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>16,966</td> <td>10,301</td> <td>27,267</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>2,685</td> <td>833</td> <td>3,518</td> </tr> <tr> <td>高校生</td> <td>923</td> <td>456</td> <td>1,379</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>1,856</td> <td>12,429</td> <td>14,285</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>26,854</td> <td>27,806</td> <td>54,660</td> </tr> </tbody> </table> <p>※開館日数 347日 ※1日平均 157.5人</p>		男	女	計	乳幼児	4,424	3,787	8,211	小学生	16,966	10,301	27,267	中学生	2,685	833	3,518	高校生	923	456	1,379	一般	1,856	12,429	14,285	計	26,854	27,806	54,660	<p>（その他の事業、特記事項） 児童館ブロック ・1年生歓迎会 39名 ・1年生合宿 36名 ・高学年サマーキャンプ 28名 ・2、3年生サマーキャンプ 26名 ・墨田交流ドッジボール大会 25名 ・墨田区合同ドッジボール大会 63名 ・体験学習キャンプ参加 1名 （さくら橋からの参加者1名、参加者合計28名） ・さくら橋コミュニティセンター運営協議会 2回</p>
クラス名	計																																																																																																																			
0歳児A	41組																																																																																																																			
0歳児B	97組																																																																																																																			
1歳児	89組																																																																																																																			
2歳児	73組																																																																																																																			
3歳児A	9組																																																																																																																			
3歳児B	35組																																																																																																																			
4歳児	34組																																																																																																																			
5歳児	30組																																																																																																																			
計	408組																																																																																																																			
本館	男	女	計	分室	男	女	計																																																																																																													
1年生	8	9	17	1年生	7	3	10																																																																																																													
2年生	12	9	21	2年生	10	4	14																																																																																																													
3年生	6	7	13	3年生	2	5	7																																																																																																													
4年生	0	0	0	4年生	1	0	1																																																																																																													
5年生	0	0	0	5年生	0	0	0																																																																																																													
6年生	1	1	2	6年生	0	0	0																																																																																																													
計	27	26	53	計	20	12	32																																																																																																													
	男	女	計																																																																																																																	
乳幼児	4,424	3,787	8,211																																																																																																																	
小学生	16,966	10,301	27,267																																																																																																																	
中学生	2,685	833	3,518																																																																																																																	
高校生	923	456	1,379																																																																																																																	
一般	1,856	12,429	14,285																																																																																																																	
計	26,854	27,806	54,660																																																																																																																	

2012（平成24）年度 雲柱社 児童館ブロック 事業報告

施設名 墨田児童会館
記入者 山口 修

児童館ブロック

墨田（指定管理）

	子育て支援活動・幼稚園児活動	学童クラブ（本館・二寺分室・隅田分室・梅若分室 計4学童）	小学生活動	中・高校生活動	コミュニティ事業・自然体験事業																																																																																										
事業の総括	1 0～3歳児（未就園）クラスは、子育て支援、幼稚園児は子どもの活動に目的を設定。 2 乳幼児一時預かり事業を行なった。自主事業。（原則、1日最大2名、午前中、月～金） 3 行事ごとのモニタリングを実施。モニタリングの結果、3F幼児室が不評であり、整備が必要。	1 安全な育成と放課後の生活のために ①カミング30※の指導（※30回噛んで食べる） ②交通安全、防犯指導 の実施 2 4学童共催行事の実施。 3 各学童クラブごとだけでなく、4学童クラブ合同でも、父母の交流機会を設けた。	1 体育室の利用者数の増加は上限に達した。 2 月例プログラムは、ほとんどをボランティア、講師により行った。 3 墨田区の取り組みに合わせて、フットサル、食育のプログラムを行った。	1 利用者数は堅実に伸びた。 2 音楽室活動（バンド活動支援）は、慢性的に利用が少ない。	1 地域のサークルへの協力 2 募金、支援活動 3 自然体験 4 全館事業 5 食育事業																																																																																										
活動・行事報告	1 プレイルーム（体育室開放）：乳幼児向けに体育室を開放した。週3回。 2 年齢別プログラム：保護者相互のつながりを重視して活動した。 3 区の保健師、子育て相談員等による相談活動がクラス活動の中で行われた。 4 1F乳児室、3Fサンルーム（幼児室）の開放。 5 子育て講座 ①ボール遊びワークショップ（23名）※1 ②絵具遊びワークショップ（13名）※1 ③応急救護講座（17名） 6 主な行事等：4月子ども服りサイクル（48名）、7月水遊び（39名）、8月フィンガーペインティングワークショップ（62名）、乳幼児映画会（37名）、水遊び33名、どろんこ遊び17名、9月子ども服りサイクル（76名）、10月ファミリーデイ（総勢195名）、11月子ども服りサイクル（80名）、3月スマイルキッズデー（総勢120名） ※2 7 一時預かり：登録29名、利用者59名 8 木下保育園共催行事 出前保育3回（大人59名、子ども70名） ※1木下保育園共催行事（再掲） ※2参加者数は、親向け行事の場合保護者の数、子ども向けの場合は子どもの数、保護者子ども両方は総勢と記載	活動内容 1 手作りおやつ：職員が作る、子ども自身で作る手作りおやつ、買物体験、誕生会等 ※「その他・特記事項」②参照 2 主な活動：レクタイム、学年タイム ※屋外、館庭、校庭あそびの部随時実施 3 主な行事等 [4月] 入会式、[5月] 4学童合同プログラム①（49名）、[6月] 本館梅若合同合宿（51名）、二寺隅田合同合宿（47名）、[7-8月] 4学童合同プログラム②（80名）、昼食会-父母会主催各学童4回 [9月] 4学童合同キャンプ（130名）、[2月] 4学童合同プログラム③（49名）、 [3月] 隅田合宿（35名）、梅若遠足（35名）、本館遠足（65名） 4 保護者会 5、7、12、3月の4回実施 内容：日程確認、学校休校時の過ごし方、育成の様子、懇談	1 主な行事：[4月] 1年生歓迎会（63名） [5月] 低学年フットボールミニハイク（36名）、遊び塾ミニハイク（11名） [6月] 2～6年生合宿34名 [7月] [8月] 将棋交流戦（20名）、映画会「戦争を知らない子どもたちへ」（128名）、[11月] 交流フェスタ（33名）、1年生合宿（25名）遊び塾ハイキング（7名）、[12月] クリスマス会（421名） [1月] 墨田区ドッジボール大会（45名） [2月] 将棋交流戦（17名）、[3月] 1～3年生ハイク（25名）、墨田区ドッジボール大会決勝（31名）ファミリー&コミュニティフットボール大会（27名） 2 月例プログラム：工作、手芸、映画会、読み聞かせ、スポーツ大会、ダンス 3 フットボールクラブ事業 ・フットボールクラブ 1年生 37回 614名 ・フットボールクラブ 2・3年生 32回 585名 ・すみだ遊び塾 38回 295名 4 各種クラブ事業 ・お料理クラブ 低学年 8回 150名 ・お料理クラブ 高学年 8回 136名 ・ドッジボールクラブ 40回 1,703名 ・将棋教室（中根指導師範）18回 308名 ・囲碁教室（市村幸久先生）18回 119名 ・フットサルクラブ 33回 1,429名（館外活動3回） 5 体育室事業 ・設定スポーツ 232回 4,632名 ・スポーツ大会 12回 299名 6 体力増進活動 20回 293名 7 図書事業 ・貸し出し 286名 470冊 ・貸し出し促進キャンペーン 2回	1 中高生タイム ・月～金曜日 18：00～19：00 ・土、日、祝日 17：00～19：00 音楽室活動 ・利用者会議 12回 36名 ・スタジオ利用 393回 1,008名 ・ライブ 3回 90名 3 体験学習キャンプ（雲柱社合同行事）1名	1 地域のサークルへの協力 ・母親コーラス、母親卓球（3グループ）、母親バドミントン ・墨田区母親卓球大会 2 募金、支援活動 A:「赤い羽根共同募金」鐘ヶ淵駅前 B: 一般行事での募金「WFP 国連食糧計画」 C: GGN活動への参加 3 自然体験事業 ・サマーキャンプ 学年別に3回（計56名） ・雪国体験ウィンターキャンプ（23名） 4 全館事業 [5月] こどもの日スペシャル、（199名） [7月] 夏祭り（762名）、[11月] やきいも会（365名） [1月] もちつき会（中止） 5 他 A: 食育事業 ・米作り体験（3回、延べ72名） ・すみだ農園 トマトの苗配布 16名 ・すみだ農園 トマトジャムづくり 8名																																																																																										
登録者・来館者	（登録数） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>クラス名</th> <th>曜日</th> <th>登録数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳 低月齢</td> <td>赤ちゃんばんだ</td> <td>金 AM</td> <td>58組</td> </tr> <tr> <td>0歳 高月齢</td> <td>ばんだ</td> <td>金 AM</td> <td>68組</td> </tr> <tr> <td>1歳</td> <td>うさぎA、B</td> <td>火 AM</td> <td>60組</td> </tr> <tr> <td>2歳</td> <td>こあら</td> <td>木 AM</td> <td>57組</td> </tr> <tr> <td>3歳</td> <td>とら</td> <td>木 PM</td> <td>5組</td> </tr> <tr> <td>3歳</td> <td>らいおん</td> <td>木 PM</td> <td>30組</td> </tr> <tr> <td>4・5歳</td> <td>ぞう</td> <td>火 PM</td> <td>33組</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td>311組</td> </tr> </tbody> </table>	年齢	クラス名	曜日	登録数	0歳 低月齢	赤ちゃんばんだ	金 AM	58組	0歳 高月齢	ばんだ	金 AM	68組	1歳	うさぎA、B	火 AM	60組	2歳	こあら	木 AM	57組	3歳	とら	木 PM	5組	3歳	らいおん	木 PM	30組	4・5歳	ぞう	火 PM	33組	計			311組	（学童在籍児数）※最多時 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>場所</th> <th>定数</th> <th>在籍</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">墨田児童会館第1・第2</td> <td>墨田児童会館内</td> <td>第1 70名 第2 30名</td> <td>120名</td> </tr> <tr> <td>第二寺島小学校</td> <td>60名</td> <td>58名</td> </tr> <tr> <td>隅田分室</td> <td>隅田小学校</td> <td>60名</td> <td>60名</td> </tr> <tr> <td>梅若分室</td> <td>梅若小学校</td> <td>40名</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>260名</td> <td>278名</td> </tr> </tbody> </table>		場所	定数	在籍	墨田児童会館第1・第2	墨田児童会館内	第1 70名 第2 30名	120名	第二寺島小学校	60名	58名	隅田分室	隅田小学校	60名	60名	梅若分室	梅若小学校	40名	40名	計		260名	278名	（2012年度来館者数） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>6,271</td> <td>6,662</td> <td>12,933</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>26,536</td> <td>15,167</td> <td>41,703</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td>7,253</td> <td>1,774</td> <td>9,027</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>2,121</td> <td>14,154</td> <td>16,275</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>42,181</td> <td>37,757</td> <td>79,938</td> </tr> <tr> <td>※開館日数</td> <td>348日</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>※1日平均</td> <td>229人</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	乳幼児	6,271	6,662	12,933	小学生	26,536	15,167	41,703	中・高校生	7,253	1,774	9,027	一般	2,121	14,154	16,275	計	42,181	37,757	79,938	※開館日数	348日			※1日平均	229人			その他・特記事項 ①改修工事 1 F男子トイレ 小便器上水排水管の引き直し（内部配管の劣化により露出配管への変更） ②11月より、ノロウイルス等の感染症と食中毒防止のため、館内での調理が行政の指導により中断された。（年度終了まで）
年齢	クラス名	曜日	登録数																																																																																												
0歳 低月齢	赤ちゃんばんだ	金 AM	58組																																																																																												
0歳 高月齢	ばんだ	金 AM	68組																																																																																												
1歳	うさぎA、B	火 AM	60組																																																																																												
2歳	こあら	木 AM	57組																																																																																												
3歳	とら	木 PM	5組																																																																																												
3歳	らいおん	木 PM	30組																																																																																												
4・5歳	ぞう	火 PM	33組																																																																																												
計			311組																																																																																												
	場所	定数	在籍																																																																																												
墨田児童会館第1・第2	墨田児童会館内	第1 70名 第2 30名	120名																																																																																												
	第二寺島小学校	60名	58名																																																																																												
隅田分室	隅田小学校	60名	60名																																																																																												
梅若分室	梅若小学校	40名	40名																																																																																												
計		260名	278名																																																																																												
	男	女	計																																																																																												
乳幼児	6,271	6,662	12,933																																																																																												
小学生	26,536	15,167	41,703																																																																																												
中・高校生	7,253	1,774	9,027																																																																																												
一般	2,121	14,154	16,275																																																																																												
計	42,181	37,757	79,938																																																																																												
※開館日数	348日																																																																																														
※1日平均	229人																																																																																														

2012（平成24）年度 雲柱社 児童館ブロック 事業報告

施設名 文花児童館
記入者 野口 啓子

	子育て支援活動	学童クラブ（本館・押上分室）	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																																			
事業の総括	<p>0歳児は登録人数が大幅に増えたため、毎回乳児（ばんだクラス）の参加数が多くなり、安全面では特に配慮を行った。次年度も環境設定を考慮していく必要がある。</p> <p>ちびっこミュージックは地域のニーズが高く、2期より週2回（木・金）実施した。</p> <p>3階乳幼児室の玩具の使い方に目配りをする必要があるため、次年度は部屋の使い方・玩具の使い方等を利用者に伝えていくようにしていきたい。</p> <p>アンケートを実施し、要望を含めた様々な意見を頂いたため、次年度の活動に活かしていきたい。</p>	<p>本館学童クラブは、前半に、心と身体のパランスが健全に成長できるような一人ひとりと関わる時間を多く持てるようにし、障がい児対応・異年齢の交流に重点を置いて育成を行った。後半は、信頼関係も深まり、充実した育成ができた。</p> <p>押上分室では上級生の課題が多くあった為、一つひとつ丁寧に対応することを心がけて育成を行っていった。3年生がリーダーシップをとって集団形成が高まっていくような働きかけを多く行い、行事の時に成果が発揮出来るようになってきた。</p>	<p>小学生の定例活動の人数が増えず、毎回少人数の参加者であったが、子どもたち一人ひとりにとっては、自分でやりたい事を思い切り活動出来た為に、満足な様子であった。次年度は、子どもたちが目標を持ち、活動内容が見えるようなクラブ活動を展開していきたい。</p> <p>交流将棋大会（年2回）は、参加館も少しずつ増え、参加者も増えてきたが、会場等で課題がある為、考慮していきたい。</p> <p>今年度は、小学生女児の来館が少なかった。女児だけのスポーツタイム等で、来館しやすくなるプログラムを行い、徐々に効果がみられているので、次年度も来館数が伸びるような活動を展開していきたい。</p>	<p>今年度は、中学3年生の来館が多かったため、高校進学に向けて、学習面・精神面での対応を多く行った。日中は、夜間の定時制高校に通う高校生の対応も行った。</p> <p>定例活動を計画しても、参加者が少なかった為、中学生の意見を尊重した活動になるように心掛けた。</p> <p>学習会は人気がある為、次年度も自分からすすんで学習会に参加していけるような働きかけを多くしていきたい。</p> <p>生活態度等で問題がある子には、子育て支援総合センターとケース会議等で連携を取り合っって対応を行った。</p>	<p>地域交流として食育 good ネット、すみだ農園、カゴメ株式会社等の協力を得て食育活動を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマト苗配布 26組 ・ジャム作り 46人 <p>地域ふれあいクッキングとして地域の人が講師となって実施（7回） 199人</p> <p>地域の高齢者対象クッキング</p> <ul style="list-style-type: none"> 「秋刀魚の日」 32人 <p>子育て相談（面接） 60件</p>																																																																																			
活動・行事報告	<p>乳幼児クラス、ちびっこミュージック（毎週1回） ※下記表参照</p> <p>子育て講座 6講座6回実施 計126組</p> <p>子ども服リサイクル 2回実施 計127組</p> <p>乳幼児運動会 121名</p> <p>クリスマス会（乳児） 80組</p> <p>クリスマス会（幼児） 52組</p> <p>※各クラスで実施</p>	<p>本館「秋の宿泊体験」 27名</p> <p>分室合宿 26名</p> <p>分室クリスマス会 19名</p> <p>本館クリスマス会（ノロウイルスの為、中止）</p> <p>本館お楽しみ会 37名</p> <p>本館分室合同遠足 58名</p> <p>本館分室合同お別れ遠足（雨天の為 中止）</p> <p>本館分室合同お別れ会 59名</p> <p>分室遠足1回</p> <p>分室・本館〈日常活動〉</p> <p>スポーツタイム、戸外遊び、工作タイム、手芸タイム 等</p>	<p>1、2年生定例活動（毎週1回）</p> <p>3年生定例活動（毎週1回）</p> <p>4～6年生定例活動（毎週1回）</p> <p>スポーツ大会（毎月1回）</p> <p>体力増進活動（毎週1回）</p> <p>ドッジボールクラブ（毎週1回）</p> <p>トランポリン（毎月1回）</p> <p>将棋教室（毎月1回）</p> <p>折り紙で遊ぼう（年5回）</p> <p>手作り教室（毎月1回）</p> <p>小学生学習会（毎週1回）</p> <p>体育室プログラム（毎週3回）</p> <p>小学生合宿（高学年） 1回 24名</p> <p>小学生クリスマス会 107名</p>	<p>中高生学習会</p> <p>英語・算数・数学（毎週1回）</p> <p>中高生スポーツ大会（年2回）</p> <p>中高生クッキング（年2回）</p> <p>中高生合宿 1回 10名</p> <p>中高生クリスマス会 1回 12名</p> <p>中高生体験学習キャンプ 1回 3名</p> <p>中高生 新1年生歓迎会 1回 20名</p>	<p>全館共通行事等</p> <ul style="list-style-type: none"> こどもの日スペシャル 240名 パークランドフェスティバル 1142名 やきいも会 401名 冬まつり キッズニア in 文花 37名 食育活動（年2回） 72名 夕涼み映画会 73名 																																																																																			
登録者・来館者	<p>（登録数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>72</td> <td>60</td> <td>132</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td>24</td> <td>21</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>2,3歳児クラス</td> <td>20</td> <td>28</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>ちびっこミュージック</td> <td>27</td> <td>33</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>143</td> <td>142</td> <td>285</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス	72	60	132	1歳児クラス	24	21	45	2,3歳児クラス	20	28	48	ちびっこミュージック	27	33	60				0	計	143	142	285	<p>（在籍児数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>28</td> <td>13</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>20</td> <td>11</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>28</td> <td>6</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>78</td> <td>31</td> <td>109</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	28	13	41	2年生	20	11	31	3年生	28	6	34	4年生	0	1	1	5年生	1	0	1	6年生	1	0	1	計	78	31	109	<p>（2012年度来館者数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>3,138</td> <td>3,468</td> <td>6,606</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>17,014</td> <td>9,074</td> <td>26,088</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td>6,868</td> <td>1,671</td> <td>8,539</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>2,739</td> <td>15,208</td> <td>17,947</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>29,759</td> <td>29,421</td> <td>59,180</td> </tr> </tbody> </table> <p>※開館日数 347日</p> <p>※1日平均 170.5人</p>		男	女	計	乳幼児	3,138	3,468	6,606	小学生	17,014	9,074	26,088	中・高校生	6,868	1,671	8,539	一般	2,739	15,208	17,947	計	29,759	29,421	59,180	<p>（その他の事業、特記事項）</p> <p>新一年生歓迎会 70名</p> <p>墨田区児童館対抗ドッジボール大会参加 38名</p> <p>児童館ブロック 交流フェスタ参加 24名、ドッジフェスタ参加 25名</p> <p>2～6年生キャンプ 30名</p> <p>雪国体験ウインターキャンプ 13名</p> <p>将棋交流戦（年2回） 11名</p> <p>児童館運営協議会 2回（9月、3月）を開催。地域関係者、他諸施設の方々から貴重な意見をいただくことができた。</p>
クラス名	男	女	計																																																																																					
0歳児クラス	72	60	132																																																																																					
1歳児クラス	24	21	45																																																																																					
2,3歳児クラス	20	28	48																																																																																					
ちびっこミュージック	27	33	60																																																																																					
			0																																																																																					
計	143	142	285																																																																																					
	男	女	計																																																																																					
1年生	28	13	41																																																																																					
2年生	20	11	31																																																																																					
3年生	28	6	34																																																																																					
4年生	0	1	1																																																																																					
5年生	1	0	1																																																																																					
6年生	1	0	1																																																																																					
計	78	31	109																																																																																					
	男	女	計																																																																																					
乳幼児	3,138	3,468	6,606																																																																																					
小学生	17,014	9,074	26,088																																																																																					
中・高校生	6,868	1,671	8,539																																																																																					
一般	2,739	15,208	17,947																																																																																					
計	29,759	29,421	59,180																																																																																					

2012（平成24）年度 雲柱社 児童館ブロック 事業報告

施設名 外手児童館
記入者 相澤 佐和子

	子育て支援活動	学童クラブ（本館・分室・業平分室）	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																																															
事業の総括	<p>今年度は0歳児、1歳児の参加が3ケタを超えた。外手児童館独自のすくすく計測をはじめ、各活動が定着してきた様子が伺える。ただハード（建物の狭さ）面の問題が毎回生じる。このため幼児活動の人数にある程度上限を設ける必要がでてきたと思われる。小学生が来館するまでの間、出来るだけ幼児のために解放できるよう、次年度に向けての一つの課題と考える。</p>	<p>2012年度も、昨年同様おやつや玩具等への検討を3学童共通で行う事に重点を置き、特におやつに関しては食育の観点から献立表を月の案内に掲載し、腹もちする物、安全な物、季節の物などを組み合わせ、子どもたちにとって楽しいおやつを心がけ、保護者の理解も得るように努めた。後半ノロウイルス等によりおやつの制限が生じた為、手作りが出来なかった事はとても残念である。3学童クラブ合同行事として1年生の児童館合宿、2、3年草ぶえの丘宿泊を実施し交流を深めることができた。業平分室は新たに部屋が増えて、落ち着いた様子であった。</p>	<p>文化事業（木工、スピードスタックス、将棋等）が少しずつ定着してきた。また、区・法人主催のドッジボール大会も毎年楽しみにしている児童が多く見られた。毎年正月恒例の七福神めぐりも担当職員のアイデアで例年以上のものとなった。野外活動も高学年は千葉県（清水公園）から新潟県（清津峡）に場所を変えて、川遊びや釣り、ナイトハイクなど新鮮味の高いキャンプとなった。組織活動も充実し、夏祭りやクリスマス、そしてウインターフェスティバルなど運営等に力を注いできた。</p>	<p>スポーツ大会を職員も全員参加の形で、外手小学校の体育館や校庭で行う事が定着してきた。また障がい児の受け入れも定着してきた。一般来館の児童も3月に急激に増加した。大学生以上は就職したメンバーが増えて、以前のような集まりが徐々に少なく困難になってきた。障がい児の受け入れは、特に学校の長期休業日の利用が多く、事務室を中心に居場所を提供した。</p>	<p>夏祭りでは、小学生の組織活動メンバーを中心に、児童館に関わる団体や学童クラブの保護者等の協力によって運営する事が出来た。都民の日スペシャルでは、恒例の東武線浅草駅前での赤い羽根の街頭募金を行った（4名）。昨年同様クリスマス会は外手小学校の体育館を借りて合同で行った。お母さんコーラスや児童館フレンドリークラブや各各堂クラブの出し物、職員も合唱で参加したりと幅広い年齢層が楽しめる会となった。またもちつき、芋煮会との参加数が大幅に増加した。</p>																																																																																															
活動・行事報告	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児クラス合計35回延べ1,066組参加 ・1歳児クラス合計36回延べ1,122組参加 ・2歳児クラス合計34回延べ942組参加 ・3歳児クラス合計19回延べ561組参加 ・4歳児クラス合計17回延べ156組参加 ・5歳児クラス合計18回延べ208組参加（工作・運動あそび・おでかけ・クッキング等） ・出前保育合計7回延べ322組参加（映画会・西瓜割り・ミニえんにち・工作等） ・お母さん向けイベント合計9回74名参加（スポーツ大会・手芸・お菓子作り・昼食会・映画会等） ・プレイルーム37回384名、すくすく計測11回124組、マタニティ10回1人、一時保育延べ187人、水遊び61名、夕涼み映画会14名、ベビープレイルーム36名、おはなし会24名お母さんリフレッシュ92名、幼児お楽しみ会94名 	<ul style="list-style-type: none"> ・本館（定員60）合計70 内障がい児4 1年男19女16、2年男13女10 3年男5女5、4年男1女0 6年男1 ・分室（定員40）合計40 内障がい児1 1年男19女10、2年男1女6 3年男2女1、4年女1 ・業平（定員40）合計48 内障がい児9 1年男12女9、2年男5女6 3年男3女9、4年女3、5年生女1 ・誕生日会、買い物おやつ、手作りおやつ、おでかけ（プラネタリウム・防災館・アスレチック、草ぶえの丘（2、3年）、どじょうすくい、夏祭り、クリスマス 	<p>組織活動～子どもたちを学年層でグループ化して活動～ 遊ぶ・学ぶ・ボランティアを中心に行った。 ・子ども会議（月1回）高学年のみ、・スポーツ・工作、・お菓子作り、・クッキング、・映画会、・考えよう（低学年）、・公園清掃、・夏祭り、クリスマス、・ミニ緑日の装飾運営（3年生以上）、・おでかけ等、・小学生合宿17名 低学年1年男31女35、2年男22女28、3年男113女16 高学年4年男6女2、5年男4女8、6年男15女2 ・一般参加 ダンス20回228名 ・スポーツ大会（12回341名）、手芸（7回69名）、手作り（7回75名）、映画会（107回2172名）、読み聞かせの会（51回410名）等、 ・学習会32回460名、七福神巡り8名、合宿31名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生定例会9回19名 ・高校生定例会9回13名 ・軟式野球大会（4回32名） ・サッカー大会映画会 ・クッキング ・館内スポーツ大会10回72名 ・館内合宿1回14名 ・クリスマス会10名 ・体験学習キャンプ3名 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児おでかけ32名・高学年キャンプ17名 ・こどもの日スペシャル89名 ・都民の日スペシャル135名 ・夏祭り605名・クリスマス366名 ・芋煮会228名 ・ウインターフェスティバル292名 ・赤い羽根街頭募金4名 ・ドッジフェスタ37名 ・幼児運動会81名・小学生合同ハイク19名 ・交流フェスタ15名・合同ドッジ52名・田植体験19名・高学年合宿18名 ・体験学習キャンプ3名・稲刈り体験18名 ・幼児ハロウィンパーティー184名 ・交流フェスタ12名 ・「お母さんコーラス」とのお茶会12回84名 ・幼児ハロウィン128名 																																																																																															
登録者・来館者	<p>（登録数）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0歳児クラス</td><td>51</td><td>49</td><td>100</td></tr> <tr><td>1歳児クラス</td><td>52</td><td>50</td><td>102</td></tr> <tr><td>2歳児クラス</td><td>34</td><td>36</td><td>70</td></tr> <tr><td>3歳児クラス</td><td>22</td><td>34</td><td>56</td></tr> <tr><td>4歳児クラス</td><td>14</td><td>17</td><td>31</td></tr> <tr><td>5歳児クラス</td><td>12</td><td>26</td><td>38</td></tr> <tr><td>計</td><td>185</td><td>212</td><td>397</td></tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス	51	49	100	1歳児クラス	52	50	102	2歳児クラス	34	36	70	3歳児クラス	22	34	56	4歳児クラス	14	17	31	5歳児クラス	12	26	38	計	185	212	397	<p>（在籍児数）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1年生</td><td>50</td><td>35</td><td>85</td></tr> <tr><td>2年生</td><td>19</td><td>22</td><td>41</td></tr> <tr><td>3年生</td><td>10</td><td>15</td><td>25</td></tr> <tr><td>4年生</td><td>1</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>5年生</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>6年生</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr><td>計</td><td>81</td><td>77</td><td>158</td></tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	50	35	85	2年生	19	22	41	3年生	10	15	25	4年生	1	4	5	5年生	0	1	1	6年生	1	0	1	計	81	77	158	<p>（2012年度来館者数）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>乳幼児</td><td>3,127</td><td>3,369</td><td>6,496</td></tr> <tr><td>小学生</td><td>16,393</td><td>14,365</td><td>30,758</td></tr> <tr><td>中・高校生</td><td>2,078</td><td>761</td><td>2,839</td></tr> <tr><td>一般</td><td>2,557</td><td>10,014</td><td>12,571</td></tr> <tr><td>計</td><td>24,155</td><td>28,509</td><td>52,664</td></tr> <tr><td>※開館日数</td><td>348</td><td>日</td><td></td></tr> <tr><td>※1日平均</td><td>151</td><td>人</td><td></td></tr> </tbody> </table>		男	女	計	乳幼児	3,127	3,369	6,496	小学生	16,393	14,365	30,758	中・高校生	2,078	761	2,839	一般	2,557	10,014	12,571	計	24,155	28,509	52,664	※開館日数	348	日		※1日平均	151	人		<p>（その他の事業、特記事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出前保育（光の園保育学校との共催）・お母さん向けリフレッシュ企画・実施（乳幼児保護者） ○外手小連合子供会祭り、外手小PTAお祭り「モーニングフィーバー」に参加 ○学童クラブ児童についてのケース会議 ○業平分室資料室借用（24年度定員10名増加） ○運営協議会 年1回（10/24）開催 ○緊急時の際（不審者対応等）のメール配信サービス開始 システムを作り、緊急時に保護者（希望者のみ）へ一斉メール配信を行う。2013年1月より開始 ○防災訓練 4/16、5/15、8/13、9/10、12/13、1/16、1/30、3/11に実施し、8月は本所防災館へ、1月は本所消防署東駒形出張所署員の立会いで訓練を行った。また避難経路の安全再確認を行った。
クラス名	男	女	計																																																																																																	
0歳児クラス	51	49	100																																																																																																	
1歳児クラス	52	50	102																																																																																																	
2歳児クラス	34	36	70																																																																																																	
3歳児クラス	22	34	56																																																																																																	
4歳児クラス	14	17	31																																																																																																	
5歳児クラス	12	26	38																																																																																																	
計	185	212	397																																																																																																	
	男	女	計																																																																																																	
1年生	50	35	85																																																																																																	
2年生	19	22	41																																																																																																	
3年生	10	15	25																																																																																																	
4年生	1	4	5																																																																																																	
5年生	0	1	1																																																																																																	
6年生	1	0	1																																																																																																	
計	81	77	158																																																																																																	
	男	女	計																																																																																																	
乳幼児	3,127	3,369	6,496																																																																																																	
小学生	16,393	14,365	30,758																																																																																																	
中・高校生	2,078	761	2,839																																																																																																	
一般	2,557	10,014	12,571																																																																																																	
計	24,155	28,509	52,664																																																																																																	
※開館日数	348	日																																																																																																		
※1日平均	151	人																																																																																																		

児童館ブロック 外手（指定管理）

2012 (平成24) 年度 雲柱社 児童館ブロック 事業報告

施設名 江東橋児童館
記入者 片渕 淳子

児童館ブロック

江東橋 (指定管理)

	子育て支援活動	学童クラブ (本館・菊川分室)	小学生活動	中・高校生活動	コミュニティ事業・自然体験事業																																																																																																																								
事業の総括	1 0～3歳児 (未就園) クラスは、3クラスに分けて実施。その他、児童館の特色を活かした音楽のクラスを2クラス実施した。 2 0歳児クラスを年度途中から低月齢と高月齢の2クラスに分け、利用者のニーズの充足を図った。	1 両学童とも新体制のため、安心・安全を目指し、基盤作りに留意した。 2 児童館との行事の協同により、プログラムの幅の拡大に努めた。 3 学校との連携を積極的に行った。	1 各フロアの活性化を図った。特に体育室では、鬼ごっこのバージョンに変化を付けたり、運動を楽しく行えるよう新しいスポーツを導入したり力を入れた。 2 月間プログラムの充実を図った。新しいものも加え、内容の充実と館外活動も取り入れた。 3 年間プログラムでは、既存のものも活かしながら新しいプログラムを取り入れた。	1 近隣中学校にチラシの配布をお願いしたが、効果はなく、新規の来館者には繋がらなかった。 2 常連メンバーではあったが、細々とでも多様なプログラムを提供した。	1 母親コーラス (会場提供、交流会等の実施) 2 母親卓球 (会場提供と協力) 3 クリーンキャンペーンへの参加 (江東橋一丁目地域行事) 4 お祭りに行こう! (江東橋一丁目の夏祭りに、乳幼児から小学生までの子どもが参加し、地域とのコミュニケーションを図ると共に、文化に親しむ)																																																																																																																								
活動・行事報告	1 チャイルドパーク (体育室開放) : 週2回実施。遊具の見直しを年度途中で行った。 2 年齢別プログラム : 各クラスの特色を活かした事業を展開した。 3 育児相談 : 主に0歳児クラスにて実施。 4 子育て講座 : 主に0歳児クラスにて実施。本所保健センターと墨田区子育て支援総合センターと連携する。内容は、梅雨の過ごし方、離乳食のすすめ、子どもの歯の話、母親の骨密度測定、冬のスキンケア、本の読み聞かせ。 5 主な行事 <table border="1" style="margin-left: 20px; margin-top: 5px;"> <tr><td>ハロウィン</td><td>130人</td></tr> <tr><td>乳幼児運動会</td><td>179人</td></tr> <tr><td>クリスマス会</td><td>97人</td></tr> </table>	ハロウィン	130人	乳幼児運動会	179人	クリスマス会	97人	活動内容 1 手作りおやつ : 職員が作る、子ども自身で作る手作りおやつの実施。 2 ランチ会 : 父母会費にて実施。子ども達と作りながら、手作りの物を提供。 3 月例行事 : 誕生会、駄菓子屋さん、レクタイム *校庭遊びは随時実施。(分室のみ) 4 年間行事 : 4月入学式・保護者会 7月保護者会 12月児童館クリスマス会参加、お楽しみ会 1月凧作り、凧揚げ 3月お別れ会	1 主な年間プログラム <table border="1" style="margin-left: 20px; margin-top: 5px;"> <tr><td>4月</td><td>春休み映画会</td><td>28人</td></tr> <tr><td></td><td>おめでとう会</td><td>24人</td></tr> <tr><td>5月</td><td>ありがとうの日</td><td>51人</td></tr> <tr><td>6月</td><td>ありがとうの日</td><td>18人</td></tr> <tr><td>8月</td><td>夏休み映画会</td><td>57人</td></tr> <tr><td></td><td>昆虫体験教室</td><td>119人</td></tr> <tr><td></td><td>夏休みチャレンジ工作</td><td>69人</td></tr> <tr><td>9月</td><td>秋の遠足</td><td>18人</td></tr> <tr><td>10月</td><td>ハロウィン</td><td>91人</td></tr> <tr><td>11月</td><td>交流フェスタ</td><td>18人</td></tr> <tr><td>12月</td><td>クリスマス工作</td><td>22人</td></tr> <tr><td></td><td>クリスマス会</td><td>167人</td></tr> <tr><td>1月</td><td>新年会</td><td>60人</td></tr> <tr><td></td><td>合同ドッジ大会</td><td>89人</td></tr> <tr><td>2月</td><td>交流ドッジフェスタ</td><td>21人</td></tr> <tr><td>3月</td><td>集まれ新入生</td><td>60人</td></tr> </table> 2 月例プログラム <table border="1" style="margin-left: 20px; margin-top: 5px;"> <tr><td>おりがみであそぼう</td><td>全11回</td><td>65人</td></tr> <tr><td>おはなしのじかん</td><td>全20回</td><td>65人</td></tr> <tr><td>手芸教室</td><td>全8回</td><td>145人</td></tr> <tr><td>工作教室</td><td>全8回</td><td>229人</td></tr> <tr><td>ドッジクラブ</td><td>全39回</td><td>1,258人</td></tr> <tr><td>ゴーゴータイム</td><td>全12回</td><td>266人</td></tr> <tr><td>ビデオシアター</td><td>全18回</td><td>414人</td></tr> <tr><td>ドレミファワールド</td><td>全26回</td><td>158人</td></tr> <tr><td>親子・母親卓球</td><td>全43回</td><td>154人</td></tr> <tr><td>ワクワクサタデー</td><td>全10回</td><td>114人</td></tr> <tr><td>お料理クラブ</td><td>全9回</td><td>59人</td></tr> </table> 3 体育室事業 レクタイム、さんぽタイム、スポーツタイムなどを実施。 4 図書事業 貸し出し 189名 526冊	4月	春休み映画会	28人		おめでとう会	24人	5月	ありがとうの日	51人	6月	ありがとうの日	18人	8月	夏休み映画会	57人		昆虫体験教室	119人		夏休みチャレンジ工作	69人	9月	秋の遠足	18人	10月	ハロウィン	91人	11月	交流フェスタ	18人	12月	クリスマス工作	22人		クリスマス会	167人	1月	新年会	60人		合同ドッジ大会	89人	2月	交流ドッジフェスタ	21人	3月	集まれ新入生	60人	おりがみであそぼう	全11回	65人	おはなしのじかん	全20回	65人	手芸教室	全8回	145人	工作教室	全8回	229人	ドッジクラブ	全39回	1,258人	ゴーゴータイム	全12回	266人	ビデオシアター	全18回	414人	ドレミファワールド	全26回	158人	親子・母親卓球	全43回	154人	ワクワクサタデー	全10回	114人	お料理クラブ	全9回	59人	1 中高生サークル 全7回 22名 <table border="1" style="margin-left: 20px; margin-top: 5px;"> <tr><td>4月</td><td>富士宮やきそば</td><td>2人</td></tr> <tr><td>5月</td><td>卓球大会</td><td>3人</td></tr> <tr><td>6月</td><td>ボーリング</td><td>3人</td></tr> <tr><td>7月</td><td>釣り掘り</td><td>1人</td></tr> <tr><td>11月</td><td>焼肉パーティー</td><td>7人</td></tr> <tr><td>1月</td><td>新年会</td><td>4人</td></tr> <tr><td>2月</td><td>世界のあそび</td><td>2人</td></tr> </table>	4月	富士宮やきそば	2人	5月	卓球大会	3人	6月	ボーリング	3人	7月	釣り掘り	1人	11月	焼肉パーティー	7人	1月	新年会	4人	2月	世界のあそび	2人	1 母親コーラス 全43回 627名 2 母親卓球 全43回 234名 3 クリーンキャンペーン 2名 4 お祭りにいこう! 20名 5 全体プログラム <table border="1" style="margin-left: 20px; margin-top: 5px;"> <thead> <tr><th></th><th>行事名</th><th>参加者</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>5月</td><td>子どもの日スペシャル</td><td>51人</td></tr> <tr><td>7月</td><td>えんいち</td><td>245人</td></tr> <tr><td>8月</td><td>すいかわり</td><td>114人</td></tr> </tbody> </table>		行事名	参加者	5月	子どもの日スペシャル	51人	7月	えんいち	245人	8月	すいかわり	114人
ハロウィン	130人																																																																																																																												
乳幼児運動会	179人																																																																																																																												
クリスマス会	97人																																																																																																																												
4月	春休み映画会	28人																																																																																																																											
	おめでとう会	24人																																																																																																																											
5月	ありがとうの日	51人																																																																																																																											
6月	ありがとうの日	18人																																																																																																																											
8月	夏休み映画会	57人																																																																																																																											
	昆虫体験教室	119人																																																																																																																											
	夏休みチャレンジ工作	69人																																																																																																																											
9月	秋の遠足	18人																																																																																																																											
10月	ハロウィン	91人																																																																																																																											
11月	交流フェスタ	18人																																																																																																																											
12月	クリスマス工作	22人																																																																																																																											
	クリスマス会	167人																																																																																																																											
1月	新年会	60人																																																																																																																											
	合同ドッジ大会	89人																																																																																																																											
2月	交流ドッジフェスタ	21人																																																																																																																											
3月	集まれ新入生	60人																																																																																																																											
おりがみであそぼう	全11回	65人																																																																																																																											
おはなしのじかん	全20回	65人																																																																																																																											
手芸教室	全8回	145人																																																																																																																											
工作教室	全8回	229人																																																																																																																											
ドッジクラブ	全39回	1,258人																																																																																																																											
ゴーゴータイム	全12回	266人																																																																																																																											
ビデオシアター	全18回	414人																																																																																																																											
ドレミファワールド	全26回	158人																																																																																																																											
親子・母親卓球	全43回	154人																																																																																																																											
ワクワクサタデー	全10回	114人																																																																																																																											
お料理クラブ	全9回	59人																																																																																																																											
4月	富士宮やきそば	2人																																																																																																																											
5月	卓球大会	3人																																																																																																																											
6月	ボーリング	3人																																																																																																																											
7月	釣り掘り	1人																																																																																																																											
11月	焼肉パーティー	7人																																																																																																																											
1月	新年会	4人																																																																																																																											
2月	世界のあそび	2人																																																																																																																											
	行事名	参加者																																																																																																																											
5月	子どもの日スペシャル	51人																																																																																																																											
7月	えんいち	245人																																																																																																																											
8月	すいかわり	114人																																																																																																																											
登録者・来館者	(登録数) <table border="1" style="margin-left: 20px; margin-top: 5px;"> <thead> <tr><th>年齢</th><th>クラス名</th><th>曜日</th><th>登録数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>0歳 低月齢</td><td>びよびよパーク①</td><td>月</td><td>23組</td></tr> <tr><td>0歳 高月齢</td><td>びよびよパーク②</td><td>月</td><td>82組</td></tr> <tr><td>1歳</td><td>ニコニコスマイル</td><td>火</td><td>26組</td></tr> <tr><td>2,3歳</td><td>ミラクルパワー</td><td>水</td><td>25組</td></tr> <tr><td>1歳</td><td>ハッピーミュージック①</td><td>木</td><td>24組</td></tr> <tr><td>2,3歳</td><td>ハッピーミュージック②</td><td>木</td><td>23組</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td></td><td>203組</td></tr> </tbody> </table>	年齢	クラス名	曜日	登録数	0歳 低月齢	びよびよパーク①	月	23組	0歳 高月齢	びよびよパーク②	月	82組	1歳	ニコニコスマイル	火	26組	2,3歳	ミラクルパワー	水	25組	1歳	ハッピーミュージック①	木	24組	2,3歳	ハッピーミュージック②	木	23組	計			203組	(学童在籍児数) ※最多時 <table border="1" style="margin-left: 20px; margin-top: 5px;"> <thead> <tr><th></th><th>場所</th><th>定数</th><th>在籍</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>本館</td><td>江東橋児童館内</td><td>50名</td><td>50名</td></tr> <tr><td>菊川分室</td><td>菊川小学校</td><td>60名</td><td>60名</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>110名</td><td>110名</td></tr> </tbody> </table>		場所	定数	在籍	本館	江東橋児童館内	50名	50名	菊川分室	菊川小学校	60名	60名	計		110名	110名	(2012年度来館者数) <table border="1" style="margin-left: 20px; margin-top: 5px;"> <thead> <tr><th></th><th>男</th><th>女</th><th>計</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>乳幼児</td><td>2,016</td><td>2,445</td><td>4,461</td></tr> <tr><td>小学生</td><td>10,823</td><td>6,804</td><td>17,627</td></tr> <tr><td>中・高校生</td><td>606</td><td>402</td><td>1,008</td></tr> <tr><td>一般</td><td>864</td><td>7,002</td><td>7,866</td></tr> <tr><td>計</td><td>14,309</td><td>16,653</td><td>30,962</td></tr> <tr><td>※開館日数</td><td></td><td></td><td>347日</td></tr> <tr><td>※1日平均</td><td></td><td></td><td>89人</td></tr> </tbody> </table>		男	女	計	乳幼児	2,016	2,445	4,461	小学生	10,823	6,804	17,627	中・高校生	606	402	1,008	一般	864	7,002	7,866	計	14,309	16,653	30,962	※開館日数			347日	※1日平均			89人	その他・特記事項 ・2012年度に新たに指定管理事業者となったので、既存の良いところを引き継ぎながら新しいものを取り入れ展開を行った。 ・将棋交流戦 近隣児童館との合同行事。他館の児童との交流を図った。 全2回 17名 ・食育活動 「親子で食育キャンペーン」において、さくら橋コミュニティセンターと一緒に合同ブースを出す。 ・運営委員会の実施 10月、3月の2回実施。																																									
年齢	クラス名	曜日	登録数																																																																																																																										
0歳 低月齢	びよびよパーク①	月	23組																																																																																																																										
0歳 高月齢	びよびよパーク②	月	82組																																																																																																																										
1歳	ニコニコスマイル	火	26組																																																																																																																										
2,3歳	ミラクルパワー	水	25組																																																																																																																										
1歳	ハッピーミュージック①	木	24組																																																																																																																										
2,3歳	ハッピーミュージック②	木	23組																																																																																																																										
計			203組																																																																																																																										
	場所	定数	在籍																																																																																																																										
本館	江東橋児童館内	50名	50名																																																																																																																										
菊川分室	菊川小学校	60名	60名																																																																																																																										
計		110名	110名																																																																																																																										
	男	女	計																																																																																																																										
乳幼児	2,016	2,445	4,461																																																																																																																										
小学生	10,823	6,804	17,627																																																																																																																										
中・高校生	606	402	1,008																																																																																																																										
一般	864	7,002	7,866																																																																																																																										
計	14,309	16,653	30,962																																																																																																																										
※開館日数			347日																																																																																																																										
※1日平均			89人																																																																																																																										

2012（平成24）年度 雲柱社 児童館ブロック 事業報告

施設名 平野児童館
 記入者 松原 万紀子

児童館
 ブロック

平野
 (指定管理)

	子育て支援活動	学童クラブ（本館・分室）	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																															
事業の総括	<p>・年齢・発達に合わせたクラス活動に加え、異年齢児の親子同士の出会いのきっかけになり母親が楽しめる活動を、プログラムに盛り込んだ。特に、地域の高齢者やボランティアと親子が交流できる「ティールーム・じじママばば」は回を重ねるごとに参加者が増え、核家族が多い地域の中で初めての子育ての不安を地域の方々に話せるのが良いと好評であった。</p> <p>・近隣幼稚園・保育園親子は、将棋の会・一輪車タイム・遊具スペースで遊ぶほか、週1回の「みちくさ」クラスでは親子で手芸やクッキング・工作など楽しむ姿もあった。母親がママ先生としてお菓子作り講習会などを行った。地域の幼稚園親子が児童館活動に参加する機会もあった。「ママ劇場」は、幼稚園児母親のサークルがハンドダンスを披露する場であり親子・近隣の保育園児も参加し盛り上がった。</p> <p>また、離乳食後の間食・防犯・救命救急など、子育てに関する講習会を行い、多数の母親が参加して学びの時を持った。</p> <p>・発達に合わせた、ふれあい遊び・工作など幅の広い活動を行った。活動時間の前後の時間も、母親同士の交流を深め、のびのびと遊べるよう、ランチルーム・遊具スペースを設けて、長時間過ごしていく親子が多かった。クラスで行った遊びをきっかけに、家庭や外出先でその遊びをする幼児もあり、遊びの幅が広がったという母親からの声も聞かれた。年齢によって、おみせやさんごっこやクッキングを取り入れたことで、友だちとの交流や食育に興味を持てた様子であった。</p>	<p>・昨年度より放課後子どもプランのきつずクラブ開設に伴い、登録人数が減少したため、今年度より1クラスのみ育成となった。生活の流れが変わったこともあり、最初は子どもたちが戸惑う様子もあったが、子どもたちと生活の流れや約束事を相談しながら決めていくことで、集団としてのまとまりができた。</p> <p>・ゲーム会や工作タイムなどを定期的に取り入れることで、同学年だけでなく、異学年との交流も深まり、子ども同士の友達の輪が広がった。</p> <p>・季節に合わせてハロウィンパーティーやクリスマス会など子ども達を中心となって作り上げる行事を行い、目的に向かって子ども同士協力しあうことが通常の育成の中でも見られるようになった。</p> <p>・子ども達の言動や行動について保護者と密に話す場を設け、信頼関係を築くことで、保護者の子育て支援につなげていくことができた。</p>	<p>・将棋の会や手芸タイムなどの行事は毎月申込みがいっぱいになることが多い。一般来館を待つだけでなく、行事に参加する子ども達とも積極的に関わりをもつことで、日頃の来館に繋がっている。</p> <p>・「お茶会」「おりがみの会」「アコロンのお話会」など地域のサークルの方、ボランティアの方を招いて礼儀作法を学んだり、伝承遊び、読み聞かせといった活動を取り入れることで世代間交流を図り、地域との交流の場をもつことができた。</p> <p>・授業数の増加、習い事、近隣にきつずクラブができたことで低学年の来館が減少傾向にある。子どもたち、親にとって魅力あるプログラムを企画していくとともに、乳幼児期から良い関係を築き、小学生になっても来館しやすい児童館であることを目指していく</p>	<p>・昨年度は小学校6年生のときに来館していた子どもたちが中学生になり、繋がった関係を持つことが出来た。全体的に中学1年生の来館が多かった。中学生からのリクエストも盛り込みながら行事を行うことができた。</p> <p>・家庭、学校などで生じた不安を受け止められるような雰囲気づくりを昨年に引き続き心掛けることにより、職員に不満や不安を話してくれる子どもも多かった。何か問題が生じると、区の子育て支援課長や近隣の中学校が児童館に相談するために来館するケースもあり、連携を深めながら良い方向につなげていくことができた。今後も他機関との連携を保っていく、児童館が子どもの心のよりどころとなるように日々の関わりを工夫する。</p> <p>・25年度も引き続き、児童館が中学生の居場所となるように努め、児童館のルールの周知を徹底していき、自立（自律）への支援をしていく。</p>	<p>・日頃の活動・行事を通して利用者（児童・乳幼児保護者・学童児保護者・学童クラブ父母会）・地域（民生委員・町会長・読み聞かせボランティア、スポーツクラブ、相撲部屋（北の湖部屋）・近隣の諸機関（保育園・幼稚園・小中学校・支援センター他）との連携をスムーズに持つことが出来、様々な方面からのボランティアとして、イベントや諸活動に参加して頂き、地域の中で児童館を中心にした交流が広がった。</p> <p>・自然体験として、木の実・落ち葉拾い、キャンプ、芋ほり遠足では日常経験できない自然活動を体験することで五感を磨き自然の大切さを知ることが出来た。</p> <p>・児童館を飛び出し、毎月第三水曜日に近隣の公園に出向いて、子ども達と駒・ペーゴマ・かけっこ等の昔遊びを楽しむ場を設けることにより、体力向上にも繋がるように努めた。また、近隣の大人の方も一緒にあそびに加わり世代間交流にもなった。</p> <p>・ひらのまつりでは、夜の部として近隣の公園でミニ緑日、盆踊り、抽選くじなどを地域のみなさんと共に楽しんだ。</p>																																																																															
活動・行事報告	<p>【年間行事報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児運動会 448名 ・水遊び 182名（6回） ・子ども服りサイクル 214名（2回） ・乳幼児クリスマス会 158組 ・出前保育 706名（9回） ・パパママビニールオイルマッサージ 54名（3回） ・マママッサージ 88名（4回） ・0歳児未満児・マタニティママルーム 90組（7回） ・お誕生日会 84名（12回） ・うたのおねえさんとあそぼう 618名（12回） ・おにいさんとあそぼう 262名（11回） ・じじママばばティールーム 274名（10回） ・幼児一輪車タイム 336名（37回） ・プレイルーム 430名（47回） ・ママ劇場 242名（2回） <p>【子育て講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て講演会 ・深川消防署隊員による応急手当・事故予防策講座 90名 ・歯について学ぼう 86名 ・保育士によるおやつ紹介 3回 114名 ・看護師による冬の過ごし方 20名 ・警察署による防犯講座 20名 	<p>・4月入会式・6月おすもう大会・7月観劇会・8月水あそび、すいか割り大会・塗り絵コンテスト・合宿・9月引渡し訓練・10月ハロウィンパーティー、・11月人形劇観賞・12月クリスマス会、大掃除・1月お正月遊び・2月節分、クッキング・3月お別れ会、お別れ遠足（木場公園）、深川北部ドッジボール大会</p> <p>定期活動：月1回 学年別活動、避難訓練、制作、おたのしみおやつ、誕生日会、キングコンテスト（読書やゲーム、運動等いろいろな1番を表彰する。）</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者会：5月、7月、3月 ・入会説明会：3月 ・個人面談：6月（1年生）11月（2、3年生） 	<p>【週間プログラム】（年間参加人数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツタイム（ドッジ、サッカー、ユニホック、キックベース、タスク）2,164名 ・習字の会（毎週木曜日 190名） ・将棋の会（月1回 142名）・わくわくひろば（月1回 242名） ・スポーツ大会（月1回 89名）・工作タイム（月1回 249名） ・手芸タイム（月5回 276名）・わなげ大会（月1回 302名） ・一輪車検定（月2回 200名） ・アコロンのお話会（月1回 151名）・映画会（年1回 20名） ・ビデオシアター（月1回 計168名） ・みやこどりの劇公演（年1回 30名） ・折り紙の会（年2回 54名）・出張児童館（年1回 54名） <p>【季節行事】（実施日、参加人数 ※全世代事業を除く）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生歓迎会（年1回 50名） ・合同スマイルクラブ（年1回 12名） ・子どもクリスマス会（年1回 133名） ・深川北部ドッジボール大会（年1回 11名） ・春のお茶会（年1回15名） ・お好み焼きパーティー（年1回 40名） ・6年生卒業おめでとう会（年1回 13名） <p>【組織活動】（参加人数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生スマイルクラブ（231名） ・2・3年生スマイルクラブ（227名） ・高学年スマイルクラブ（224名） 	<p>【年間行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒲焼づくり（5/28 9名） ・科学実験（6/29 6名） ・鶏肉の塩麹焼きづくり（7/20 4名） ・スポーツ大会（9/26 7名） ・鮭の麹焼きづくり（10/10 5名） ・うどんづくり（10/31 5名） ・工作（11/28 6名） ・もんじゃ焼きづくり（12/15 7名） ・スポーツ大会（1/16 5名） ・芋煮づくり（2/15 3名） 	<p>【全世代交流事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの日フェスタ（5/5 89名） ・相撲大会（6/6 296名） ・ひらのまつり（7/15 934名） ・いきいき秋まつり（11/18 211名） ・こども冬まつり（2/16 235名） <p>【自然体験・宿泊体験事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サマーキャンプ（自然入村 8/2-4 27名） ・1年生館内合宿（9/14.15 20名） ・芋ほり遠足（10/6 14名） ・交流フェスタ（11/24 50名） ・グリコ工場親子見学（12/1 40名） <p>【ボランティア活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用済み切手収集 ・エコキャップ収集 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連絡会（7/4 24名） ・交通安全教室（2回 171名） ・防犯講習会（2/27 46名） ・深川春のこどもまつり（森下文化センター 3/3 98名） ・運営委員会（年1回）出席 																																																																															
登録者・来館者	<p>子育てひろば（年齢別活動）実施回数・延参加人数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>実施回数</th> <th>延参加人数</th> <th>1回平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児（ばんだクラスいちご・りんご）</td> <td>66</td> <td>2,270</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>1歳児（うさぎクラス）</td> <td>66</td> <td>3,020</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>2歳児（こあらクラス）</td> <td>68</td> <td>3,098</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>3歳児（りすクラス）</td> <td>27</td> <td>714</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>3～5歳児（みちくさ）</td> <td>23</td> <td>674</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>250</td> <td>9,776</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table> <p>子育て相談件数：172件</p>	クラス名	実施回数	延参加人数	1回平均	0歳児（ばんだクラスいちご・りんご）	66	2,270	34	1歳児（うさぎクラス）	66	3,020	46	2歳児（こあらクラス）	68	3,098	46	3歳児（りすクラス）	27	714	26	3～5歳児（みちくさ）	23	674	29	計	250	9,776	39	<p>（学童クラブ在籍児数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>29</td> <td>23</td> <td>52</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	9	3	12	2年生	7	8	15	3年生	13	12	25	計	29	23	52	<p>（2012年度来館者数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>5,226</td> <td>6,696</td> <td>11,922</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>10,523</td> <td>7,357</td> <td>17,880</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>1,034</td> <td>427</td> <td>1,461</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td></td> <td></td> <td>14,773</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>16,783</td> <td>14,480</td> <td>46,036</td> </tr> <tr> <td>※開館日数</td> <td></td> <td></td> <td>320</td> </tr> <tr> <td>※1日平均</td> <td></td> <td></td> <td>144.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>学童含</p>		男	女	計	乳幼児	5,226	6,696	11,922	小学生	10,523	7,357	17,880	中学生	1,034	427	1,461	一般			14,773	計	16,783	14,480	46,036	※開館日数			320	※1日平均			144.0	<p>その他特記事項</p> <p>①2012年度 新規事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じじママばばティールーム（乳幼児） ・幼児クラスみちくさ ・交通安全教室（乳幼児、小中学生） <p>②財政援助団体等監査実施（10月、11月）</p>
クラス名	実施回数	延参加人数	1回平均																																																																																	
0歳児（ばんだクラスいちご・りんご）	66	2,270	34																																																																																	
1歳児（うさぎクラス）	66	3,020	46																																																																																	
2歳児（こあらクラス）	68	3,098	46																																																																																	
3歳児（りすクラス）	27	714	26																																																																																	
3～5歳児（みちくさ）	23	674	29																																																																																	
計	250	9,776	39																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
1年生	9	3	12																																																																																	
2年生	7	8	15																																																																																	
3年生	13	12	25																																																																																	
計	29	23	52																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
乳幼児	5,226	6,696	11,922																																																																																	
小学生	10,523	7,357	17,880																																																																																	
中学生	1,034	427	1,461																																																																																	
一般			14,773																																																																																	
計	16,783	14,480	46,036																																																																																	
※開館日数			320																																																																																	
※1日平均			144.0																																																																																	

2012（平成24）年度 雲柱社 児童館ブロック 事業報告

施設名 亀戸児童館

記入者 佐々木 奈津絵

	子育て支援活動	学童クラブ（本館）	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																											
事業の総括	<p>・親子のひろば（乳幼児活動）は、0、1歳児を中心に利用が増え登録数も伸びた。その反面2、3歳クラスへの参加は少なかった。要因として、他館のプログラム日程と重なっていたり、保育園幼稚園でも地域の乳幼児親子を対象としたプログラムの展開がなされたことの影響が出ていたようである。</p> <p>・プログラムのPR、曜日の変更等次年度は改善し対応していきたい。</p> <p>・年間を通して幅広くプログラムを展開することで、在宅で乳幼児を育てているが家を出て児童館のプログラムに参加して、お母さん同士の交流や居場所作りを行ったことで、虐待防止や人と交わる機会を増やし、お母さんのリフレッシュの時間が作れた。さらにまた、保護者に好評を得ている乳幼児運動会、親子バス遠足、ハロウィン、劇団公演等を今年も実施できたことで子どもと保護者、スタッフとの良い交流の機会となった。</p> <p>・今後も地域との連携を図り、他館と協力して在宅で子育てをい行っている保護者の支援を続けたい。</p>	<p>・江東きっずクラブの推進により、地域の学童クラブの登録人数が今年も減少し危機感を持つ。より一層、学童クラブの育成内容や子ども、保護者への対応が重要になってきている。</p> <p>・年度途中で3年生の女の子同士の関係がトラブルに発展しそうになるが、時をうつさず保護者との話し合いを持ち、その後の安定に繋がった。</p> <p>・児童館併設という環境で生活リズムや育成プログラムを整えることが難しい面があるが、学年ごとのプログラム、全体でのプログラム等、細かく配慮して活動が実施でき、各学年心のこもった育成をすることができた。</p> <p>・学童クラブの職員が一人今年度異動になり、前半は新体制での育成の中で信頼関係を築く難しさや担当者同士でのコミュニケーション、パート職員との連携が不十分であった。後半は担当者会議や育成を始める前の打ち合わせ、役割分担を明確にするなど改善し安定した育成ができた。学童クラブの安全安心はもとより、次の日も来たいという気持ちにさせる配慮が重要であることを再確認できた。</p> <p>・次年度の登録数はさらに減少の傾向にあるが、職員体制に大きな変更はなく、次年度はこの体制を活かしてより丁寧な活動に取り組んでいきたい。</p>	<p>・放課後の子どもたちの遊び時間が減少し、児童館に来館できる日も減ってきている。こうした中でも、継続して来館し交流を深めるきっかけとなるよう、学年別グループ活動を行い、豊かな時間、良い経験の機会とした。</p> <p>・グループとして、1期ごとのねらいとプログラム内容を明確に示したので、保護者や子どもたちが見通しを持って活動できたので、人数は多くはないが充実した活動となっていた。学年が上がると人数が減る傾向にあるが、スタッフとの信頼関係、プログラム内容などにより今後も発展の可能性がある活動なので、評価、反省を踏まえ次年度も継続したい。</p> <p>・江東きっずクラブ一亀戸の影響のせい一亀戸小からの利用は減ってきているが、香取小、水神小、二亀小や大島地区や江東橋の児童が手芸、手作り、キャンプ、設定スポーツ等目的を持って来館している。実績は昨年同様の安定した来館者数となった。日々の来館傾向やプログラムへの参加を見て利用者が参加したいと思う活動、ネーミングなど工夫を重ねた効果である。</p> <p>・今後も利用者がイメージを膨らまして児童館の活動に参加したいと思うような設定、PRを工夫したい。</p>	<p>・中学生だよりを定期発行した。利用する中学生の思いを大事にしたい、という狙いで中学生企画会議を導入したり、スポーツ大会を毎月行うなどプログラムに継続性を持たせたとこ、大会への参加が増え、中学生とのコミュニケーションがとれ関係を築くことができた。</p> <p>・小学生との遊びスペースの使い分け、職員の学習面での関わりなど配慮して対応したので、今までのスポーツ中心の利用から、学習道具、宿題を持参し、遊ぶだけでなく勉強もする居場所が変わりつつある。</p> <p>・中学を卒業した子どもたちの中にはボランティア登録をして行事や合宿へのボランティアをしてくれる高校生も出てきている。今後の交流をさらに深めたい。</p> <p>・第三亀戸中学校との連携も徐々に築くことができ、地域連絡会には副校長先生が出席してくださり、中学生の利用状況についても質問があった。江東区では次年度、中学生の居場所づくりを優先していくことを明らかにしている。このような期待が高まる中、19時まで開館していることを活かして貢献したい。</p> <p>・年間通して、中高生のトラブルなく安定した事業が展開できた。</p>	<p>・観光バスの交通事故が多発したことにより、乳幼児親子の遠足と野外体験キャンプで貸切バスが使えず困ったが、路線バス等利用して実施し、参加者から好評を得た。ただし参加人数には定員があり、野外体験活動は抽選となったため、全員参加できないのが残念である。</p> <p>・学童クラブ児童が毎年作っている布芝居を活用し、土曜江東きっずクラブ亀戸の子どもたちが地域にある高齢者のデイサービス施設を訪問して読み聞かせやクイズなどで交流を深めた。さらに交流の場を広げていきたい。児童館の季節行事の中で学童クラブ有志が舞台での発表を行うことができた。さらに、乳幼児と学童クラブ児童とのふれあいタイムや週末の乳幼児向けお話の時間に小学生が参加するなど、継続した交流やボランティア活動の機会が持てた。このような体験の機会を大切にしたい。</p> <p>・児童館プログラムにはお父さんや祖父母と一緒に参加して下さったり、障がいを持つ子どもたちも遊びに来る機会が増えてきた。</p> <p>・もう一つのボランティアとしてエコキャップ、古切手の収集に継続して取り組む。この活動には一亀戸小や地域の方々の協力を得ている。</p>																																																																											
活動・行事報告	<p><年齢別グループ活動></p> <p>0歳児低月齢 赤ちゃんばんだ 毎週金曜日 10:00～10:45</p> <p>0歳児高月齢 ばんだクラス 毎週金曜日 11:00～11:45</p> <p>1歳児 うさぎクラス 毎週火曜日 10:30～11:30</p> <p>2歳児 こあらクラス 毎週木曜日 10:00～10:45 11:00～11:45</p> <p>3歳児 りすクラス 毎週月曜日 10:30～11:30</p> <p><月例活動>パパと遊ぼう、ママの手作り、歌とお話、プレイルーム、小学生とのふれあいタイム、親子フィットネス幼児タイム、</p> <p><行事>子育て講座(心の東京塾・離乳食講座・親子音楽遊び・親子体操・乳幼児の冬のスキンケアなど)・なつまつり・夏休み特別幼児活動・夏休み特別水遊び・ハロウィンパーティー・親子運動会・親子遠足・クリスマス会・子ども服リサイクル・ふれあいまつり・劇団公演</p>	<p><日常活動>公園遊び、季節の製作、お誕生日会、おはなし会と布芝居制作、おもしろおやつ、他</p> <p><おやつ>惣菜系の軽食、スナック、季節に合うものなど献立を考慮し提供した。</p> <p><行事>入会式、親子レクリエーション、観劇会、遠足、きっず一亀との交流水遊び、保護者個人面談、ハロウィン遊び、新年お楽しみ会、学童合宿、江東区ドッジボール大会</p> <p><保護者協力行事>亀戸レストラン（学校休校時の昼食補助）、親子クリスマス会、児童館なつまつり、児童館ふれあいまつり</p>	<p><学年別グループ活動></p> <p>かめっ子1、2年生 毎週金曜日 16:00～17:00</p> <p>かめっ子3、4年生 毎週木曜日 17:00～18:00</p> <p>かめっ子5、6年生 毎週火曜日 17:00～18:00</p> <p><日常活動>スポーツ活動、文化活動、伝承遊び、自由工作など</p> <p><月例活動> 検定（なわとび、一輪車）大会（スポーツ、わなげ、バンパー）、1階特別企画文化的活動（おはなし会、ふしぎ研究所、手芸、工作）</p> <p><行事>一年生歓迎会、ハッピーキッズデー、館内合宿、なつまつり、夏の特別かめっ子活動、野外体験活動（近隣公園、カブトムシ博士、自然体験キャンプ）、クリスマス会、クリスマス活動、交流ドッジボールフェスタ、城東地区卓球大会、ふれあいまつり</p>	<p><日常活動></p> <p>・17:00～19:00（日曜日は18:00まで）を目安にスポーツ、ゲーム、学習など自由に過ごす。</p> <p>・学習は小部屋を確保し環境設定に配慮する。</p> <p><行事>スポーツ大会（サッカー、バスケ、タスケ、ドッジ）、ビリヤード大会、クリスマス会、中学生合宿</p>																																																																												
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児</td> <td>79</td> <td>96</td> <td>175</td> </tr> <tr> <td>1歳児</td> <td>40</td> <td>35</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>2歳児</td> <td>14</td> <td>31</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>3歳児</td> <td>17</td> <td>21</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>150</td> <td>183</td> <td>333</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児	79	96	175	1歳児	40	35	75	2歳児	14	31	45	3歳児	17	21	38	計	150	183	333	<p>(在籍児数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>7</td> <td>13</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>17</td> <td>20</td> <td>37</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	4	3	7	2年生	6	4	10	3年生	7	13	20	計	17	20	37	<p>(2012年度来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>4,449</td> <td>4,754</td> <td>9,203</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>13,710</td> <td>8,851</td> <td>22,561</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>3,197</td> <td>512</td> <td>3,709</td> </tr> <tr> <td>高校生・一般</td> <td>1,693</td> <td>8,735</td> <td>10,428</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>23,049</td> <td>22,852</td> <td>45,901</td> </tr> <tr> <td>来館日数</td> <td colspan="3">320 日</td> </tr> <tr> <td>一日平均</td> <td colspan="3">143 人</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	乳幼児	4,449	4,754	9,203	小学生	13,710	8,851	22,561	中学生	3,197	512	3,709	高校生・一般	1,693	8,735	10,428	計	23,049	22,852	45,901	来館日数	320 日			一日平均	143 人			<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p>指定管理者として再指定が決まり、亀戸児童館としての6年目の事業展開が始まった。初心に戻って事業に取り組み、また様々なプログラムを展開することで、事業の質的向上やPRに繋がるように事業を進めた。一方江東区が推進する江東きっずクラブの展開が広まり、一年生の6時間授業や江東きっずクラブA登録（放課後子ども教室）の影響が、子どもたちが自由に遊べる水曜日と土曜日にしか来館できない傾向が強まり、今後はますますプログラム選定に工夫と改善が必要である。このことから自然と接する機会も少なくなりますます野外体験活動の重要性が高まっているが、職員体制や観光バスの使用制限などにより外へ出かける機会を設けられなかった。例年になく暑い夏は熱中症が心配され、また秋冬にはノロウィルス、インフルエンザと続いて流行するなど、子どもたちにとって来館しにくい環境ばかりが増え、今後の事業展開にもさらなる創意工夫が求められることとなってきた。また、地域連絡会で民生児童委員から児童館の行事と地域行事の日程が重ならないようにしてほしい、子育て講座でDVのことについて取り上げてほしいなどご要望があったので、地域の声にも応えていきたい。</p> <p>・地域連絡会（年2回開催）、・運営委員会（年1回）出席</p>
クラス名	男	女	計																																																																													
0歳児	79	96	175																																																																													
1歳児	40	35	75																																																																													
2歳児	14	31	45																																																																													
3歳児	17	21	38																																																																													
計	150	183	333																																																																													
	男	女	計																																																																													
1年生	4	3	7																																																																													
2年生	6	4	10																																																																													
3年生	7	13	20																																																																													
計	17	20	37																																																																													
	男	女	計																																																																													
乳幼児	4,449	4,754	9,203																																																																													
小学生	13,710	8,851	22,561																																																																													
中学生	3,197	512	3,709																																																																													
高校生・一般	1,693	8,735	10,428																																																																													
計	23,049	22,852	45,901																																																																													
来館日数	320 日																																																																															
一日平均	143 人																																																																															

児童館ブロック

亀戸（指定管理）

2012（平成24）年度 雲柱社 児童館ブロック 事業報告

施設名 大島四丁目学童クラブ

記入者 佐々木 奈津絵

児童館
ブロック

大島四丁目
(委託)

学童クラブ

日常活動

一日の流れ<通常>：登室→宿題・自由遊び→オヤツ→外遊び(室内遊び)→帰りの会→延長保育

<学校休業日>：登室→勉強→自由遊び・集団遊び→昼食→外遊び(室内遊び)→おやつ→外遊び(室内遊び)→帰りの会→延長保育

「みずべボランティア」(月2回) 「食育の時間」(月1回) 「誕生会」(月1回) ゲーム会(月1回) ロッカー掃除(週1回) 英語であそぼう(9月から毎月1回)

延長保育

17～18時。延長申請を行った方のみ。

延長保育では、静かに遊ぶことを心がけ、将棋やトランプなどのゲーム、ブロックなどの遊びを行った。レクリエーションを取り入れ、全体で遊べる時間を作ることも行った。

おやつ

バイキング方式(自分で、お菓子をお盆からお皿に取る)と、大皿方式(グループのみんなで、皿のおやつを取り分ける)を行なう。こどもの帰り時間に応じて登室順に食べることもあった。

おやつは個別包装で準備時に手で触れないように配慮し準備の時には手袋をすることを徹底した。おやつ前には、手洗い、テーブルをアルコール消毒するなど、衛生面の管理には十分に気を配った。

昨年度に引き続き、月1回管理栄養士さんに来ていただき子どもたちに食育の話をしていただいた。

おやつを楽しめる取り組みとして、こどもたちがスタッフとしてゲームを担当して盛り上げるおたのしみおやつ、買い物体験として地域にある駄菓子屋への買い物体験を行った。

グループ活動・誕生会等

日常的には、グループでおやつを一緒に食べ、テーブルの準備や片付けもしていた。

誕生会では、子どもひとりひとりに保護者と職員のメッセージの入ったカードをプレゼントし、誕生月のこどもに関する〇×クイズ、グループでゲームを行った。

また、誕生日の子の希望するおやつを出す「リクエストおやつ」を行ない、子どもの嗜好を知るきっかけのひとつとなっていた。

行事・外出

オリエンテーション(4月) カブト虫博士がやってくる(6月) 観劇会(7月) 遠足<平和の森公園>・大八との交流<水遊び>・夕涼み会(8月)

ハロウィンパーティ・都民の日おでかけ<NHKスタジオパーク>(10月) クリスマス会・大掃除・クリーン大作戦(12月)

新年カルタ大会(1月) 大島第二児童館学童クラブとのドッジボール練習試合(1月～3月) お楽しみゲーム会(2月)

卒室、進級を祝う会・城東地区ドッジボール大会・お別れ遠足<亀戸中央公園>(3月)

※毎月1回、食育の時間・ひよこ(買い物体験)・誕生会

※毎月1・2回、みずべボランティア

その他の活動

第1回保護者会(5月) 第2回保護者会(7月) 全家庭対象の個人面談(11月) 次年度入会説明会(3月)

活動・
行事
報告

登録者・
来館者

学童クラブ(在籍児数) 2013.3 現在

	男	女	計
1年生	6	3	9
2年生	5	3	8
3年生	5	9	14
計	16	15	31

(その他の事業、特記事項)

○みずべボランティア活動では、乳幼児とふれあう貴重な機会をとり、子どもたちのやさしさを育む場となった。

○現在、施設が改修のため仮設での事業展開となった。

○登録児童が20人を割るとクラブの存続があやぶまれるので、更に力を入れていていねいな育成に取り組んでいきたい。

2012(平成24)年度 雲柱社 児童館ブロック

施設名 大島八丁目学童クラブ

記入者 佐々木 奈津絵

児童館
ブロック

大島八丁目
(委託)

	子育て支援活動	学童クラブ																																		
事業の総括	<p>◇初年度から同様、「誰でも自由に安心して来ることができる ひろば」というコンセプトで行った。来室した保護者には必ず声をかけ、日常の話から気になる子どもの様子まで気軽に話すことが出来る雰囲気作りを心掛けた。友達が欲しいと希望する親子も多く、友達づくりのサポートも行った。アドレスを交換したり、お互いの家を行き来したりと友達の輪を広げるきっかけになっていた。</p> <p>◇以前から継続して利用している親子が多数おり、新規の親子に積極的に話しかけ友達の輪を広げていた。また、成長に伴いひろばから離れた利用者が、弟妹が生まれたことをきっかけに再び利用する家庭もあった。このことから「ひろば」が地域に密着したものとなっていることが窺える。</p> <p>◇前年度と比べ、各年齢の登録数が減少している。地域の子育て支援施設と連携していき、これから子育てを始める家庭にも周知されるための広報を強化していく事が次年度の課題となる。</p> <p>◇この地域には子育て関連施設が多くは無いが、地域には多くの乳幼児を持つ親子が見られ、少し遠い地域からのひろばの利用もある。こどもを遊ばせたり親同士が繋がる場所を求めているということが改めて感じられた。近所づきあいが少なく、孤立しがちな乳幼児親子同士のつながりを作るという意味や、気軽に来ることができる場所であるという意味からも、「地域のひろば」の役割が重要となってくると思われる。</p> <p>◇年齢・月齢に縛られない自由な雰囲気を大事にしつつも安全面を考慮し、室内を「歩けない乳児」と、「歩き回って遊ぶ幼児」の二つのスペースに分けているが、自分の子どもだけでなく、他の年齢が違う子どもと一緒に遊んでくれたり、母親同士でアドバイスをし合ったりと、異年齢の子ども同士の親子交流に繋がった部分もあった。また、地域の子育ての情報交換が活発に行われていた。職員が児童館・幼稚園・保育園・子育て支援センターなどの情報を提供する事で母親同士の会話のきっかけにもなっていた。今後も情報提供に力を入れていきたい。3歳児以上が遊ぶには手狭であるが、親子が安心して遊ぶことのできる場の設定も必要であると感じた。</p> <p>◇プログラムを行うのではなく、話したり、相談したり、ただ「居る」ということを受容する形式が、様々な親子が安心していられる居場所に繋がったと感じる。</p> <p>◇プログラムで行っている手遊び体操を覚え、家でも歌ったり踊ったりしているという親子が多くいた。今後も親子の関わりのきっかけやコミュニケーションのきっかけを提供していきたい。(手遊び・紙芝居・体操・ベビーマッサージ・親子ストレッチ等を通して行っていく。)</p>	<p>日常活動 一日の流れ<通常>：来室→宿題・自由遊び→オヤツ→外遊び(室内遊び)→帰りの会→班ごとに帰宅 <学校休業日>：来室→勉強→自由遊び・集団遊び→昼食→自由遊び(夏休みのみ昼寝)→おやつ→外遊び(室内遊び)→帰りの会→班ごとに帰宅</p> <p>誕生会(月1回)・学年別グループ活動・ゲーム会・工作・手芸・季節の製作等</p> <p>延長保育 17～18時。お迎えの無い児童は、班で帰宅。 延長保育限定のプログラム有り(集団ゲーム、子どもが考え出した遊び、雑巾がけ、大八ひろば準備等)</p> <p>おやつ 地域の商店街を多用し、お惣菜を用い、出来る限りバラエティに富み、季節に合ったおやつや行事にあったおやつを出すようにした。いつものおやつは個別包装で準備時に手で触れないように配慮し準備の時には手袋をすることを徹底した。おやつ前には、手洗い、テーブルをアルコール消毒するなど、衛生面の管理には十分に気を配った。生活班の中でおやつを分け合う機会を作り、異年齢の関わりのきっかけとした。</p> <p>グループ活動・誕生会等 月のゲーム会は生活班対抗のものを多く取り入れた。縦割りの生活班で協力し、達成する喜び・楽しさを感じられるよう設定した。誕生会は、ひとりひとりにメダルと記念写真の入ったフォトケースを準備。司会は3年生が順番で行った。その月に誕生日を迎える子が主役になれるようなゲームを取り入れた。 学年別グループ活動では、学年ごとに目標を設定し、その目標に向けてレクリエーションや製作・話し合いを行った。特に3年生は学童クラブを引っ張っていく存在であることを意識できるように、活動内容も子ども達で相談して考えて実行し、自主性や積極性、卒業後にも問題なく地域で生活できるような社会性を身につけることを狙いにおいて活動した。</p> <p>行事・外出 オリエンテーション・入学進級お祝い会・こいのぼり製作(4月)、ゲームおやつ・カプトムシ博士・ミニ遠足 けん玉検定(5月)・七夕製作(6月)・観劇会・大島児童館緑日へ参加(8月)・遠足・大四と交流(水遊び)・カブラ大会 大八なつまつり(8月)・引取り訓練(9月)、ハロウィン製作・ハロウィンパーティー(10月)、大八の子育てひろばの利用者を学童クラブへ招き、児童との交流の時間を持った・勤労感謝の日製作(11月)・スポーツスタッキング大会・クリスマス製作・クリスマス会・昼食会・大掃除 年忘れミニゲーム会(12月)・お正月遊び・1年の目標書き・コマ検定(1月)・節分ゲーム会(2月)・駄菓子屋さん ドッジボール大会・お別れ会</p> <p>その他の活動 保護者会(4月・7月)、個人面談(11～12月)、新年度説明会(3月)、個別相談(随時)</p>																																		
行事報告・活動	<p>○日常活動 10:00 自由来室 ・ ひろば活動→11:25 片付け→手遊び・紙芝居・体操 →連絡事項・予定報告→11:30 ひろば終了・片付け→11:35 体操・紙芝居など →12:00 振り返り</p>	<p>その他の事業、特記事項) 縦割り班でのグループ活動では、生活・遊び・ゲーム会等を通じ、協調性・社会性を育むことができた。また、上級生が下級生の面倒をみるという事が習慣になりつつある。そのため下級生が上級生に憧れお手本にするなど、上下の繋がりが出来ていた。学年別グループ活動では、各学年ごとに目標を立て、目標に向けてレクリエーション等を行う。活動内にリーダー等の役割を作り、ひとりひとりの責任感や協調性を養うと共に、同学年同士の繋がりを強めた。その中で見えてきた個人の課題に焦点を当てた活動も組み、相互関係の中でひとりひとりの力を生かすことを目指した活動を行った。 学童クラブは、児童の放課後の居場所として、安全と安心を提供する場である。更に、集団生活をする中での他者との関わり方や振舞い方、相手の気持ちを考える気持ち、物事を達成する喜び、また学童外や卒業後も問題なく生活していくことの出来るように自己解決能力や思考力、社会性を身に付け、心身ともに成長することのできる場所を目指していきたい。 保護者との関係は概ね良好。保護者会・個人面談・送り迎え時の日々の会話や連絡帳を通して、安定した信頼関係を築いてきた。 また、学童児についてだけでなく家族に関しての相談を受けることや虐待のある家族の利用もあり、他機関と連携し就労支援だけでなく、家庭支援も求められていることを感じる。25年度も子どもへの細やかな対応は勿論のこと、家族の状況も細かく把握しながら学童クラブ運営を行っていきたい。</p>																																		
登録者・来館者	<p>子育て支援活動 (登録数) 2013.3 時点</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>1歳児</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>2歳児</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>3歳児</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>4歳児</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>52</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	計	0歳児	18	1歳児	20	2歳児	12	3歳児	1	4歳児	1	計	52	<p>学童クラブ (在籍児数) 2013.3 現在</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>15</td> <td>11</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>23</td> <td>23</td> <td>46</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	4	7	11	2年生	4	5	9	3年生	15	11	26	計	23	23	46
クラス名	計																																			
0歳児	18																																			
1歳児	20																																			
2歳児	12																																			
3歳児	1																																			
4歳児	1																																			
計	52																																			
	男	女	計																																	
1年生	4	7	11																																	
2年生	4	5	9																																	
3年生	15	11	26																																	
計	23	23	46																																	

2012（平成24）年度 雲柱社 児童館ブロック 事業報告

施設名 江東きつずクラブ明治
記入者 小林 麻衣子

児童館
ブロック

きつず明治
(委託)

	A登録（放課後こども教室機能）	B登録（学童クラブ機能）																																																				
事業の総括	<ul style="list-style-type: none"> ・開設2年目を迎え、登録者数は昨年度より減少したが、年間での平均では1日70人余りの参加があった。きつずルームを中心に学校の施設を利用し日常の活動を行った。毎月の定例プログラムも定着してきており、おたよりを見てプログラムを楽しみにして参加することも増えてきた。 ・今年度は、昨年から行ってきたサッカー教室をはじめとした外部から招いた講師によるプログラムも増やし、こどもたちの遊びや体験の機会や幅を広げていくよう努めた。 <p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・きつずルームでの遊びが中心となるので、さらに玩具や遊具等を充実させ、かつ、プログラムにおいても、こどもたちが意欲的、主体的に参加するようなものを行ってきたい。 ・平野児童館や新しくなる江東きつずクラブ深川を含めた、地域や学校との繋がりがりや連携を深め、継続性、一貫性のある利用者との関わりや事業展開を行ってきたい。 ・地域のボランティアの方々の参加も促進してきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より登録者数が増加したこともあり、同学年だけでなく、他学年との交流が日常的にも多く見られた。 ・近隣の児童館との交流も図り、平野児童館の出前児童館に参加し、明治小学校の体育館で活動する等行った。また夏以降はお出かけや染め物体験（Tシャツづくり）、B-1グランプリ、わなげ大会など、B登録独自のプログラムを徐々に加えていった。 ・年度終盤では、クリスマス会の朗読劇や深川北部ドッジボール大会に向けての練習においてグループとしての一体感が高まっていった。特にドッジボール大会では参加した2チームともに準優勝を果たし、子どもたちは達成感を得ることができた。 <p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者数が大幅に増える状況下にあっても、利用者の安心安全に細心の注意をはらい、家庭との丁寧な関わりを続けていきたい。 ・B登録独自のプログラムを展開すると同時に、今後も平野児童館や新しくなる江東きつず深川クラブとの連携を行い、単独では出来ない幅広い活動に取り組んでいきたい。 																																																				
活動・行事報告	<ul style="list-style-type: none"> ・4月入会式・5月青空ランチ、出前児童館・6月ダンボール工作・7月七夕飾りづくり・8月ぬりえ甲子園、水あそび、戦争と平和について考えよう ・9月サッカー教室（9・10月）・10月スポーツスタッキング・12月クリスマス会、大そうじ ・1月カルタ王決定戦、凧づくり、落語を楽しもう（1、2月）・2月節分遊び・3月きつずまつり、講談社おはなし隊 <p>定期活動（月1回）スポーツ大会、工作、おはなし王国、きつずフィット、あつまれ1年生、避難訓練</p> <p>（月2回）アトリエめいじ、けん玉検定、手芸タイム</p> <p>（週1回）ビデオシアター</p> <p>その他：保護者会 7月、区のアンケート調査実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4月入会式・5月お出かけ・7月遠足、観劇会・8月染め物体験・9月レクタイム・10月遠足 ・1月福笑い大会・3月ドッジボール練習試合、深川北部ドッジボール大会、キューピーマヨネーズ教室 <p>定期活動（月1回）お誕生日会、買い物体験、B-1グランプリ、わなげ大会、アートミュージアム、避難訓練</p> <p>（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者会 5、7月 ・入会説明会 2月 ・個人面談 6～7月 ・区の保護者アンケート実施 ・おやつ提供時には、アレルギーの子どもに対する配慮を行っている。 																																																				
登録者・来館者	<p>登録児童数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>53</td> <td>36</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>49</td> <td>42</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>25</td> <td>38</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>39</td> <td>40</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>177</td> <td>168</td> <td>345</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	53	36	89	2年生	49	42	91	3年生	25	38	63	4年生	39	40	79	5年生	8	8	16	6年生	3	4	7	計	177	168	345	<p>在籍児童数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>26</td> <td>22</td> <td>48</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	12	11	23	2年生	10	8	18	3年生	4	3	7	計	26	22	48
	男	女	計																																																			
1年生	53	36	89																																																			
2年生	49	42	91																																																			
3年生	25	38	63																																																			
4年生	39	40	79																																																			
5年生	8	8	16																																																			
6年生	3	4	7																																																			
計	177	168	345																																																			
	男	女	計																																																			
1年生	12	11	23																																																			
2年生	10	8	18																																																			
3年生	4	3	7																																																			
計	26	22	48																																																			

2012（平成24）年度 雲柱社 児童館ブロック 事業報告

施設名 深川学童クラブ
 記入者 松原 万紀子

児童館
 ブロック

深川
 (委託)

学童クラブ																	
事業の総括	<ul style="list-style-type: none"> ・森下児童館のお化け縁日や平野児童館の行事にも参加し、力士と実際に相撲を取ったり普段では体験できないことを子ども達に経験させることができた。 ・育成室改築後、きれいになって大喜びであり、2、3年生が自主的に整理整頓に取り組み、1年生もよい影響を受けて、物を大切に使うことができるようになった。 ・子どもを通して、保護者支援が必要な家庭には、学校にも協力していただき、問題解決に努めた。 <p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、江東きつずクラブ深川となるが、引き続き保護者・地域・学校とはよい関係が保てるように、努めていく必要がある。 ・子どもたちの授業時間の増加や江東きつずクラブ深川への移行に際し、育成スケジュールの組み立て等今後さらに配慮していきたい。 ・配慮を必要とする児童に対して個々の対応を丁寧にしていく（保護者支援も含む） 																
活動・行事報告	<ul style="list-style-type: none"> ・4月入会式、入学・進級おめでとう会（森下児童館） ・6月遠足、おすもう大会（平野児童館） ・7月交通安全教室（平野児童館）、夏祭り、観劇会 ・8月遠足、お化け屋敷（森下児童館） ・12月クリスマス会 ・1月かるた大会 ・3月お別れ会・お別れ遠足、江東北部ドッジボール大会 <p>定期活動：月1回 ゲーム会、にこにこひろば（江東区*深川北子育て支援センターとの交流事業、避難訓練月1回）、工作、映画会、誕生会</p> <p>その他：ぬりえコンクール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者会：5月、7月 ・入会説明会3月 ・個人面談：6月、11月 																
登録者・来館者	<p>(在籍時数)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>9</td> <td>15</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>21</td> <td>29</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>	1年生	9	15	24	2年生	6	10	16	3年生	6	4	10	計	21	29	50
1年生	9	15	24														
2年生	6	10	16														
3年生	6	4	10														
計	21	29	50														

2012（平成24）年度 雲柱社 児童館ブロック 事業報告

施設名 汐入ふれあい館
記入者 鶴澤 陽

児童館ブロック

汐入（指定管理）

	子育て支援活動	小学生活動	中・高生活動	高齢者・成人対象事業	貸室事業																																										
事業の総括	<p>○館の周囲は全て団地マンション等が建ち並び多くの人口を抱える地域である。移住者や引越し等が多いせいもあって、現時点では特に乳幼児や小学生の人口比率が周辺地域よりもやや高い。その影響もあり乳幼児プログラム活動への要望がかなり多い。また自由来館での利用も多い(例:乳幼児室の利用等)。</p> <p>○要望の多い0歳児は、月齢で分けた3クラス制にした。また1、2歳児は、従来どおりの各2クラスにして受け入れた。3歳児、及び4、5歳児クラスは午後を実施した。各クラスともに、定員を設けず、希望者は全て受け入れた。</p> <p>○父親母親のみならず、祖父母等参加の運動会等の、家族としての子育て支援の活動も行った。</p>	<p>○各種活動プログラム等は、それぞれ毎日行ない、曜日で種目を分ける等の工夫を行なった。年度の途中でも見直しをするなど、参加しやすいように工夫した。多目的室(体育室)でのスポーツを中心とするプログラム活動が、年齢年代学年を問わず、人気が高い。一方で、料理・手芸・読書・折り紙等の生活経験の幅を広げる活動も重視し展開した。</p> <p>○「あらかわ家族の日」に合わせた親子での活動を充実させて来た。親子でのスポーツ・木工・観劇等を実施した。多少なりとも、親子の関わりの場を提供できたと考えられる。</p> <p>○高齢者と合同の輪投げ会も好評で、世代を越えた交流が持てた。図書室の環境を整え、読書活動の内容も充実させた。</p>	<p>○主に多目的室が使えることでスポーツ運動を主な目的に来館する者が多い。バスケットと卓球の利用が多い。</p> <p>○成人の方々との交流卓球大会も、昨年に引き続き実施した。</p> <p>○もんじゃ、ポップコーン等のおやつ作りを通し友だち・仲間、職員との良い交流の時間が持てた。</p> <p>○サロンでは職員がなるべく丁寧に対応してきた。出来るだけ利用者の思いを受け止め、彼らの意向に沿った活動を実施し、居場所作りにも力を注いできた。</p>	<p>○スポーツタイム・健康体操・絵手紙・カラオケ・映画会・お出かけ・パソコン体験・等、利用者の要望を探りながら実施した。</p> <p>○健康に関心が高く、体操系・スポーツ系は参加も多い。卓球タイムは特に熱心な参加者が多く、楽しまれているように見受けられた。</p> <p>○子どもたちとの交流試合も積極的に参加して下さった。同様に小学生との輪投げ会も熱心であった。</p> <p>○お出かけの行先の要望をきき、参加者同士の交流が図れた。</p> <p>○老人会(3つ)の活動も熱心で、館としては活動の支援に配慮して来た。</p>	<p>○区で定められている貸室事業。地域のグループ活動等に貸室を実施した。</p> <p>○貸室のための準備・清掃などを行う。</p> <p>○区で定められた予約や、書類や利用料の取り扱い、還付作業等も行った。</p> <p>原則として、 平日 19:00～22:00 日祝祭日 9:00～22:00</p>																																										
活動・行事報告	<p>○クラス活動 0歳児〔毎月曜〕ひよこ・こぼんだ・ぼんだクラス 1歳児〔毎火曜〕こうさぎ・うさぎクラス 2歳児〔毎木曜〕りすクラス 2歳児〔毎金曜〕こあらクラス 3、4、5歳児〔毎木曜〕きりんクラス</p> <p>○子育て講座:救急法、歯の話、講演会「食育について」「感染症予防について」「予防接種について」等</p> <p>○プレイルーム(乳幼児室)開放 ○プレイパーク(多目的室・体育室に玩具を出して開放)開放 ○行事:乳幼児運動会、クリスマス会 ○子ども服リサイクル:奇数月 無料 ○ランチコーナー:毎日開館時間中 自由に使って貰う。 ○区カウンセラーの育児相談 年6日</p>	<p>○多目的室:設定スポーツ(種目別の時間) ドッジボール、バスケットボール、サッカー、ユニホック、輪投げ等</p> <p>○自由遊び:一輪車、縄跳び、レクリエーションゲーム等</p> <p>○一年生タイム(1年生の時間)</p> <p>○創作室:自由工作、折り紙タイム、絵手紙タイム、絵手紙教室(講師)、木工製作、手芸タイム等</p> <p>○図書室:読書、お話し会、素喃、パネルシアター、紙芝居、読み聞かせ、手話と歌、等</p> <p>○サロン:百人一首、オセロ、ゲーム、読書、等</p> <p>○和室:映画会等</p> <p>○年間行事:夏まつり、クリスマス、各種の区の行事(ふれあいまつり、南千住なかよしまつり、ふれあい館交流フェスタ等)</p> <p>○小学生クラブ「ソルティークラブ」:(登録制、総計28名登録) スポーツ、料理教室等を実施</p>	<p>○中学生タイム 月～金曜 主に多目的室 主にスポーツ(バスケット、卓球、等) 設定スポーツ大会 水・土曜日</p> <p>○サロン 月～日曜日 18:00～19:00 雑誌、ゲーム類、手芸等</p> <p>○図書室〔不定期〕手芸、学習等</p> <p>○洋室 リトルキッチン(おやつ作りと交流) 話し合い、みんなでトークなど</p> <p>○行事 クリスマス会 館活動の手伝い体験(ボランティア体験) 各種ボランティア活動 成人との交流卓球大会 等</p>	<p>○大人のスポーツタイム 週1回 卓球、ニュースポーツ、等</p> <p>○卓球タイム 週1回 健康体操 週1回 ストレッチ等を取り入れ、基礎的な運動を行った。</p> <p>○ころぼん体操 週1回〔区規定〕</p> <p>○その他 踊り、カラオケ、輪投げ、パソコン体験(文字入力等の基本的操作・インターネット体験・等)、書道タイム、絵手紙教室、映画会、等</p> <p>○ふれあい寄席 年1回</p> <p>○サロン マッサージ機、血圧計、ヘルストロン、雑誌等の設置利用 ※ヘルストロンは2012年度末をもって廃止になった。 ※ピラティスに加えて、エアロビクスの講座を設けた。</p>	<p>貸室対象の部屋 図書室 創作室 和室 多目的室 その他</p> <p>※現在の時間枠は今年度末まで。来年度以降は貸し出し時間枠が変わる。それにともない他の事業などの時間帯も変動する。</p>																																										
登録者・来館者数など	<p>乳幼児活動登録数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢別クラス</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児</td> <td>83</td> <td>54</td> <td>137</td> </tr> <tr> <td>1歳児</td> <td>58</td> <td>62</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>2歳児</td> <td>55</td> <td>65</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>3～5歳児</td> <td>55</td> <td>65</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>251</td> <td>246</td> <td>497</td> </tr> </tbody> </table>	年齢別クラス	男	女	計	0歳児	83	54	137	1歳児	58	62	120	2歳児	55	65	120	3～5歳児	55	65	120	計	251	246	497	<p>来館者数</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>13,857</td> <td rowspan="6" style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>32,417</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>4,620</td> </tr> <tr> <td>一般(含高校生)</td> <td>17,787</td> </tr> <tr> <td>高年者〔高齢者〕</td> <td>7,506</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>76,187</td> </tr> <tr> <td>開館日数</td> <td>360</td> <td>日</td> </tr> <tr> <td>1日平均</td> <td>211.6</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>	乳幼児	13,857	/	小学生	32,417	中学生	4,620	一般(含高校生)	17,787	高年者〔高齢者〕	7,506	計	76,187	開館日数	360	日	1日平均	211.6	人	<p>大きな行事 館主催の行事、及び、荒川区の全館事業・全世代対象事業・公的地域事業・等</p> <p>6月 南千住地区演芸大会 7月 汐入ふれあい館夏まつり 9月 南千住わくわく街歩き探検隊(ウォークラリー) 10月 南千住なかよしまつり 11月 汐入町会文化祭 12月 汐入ふれあい館クリスマス会(乳幼児、小学生以上に分けて2回開催)</p> <p>1月 南千住新春凧上げ(たこあげ)大会 2月 南千住ふれあいまつり 3月 荒川区ふれあい館交流フェスタ(於サンパール荒川大ホール) ※すべてに参加・運営協力をした。</p>	<p>・あらかわ街なか避暑地(7月～9月) ・街なかほっとサロン(1月～3月) 節電対策の意味を兼ねて、荒川区全般の施設で実施、汐入ふれあい館では、写真展、冷茶サービス、等を実施した。</p> <p>・指定管理運営協議会の設置 6月 ・工事等 屋上設備ヤード電源キュービクル発錆 補修(竣工以来始めて) 屋上設備ヤード排水口詰まり等 高圧洗浄清掃(竣工以来始めて) 屋上設備ヤード防水補強工事 雨漏り対策 2階多目的室(体育室) 上部側壁、点検口 破損、補修工事 3階洋室天井 東日本大震災後遺症ひび割れ補修工事 3階乳幼児室(旧図書室)東日本大震災後遺症天板落下防止工事 3階学童室 雨漏り補修工事(雨漏り跡、及び屋根部分補修) 全館トイレトーパーホルダー交換工事(古い金属製で危険)</p> <p>1階和室棚等転倒防止工事 ※7月～8月、汐入小学童クラブ下水管とトイレ工事のため、汐入ふれあい館洋室で学童クラブを移転運営実施した。 ※公衆電話は2012年度末で廃止される。電話回線は転用予定。</p>
年齢別クラス	男	女	計																																												
0歳児	83	54	137																																												
1歳児	58	62	120																																												
2歳児	55	65	120																																												
3～5歳児	55	65	120																																												
計	251	246	497																																												
乳幼児	13,857	/																																													
小学生	32,417																																														
中学生	4,620																																														
一般(含高校生)	17,787																																														
高年者〔高齢者〕	7,506																																														
計	76,187																																														
開館日数	360	日																																													
1日平均	211.6	人																																													

2012（平成24）年度 雲柱社 児童館ブロック 事業報告

施設名 町屋ふれあい館
記入者 植松 牧人

児童館
ブロック

町屋
(指定管理)

	子育て支援活動	小学生活動	中・高生活動	高齢者・成人対象事業	貸室事業他																																																							
事業の総括	<p>○親子が安心して過ごせる場所として利用頂けるように、遊具・玩具類の充実と、点検・補修の面にも配慮した。ゆったりとした空間や、プログラムを楽しめる場として、クラス登録児に加え、自由来館での利用も多い。</p> <p>○要望の多い0歳児は、月齢で分けた2クラス制にした。登録制のクラス以外に、身長体重の測定や手型足型がとれるコーナーを設けた、マンボウタイムを月に1回実施した。</p> <p>○母子だけでなく父親、祖父母とのふれあいの場になるよう、多世代プレイパークとして多目的室に設定し開放した。</p> <p>○公園で遊ぶ楽しさを味わう為、近隣の公園に出掛け、紙芝居・ふれあい遊び等の活動を行った。</p> <p>○おはなしタイムとして、よみかせ以外に手遊び等も取り入れ、気軽に参加できるように工夫した。</p> <p>○子ども連れで参加できる事業の取り組みとして、ママ向けのエクササイズ等も行った。</p>	<p>○設定スポーツは、それぞれ毎日行ない、曜日で種目を分ける等の工夫を行なった。16時半からは多目的室全体でドッジボールを行う。多目的室は全員で同じ種目で遊ぶ事が多いので、年度の途中で違った遊びもできるような見直しをするなど、参加しやすいように工夫した。多目的室(体育室)でのスポーツを中心とするプログラム活動が、年齢・学校を問わず、人気が高く、異学年、学校間交流になっている。</p> <p>○木工では 低学年の利用が多く同じメンバーが参加している。</p> <p>○親子での陶芸教室を行った。独自の窯室で焼きできた作品を持ち帰る。</p> <p>○こども会議では子どもたちの意見を聞き、行事では実行委員を募り、子ども主体の行事を行う。</p>	<p>○主に多目的室(多目的室)を利用してスポーツを楽しむことを主な目的に来館する者が多い。バスケットやサッカーの利用が多い。</p> <p>○来館者数は増加しており、スポーツを通して小学生との交流も盛んに行う事ができた。</p> <p>○スポーツやクリスマス会などの行事を通して友だち・仲間、職員との良い交流の時が持てた。</p> <p>○サロンでは、卓球の利用や交流の場として職員がなるべく丁寧に対応してきた。出来るだけ利用者の思いを受け止め、彼らの意向に沿った活動を実施し、小学生と共存できる居場所作りにも力を注いできた。</p>	<p>○カラオケ・合唱・民謡・50歳からのヨガ・健康ストレッチ・ギター教室・パソコン体験・陶芸教室等、利用者の要望を探りながら実施した。</p> <p>○健康に関心が高く、体操系・スポーツ系は参加も多い。特にヨガに関しては、受付開始日には定員に達する。熱心な参加者が多く、楽しい雰囲気の中かで活動が展開することができた。</p> <p>○当館独自の陶芸教室では、毎回定員いっぱいとなりこちらも利用者のニーズは高い。また出来上がった作品は文化祭で展示したりと館行事とのつながりも見られた。</p> <p>○当館の事業は一部の事業を除き全て無料でプログラム企画に参加できることもあり、体育系、文化系問わず、人数の偏りなくある程度の参加人数を確保している。</p>	<p>○区で定められた貸室事業として、地域のグループ活動等に貸室を実施した。</p> <p>○貸室のための準備・清掃などのほか、区で定められた予約・利用料の取り扱い・還付作業等も行った。</p> <p>○原則として事業のない場合は、貸室として利用者に部屋を提供している。</p> <p>【貸室利用時間】 9:00~21:45 (平日・日曜・祝日)</p>																																																							
活動・行事報告	<p>クラス活動</p> <p>0歳児〔毎火曜〕 こめだか・めだか 1歳児〔毎水曜〕 こきんぎょ・きんぎょ 2歳児〔毎木曜〕 なかよしひろば(木曜クラス) 2歳児〔毎金曜〕 なかよしひろば(金曜クラス) 3歳児以上〔毎月曜〕 いるか</p> <p>○子育て講座・救急法・食育講座・ベビーマッサージ・キッズリフレ・ピラティス ○プレイルーム：乳幼児室の開放 ○プレイパーク：多目的室に遊具をセッティングして開放 ○遠足(上野動物公園) ○ウォーターワールド：プールを用意し水遊びを行う ○えんにちごっこ：乳幼児の親子を対象に縁日遊び実施 ○乳幼児運動会 ○やきいも会 ○クリスマス会 ○サロン：毎日開館時間中は自由に飲食可 ○ランチタイム：プレイルームにテーブルを設置(ランチ時のみ) ○区カウンセラーの育児相談</p>	<p>○多目的室 設定スポーツ(種目別の時間) ドッジボール、タスケ、サッカー、自由遊び 一輪車、縄跳び、レクリエーションゲーム等 低学年タイム(1、2、3年生の時間)</p> <p>○創作室 自由工作、創作室タイム(スライム、プラバン等)、特別創作室タイム(木工)、ダイヤブロック、けん玉、ヨーヨー、マンカラ等</p> <p>○サロン 囲碁、オセロ、読書、等</p> <p>○年間行事 子ども会議、(年2回) あつまれ1年生 陶芸教室(2回) 忍者屋敷 わくわく DAY 交流ドッジボール大会(2回) 遠足(すみだ水族館) クリスマス会(実行委員形式) カルタ大会 もうすぐみんなは1年生</p> <p>ダンスクラブ「Jダンス」(登録制) 地域でダンス3回発表、人形劇発表等</p>	<p>○小中高生合同ボールタイム(月～金) 17:30~18:00(ドッジボール、タスケ、等) ○中高生タイム 月～金曜 に多目的室 18:00~18:45 主にスポーツ(バスケット、サッカー、等)</p> <p>○サロン 月～日曜日 10:00~19:00 雑誌、ゲーム類、卓球等</p> <p>○行事 クリスマス会 ご飯会 館活動の手伝い体験(ボランティア体験) 各種ボランティア活動 等</p>	<p>○体育系部門 50歳からのヨガ 健康ストレッチ</p> <p>○多世代プレイパーク(月1回土曜)</p> <p>○ころばん体操 週2回〔区規定〕</p> <p>○文化部門 カラオケ(週2回) カラオケ大会(年2回) 合唱(週1回) 民謡(隔週) パソコン(年8回)</p> <p>○荒川ふれあい寄席(年1回)</p> <p>○サロン パソコン利用、卓球台の設置、雑誌等の設置 利用 テレビ視聴</p>	<p>貸室対象の部屋</p> <p>1階 和室1 和室2</p> <p>2階 洋室 音楽室 プレイルーム 創作室</p> <p>3階 多目的室</p> <p>自主事業</p> <p>陶芸窯室 団体はなみずきが一般利用した。</p>																																																							
登録者・来館者数など	<p>乳幼児活動 登録数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td colspan="2">87</td> <td>87</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td colspan="2">71</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td colspan="2">158</td> <td>158</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>3歳児クラス</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>26</td> <td>21</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td>205</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	0歳児クラス	87		87	1歳児クラス	71		71	小計	158		158	2歳児クラス	15	12	27	3歳児クラス	11	9	20	小計	26	21	47	合計			205	<p>来館者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>7,834</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>12,058</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>中高生</td> <td>2,597</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>12,438</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>34,927</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>開館日数</td> <td>357</td> <td>日</td> </tr> <tr> <td>1日平均</td> <td>98</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>				乳幼児	7,834	人	小学生	12,058	人	中高生	2,597	人	一般	12,438	人	計	34,927	人	開館日数	357	日	1日平均	98	人	<p>荒川区の全館事業・全世代対象事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町屋忍者屋敷 (6月) 768名 ・わくわくDAY(夏祭り) (7月) 519名 ・焼いも会 (11月) 195名 ・クリスマス会 乳幼児 (12月) 284名 小学生 (12月) 221名 成人 (12月) 264名 ・町屋ふれあい文化祭 (2月) 694名 ・荒川区交流フェスタ (3月) 1,482名 	<p>区・地域地区の事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町会夕涼み会 ・町屋ふれあい祭り ・学童ゲーム会 ・荒川ふれあい寄席 ※すべてに参加・運営に協力をした。 ・ころばん体操(月曜、水曜) ・あらかわ街なか避暑地 ・ほっとサロン 節電対策の一環として、荒川区全般で実施した。 ・指定管理運営協議会の設置 (学校関係、町会、利用者代表などが参加)
	男	女	計																																																									
0歳児クラス	87		87																																																									
1歳児クラス	71		71																																																									
小計	158		158																																																									
2歳児クラス	15	12	27																																																									
3歳児クラス	11	9	20																																																									
小計	26	21	47																																																									
合計			205																																																									
乳幼児	7,834	人																																																										
小学生	12,058	人																																																										
中高生	2,597	人																																																										
一般	12,438	人																																																										
計	34,927	人																																																										
開館日数	357	日																																																										
1日平均	98	人																																																										

2012（平成24）年度 雲柱社 児童館ブロック事業報告

施設名 汐入学童クラブ・汐入小学童クラブ

記入者 鵜澤 陽

	汐入学童クラブ	汐入小学童クラブ																																
事業の総括	<p>○汐入学童クラブ、汐入小学童クラブの両クラブで、事業計画、内容、月の予定表、お便り、おやつ等について、可能な限り、共通化・統一化するようにしてきた。これは、利用者に対し、どちらの学童クラブへ入ることになっても、不公平感を生じないようにする配慮も含む。また、共通化の行事、同じ目的・内容で活動を計画した。両学童の職員で振り返りを行い、両学童クラブの違いをも比較検討し、お互いにより良い活動を展開する様にしてきた。</p> <p>○個別の活動も大切に。特に保護者から要望の強い勉強(学校の宿題等)も自主的に取り組むよう個別にうながした。</p> <p>○「心地良い居場所作り」を心がけた。環境整備にも力を入れた。本(マンガ等)、ゲーム類の玩具の充実を心がけた。図書については、伝記や歴史のマンガ物、地震や防災の子ども向けのものを取り入れた。</p> <p>○汐入町会文化祭・南千住ふれあいまつりへ作品を出展した。そのために子どもたちが積極的に紙工作、手芸等の作品作りをするように声かけをした。</p> <p>○汐入町会文化祭・南千住ふれあいまつり・ふれあい館交流フェスタにて、手話と歌の発表をした。それぞれの発表の場へ向けて、最低でも週1回、練習をするようにした。</p> <p>○汐入ふれあい館のスポーツタイム、観劇、クリスマス会等への参加で活動の幅を広げた。</p> <p>○天井からの雨漏り、及び雨漏り跡の補修を行った。</p> <p>○随時、個人面談を行い、日々の保護者との対話を心がけた。</p> <p>○土曜日は、汐入ふれあい館・汐入学童クラブで、合同保育(育成)を実施した。</p> <p>○夏期期間(小学校夏期休暇期間7月後半～8月)中、学童クラブ室工事のため、汐入ふれあい館3階洋室(汐入学童クラブ横)に汐入小の学童クラブ室を移動し、実施運営した。部屋の設計時の想定以上の人数が入ったことにより空調の効きが悪い、換気が追いつかない等、いくつかの運営上のトラブルがあったが、大きな事故もなく、なんとか無事に乗り切ることが出来た。</p> <p>○心地良い居場所作りとして環境整備にも力をいれた。特に玩具の内、大型の積木を新しい物にした。これは、子どもたちが投げってしまうことから、安全性の見地が、硬い積木(木製)を、ウレタン製の積木(やわらかい物)に入れ替えた。肌触りも良いことから好評である。</p> <p>○学年毎に担当を分け、個別の対応を丁寧に行うようにした。</p> <p>○部屋の構造が、1階・2階に分かれている。1階を、主に軽い室内運動したりレクリエーションゲーム等をする部屋、2階を主に生活の部屋・ゆっくりと過ごす部屋に分けた。また、汐入小学校の校庭を使えることから、屋外の運動遊びにも力を入れた。</p>																																	
活動・行事報告	<p>日常活動：自由遊び、おやつ、勉強、宿題、等、製作、折り紙、読書、スポーツ、他</p> <p>誕生会、お店屋さん：毎月1回</p> <p>おやつ作り：毎月数回(不定期)</p> <p>外遊び(汐入学童クラブ)：汐入公園、瑞光橋公園、外遊び(汐入小学童クラブ)：汐入小学校校庭、汐入公園</p> <p>外出、お出かけ：汐入公園、大島小松川公園(江東区・江戸川区)</p> <p>区 行事等：汐入町会文化祭、南千住ふれあいまつり、ふれあい館交流フェスタ参加</p> <p>保護者会：新入会説明会、①新年度、新学期、②夏休みの過ごし方、③冬休みの過ごし方、次年度利用申請案内、④春休みの過ごし方、年度のまとめ他</p> <p>個人面談：随時受けてきた</p>																																	
活動・行事報告	<p>在籍数(2012年度末/3月時)</p> <p>計57名(1年：27名、2年：21名、3年9名)</p> <p>累計</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>期間：2012.4.～2013.3.</th> <th>出席者数</th> <th>開室日数</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平日(月～金)</td> <td>11,283名</td> <td>245日</td> <td>46.1名</td> </tr> <tr> <td>土曜日</td> <td>227名</td> <td>48日</td> <td>4.7名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11,510名</td> <td>293日</td> <td>39.3名</td> </tr> </tbody> </table>	期間：2012.4.～2013.3.	出席者数	開室日数	平均	平日(月～金)	11,283名	245日	46.1名	土曜日	227名	48日	4.7名	計	11,510名	293日	39.3名	<p>在籍数(2012年度末/3月時)</p> <p>計62名(1年：27名、2年：11名、3年：23名、6年：1名)</p> <p>累計</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>期間：2012.4.～2013.3.</th> <th>出席者数</th> <th>開室日数</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平日(月～金)</td> <td>11,456名</td> <td>245日</td> <td>46.8名</td> </tr> <tr> <td>土曜日</td> <td>137名</td> <td>48日</td> <td>2.9名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11,593名</td> <td>293日</td> <td>39.6名</td> </tr> </tbody> </table>	期間：2012.4.～2013.3.	出席者数	開室日数	平均	平日(月～金)	11,456名	245日	46.8名	土曜日	137名	48日	2.9名	計	11,593名	293日	39.6名
期間：2012.4.～2013.3.	出席者数	開室日数	平均																															
平日(月～金)	11,283名	245日	46.1名																															
土曜日	227名	48日	4.7名																															
計	11,510名	293日	39.3名																															
期間：2012.4.～2013.3.	出席者数	開室日数	平均																															
平日(月～金)	11,456名	245日	46.8名																															
土曜日	137名	48日	2.9名																															
計	11,593名	293日	39.6名																															

2012（平成24）年度 雲柱社 児童館ブロック事業報告

施設名 七峡小学童クラブ
 記入者 加藤 麻衣

学童クラブ																					
事業の総括	<p>○職員の入れ替えにより、改めて一つひとつの事業を丁寧に確認し、計画、振り返り等で比較検討して職員同士でより良い活動を展開する様にした。</p> <p>○心地良い居場所作りとして環境整備にも力を入れた。雨の日用にプログラムを設定し、室内でもフラストレーションがたまらない様工夫した。</p> <p>○障がい児申請の出ている保護者と相談の上、職員が子どもたちを対象に障がい児について理解を深める時間をもうけた。その結果、助け合う力、認め合う心が育まれた。</p> <p>○地域のふれあい館（荒木田、町屋）へのお出かけやイベント（町屋ふれあい文化祭、ふれあい館夏祭り等）への参加を通して、地域の方との交流もできた。</p> <p>○町屋ふれあい文化祭では町屋地区4学童の中心となり、手話ソングの発表をした。子どもたちの達成感、保護者の喜びも得られた。子どもたちの参加意欲が高いともわかり、今後も継続していく。</p> <p>○行政に相談し、地域の駄菓子屋への買い物体験が実現した。こうした新しい試みも今後継続していきたい。</p> <p>○随時、個人面談を行う等、保護者の思いを丁寧に受け取り対応する様に心がけた。次年度も継続していく。</p>																				
活動・行事報告	<p>日常活動：自由遊び おやつ 宿題 製作 読書 スポーツ 誕生会 お店屋さん ロッカー（個人ランドセル入れ）掃除 防災訓練：毎月1回 おやつ作り：毎月数回 入会式、水遊び(天王公園)、クリスマス会、買い物おやつ、大掃除、お別れ遠足(科学技術館)、卒会式 地域施設へのおでかけ イベント参加(町屋ふれあい館・荒木田ふれあい館) 町屋地区4学童合同ゲーム会 町屋こども祭り 町屋ふれあい文化祭参加 保護者会：年4回 個人面談：随時受ける。 (在籍児数) 48名</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>10</td> <td>5</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>8</td> <td>4</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>30</td> <td>18</td> <td>48</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年	12	9	21	2年	10	5	15	3年	8	4	12	合計	30	18	48
	男	女	計																		
1年	12	9	21																		
2年	10	5	15																		
3年	8	4	12																		
合計	30	18	48																		

	<p>小学生活動（放課後子どもプラン事業）</p>																																																										
<p>事業の総括</p>	<p>□区内のにこにこすくーるでは唯一の「学童クラブ機能を備えたにこにこすくーる」として朝の受け入れを8:30から行う。（通常利用時間（月～金）9:00～18:00、（土曜日）9:00～17:00） □小学校から道路を挟んだ中学校の敷地内にある旧汐入こども園園舎の一階スペースを活動拠点（専用室）として日々の受入、活動を行う。 □前年度まで人気の高かったプログラムを継続しつつ、生活技術を体得するプログラム（科学実験室・クッキングタイム・手芸タイムなど）を、新たに参加人数を限定して行う。 □子ども達のニーズを受け止め、新たなプログラム（おりがみタイム・チャレンジタイム・ストラックアウト選手権・にこにこFC）を取り入れる。 □専用室が児童の数に対して十分なスペースがないため、晴れている日は隣接する汐入公園多目的広場（平日は汐入東小学校の校庭）での外遊びを積極的に行い、雨天時は学校行事や事業に支障のない範囲で汐入東小学校の体育館を借りて身体を動かす活動を行う。 □活動内容は行政との協議の上、学校、地域関係者、PTA、行政職員などで構成する「運営委員会」の承認を得て進めていく形をとっている。</p>																																																										
<p>活動・行事報告</p>	<p>月間プログラム □文化活動 お話タイム(4～7月)、手作りタイム(年6回)、おりがみタイム(年6回)、ぬりえコンテスト(毎月)、映画会(毎月) 手芸タイム(年6回)、クッキングタイム(年6回)、科学実験室(年6回) □遊び（スポーツ・レクリエーション） チャレンジタイム(毎月)、ストラックアウト選手権(年4回)、けん玉検定(年5回)、コマ検定(年5回)、わなげ大会(年4回)、ボーリング大会(年4回) マンカラ※大会(年7回)※アフリカや中近東、東南アジアなどで古くから遊ばれているゲーム ゲーム会(年9回)、にこにこFC(年6回)、なわとび検定(3か月間)、マラソン(2か月間) □学年別グループ活動「にこにこクラブ」 ※10月より開始 1年生（毎週水曜 16:00～17:00） / 2年生（毎週金曜 16:00～17:00） / 3年生（毎週木曜 16:30～17:30） / 高学年（毎週火曜 16:30～17:30）</p> <p>年間プログラム 4月—1年生歓迎会 5月—三菱東京UFJ銀行新入職員の実習研修の受入（ボランティアを通しての依頼）・高学年パーティー・外出行事「ありのみコースに行こう」（2・3年生） 6月—外出行事「清水公園に行こう」（4～6年生） 8月—水遊び（低学年・高学年）高学年夕涼み会 9月—交通安全教室 10月—赤い羽根募金活動、外出行事「科学技術館に行こう」（1年生）、ハロウィン週間 12月—クリスマス会 2月—外出行事「アイススケートに行こう」（高学年） 3月—東日本大震災復興支援募金活動、交通安全教室</p> <p>その他 運営委員会(不定期)</p>																																																										
<p>登録者・来館者</p>	<p>登録児数</p> <table border="1" data-bbox="350 1486 1991 1570"> <tr> <td></td> <td>1年生</td> <td>2年生</td> <td>3年生</td> <td>4年生</td> <td>5年生</td> <td>6年生</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>登録児数</td> <td>138名</td> <td>149名</td> <td>100名</td> <td>77名</td> <td>36名</td> <td>18名</td> <td>518名</td> </tr> </table> <p>平均利用児数</p> <table border="1" data-bbox="350 1654 1952 1780"> <tr> <td></td> <td>4月</td> <td>5月</td> <td>6月</td> <td>7月</td> <td>8月</td> <td>9月</td> <td>10月</td> <td>11月</td> <td>12月</td> <td>1月</td> <td>2月</td> <td>3月</td> <td>平均</td> </tr> <tr> <td>平日</td> <td>135名</td> <td>127名</td> <td>116名</td> <td>123名</td> <td>103名</td> <td>98名</td> <td>106名</td> <td>101名</td> <td>96名</td> <td>81名</td> <td>82名</td> <td>88名</td> <td>105名</td> </tr> <tr> <td>土曜日</td> <td>17名</td> <td>47名</td> <td>26名</td> <td>21名</td> <td>10名</td> <td>18名</td> <td>33名</td> <td>26名</td> <td>28名</td> <td>16名</td> <td>29名</td> <td>15名</td> <td>24名</td> </tr> </table>		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計	登録児数	138名	149名	100名	77名	36名	18名	518名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	平日	135名	127名	116名	123名	103名	98名	106名	101名	96名	81名	82名	88名	105名	土曜日	17名	47名	26名	21名	10名	18名	33名	26名	28名	16名	29名	15名	24名
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計																																																				
登録児数	138名	149名	100名	77名	36名	18名	518名																																																				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均																																														
平日	135名	127名	116名	123名	103名	98名	106名	101名	96名	81名	82名	88名	105名																																														
土曜日	17名	47名	26名	21名	10名	18名	33名	26名	28名	16名	29名	15名	24名																																														

2012(平成24)年度 雲柱社 児童館ブロック 事業報告

施設名 岩戸児童センター
記入者 日下 美恵子

	子育て支援活動	小学生クラブ	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																			
事業の総括	<p>はいはい・よちよち・とっこクラブは、月1回のプログラムとして内容を充実させた。そのため出席率が高くなり、年間を通して多くの親子が参加した。ねんね赤ちゃんプレイルームは、このクラス専用の身長体重測定日を月に2回設け、子育て相談へとつなぐことができた。このプログラムは、子ども家庭支援センターが併設されている児童館として、ひろば利用のきっかけとしても大きな役割を果たしており、子育て支援の大きな役割を担っていると考えている。</p> <p>利用状況は昨年度と比べて年度当初は減少したが、7月以降は全ての月で前年度を上回り、来館人数は大幅に増加した。</p> <p>昨年度から取り入れたたんぼぼタイムは、異年齢の親子交流の一つにもなっており、この時間を楽しみに来館する親子もいる。次年度も継続して実施し、ひろばへ来るきっかけの一つとして大切にしていきたい。</p>	<p>今年度も定員を超えての開所となった。</p> <p>2部屋の利用に関しては、学習、遊びの住み分けが定着してきたことで生活に落ち着きが見られた。今年度も障がい児は7名受け入れた。障がい児のためのスペースを確保しつつ、共に楽しめるプログラムの設定や遊びの仕掛けを増やすことで良い関係作りができた。</p> <p>今年度は、昨年度行った行事を精査し、新たに在籍児が季節感や小学生クラブに来てよかったと喜べるような独自の行事を多く取り入れた。また積極的に異年齢交流を図れるプログラムを多く取り入れた結果、小学生クラブ内での異年齢交流も盛んになった。今年度末には、お別れ遠足、お別れ会も行った。</p> <p>延長利用の登録者数は減少しているものの、スポット利用は引き続き多く、ニーズも高い。災害時に備えて、各家庭に小学生クラブ独自のメール配信用アドレスへの登録を促した。</p>	<p>行事の見直しを図りながらも、新しい活動に着手し、質の高いプログラムを展開した。セルフレスキューや火起こしなどを体験する、「ロード・ザ・サバイバー」というイベントを新たに実施したが、地域の人たちからもとても好評であった。ファミリーデーや親子キャンプなど、保護者も参加するプログラムに加えて、館庭を活かしたプログラムを充実させた。</p> <p>体育館・図書室・ワイワイルームなどは終日子ども達で大いににぎわっていた。各プログラムの見直しや、環境整備は継続的に行った。体育館の使い方のプログラム化も定着し、遊びやスポーツの住み分けを図った。</p> <p>1年生、2・3年生の組織活動は毎回多くの子どもが参加し、スポーツ、創作活動などテーマに沿ったプログラムを展開していった。高学年の組織活動もアスリートクラブ、ピストロッキーとして、定着している。また、今年度も引き続き体力増進活動も取り入れ、スポーツ活動が特に充実していた。</p>	<p>中高生活動は年末にかけてクッキング、バスケットなど、子どもたちのニーズを吸い上げた形で実施した。夜間は例年通り、バスケットボールを目的とした中高生が多く来館していた。18時から7時の図書室の中高生ルームは浸透してきており、試験期間前には勉強目的で来館する姿も見られた。</p> <p>狛江第二中学校、狛江第四中学校の職場体験を年2回受け入れ、地域中学校との連携も取れていた。バスケット以外のスポーツの推進を図り、ノーバスケデーを設けたことで、卓球やマット遊びなどの利用も増えている。曜日によって来館する子の顔ぶれも変わり、幅広い利用につながっている。</p> <p>また、図書室には中高生向けの雑誌や、玩具を購入し、スポーツ以外の居場所も推進したが、大きな結果は残せなかった。</p>	<p>保護者に積極的に参加を促し、ファミリーデーを年間2回実施した。調理、スポーツとそれぞれのテーマで行い、毎回多くの親子が参加した。また、秋には親子でのキャンプを企画し、11名の保護者が参加した。昨年度同様竹藪に入って、竹を切ってそれを開いて流しそうめんを作ったり、魚の掴み取りなどの自然体験を行ったり、陣馬山への登山も行った。</p> <p>また、夏のえんにちや、センター合宿、岩戸フレンドパークでは小学生クラブの保護者だけでなく、自由来館児の保護者も、調理ボランティアを中心として参加があった。</p>																																																																			
活動・行事報告	<p>たんぼぼひろば (AM9:00～PM6:00 まで開放)</p> <p>相談件数・・・年間 827 件</p> <p>・ねんね赤ちゃんプレイルーム 年間 977 組 (延べ人数)</p> <p>・はいはいクラブ(※) 年間 307 組 (延べ人数)</p> <p>・よちよちクラブ(※) 年間 357 組 (延べ人数)</p> <p>・とっこクラブ(※) 年間 303 組 (延べ人数)</p> <p>・Nobody's Perfect 2クール 各 16 名</p> <p>・すくすく測定 年間 435 組 (延べ人数)</p> <p>・たんぼぼ Thinking 6 回実施 68 組</p> <p>・すいとん 61 名</p> <p>・えんにち 141 名</p> <p>・水あそび 18 回 762 名</p> <p>・たんぼぼハロウィン 183 名</p> <p>・たんぼぼクリスマス 276 名</p> <p>・たんぼぼお花見会 79 名</p> <p>※発達段階別にプログラムを分けている。</p>	<p>・新入生入会式 15 名</p> <p>・歓迎会 38 名</p> <p>・お花見 35 名</p> <p>・レトルトデー 全4回 151 名 (※保護者のお弁当作りの負担を減らすため)</p> <p>・昼食作り 41 名</p> <p>・ハロウィンパーティー 42 名</p> <p>・クリスマスパーティー 39 名</p> <p>・水遊び 全2回 44 名</p> <p>・バレンタインおやつ 37 名</p> <p>・ひな祭りおやつ 46 名</p> <p>・お別れ遠足 43 名</p> <p>・お別れ会 42 名</p> <p>・保護者会 全2回 40 名</p> <p>毎月1回：手作りおやつ・誕生会・体育館 DAY 駄菓子屋さん</p>	<p>各部屋に職員を配置し児童の自由な遊びを促す。 内容は、スポーツ、工作、スポーツ大会、映画会、お話し、折り紙タイム、ちっちゃなアトリエ等</p> <p>・1年生歓迎会 34 名</p> <p>・2～6年生遠足 30 名</p> <p>・ファミリーデー① 40 名</p> <p>・ロッキーえんにち 328 名</p> <p>・ふるさと交流キャンプ 30 名 (注)</p> <p>・親子キャンプ 23 名</p> <p>・低学年センター合宿 50 名</p> <p>・児童館交流フェスタ 20 名</p> <p>・高学年ピストロッキー合宿 15 名</p> <p>・ロッキークリスマス 202 名</p> <p>・ファミリーデー② 53 名</p> <p>・岩戸フレンドパーク 170 名</p> <p>・交流ドッジフェスタ 174 名</p>	<p>・やさそば対決 7 名</p> <p>・中高生バスケット大会 5 名</p> <p>・中高生限定新年会 9 名</p>	<p>・ファミリーデーを2回実施</p> <p>6月 ハンバーガー作りを実施。40名</p> <p>1月 ドッジボールやタスケなどのスポーツ大会を実施 53名</p> <p>(注) 姉妹提携都市である新潟県川口との交流を図る。地元の人などと触れ合うきっかけを作った。</p> <p>ふるさと交流キャンプ 30名</p>																																																																			
登録者・来館者	<p>(延べ来館者数) ※利用カード登録者のみ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年 齢</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児</td> <td>6,585</td> </tr> <tr> <td>1歳児</td> <td>3,793</td> </tr> <tr> <td>2歳児</td> <td>2,992</td> </tr> <tr> <td>3歳児</td> <td>732</td> </tr> <tr> <td>4歳児</td> <td>634</td> </tr> <tr> <td>5歳児</td> <td>288</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>15,024</td> </tr> </tbody> </table>	年 齢	計	0歳児	6,585	1歳児	3,793	2歳児	2,992	3歳児	732	4歳児	634	5歳児	288	計	15,024	<p>(在籍児数)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>27</td> <td>23</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	5	5	10	2年生	11	9	20	3年生	9	7	16	4年生	1	2	3	6年生	1	0	1	計	27	23	50	<p>(2012年度来館者数)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td>15,560</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>12,194</td> <td>6,540</td> <td>18,734</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td>2,843</td> <td>905</td> <td>3,748</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> <td>14,008</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>15,037</td> <td>7,445</td> <td>52,050</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	合計	乳幼児	/	/	15,560	小学生	12,194	6,540	18,734	中・高校生	2,843	905	3,748	一般	/	/	14,008	計	15,037	7,445	52,050	<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p><体験学習・実習生></p> <p>狛江第二中学生職場体験学習 2名</p> <p>狛江第四中学生職場体験学習 2名</p> <p>・運営協議会の開催(2回) (参加者は行政関係、学校関係、利用者代表など)</p>
年 齢	計																																																																							
0歳児	6,585																																																																							
1歳児	3,793																																																																							
2歳児	2,992																																																																							
3歳児	732																																																																							
4歳児	634																																																																							
5歳児	288																																																																							
計	15,024																																																																							
	男	女	計																																																																					
1年生	5	5	10																																																																					
2年生	11	9	20																																																																					
3年生	9	7	16																																																																					
4年生	1	2	3																																																																					
6年生	1	0	1																																																																					
計	27	23	50																																																																					
	男	女	合計																																																																					
乳幼児	/	/	15,560																																																																					
小学生	12,194	6,540	18,734																																																																					
中・高校生	2,843	905	3,748																																																																					
一般	/	/	14,008																																																																					
計	15,037	7,445	52,050																																																																					

2012（平成24）年度 雲柱社 支援センターブロック 事業報告書

施設名 狛江市子ども家庭支援センター
 記入者 日下 美恵子

<p>事業の総括</p>	<p>1. ひろば事業 ねんね赤ちゃんプレイルームでは、毎月2回の測定日に利用が多く、0歳児を持つ母と子どもの居場所となっている。庭の砂場や広い体育館も人気があり、歩けるようになったばかりの子どもや2、3歳の子ども達が元気に遊ぶ姿も多く見られた。2階ひろばは、毎日午前中に行っているたんぼぼタイム（体操・手遊びの時間）が定着し、とても人気がある。ひろばが口コミで広がり、市外など遠方からの利用も多く見られた。</p> <p>2. 相談事業 ひろば相談は測定日の「発達・健康」についての相談が目立つが、電話相談では母が一人で育児をしている中での疲れや、悩みの相談も多く、他機関で行っているショートステイなどのサービス利用につながったケースもあった。昨年度途中から始まった狛江市の子育てネットの相談システムも広がりつつあり、相談者の顔が見えない、聞ける情報も乏しいという状況であり、対応の難しさを感じる。</p> <p>3. サービス提供事業 （一時保育）相談とサービスの窓口が同じであるため、速やかに連携できるという利点を活かし、利用者のニーズに応えることができた。需要は増えているが、一日一人という枠は変わらないため、特に年度末はお断りしなければならないことが多かった。 （ショートステイ）今年度も、市が中心となって対応している養育困難ケースの受け入れがほとんどであった。 （育児支援ヘルパー）昨年度と比較して利用人数は2倍以上に増加した。たんぼぼスタート（妊婦対象のサービス紹介プログラム）に参加された方の利用もあり、プログラムからサービス利用に繋がられ、次年度も引き続き努力したいと思う。</p> <p>4. 先駆型・虐待対策 先駆型に移行し6年目となった。狛江市ならではの「日常的に顔の見える連携」もこれまで以上に、定着してきたように思われる。しかし、各関係機関の体制も異動などで多少変化もあったため、顔合わせをするため小中学校と教育研究所に向いた。また、養護教諭部会に出向き、専門的な視点での対応確認や情報共有などを行った。 今年度のケースの特徴としては、医療機関との連携による「特定妊婦」への早期支援の開始、養育困難ケースへの継続支援の困難さ、警察との連携が挙げられる。 虐待予防・養育家庭の各啓発活動も、例年同様子育て支援課との連携の上で行った。虐待予防では、初の試みとして要保護児童対策地域協議会の構成員を対象とした研修の場に、各中学校区ごとの関係者が集まり、情報交換の機会とした。</p> <p>◎件数</p> <table border="1"> <tr> <td>・児童虐待通告・児童相談</td> <td>新規</td> <td>84件</td> </tr> <tr> <td>・関係者会議開催延べ件数</td> <td></td> <td>68件</td> </tr> <tr> <td>・家庭訪問延べ件数</td> <td></td> <td>50件</td> </tr> </table>	・児童虐待通告・児童相談	新規	84件	・関係者会議開催延べ件数		68件	・家庭訪問延べ件数		50件	<p>事業目標・方針の総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろば事業では、低年齢・低月齢の来館が多く、2歳以上の子どもたちは体育館や庭で遊ぶ姿が見られた。「小さい子が多いからちょっと体育館で遊ぼうか」などと同じくらいの子を持つ保護者同士が声をかけ合っている姿を見る事が多くなった。これは、「お互いの子を見守る」という保護者の方の姿勢が広まりつつあるからではないかと考えられる。数年前は幼稚園児と乳児の間で、隔たりのようなものがあったが、今はとてもいい雰囲気での交流が行われている。職員が日々の活動の中で子どもたちに配慮を行った成果だとも思う。 ・世田谷区との境界に近いということと、インターネットなどの影響で、狛江市以外の方の来館も増えている。特に毎日行っているたんぼぼタイムの参加は多く、日常のひろばにつなげやすいプログラムとして今後も大切にしていきたい。 ・新年度以降、乳幼児関係の施設へも挨拶に出向くなど、さらに諸機関との連携を強めていきたい。 ・「虐待予防」の啓発活動を、毎年続けている。シンボルのオレンジリボンを500個の手作りして配布したり、市役所ロビー展示のほか、要保護児童対策地域協議会の構成員を対象とした研修の場で、四校の各中学校区ごとにエリアごとの要保護児童対策地域協議会の関係者を集め、情報交換の機会として、初の試みであった。 ・養育家庭の普及や市民への啓発においても、市内コミュニティバス「狛バス」内に手作りポスターを掲示したり、市役所ロビーのパネル展示を行った。また、健康推進課が主催する。健康まつりには、昨年度より参加している。今年度は養育家庭をテーマに行った。関係者への啓発活動としては、養育家庭を理解してもらうための機会として、狛江市独自で「養育家庭学習会」を年に1回開催し、4回目を終えた。虐待関係の研修より参加者は下回るが、今年度は30名の参加があった。
・児童虐待通告・児童相談	新規	84件									
・関係者会議開催延べ件数		68件									
・家庭訪問延べ件数		50件									
<p>環境・修繕の総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・玩具の整備・購入 ・災害対策用備蓄品整備 ・加湿器の取替 ・暖房器具の取替 	<p>年間利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規登録者数：648組 ・総登録者数：4,270組 ・子ども延べ利用者数：15,024人 （内訳 0歳児：6,585人、1歳児：3,793人、2歳児：2,992人、3歳児：732人、4歳児：634人、5歳児：288人） ・相談件数：827件 ・サービス事業利用状況（一時保育：53人、ショートステイ：10人、育児支援ヘルパー：28人） 									
<p>主な行事報告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常プログラム：たんぼぼタイム（異年齢親子の交流と体操）、わくわくタイム（お母さんの製作）、すくすく測定（身長・体重測定） ・毎月1回季節の行事や児童センターとの合同プログラムを実施。（縁日、ハロウィン、クリスマス会、お花見会など） ・乳児健診への出張事業（月2回） ・野川たんぼぼひろば：月1回（市内公民館への出張事業、狛江市との共催で実施） ・子ども服リサイクル：年4回・Daddy's Kitchen：年3回・リフレッシュヨガ、ベビーマッサージ：各年3回 ・たんぼぼThinking：ことばが伸びる上手な子育て～中川信子さん 年1回、離乳食教室 年2回、幼児食教室 年1回 ・たんぼぼほっと room 年2回 ・たんぼぼスタート：年3回 ・コモンセンスペアレンティング：連続6回+フォローアップ1回（年1回） ・Nobody's Perfect（完璧な親なんていない）：連続6回 定員10名（年間2クール） 	<p>人事その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター長 1名（岩戸児童センター長との兼務） ・支援ワーカー 2名 ・虐待対策ワーカー 1名 ・非常勤支援ワーカー 5名 ・スーパーバイザー 龍野 陽子（子どもの虐待防止センター 元専任相談員） 									

支援センターブロック
 狛江支援セ（指定管理）

2012年度 雲柱社 児童館ブロック 事業報告

施設名 和泉児童館／狛江市ファミリー・サポート・センター
 記入者 松元 新

	子育て支援活動	小学生クラブ	小学生活動	中・高生活動	ボランティア活動など	ファミリー・サポート・センター																																																																																																																														
事業の総括	<p>今年度は施設長をはじめ職員の間も異動もあり、事業全体で新たに着手したものはなく、これまで実施してきた事業と日々の受入れ（ひまわりルーム）についての検証を行い、今後の当館における子育て支援活動の方向性を職員間で協議した一年であった。</p> <p>事業については目的とねらいを明確にし、スタッフ間での共有を丁寧に行った。日々の受入れについては常駐している相談員の意見等を取り入れながら、利用しやすい環境について具体的に検証してきた。</p> <p>一年間の活動の中で見えてきたことは、事業の運営に関してもっと地域のネットワークを活かす必要があること（特にプログラムの面で）、子育てクラブを卒業した子ども達が児童館を利用してくれるような取り組みの必要性、更には家族（特に父親）を対象とした具体的な取り組みの必要を感じた。</p> <p>以上をふまえ、新年度はこれら検証した一つ一つについて少しずつ着手していきたいと考えている。</p>	<p>今年度は57名（内障がい児等13名）でスタートした。まず、年度初めから着手したことは、障がい児等の対応について具体的に相談できる巡回相談システムの整備であった。地域の専門家からご紹介をいただいた先生に毎月来所してもらい、障がい児等のお子さん一人一人についてその特性に合わせた関わり方についての指導を受けた。また、現場で困っていること等についても相談が出来る機会にもなり、職員にとっては精神的な支えになった。</p> <p>巡回相談が始まってから数カ月でその効果があらわれ、子ども達に落ち着きと事業運営の安定がはかられるようになった。また、行政の理解もあり、年数回ではあるが巡回相談の予算がつき、年度末にはクールダウン用の部屋を作ってもらうことができた。</p> <p>次に、クラブで企画実施しているプログラムの目的とねらいを検証し、何の為に実施するのか、子どもに必要なものは何か等、一年間職員間で育成内容について検証した。次年度はこれらをふまえ、子どもが安心して楽しめる居場所作りにより具体的に取組む予定である。</p>	<p>児童館事業については、事業の形骸化が多く見られたので、一年間かけて各プログラムについて目的とねらいをまず検証し、今後の事業が何を指すのかといった方向性について職員間で協議してきた。特に、継続して実施してきた講師プログラムについては、「講師任せ」感が否めない状況もあり講師とも一緒に運営について検討し考えた。また、来館層の固定化や低学年と高学年（特に女子）の来館が少なかったこともあり、下半期からは具体的に月1回のペースで低学年と高学年女子層を対象とするプログラムを実施し、少しずつではあるが来館層に新しい顔ぶれが見受けられるようになった。特に単発プログラムには普段利用しない小学校の子ども達も参加するようになった。児童館事業の中心の一つでもある組織活動については形骸化が顕著だったので、組織活動の本来の意味や目的を丁寧に確認した。この事業は次年度もしっかり検証したいと考えている。次年度は日々の関わりとプログラムにメリハリをつけ、全体的な利用数を増やしていきたいと考えている。</p>	<p>当児童館における課題の一つが中高生事業である。今年も具体的な取組みが十分できていない状況である。</p> <p>取組むにしても、来館がほとんどない状況が続いている。そもそも中高生にとって魅力的な環境（物理的）ではないこと、開館時間の短さ（19:00まで）といった条件面で大きな壁がある。その中でも、担当職員は興味を引くプログラム等を企画し、突破口を開こうと奮闘している。</p> <p>中高生の利用については、やはり単発のプログラムも大切であるが、小学校からの取組みと関わりが大切であると感じている。また、少しでも魅力的な条件を整備していくことも必要である。次年度も引き続き地道に中高生活動に向き合っていきたいと考えている。</p>	<p>近隣の専門学校や大学にボランティアの依頼をし、その都度集まってくれた学生ボランティアを丁寧に受入れ、次回に繋げるようにしている。また、児童館利用者の高校生や高卒生にも声をかけ、これまでとは違う形での利用（ボランティアリーダー的存在）を促している。</p> <p>引続いての課題は地域のボランティア資源の活用と、その上でのネットワークを広げていくこと、そして受入れるにあたってのシステムの整備が必要であると考えている。</p>	<p>今年度の大きな変化は2013年1月から始まった病後児預かり事業の準備と開始であった。年度初めにベテランアドバイザーが数人退職した中でのスタートであったので、現場ではかなり慌ただしい状況が続いた。</p> <p>病後児預かりの開始と数年後には子どもも家庭支援センター（以下、子家セン）と合築されることもあり、子家センとの連携を密に行うようにしている。その効果もあつてか公的なサービスから漏れてしまっている地域のニーズに対して、十分ではないが協働で対応できるようになっている。</p> <p>今後の課題としては、病後児預かりだけでなく通常のサポート会員をいかに増やしているかだと考えている。利用会員とサポート会員の会員数が比例していない状況にセンターとして具体的に対応していかなくてはならないと考えている。</p>																																																																																																																														
	活動・行事報告	<p>ひまわりルーム（10:00～15:00まで開放） 相談件数・・・年間40件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひまわりリトミック 10回実施 計1018名 ・おりがみタイム 4回実施 計48名 ・ベビーダンス 3回実施 計118名 ・幼児食教室 1回実施 計22名 ・離乳食教室 2回実施 計69名 ・子ども服リサイクル 3回実施 計546名 ・わらべうたと絵本の会 10回実施 計268名 ・水遊び 9回実施 計307名 ・すくすく測定 19回実施 計427名 ・ハンドベル 1回実施 計116名 ・お母さんの手作りタイム 4回実施 計39名 ・さわやかコンサート 1回実施 計123名 ・緑日ごっこ 1回実施 計84名 ・すいかわり 1回実施 計70名 ・カンガルークラス 2回実施 計39名 ・ベビーマッサージ 2回実施 計110名 ・ファミリーデー 1回実施 計251名 ・ラストサマーコンサート 1回実施 計156名 ・ひまわりクリスマス会 1回実施 計256名 	<p>【年間行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入会式 22名 ・緑日ごっこ 47名 ・ピーズクラブ 全3回 30名 ・おやつ作り 全2回 37名 ・ポップキッズ （平和フェスタ 22名）全14回 308名 （狛江市民祭り 29名）全7回 176名 ・水鉄砲大会 全1回 43名 ・親子晩御飯会 全2回 92名 ・保護者会 全2回 37名 ・ランチ会 全1回 40名 ・児童館クリスマス会 全1回 14名 <p>【月間行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回：お誕生会、かいものおやつ、わなげ大会 <p>学年別レクリエーション</p>	<p>各部屋に職員を配置し児童の自由な遊びを促す。 スポーツタイム、工作タイム、スポーツ大会、映画会、一輪車検定、折り紙教室、低学年プログラム、高学年プログラム等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生歓迎会 43名 ・2、3年生館内合宿 50名 ・1年生デイキャンプ 30名 ・ノーベンパーフェスト 357名 ・交流フェスタ 3名 ・クリスマス会 64名 ・アイススケートハイク 37名 ・低学年館内合宿 48名 ・交流ドッジフェスタ 24名 ・高学年館内合宿 40名 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームD 9名登録 ・中高生クッキング 8名 	<p>【ボランティア参加数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生デイキャンプ 3名 ・ファミリーデー 4名 ・ノーベンパーフェスト 20名 ・交流フェスタ 3名 ・乳幼児クリスマス会 4名 ・アイススケートハイク 2名 ・低学年館内合宿 2名 ・交流ドッジフェスタ 1名 ・高学年館内合宿 4名 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交流会</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ステップアップ講習</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>雲柱社連絡会</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ファミサポ通信</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>アドバイザー研修</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回</th> <th>利用数</th> <th>サポート会員</th> <th>両方会員</th> <th>託児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>説明会</td> <td>8</td> <td>85</td> <td>18</td> <td>2</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>講習</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>52</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	内容	回数	交流会	1	ステップアップ講習	1	雲柱社連絡会	1	ファミサポ通信	1	アドバイザー研修	1		回	利用数	サポート会員	両方会員	託児	説明会	8	85	18	2	26	講習	4	0	52	0	6																																																																																															
内容	回数																																																																																																																																			
交流会	1																																																																																																																																			
ステップアップ講習	1																																																																																																																																			
雲柱社連絡会	1																																																																																																																																			
ファミサポ通信	1																																																																																																																																			
アドバイザー研修	1																																																																																																																																			
	回	利用数	サポート会員	両方会員	託児																																																																																																																															
説明会	8	85	18	2	26																																																																																																																															
講習	4	0	52	0	6																																																																																																																															
登録者・来館者	<p>（子育てくらぶ登録数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>登録数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳（こばんだ）</td> <td>109名（参加者：512名）</td> </tr> <tr> <td>0歳（ぱんだ）</td> <td>251名（参加者：1,165名）</td> </tr> <tr> <td>1歳（うさぎ）</td> <td>242名（参加者：1,229名）</td> </tr> <tr> <td>2、3歳（こあら）</td> <td>242名（参加者：1,226名）</td> </tr> </tbody> </table>	年齢	登録数	0歳（こばんだ）	109名（参加者：512名）	0歳（ぱんだ）	251名（参加者：1,165名）	1歳（うさぎ）	242名（参加者：1,229名）	2、3歳（こあら）	242名（参加者：1,226名）	<p>（在籍人数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">男</th> <th colspan="3">女</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>19</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>13</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31</td> <td>25</td> <td>56</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>障がい児等 13名</p>		男			女			計	男	女	計	男	女	計	1年生	6	13	19	7	7	14	2年生	7	7	14	8	5	13	3年生	8	5	13	4	0	4	4年生	4	0	4	3	0	3	5年生	3	0	3	3	0	3	6年生	3	0	3				計	31	25	56				<p>（2011年度来館者数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>来館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>9,473</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>8,845</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>900</td> </tr> <tr> <td>高校生</td> <td>377</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>8,850</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>28,445</td> </tr> <tr> <td>開館日数</td> <td>293</td> </tr> <tr> <td>1日平均</td> <td>97.08</td> </tr> </tbody> </table>	年齢	来館者数	乳幼児	9,473	小学生	8,845	中学生	900	高校生	377	一般	8,850	計	28,445	開館日数	293	1日平均	97.08	<p>（その他の事業、特記事項）</p> <p><体験学習> 第1中学生職場訪問 3名 第2中学校職場体験学習 2名</p> <p><実習生> 草苑保育専門学校 1名</p> <p><運営協議会> 運営協議会 年2回実施。</p>	<p>○登録数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>累計</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用会員</td> <td>909</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>サポート会員</td> <td>200</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>両方会員</td> <td>57</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,166</td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table> <p>○利用実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>利用数</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>活動状況</td> <td>5,163</td> <td>255</td> </tr> </tbody> </table> <p>病後児預かり事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回数</th> <th>利用会員</th> <th>サポート会員</th> <th>託児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>説明会</td> <td>7</td> <td>123</td> <td>24</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>講習会</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>13</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		累計	増減	利用会員	909	58	サポート会員	200	10	両方会員	57	2	計	1,166	70		利用数	増減	活動状況	5,163	255		回数	利用会員	サポート会員	託児	説明会	7	123	24	27	講習会	1	0	13	0
年齢	登録数																																																																																																																																			
0歳（こばんだ）	109名（参加者：512名）																																																																																																																																			
0歳（ぱんだ）	251名（参加者：1,165名）																																																																																																																																			
1歳（うさぎ）	242名（参加者：1,229名）																																																																																																																																			
2、3歳（こあら）	242名（参加者：1,226名）																																																																																																																																			
	男			女			計																																																																																																																													
	男	女	計	男	女	計																																																																																																																														
1年生	6	13	19	7	7	14																																																																																																																														
2年生	7	7	14	8	5	13																																																																																																																														
3年生	8	5	13	4	0	4																																																																																																																														
4年生	4	0	4	3	0	3																																																																																																																														
5年生	3	0	3	3	0	3																																																																																																																														
6年生	3	0	3																																																																																																																																	
計	31	25	56																																																																																																																																	
年齢	来館者数																																																																																																																																			
乳幼児	9,473																																																																																																																																			
小学生	8,845																																																																																																																																			
中学生	900																																																																																																																																			
高校生	377																																																																																																																																			
一般	8,850																																																																																																																																			
計	28,445																																																																																																																																			
開館日数	293																																																																																																																																			
1日平均	97.08																																																																																																																																			
	累計	増減																																																																																																																																		
利用会員	909	58																																																																																																																																		
サポート会員	200	10																																																																																																																																		
両方会員	57	2																																																																																																																																		
計	1,166	70																																																																																																																																		
	利用数	増減																																																																																																																																		
活動状況	5,163	255																																																																																																																																		
	回数	利用会員	サポート会員	託児																																																																																																																																
説明会	7	123	24	27																																																																																																																																
講習会	1	0	13	0																																																																																																																																

児童館ブロック 和泉（指定管理） 狛江ファミサポ（指定管理）

2012（平成24）年度 雲柱社 児童館ブロック 事業報告

施設名 たまだいら児童館ふれっしゅ
記入者 八重田 裕一朗

	子育て支援活動	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																				
事業の総括	<p>2012年度も地域へ積極的に足を運んだ一年であった。公園児童館「げんきっず」のニーズが高く、新たな公園の開拓や土曜開催を増やし家族間で交流が持てるように工夫した。</p> <p>今年度も、「登録制のクラス活動」と「自由参加型」の活動を行った。利用者にとって登録制の帰属意識を求めるよりも、自由に参加出来る気軽さを求めている利用者が増えてきた事を感じる1年でもあった。次年度はそれを受けて基本的な枠を変更していきたいと思う。</p> <p>また、基幹型児童館と共催で「ファミリー体操」を行ったり、子ども家庭支援センターとの協働により、「離乳食講座」を開催した。</p> <p>地域との連携では、お話のいずみさんやどんぐりクラブ等の地域の団体とつながることができ、児童館の働きを地域に広げる事ができた。</p> <p>12月には今年度も主だった機関（町会・自治会・子ども会・中学校等）の方々の協力により、サンタクロース役を演じて頂くことも出来た。</p> <p>活動やイベントに利用者ニーズを取り組んだこともあり前年度よりも約2,000人来館者数が増加した。</p>	<p>今年度は「紙一枚から出来る復興支援」というテーマで活動してきた。新たな地域団体NPO法人リサイクルネットさんと様々な連携を行った1年であった。忘れてはならない東日本大震災の復興支援として、身近に出来る新たな形を子どもたちと共に感じる事の出来た1年となった。</p> <p>放課後子どもプラン「ひのっち」への出向が始まって、4年が経過した。主幹課の要望から参加人数の多い水曜日に出向したりと工夫をしたが、今年度はあまり多くの子どもたちと関わることができなかった。次年度は保護者会の時に出向する等、多くの子どもたちが来館するであろう日への出向等を模索し、児童館の働きをより多くの子ども達へPRしていきたいと思う。</p> <p>基幹型や地域の団体と連携を強化したものの、残念ながら前年度よりも約2,000人(約13%)来館者数が減少した。それを受け、次年度は新たな活動を企画し、より多くの子どもたちが集える場となれるよう、地域に根ざした、活動を広めていきたいと思う。</p>	<p>昨年度より日々の体育館でもダンスが行われるようになり、今年度初のダンス大会を開催する事ができた。40名近い中高生が集まり日頃の成果を発揮できる場となった。</p> <p>また、いくつかの中学校が集まり、そこに高校生が交じってバスケットを通じて良き交流の場となった1年でもあった。</p> <p>E-69（バンドコンサート）は今年で5回目を迎えた。1回目から関わってきたバンドが今年度で最後の出演となり、今まで培ってきた歴史を後輩へと引き継ぐ場面も見られ、今後も中高生が輝く場の一つとして大切にしていきたいと思った。</p> <p>日野市立第二中学校との連携が深まった1年でもあった。学校評議員にも任命され、中学校の目指している学校教育や地域との連携も肌で感じる事ができた。それを受け今年度は「地域清掃」や「職場体験」等の連携を図ることができた事は大きな一歩を踏み出した一年であったと振り返る。</p>	<p>日野市が主催する「手をつなごうこどもまつり」において、児童館で活躍するボランティアと日野市が育成しているジュニアリーダーとの連携を果たす事ができた。ここでの繋がりが、下半期の児童館事業にも大きな役割を担ってくれることになった。</p> <p>夏に行われたサマーキャンプでは、自然の中に身をおき、自然の偉大さを肌で感じながらの非日常の体験を子どもたちと過ごす事ができた。親元から離れての活動は、自分自身を磨く大きなチャンスとなり、様々な体験から社会力を身につけるきっかけとなった。小学校から児童館でお手伝いをしてくれていた児童が中学生になり、ボランティアとして参加してくれた。今までの関係や繋がりが実を結んだ結果となり、日野市が目指すボランティアリーダー育成に大きく近づく事ができたことを実感した。</p> <p>地域との連携が重要視される中、今年も多く団体から声をかけて頂き地域に出向くことができた1年となった。この関係を大切に地域に根差す児童館として次年度も職員一丸となって事業に取り組んでいきたいと考えている。</p>																				
活動・行事報告	<p>※登録制年齢別活動：各年齢月1回</p> <p>※自由参加型年齢別活動：各年齢月1回</p> <p>0歳児対象活動には民生委員、支援センターワーカーも参加</p> <p>※公園児童館「げんきっず」：月2回</p> <p>※「ファミリーデー」「げんきっずスペシャル」</p> <p>※「保育付母親講座」</p> <p>※ 離乳食講座（共催：支援センター）</p> <p>※「妊婦向け講座」（共催：基幹型児童館）</p> <p>※「パパクッキング」年2回</p> <p>※ 利用者アンケート（館内、地域）年1回</p> <p>※ 土、日曜日体育室環境の充実（トミプラの日・ボールプールの日）</p>	<p>※低・高学年キャンプ：7・8月</p> <p>※低学年親子クッキング：年2回</p> <p>※高学年クッキングクラブ：年10回</p> <p>※クリスマス活動（被災地支援・施設訪問） 共催：NPO法人リサイクルネット</p> <p>※映画会&ベーゴマ：毎月1回 （共催：ひのベーゴマクラブ）</p> <p>※低・高学年タイム：各月2回</p> <p>※夏休み低学年親子工作（消しゴムハンコ）</p> <p>※子ども実行委員会：9・10月</p> <p>※館内合宿：2月・3月 共催：NPO法人リサイクルネット</p>	<p>※スポーツ大会：毎月1回</p> <p>※映画会：毎月1回</p> <p>※ライブコンサート：年1回</p> <p>※ダンス大会：年2回</p> <p>※ボランティア活動（餅つき・小学生合宿）</p> <p>※館内合宿：年1回（共催：基幹型児童館）</p>	<p>※子どもの日スペシャル 5月</p> <p>※二中地区育成会「今と昔の映画会」6月</p> <p>※日野市立第五小学校PTA「夏まつり」7月</p> <p>※多摩平5丁目「夏祭り」7月</p> <p>※多摩平商店連合会「ハロウィン」10月</p> <p>※日野市立第五小学校「総合授業」出向10月</p> <p>※日野市「手をつなごう・こどもまつり」10月</p> <p>※日野市立第二中学校「地域清掃」11月</p> <p>※日野市立第二中学校「職場体験」11月</p> <p>※二中地区育成会「三世代の集い」11月</p> <p>※クリスマス活動：11、12月</p> <p>※餅つき1月</p> <p>※運営協議会2回開催</p>																				
登録者・来館者	<p>（登録数）</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>0歳児クラス</td><td>40</td></tr> <tr><td>1歳児クラス</td><td>80</td></tr> <tr><td>計</td><td>120</td></tr> </table>	0歳児クラス	40	1歳児クラス	80	計	120	<p>（2012年度来館者数）</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>乳幼児</td><td>13,750</td></tr> <tr><td>小学生</td><td>12,653</td></tr> <tr><td>中・高校生</td><td>6,310</td></tr> <tr><td>一般</td><td>13,412</td></tr> <tr><td>計</td><td>46,125</td></tr> <tr><td>※開館日数</td><td>287日</td></tr> <tr><td>※1日平均</td><td>160人</td></tr> </table>	乳幼児	13,750	小学生	12,653	中・高校生	6,310	一般	13,412	計	46,125	※開館日数	287日	※1日平均	160人	<p>その他の事業、特記事項）</p> <p>【地域内機関とのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たまだいら児童館ふれっしゅ評議委員会：年2回 ・指定管理業者連絡会：月1回・日野市児童館館長：月1回／児童館職員会議：月1回 ・日野市子ども家庭支援ネットワーク連絡協議会：年2回／ケース会議：随時 ・日野市立第五小学校PTA連絡会「はぐくみの会」：年2回 ・日野市立第二中学校評議員会：年3回 ・日野市立二中地区青少年育成会運営委員会：年4回、役員会：年5回 ・日野市放課後子どもプラン「ひのっち」連絡会：月1回 ・多摩平の森ふれあい館連絡会：月1回 合同清掃：月1回 	
0歳児クラス	40																							
1歳児クラス	80																							
計	120																							
乳幼児	13,750																							
小学生	12,653																							
中・高校生	6,310																							
一般	13,412																							
計	46,125																							
※開館日数	287日																							
※1日平均	160人																							

児童館ブロック

たまだいら（指定管理）

2012（平成24）年度 雲柱社 児童館ブロック 事業報告

施設名 上池台児童館

記入者 秋山 幸美

児童館ブロック

上池台（委託）

事業の総括	子育て支援活動	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中高生を対象とした活動	その他																																																							
	<p>2012年度は経験者の異動があり、新しい職員が乳幼児を担当した。昨年のプログラムを参考に、プログラムを作り、昨年と同じ事を体験させる事も大切に。夏の水遊び、絵の具遊び、おから遊び、小麦粉粘土作り、かんでん遊びなど普段家庭で出来ない事をプログラムにしたのが好評であった。ただ、外でのプログラムは暑い日差しがあり、テントが必要であった。即席で作ったテントで対応した。次年度はテントの下で水遊びが出来るようにテントを購入することにした。職員の異動があり3月に行ったアンケートでは、「職員が変わり事務的になった。声をかけてくれる職員もおらず、感じが悪い。」という苦情があった。職員が変わっても、変わらないサービスを提供出来る様心がけていく。</p>	<p>90名のスタートとなる。担当が変わった事もあり、安全を大幅に見直し、ルールなどを変えたことで、一部の子ども達からは「学童つまらない」という声が聞かれた。今まで、室内で行って良いとしていたSけん遊びなど禁止にしたことで、苦情がでる。「子ども達の安全を優先して見直している」と伝えしたが、納得出来るまで時間を要した。</p> <p>学童の中で「〇〇大会」を行い、プログラムによっては、大変盛り上がりがあった。スピードスタックスや、こま回しなども人気があった。</p> <p>後半は公園などにも出掛けるプログラムを行い、狭い室内だけでなく、外に出かける機会も作ったので、気分転換になった。</p> <p>アレルギー対応：アレルギー確認書に基づき、毎日2名の職員でおやつの内容を確認し提供することにした。</p>	<p>1年生「だいだらぼっち」（学年別グループ活動）は40名でスタートした。昨年の反省を生かし、今年度は定員を設ける。そのことにより、活動がスムーズにいった。2学期は定員を50名に増やして対応するが、48名くらいが参加する。2年生は申込み人数も30名くらいあり、定着しつつある。3年生は20名くらいの参加があり、いろいろな活動を楽しむことができた。1学期に1回は館外での活動を盛り込み、どのクラスも楽しく活動を行うことが出来た。</p> <p>高学年活動は1学期は多人数が参加したが、2学期以降は参加があまりふるわなかった。子ども達との信頼関係を作れなかった事に一因があったと考えられる。次年度に向けて活動や利用者への対応を検討する必要がある。</p>	<p>春休みを中心に利用が増えていた。小学生とも交流する時間を持つことができ、互いに良い関係を築くことができた。夏休みの利用も多く、8月のバーベキュー会では、13～15名程あり、中高生同士は仲が良く、夏まつりの手伝いもしてくれた。</p> <p>秋のデイキャンプや、クリスマス会などにも参加をするものが増えて来た。今後のボランティアにも繋げていきたい。後半は受験などもあり、利用が少なかったところは残念だった。</p>	<p><ボランティア活動></p> <p>・お泊りキャンプ、デイキャンプ、夏まつりなどに学生ボランティアの手伝いがあった。夏まつり際には、小池おやじの会、民生委員、児童館運営委員会などの手伝いもあり、これからも児童館スタッフだけでなく、地域の力を大切にしていきたいと思っている。</p> <p>2012年度も昨年に引き続き、地域の行事、洗足池ガーデンパーティー、夏の商店街まつり、小池おやじの会秋まつり、小池もちつきなどのお手伝いに参加した。3月には民営化になった区民センターのさくらまつりの手伝いも行う。地域にある児童館として、活動内容を知ってもらう事を目的に、2012年度も前年同様上池台児童館運営委員会を2回行った。町会長さん小学校、中学校の校長先生や、PTA会長、商店街理事長、民生委員など、普段児童館と関わりのある方に運営委員をお願いしている。今後も地域に仕える事を大切に児童館運営を行う。</p>																																																							
活動・行事報告	<p><グループ活動></p> <p>0歳児（いちごAB・こいちご）・1歳児（さくらんぼAB）・2、3歳児（りんご）クラス</p> <p><行事></p> <p>こども服りサイクル（年2回・6月、11月）</p> <p>夏プログラム</p> <p>・水あそび、おからあそび、絵の具遊び、おから遊び、小麦粉粘土、かんでん遊び</p> <p>わんぱく運動会（10月実施・子51名親75名）</p> <p>乳幼児クラス（ウインターパーティ・子92名親90名参加）</p> <p><講座></p> <p>言語、歯科、離乳食は各クラスで実施</p> <p>おやつ作り講座7月実施</p> <p>バランスボール講座5月より月2回毎月実施</p> <p>体操講座（年中・年長向け）9月より3回実施</p>	<p>入室式</p> <p>ハロウィン</p> <p>お楽しみ会、お店屋さんごっこ、ロッカー清掃（各月1回）</p> <p>駄菓子屋さん（月2回）</p> <p>スペシャルおやつ、お楽しみおやつ、リクエストおやつ</p> <p>〇〇大会、お誕生日会（月1回）</p> <p>保護者会（年4回）</p> <p>個人面談（年2回）</p> <p>父母会総会 年1回</p>	<p><低学年活動></p> <p>だいだらぼっち（1、2、3年 年間24回）</p> <p><高学年活動></p> <p>4月より高学年対象プログラムを行う（毎週水曜日）</p> <p><スポーツ活動></p> <p>区民センター遊ぼう（毎月1回）</p> <p>交流ドッジフェスタ</p> <p><文化部門></p> <p>手作り（毎月各1回）</p> <p>DVDシアター</p> <p><その他></p> <p>夏休みプログラム館内合宿他</p>	<p><中・高生タイム></p> <p>月～金曜日18時～19時</p> <p>中高生区民センター 毎月</p> <p>中学生（18：00～20：00）</p> <p>高校生（18：00～21：00）</p> <p>8月 バーベキュー会</p> <p>11月 デイキャンプ</p> <p>12月 クリスマス会</p> <p>3月 親睦会</p>	<p><全館行事></p> <p>こどもの日スペシャル 50名</p> <p>夏まつり 600名</p> <p>クリスマス会 100名</p> <p>もちつき 400名</p> <p><野外活動行事></p> <p>1年生デイキャンプ 年1回</p> <p>1年生お泊りキャンプ年1回</p> <p>1年生川遊び年1回</p> <p>高学年デイキャンプ 年3回</p> <p>低学年館内合宿 年2回</p> <p>高学年スキーキャンプ年1回</p> <p>高学年合宿年2回</p> <p>2・3年生デイキャンプ 年2回</p> <p><合同行事>児童館ドッジフェスタ（2月）</p>																																																							
登録者・来館者	<p>（登録数）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児</td> <td>273</td> <td>261</td> <td>534</td> </tr> <tr> <td>1歳児</td> <td>278</td> <td>247</td> <td>525</td> </tr> <tr> <td>2、3歳児</td> <td>140</td> <td>133</td> <td>273</td> </tr> <tr> <td>0歳児10月</td> <td>54</td> <td>60</td> <td>114</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>745</td> <td>701</td> <td>1,446</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児	273	261	534	1歳児	278	247	525	2、3歳児	140	133	273	0歳児10月	54	60	114	計	745	701	1,446	<p>（在籍数）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>12</td> <td>25</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>38</td> <td>52</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table>	学年	男	女	計	1年生	17	19	36	2年生	12	25	37	3年生	9	8	17	計	38	52	90	<p>（2012年度来館者数）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>9,013</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>11,184</td> </tr> <tr> <td>中高生</td> <td>2,823</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>8,233</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31,253</td> </tr> </tbody> </table> <p>（学童出席者含まず）</p>		人数	乳幼児	9,013	小学生	11,184	中高生	2,823	一般	8,233	計	31,253	<p>（その他特記事項）</p> <p>○児童館運営委員会</p> <p>（すくすくネット運営委員会） 年2回開催</p>
クラス名	男	女	計																																																									
0歳児	273	261	534																																																									
1歳児	278	247	525																																																									
2、3歳児	140	133	273																																																									
0歳児10月	54	60	114																																																									
計	745	701	1,446																																																									
学年	男	女	計																																																									
1年生	17	19	36																																																									
2年生	12	25	37																																																									
3年生	9	8	17																																																									
計	38	52	90																																																									
	人数																																																											
乳幼児	9,013																																																											
小学生	11,184																																																											
中高生	2,823																																																											
一般	8,233																																																											
計	31,253																																																											

2012（平成24）年度 雲柱社 児童館ブロック 事業報告

施設名 目黒区立中央町児童館
記入者 小暮 緑

児童館
ブ
ロ
ッ
ク

中央町
(委
託)

	子育て支援活動	学童クラブ	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、その他																																																														
事業の 総括	<p>【乳幼児クラブ】目黒区事業（定員制）</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録希望者が多く、キャンセル待ちになるクラスもあった。 各クラスとも、クラスへの所属意識を持ち、保護者同士が繋がりを持てるように心がけた。 担当職員だけでなく、職員全員で乳幼児クラブに積極的に関わるようにした。 活動日以外の自由来館へのきっかけとなった。 <p>【ベビー活動】目黒区事業（自由参加制）</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末に向けて参加者が増えて行った。また、継続して参加する親子が多かった。 <p>【乳幼児のつどい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児クラブに登録している親子以外の参加があり、居場所や交流の場となった。 専門的なプログラムを乳幼児に提供することができた。 お父さんプログラムへの積極的な参加があった。 <p>【わいわいルーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者が増えた。土日は父子、家族での利用が多い。 水曜日に幼稚園児の優先タイムを設けたことで、幼稚園児がのびのびと遊ぶことができた。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏休みの親子での居場所として、夏休みプログラムを週一回行った。安全面を考慮し年齢別で行った。 幼稚園帰りの来館が増えたため、幼稚園児親子が過ごしやすいうように配慮をした。 	<p>開設当初からの入所家庭が3年目を迎えた。自分たちの居場所として新たな雰囲気を作っていこうと、意欲的にスタートした。子どもたちや保護者の意見を積極的に取り入れ、検討を重ね、在籍家庭にとって居心地良く、ニーズに合った環境作りを行うことができた。</p> <p>保護者会や面談、連絡帳、お迎え時などに、子どもたちの様子や保育内容のありのままを伝えることで、互いに話し合える関係ができ、保護者の安心と信頼に繋がった。</p> <p>目標としていた「一人ひとりの丁寧な対応」と「集団遊びや行事への継続的な取り組み」の両立ができたと感じる。限られた時間の中で、子どもたちが共に楽しい時間を過ごし、積極的に行事に関われるよう、保育プログラムを工夫したり柔軟な対応を行った。</p> <p>3年生がリーダーとなってクラブをまとめようと頑張っていた。クラブとしての歴史が浅い分、理想のリーダー像が分からずに苦戦する場面は多くあったが、学年男女の枠を越え、遊び合える仲間関係ができた。</p> <p>2013年度は、在所児が14名に対し、新入所児が26名と極端に多くなり、学年のバランスが悪い。安全面に十分配慮しながら、保育内容や運営を工夫していく。また、保護者の意向を知り、まとまりのあるクラブを目指す。</p>	<p>児童館が学区の端にあるため、担当小学校の子どもたちがなかなか来館できない状況がある。また、習い事が盛んなため自由時間が少ない子どもも多い。そのなかでもランドセル来館を利用したり、時間ができた時は児童館に足を運んでくれる子どもたちが多くなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学芸大学商店街の協力を得て行ったハロウィンが200名以上の参加があり、保護者からも評価が高かった。 清泉女子大のサークルの皆さんと行ったハンガーバンケットのプログラムは世界の子ども達に目を向ける機会となった。 クラフトルームでは、将棋、レゴ、プラレールなど工作以外のプログラムを行った。それを目的に来館する子どもも多かった。 エンジョイクッキングは外部講師にお願いしたことで食育のプログラムも兼ねた本格的な調理体験となった。おはなしの時間、折り紙で遊ぶのも地域のボランティアの協力で行うことができた。 児童館まつりでは、子どもスタッフとして自主的な参加を促すことができた。 高学年を対象としたグループ活動を行ったが参加者が少なかった。小人数ではあったがデイキャンプに出かけることができた。 低学年を対象としたグループは3年間続けて参加をした子どもも多く、保護者から高学年の活動も引き続き行ってほしいという要望をいただいた。 ランドセル来館は96名の登録があり、放課後安心して遊べる場として多くの利用があった。 	<p>児童館の近隣のほぼ全ての高校から来館するようになり、年間を通して高校生の利用が多かった。音楽スタジオ、屋外ボールコートだけでなく、学校行事の準備、練習などを目的に来館する高校生も増えてきた。中学生は近くの中学だけでなく近隣の中学の生徒も多かった。スポーツ以外に友達とゲームをしたり、話をしたり、勉強をして過ごす中高生が増えたのも2012年度の特徴であった。</p> <p>【音楽スタジオ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規の登録者が多かった。 スタジオ利用だけでなく他のプログラムにも参加するように働きかけ、他の利用者との交流へと繋がった。 <p>【ボールコート利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規の利用者が多かった。 <p>【中高生スマイルカフェ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加人数は少なかったが、中高生の意見を取り入れたプログラムを行うことができた。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートを行い、中高生の希望にそった雑誌や書籍を購入した。 	<ul style="list-style-type: none"> 主任児童委員、民生児童委員、青少年委員、小中学校PTA、近隣商店街との連携協力。 学校、支援センターなどと児童館に関わる子どもの支援を連携して行うことができた。 スマイルプラザ中央町内各施設とは、学童保育クラブ関係のプログラムや「児童館まつり」を通して交流することができた。 小学校の担任と情報交換の機会を持った。 地域の協力で「おはなしの時間」折り紙であそぼうのプログラムを提供できた。 保護者の方に講座の講師、行事のスタッフとして協力していただいた。 目黒区事業の「ふらっとネットワーク」では、新1年生の保護者に児童館事業の紹介ができた。また、乳幼児保護者に対しては、懇談の時を持ちたり、主任児童委員、民生児童委員、目黒区こども家庭センターの役割を紹介することができた。 																																																														
	活動・ 行事報告	<p>【ベビー活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動期間…2012年9月より月2回計14回実施 内容…ふれあい遊び、制作、食育講座、子育て支援センターの職員を招いて、その他 <p>【乳幼児のつどい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象年齢別で年11回開催。（講師によるプログラムも実施） 内容…親子体操、リズムあそび、ふれあい遊び、親子遊び、お父さんと遊ぶ、制作 <p>【夏休み特別プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> 寒天遊び…2回 風船遊び…1回 絵具遊び…1回 	<p>【年間活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月 入所式・歓迎会 7月 セタ 8月 遠足、プール、平和祈念事業への参加 <p>10月 ハロウィン、連合スポーツ大会への取り組み</p> <p>11月 目黒区連合スポーツ大会</p> <p>12月 お楽しみ会、羽子板作り</p> <p>2月 はねつき大会</p> <p>卒所に向けての取り組み、節分</p> <p>3月 卒所式、卒所・進級に対する取り組み、遠足</p> <p>【月例行事】制作、おやつ作り、誕生会（リクエストおやつ）、ロッカー掃除、おたのしみおやつ、</p> <p>【不定期】こども会議、班替え、昼食作り、外遊び（随時）</p> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者会：4月、7月、12月、3月 入所説明会：3月・個人面談：6月、11月 	<p>【全体行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生歓迎会…4/18 平和祈念事業…8/2 ハロウィン…10/31 お楽しみ会…12/25 ハンガーバンケット活動…12/26 <p>【日常活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> プレイルーム…ドッジボール、サッカー、自由時間など クラフトルーム…自由工作、木工作 <p>【例月行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマ工作…テーマを決めた制作活動を月1回 エンジョイクッキング…年3回実施 スポーツ大会…年9回実施 ボランティアによるお話の時間 ボランティアにより折り紙の時間 <p>【グループ活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生スマイルクラブ、2・3年生スマイルクラブ <p>高学年活動</p> <p>【ランドセル来館】登録：87名</p> <p>【遊びのつどい】（障がい児対象事業）年12回</p>	<p>【音楽スタジオ】</p> <ul style="list-style-type: none"> スタジオ貸し出し…個人：11名 グループ：45組 スタジオ利用ミーティング（月1回） ライブの開催『MEGROCK フェスティバル』2回 目黒区ティーンズフェスタに参加 <p>【ボールコート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全面コートを半分に分け、1コマ55分で貸出。 <p>【中高生スマイルカフェ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎週土曜中高生の意見を聞く場、交流の場として実施。 話し合い、クッキング、季節の行事（夕涼み会、水遊びなどのレクリエーション）、スポーツ大会など。 <p>【日常活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 18:00～20:00の開館 プレイルーム…卓球、ダンスなどの利用 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 月の便りを発行 行事などの際は、区内の中高にポスター掲示を依頼 高尾山ハイキング 目黒区情報誌「めぐろう」に協力 	<p>【全体行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> こどもまつり 11/18 平和記念行事 8月 <p>【ふらっとネットワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年6回開催 																																																													
登録者・ 来館者	<p>乳幼児クラブ（年齢別活動）登録・実績数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>組数</th> <th>年間回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児</td> <td>49</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>1歳児</td> <td>40</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>2,3歳児</td> <td>24</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>113</td> <td>98</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	組数	年間回数	0歳児	49	33	1歳児	40	33	2,3歳児	24	32	計	113	98	<p>（学童クラブ在籍時数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>16</td> <td>9</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	6	1	7	2年生	5	2	7	3年生	4	6	10	5年生	1	0	1	計	16	9	25	<p>（2012年度来館者数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>4,477</td> <td>4,471</td> <td>8,948</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>8,893</td> <td>5,283</td> <td>14,176</td> </tr> <tr> <td>中・高</td> <td>7,954</td> <td>3,187</td> <td>11,141</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>580</td> <td>6,420</td> <td>7,000</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>21,904</td> <td>19,361</td> <td>41,265</td> </tr> </tbody> </table> <p>※開館日数 323 ※1日平均 127.7</p>		男	女	計	乳幼児	4,477	4,471	8,948	小学生	8,893	5,283	14,176	中・高	7,954	3,187	11,141	一般	580	6,420	7,000	計	21,904	19,361	41,265	<p>その他事業</p> <p>1. 参加、体験、感動ふれあいこどもまつり「ブッチーと一緒にバルーン体験」</p> <p>目黒こども劇場との共催</p>
クラス名	組数	年間回数																																																																	
0歳児	49	33																																																																	
1歳児	40	33																																																																	
2,3歳児	24	32																																																																	
計	113	98																																																																	
	男	女	計																																																																
1年生	6	1	7																																																																
2年生	5	2	7																																																																
3年生	4	6	10																																																																
5年生	1	0	1																																																																
計	16	9	25																																																																
	男	女	計																																																																
乳幼児	4,477	4,471	8,948																																																																
小学生	8,893	5,283	14,176																																																																
中・高	7,954	3,187	11,141																																																																
一般	580	6,420	7,000																																																																
計	21,904	19,361	41,265																																																																

2012年度 雲柱社 児童館ブロック 事業報告

施設名 高松小学童クラブ

記入者 青木 郁夫

	子育て支援活動(にこにこ)	学童クラブ																																												
事業の総括	<p>子育て中の親同士の交流、仲間作りの場として、学童クラブ室で午前中の児童のいない時間帯を開放する。</p> <p>昨年度同様に、プログラムの実施は行わず、日常の開放事業を中心にいった。利用者が固定化しつつあり、新規利用者も年間を通して増えていった。定期的に利用している親子とは関係が出来ていて軽い内容の育児相談などもできていた。その中で練馬区立光が丘子ども家庭支援センターを紹介する事も出来た。</p>	<p>昨年度とメンバーが大幅に入れ替わったことで、新たなスタートとなった。1年生が半数近くいたことからルールを1から確認し、子ども達と一緒に学童クラブの生活を作り上げていった。今年度は3年生が主体的に様々な事に取り組んでくれたことから1・2年生も楽しむ事が出来た。学年同士のつながりを大事にしつつ、異年齢でのプログラムを展開し人間関係の幅や遊びの幅を広げるよう働きかけた。学年男女関係なくかかわることが出来るようになって来た。</p>																																												
活動・行事報告	<p>毎週月、火、木、金（祝日を除く）の午前中にクラブ室を開放し利用してもらう。遊具での自由遊びの他、紙芝居や体操などを実施。</p> <p>子育て支援事業の登録者数（45組）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>1歳児</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>2歳児</td> <td>5</td> <td>16</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>3歳児</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>14</td> <td>31</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	0歳児	4	5	9	1歳児	3	6	9	2歳児	5	16	21	3歳児	2	4	6	合計	14	31	45	<p>日常活動：自由遊び おやつ 宿題 製作 読書 スポーツ</p> <p>誕生会：毎月1回 おやつ作り：不定期に実施 お出かけ：光が丘公園、スカイツリー周辺 所沢航空公園</p> <p>交流事業：高松小学校応援団 ふれあいまつり 保護者会：年4回 個人面談：10～11月</p> <p>(在籍数) 57名</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31</td> <td>26</td> <td>57</td> </tr> </tbody> </table> <p>障がい児 2</p>		男	女	計	1年生	12	13	25	2年生	9	7	16	3年生	10	6	16	計	31	26	57
	男	女	計																																											
0歳児	4	5	9																																											
1歳児	3	6	9																																											
2歳児	5	16	21																																											
3歳児	2	4	6																																											
合計	14	31	45																																											
	男	女	計																																											
1年生	12	13	25																																											
2年生	9	7	16																																											
3年生	10	6	16																																											
計	31	26	57																																											

<p>事業の総括</p>	<p>1.ひろば活動 ・区民館の改修工事のため、9か月間を仮設のセンターで事業を行う。引っ越し準備として計3週間の活動休止期間があり利用者には多くの不便をかけてしまった。仮設センターでは手狭感のためか来所者数の減少があったが、一方ゆったりとしたアットホームな雰囲気が徐々にできて落ち着いたひろば環境となった。0-1歳児の利用は例年と変わらずに多くあった。 ・発達に課題を持つ子どものひろばでの過ごし方について、まず保護者に対してひろばに気兼ねなくいられるよう、子どもと保護者にとって安心して楽しく過ごせるよう、スタッフの対応の再確認、共有をその都度話し合う必要を感じた。今後もケース検討会、職場内研修で取り上げていきたい。 ・スポーツセンターの出張ひろばは、来所者が定着し出張ひろばのみの利用者が多い。多目的室の広い部屋の利用によって2歳前後の子どもたちも十分に遊び楽しめる遊び環境を創る事が出来ている。</p> <p>2.相談活動 ・日常的なひろばでの相談のほか、月曜日のお母さんの相談室の利用が仮設センターに来てからの方が多かった。理由の一つは月曜日のプログラムを減らしたことにありと考える。スタッフはひろばに出て親御さんと話す時間を持つ事を心掛けているが、改めてきちんと時間を確保して話す機会を持つ事を求められていると感じた。 ・保健相談所で行っている要保護児童対策地域協議会実務者会議への参加により、保健相談所との連携が一層しやすくなった感がある。</p> <p>3.リフレッシュひと時保育 ・7月～3月の間、改修工事があり、ひと時保育の定員を12名から6名に減らしたため、予約がなかなか取れないとの苦情が多くあった。保健相談所やホットライン関係の要保護児童の継続利用ケースも多くあり、定員減は利用希望者に迷惑を掛けることとなった。ひと時保育の利用は親御さんにとっても必要なことであること、同時に遊びの時間の確保は子どもの成長の上でもとても意味があると再確認できた。</p> <p>4.地域の子育て応援者（ひろばボランティア）の発掘と養成 ・今年度も人材育成養成講座の募集が受付開始数時間後には締め切るほど申し込みが殺到した。ボランティアセンター主催の子育て支援講座にも多くの受講者がいるとのこと。地域には子育て応援をしたいという意思を持っている方が多い。一方センターの活動の中心であるひろば活動におけるボランティアは減少しているが、今後ボランティアセンターとの連携を図り、活動の場として、積極的にアピールする必要があると考えている。</p>	<p>事業目標・方針の総括</p>	<p>1.ひろば活動の充実 ・今年度は区民館の改修工事に伴い7月から3月までの9か月間をプレハブの仮設センターでの活動となった。同じ東陽地区でのセンター開所であったため普段通っていた親子も引き続き遊びに来られたことは嬉しく思う。と同時に幼稚園帰りの子どもたちにとっては非常に便利な場所であった為、幼稚園集団の来所により、雰囲気が一変してしまう日も多くあった。そのような中でも新規の来所者には生後4か月以前の赤ちゃんが多く、特に二子目の場合は生後1か月で母子3人の来所が目立った。初めての子育てで不安や緊張感が強い親御さんが、ひろばに通い続けること自体が相当な努力を必要とされると思うが、そのような方がいつの間にか同じ赤ちゃんスペースに集うお母さん方に対してスタッフとは一味異なる、良き先輩として良き助言者に変化している姿に感動する。 ・ひと時保育が今まで専用の保育室で行われていたが、仮設では、ひろば型のメリットも十分に発揮された。いつも遊んでいるところですのでごすことの安心、大勢の子どもたちがいることでの遊びへの興味のひろがり、加えてひろばとひと時保育のスタッフ間の子ども理解の深まりなど、次年度にも生かしていきたいことが多くあった。 ・狭い仮設でのひろば活動を考慮し、外遊び中心とした年齢別プログラムを企画。参加者との一体感を外遊びを通して経験でき、今後も継続して行なっていきたい。</p> <p>2.相談活動の充実 ・今年度も龍野先生のスーパーバイズを受けてのケース検討会を年4回開催。毎日その日のひろばでの出来事について振り返りを行っているが、どうしても報告で終わってしまいがちで、なかなか一人一人の思いを話し合い伝え合うということは難しい。今年度は検討会の担当を輪番制で行ったが、ケース検討の進め方準備など非常勤も含めて経験したことは貴重な学びの機会となった。後半はロールプレイを用いての検討会を行ったが、親の気持ち子どもの気持ち、スタッフとしての葛藤などを実際演じてみることで気付くことが多く、スタッフ間の理解が深まる学びであった。 ・家族相談ではひろばに日常的に来所していたり、ひと時保育を利用している方の利用が多くあった。事前に相談員がひろばでの親子の様子を積極的に受容し、母との相談の時間を持つ。その後のカンファレンスではスタッフとしてのかわりのあり方にたくさんの示唆があり、対応の共通姿勢を再確認する事が出来る貴重な機会となっている。来年度からはひろば職員が全員参加できるカンファレンスの時間を持つ予定。</p> <p>3.ボランティアとの協働・出張ひろば ・深川スポーツセンターでの出張ひろばのほかに、枝川地域でも開催の予定をしていたが、移転引っ越しなどのためその準備が進められなかった。次年度には早々に準備を始める予定。スキルアップⅡ修了生が新たに出張ひろばに加わってくれているので、その経験を生かせるかたちでボランティアと一緒に新規開設の準備を進めていきたい。</p>
<p>環境・修繕の総括</p>	<p>・区民館改修工事のため7月から3月までの9か月間仮設プレハブ建屋でのセンター事業となった。所管担当者、プレハブ建設業者、センター3者の最終的な詰めの甘さ、確認事項の記録の不備などにより、出来上がってから修繕追加が必要な箇所が出てきてしまった。2F階段の柵の設置、プレイルームのPタイル床面を全面カーペット敷きに変更等。プレハブ建屋は夏冬の暑さ寒さも予想以上で扇風機の追加、ホットカーペットの追加購入など出費も多く出てしまった。</p>	<p>年間利用者数</p>	<p>ひろば事業 ・新規登録者数 575人 ・総登録者数（年間） 174,765人 ・子ども延べ利用者数 11,919人 ・親延べ利用者数 9,715人 ・親子合計 21,634人 ・相談件数 626件 専門相談 84人 ・体験学習事業参加者数 2,018人 ・ボランティア登録者数 94人 （参加延べ人数 261人・参加延べ時間数 495.5時間）</p> <p>ひと時保育事業 ・新規登録者数 250人 ・利用延べ人数 1,433人（利用実人数 689人） ・支援士（東陽）登録者数 26人 ・活動者延べ数 845人</p>
<p>主な行事報告</p>	<p>1.ひろば事業 母親講座・父親講座・グループ懇談会・助産師による講座（おっぱいQ&A・ベビーマッサージ）お話しは例年同様に行ったが、めだかクラブ、母の輪など母親の自主的な活動はスペース的な都合で今年度は行えずプログラムは減少となったが、それをカバーするものとして年齢別の集いを外遊び中心のプログラム内容で実施した。</p> <p>2.木場プレイパーク冒険ひろば—H24年度センター協働事業— 木場公園でのプレイパークを年間5回（6・7・9・10・11月）、区内5か所の子家センで持ち回り、各センター2回ずつ参加し、乳幼児コーナーとしてしゃぼん玉遊びを担当。</p> <p>3.人材育成「子ども家庭支援士養成講座基礎講座・スキルアップⅠ」7期生開催 1-3月 受講30名全員が9回の講座、2日間の実習を修了。全受講生がひと時保育の支援士として登録をし2013年4月からの活動に入る。 ・人材育成「子ども家庭支援士スキルアップⅡ」 9-10月 受講生12名 スキルアップⅠを修了、ひと時保育で活動している支援士が対象。おもに今後のセンターの出張ひろばの活動の協力者養成が目的</p> <p>4.子ども家庭相談研修 12月（3回連続講座） 区内の保育現場で課題となっている様々な問題をテーマにして学ぶ3回連続の研修。 テーマ：こどもの貧困について 受講生89名</p>	<p>人事その他</p>	<p>センター長 1名 ・子ども家庭支援ワーカー 3名 ・非常勤 2名 （地域支援ワーカー1名兼務） ・保育支援ワーカー 2名 ・非常勤 1名 ・専門相談員 伊志嶺美津子（浦和大学 こども学部教授） 染谷 利一（臨床心理士） 小川 未佳（家族機能研究所、IFF相談室セラピスト、臨床心理士）2012年8月から 杉山由希子（東京メンタルヘルスアカデミー、カウンセラー）2012年7月まで</p> <p>・スーパーバイザー 新澤 誠治（みずべ初代所長・子育てひろば推進センターみずべの会代表） 龍野 陽子（子どもの虐待防止センター 元専任相談員）</p>

<p>事業の総括</p>	<p>子育ての喜びを実感する 開所から満10年を迎え「共に育てる」「共に創る」「共に分かち合う」「共に生きる」というメッセージを掲げながら地域の方々とながら、親生まれ誰もが気軽に来て頂けるよう、そして安心して子どもを産み、育て、子育ての喜びを実感することが出来るようにと願って歩んできた。 普段は親子だけで過ごすことが多い幼い子どもたちにとって、さまざまな人々との出会いがあり、他の親子や地域の人たちと関わりあう機会をつくり出すことは、子どもの心を豊かに育むためにも大切である。一人ひとりの人格や個性を尊重し、周りから受け入れられ、日々の生活の中で安心・安定して過ごすことは、親にとっても子どもにとっても喜びにつながるのではないかと。</p> <p>みんなで育てる街づくり 遠くて来所できない家庭ともつながりができるよう、定期的に地域に出向いて行き、ボランティアの方々と一緒に出張ひろばを実施する事も定着してきた。また、親子が集まりやすい近隣の公園でも、子育て団体と協働してプレーパーク事業を新しく行い、外遊びの実践等を親子で体験する。センターだけで担う子育て支援のみではなく、地域と協働して一歩ずつみんなで育てる街づくりを進めてきた。そして地域全体で子育て家庭をサポートできるネットワーク作りも今後考えていきたい。</p> <p>身近なセンターへ ホームページを活かし、更に子育て情報ポータルサイトを構築し、より多くの方に情報発信できるようにした。これにより携帯等で地域の中に親子で集える場所を知ることができ、より子ども家庭支援センターが身近になったと思う。</p>	<p>事業目標・方針の総括</p>	<p>ひろば活動 訪れる親子が安心して過ごせる場所であり、居心地の良いひろばになるよう安全面などにも注意し、継続して利用できるようひろばの充実を心がけた。新規で来所した親子には特に丁寧な関わりを心掛け、先輩利用者や、地域のボランティアさんと共に過ごす楽しさを感じられるよう対応してきた。</p> <p>相談活動 専門相談（グループ相談月1回 個別相談月1回 家族問題相談月1回 発達相談隔月1回）職員は日頃から親子に関わりながら、気兼ねなく応じられる身近な良き相談相手になるよう心がけている。内容は様々であるが、必要に応じて専門相談につなげることも少なくない。定期的に行うケース検討会議では職員のケース対応を振り返りながら、スーパーバイザーから適切なアドバイスを頂く貴重な時間となっている。</p> <p>リフレッシュひととき保育 少しでも兄弟や双子の家庭も利用しやすいように定員枠を変動させながら行っているが、今年度も1ヶ月先までの予約はすぐに埋まってしまいう状況だった。わずかな時間でも、こどもと離れる事で、親自身にゆとりが持て、再び子育てに向き合えればと願い、子ども家庭支援士にご協力いただき、こどもの健やかな育ちと子育てのサポートをこれからも続けていきたい。</p> <p>ボランティア活動・世代間交流 ボランティア層の年齢幅は広く、それぞれひろばボランティアやプログラムのボランティアとして活動して頂いている。特に今年度は、以前利用者だった父親がボランティアとして仕事が休みの土曜日に来て、赤ちゃんを抱っこしたり、ひろばでこどもと遊んだりして下さっている。また、父親同士気さくに話しができる良い機会となっている。</p>																																
<p>環境・修繕の総括</p>	<p>大型改修工事のため、敷地内に仮設を建て12月上旬より2013年度6月中旬頃まで移転し事業を行う。移転の際に、書類や遊具、備品等の整理を行うことで使いやすくなった。仮設の不便さを感じさせないよう利用者の声を聞きながら、できる限り施設整備を図る。 仮設時期での利用者アンケートでも、遊具も充実していて安全で清潔な場所という評価を頂いている。仮設でも、空気清浄器の購入、家具等の耐震補強など行う。</p>	<p>年間利用者数</p>	<p>ひろば事業</p> <table border="0"> <tr> <td>・新規登録者数</td> <td>900人</td> <td>・総登録者数</td> <td>10,170人</td> </tr> <tr> <td>・子ども延べ利用者数</td> <td>13,824人</td> <td>・親延べ利用者数</td> <td>12,020人</td> </tr> <tr> <td>・親子延べ合計数</td> <td>25,844人</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・相談件数</td> <td>681件</td> <td>・体験学習事業参加者数</td> <td>3,156人</td> </tr> <tr> <td>・ボランティア登録者数</td> <td>61人</td> <td>(活動延べ時間数</td> <td>1,616.5時間)</td> </tr> </table> <p>リフレッシュひととき保育事業</p> <table border="0"> <tr> <td>・新規登録者数</td> <td>221人</td> <td>・利用延べ人数</td> <td>787人</td> <td>・予約延べ人数</td> <td>1,090人</td> </tr> <tr> <td>・支援士登録者数</td> <td>18人</td> <td>・現活動者数</td> <td>13人</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	・新規登録者数	900人	・総登録者数	10,170人	・子ども延べ利用者数	13,824人	・親延べ利用者数	12,020人	・親子延べ合計数	25,844人			・相談件数	681件	・体験学習事業参加者数	3,156人	・ボランティア登録者数	61人	(活動延べ時間数	1,616.5時間)	・新規登録者数	221人	・利用延べ人数	787人	・予約延べ人数	1,090人	・支援士登録者数	18人	・現活動者数	13人		
・新規登録者数	900人	・総登録者数	10,170人																																
・子ども延べ利用者数	13,824人	・親延べ利用者数	12,020人																																
・親子延べ合計数	25,844人																																		
・相談件数	681件	・体験学習事業参加者数	3,156人																																
・ボランティア登録者数	61人	(活動延べ時間数	1,616.5時間)																																
・新規登録者数	221人	・利用延べ人数	787人	・予約延べ人数	1,090人																														
・支援士登録者数	18人	・現活動者数	13人																																
<p>主な行事・活動報告</p>	<p>お母さんの元気講座（3回） 離乳食講座（3回） 自然と遊ぼう（年2回） グループ懇談会（前期6回・後期6回） 父親講座（年2回）→自然と遊ぼうとフレンズクラブで行う 助産師さんとのグループ相談（6回） 助産師さんとの個別相談（6回） ボディケア（5回） ベビーマッサージ（11回） プレママ・プレパパ講座（年4回） ハンドトリートメント（年5回） おはなし会（月3回） 季節のおはなし会（たなばた・クリスマス1回ずつ） クリスマスの集い（1回） 夏季の水遊び（6回） 手型足型（4回） ハローみずべ（年4回） ＊プレーパークプチ（1回）→地域の子育て団体と協働で公園遊びを実施 ＊夏まつり（1回）→夏ならではのプログラムを取り入れる ＊ミニコンサート（1回）→利用者によるひろばスポットプログラム ＊リズム遊び（1回）→ボランティアによるスポットプログラムを実施 みんなで遊ぼう（年5回）誕生会（毎月） すこやか成長記録（毎月） ふたごちゃんの集い（3回） フレンズクラブ（年6回）入園おめでとうの集い（1回） かんたん手作り（年6回） みずべ会議（3回） 手作りサークル（毎月1～2回） 亀戸出張ひろば（毎月1回） 亀戸スポーツセンター出張ひろば（毎月1回） バギーコンサート（1回） おもちゃ病院（年3回） ボランティア会議（3回） ボランティア・支援士感謝会（年1回） 中学生ボランティア ・小学生ボランティア ・初任者教員夏期研修受け入れ ・専門学校実習受け入れ 中学生体験学習受け入れ 避難訓練（3回）→1回は無線訓練を含む 防犯訓練（1回） 運営協議会（年1回）</p>	<p>人事その他</p>	<p>職員配置</p> <table border="0"> <tr> <td>センター長</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>子ども家庭支援ワーカー</td> <td>2名（1名 非常勤）</td> </tr> <tr> <td>子ども家庭支援ワーカー・地域活動支援ワーカー</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>子ども家庭支援ワーカー・一時保育担当</td> <td>2名（1名 非常勤）</td> </tr> </table> <p>専門相談員 稲邑恭子（成蹊大学・お茶の水女子大相談員：カウンセラー） 山川恵子（保健学博士） 都甲絢子（大泉金杉クリニック精神科、心理相談員 臨床心理士） 養和巖（東京大学医学部精神神経科小児部：臨床発達心理士）</p> <p>スーパーバイザー 龍野陽子（子どもの虐待防止センター 元専任相談員） 新澤誠治（みずべ初代所長・子育てひろば推進センターみずべの会代表）</p>	センター長	1名	子ども家庭支援ワーカー	2名（1名 非常勤）	子ども家庭支援ワーカー・地域活動支援ワーカー	1名	子ども家庭支援ワーカー・一時保育担当	2名（1名 非常勤）																								
センター長	1名																																		
子ども家庭支援ワーカー	2名（1名 非常勤）																																		
子ども家庭支援ワーカー・地域活動支援ワーカー	1名																																		
子ども家庭支援ワーカー・一時保育担当	2名（1名 非常勤）																																		

事業の総括	<p>1. 深北みずべ9年目を終了して 前年度末に終了した耐震工事後、移転先の住吉・猿江・扇橋や、2か所の出張ひろばで繋がった親子の来所が増えた。若い世代の転入、保健相談所で行っている両親学級でのアピールにより0歳児の利用数が増加している。利用者によるプログラムも盛んに行われ「みんなで作るみんなのみずべ」が利用者、ボランティアの力により生み出されている。</p> <p>2. リフレッシュひととき保育 5年目に入り、多くの方に周知され、ひととき保育を通してひろばに繋がる方が多くなってきている。支援士さんが丁寧にも寄り添い、保育の様子を保護者に伝えることが安心して預けることに繋がっている。保育の定員は3名であるが、すぐに定員になるため定員増加を希望する声が多い。</p> <p>3. 「深川北子育てひろば」「住吉・毛利子育てひろば」（出張ひろば） “みずべに行きたいが家から遠くてなかなか行きにくい”という声に応えて、気軽に近くのひろばに集えるように、深川北スポーツセンターの会議室を利用して「出張ひろば」を月1回始めてから3年目。また、住吉・毛利地区も新規で加わった。深北“みずべ”から離れて住んでいる方の需要は高く、こちらから地域へ向かうことの必要性を感じている。</p> <p>4. すこやかマNDER 隔月で開催。しょうがいや発達のおゆるい子ども等を対象に、休みの月曜日に遊びのひろばを提供。隔月のために定着することは出来なかったが、次年度は毎月1回行う予定。</p> <p>5. 利用者主体のプログラム マッサージやヨガ、ネイルケアなど、お母さんが持っているものをひろばで発揮していただくプログラムが数多く行われた。</p> <p>6. 地域情報交換会（年2回） 「顔がわかり心通わせるネットワークづくり」と運営協議会での声を受け、2012年度は年2回開催。「子育て家庭の現状」について学びの時を持つ。また、近隣の保育園が保育者対象に合同で主催している講習会をセンターで行うことにより、センターを知ってもらえる機会と交流の場になっている。</p>	事業目標・方針の総括	<p>1. ひろば活動 雲柱社基本理念、子ども家庭支援センター事業目標を基にし、ひろばに集う親子が、ホッとできありのままで過ごすことができるように、ひろばでのふれあい相談、一人一人に寄り添い丁寧に関わることを大切にしてきた。特に、配慮が必要な家庭についてはミーティングで共有し、次回の来所時の配慮につなげるようにしている。龍野先生のケース会にても話し合い関わりが途切れないようにスーパーバイズを頂いた。また、要保護児童対策地域協議会も年6回あり、ホットライン、保健相談所、支援センターなどのケース報告は各機関の連携を深め、有意義なものとなった。 支援士さん、ボランティアさんとの「ボランティア会議」、利用者との「みずべ会議」が、共に地域で育ちあう仲間のひろがり、みずべ基本理念、共有・共創・共有・共生を考え合い歩んできた。</p> <p>2. 相談活動 <u>①ループ相談（前期・後期各6回）</u> 決まったメンバーでの継続しての話し合いは、参加者同士のつながりも深まり「自分の時間」を持つことにより、助け合える仲間づくりに繋がっている。子どもの保育はボランティアさんが担い、親御さんへ温かな声援を送っている。 <u>②家族問題相談</u> 夫婦関係・親子関係・親自身のことなど相談内容も多岐にわたる。継続が必要なケースも多くいつも予約でいっぱいである。自分を取り巻く環境を整理し、自身が納得できる生き方を見出していけるよう応援する場ともいえる。 <u>③発達相談</u> 子ども中心の相談であるが、お母さん自身、家族についての相談になることもある。他機関とも連携をとりながら、継続してひろばでも関わりながらすすめている。 <u>④助産師さん懇談会</u> こどもの健康やお母さんの健康についての相談。「体をほぐせば心もほぐれる」といわれることからお母さんのストレッチから始まる。相談内容は、授乳・離乳食・卒乳・夜泣き・おっぱいのケアなどで参加者の経験も生かしながらすすめていくので親同士の繋がりもできる。産後の体のことなど個別のケアも行っている。</p>																											
修繕環境の総括	<ul style="list-style-type: none"> センター周辺の植え込みに、お花を植えたり、センター内では育てた花を飾ったりすることで温かみのある環境を心掛けた。 PCネットワークの再構築をしたことで、事務処理の効率化を図った。 																													
主な行事報告	<p>1. 日常のプログラム <u>①あおぞらひろば</u>…戸外ならではの遊びの提供を目的とし、センター向かいの森下公園で行っている。夏の水遊び、秋の運動会など神愛保育園と共催で行っている。 <u>②おはなしかい</u>…利用者のお母さんとボランティアで行っている。養成講座を開くことでメンバーも増え、お話だけでなく得意分野を生かし歌やピアノも使い楽しいひとときとなっている。ほかに、「英語で遊ぼう」（英語の歌、読み聞かせプログラム）も、定期的に行い、利用者がそれぞれの得意分野を生かし行っている。 <u>③ケーキサークル&喫茶</u>…月曜日のケーキサークルもメンバーが増えた。同じメンバーが喫茶の日も飲み物を用意したりすることがケーキサークルのアピールにもなっている。</p> <p>2. お祝い・季節のプログラム <u>①クリスマス会</u>…ボランティアさんによるお話し、パイオリン・ピアノの演奏もあった。土曜日に行うことで父親や祖父母の来所のきっかけとなった。 <u>②お誕生会</u>…当日飾るお花のアレンジメントを利用者にお願いしている。保育園や幼稚園、小学校に入園・入学を祝うプログラムもお祝いプログラムの一つであるが、どれも自分の子だけでなく互いに成長を喜びあうひとときとなり、育ちあう仲間がいることの喜びを感じる時となっている。 <u>③自然とあそぼう</u>…親子の野外遊びの提供。普段見過ごしてしまいがちな自然を親子で楽しむ。父親プログラムとして「たき火」「カレー作り」や、乳児対象のプログラムを近隣の公園で行った。 <u>④プレママプログラム</u>…「プレママもママもおいでよ“みずべ”へ」（妊婦さん向けの企画）は毎月1回来て下さる助産師さんが進行役になり、低月齢のお子さんをもつ利用者にも力を貸していただき行う。ベビーマッサージの見学や、マタニティーヨガなど、今後も妊婦さん向けのプログラムをとりいれながら来所のきっかけを工夫していく。</p> <p>3. 神愛保育園との共催プログラム あおぞらひろば以外に、看護師さんと話そう（年2回）、栄養士さんと話そう（年2回）がある。保育園ならではのサポートにつなげることができ、同じ法人のメリットをこれからも生かしていく。</p> <p>4. 地域の方、ボランティア・民生委員の力を借りて 保育の必要なプログラムの時にこどもを保育していただいている。年に2回ボランティア会議を開いた。地域の方の温かなまなざしが子育て中の親子の安心につながっている。</p>	年間利用者数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>今年度</th> <th>前年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・新規登録者数</td> <td>763名</td> <td>483名</td> </tr> <tr> <td>・子ども延べ利用者数</td> <td>14,323名</td> <td>8,847名</td> </tr> <tr> <td>・親延べ利用者数</td> <td>12,809名</td> <td>8,141名</td> </tr> <tr> <td>・親子計</td> <td>27,132名</td> <td>16,988名</td> </tr> <tr> <td>・相談件数</td> <td>884件</td> <td>593件</td> </tr> <tr> <td>・体験学習事業参加</td> <td>3,253名</td> <td>1,848名</td> </tr> <tr> <td>・ボランティア登録数</td> <td>73名</td> <td>64名</td> </tr> <tr> <td>参加延べ時間 大人</td> <td>615時間</td> <td>367時間</td> </tr> </tbody> </table> <p>人事・その他</p> <p>*職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター長 1名 ・子ども家庭支援ワーカー、兼、地域活動ワーカー 1名 ・子ども家庭支援ワーカー 1名 ・保育ワーカー 1名 ・子ども家庭支援ワーカー 1名（非常勤） ・子ども家庭支援ワーカー 1名（非常勤） <p>*専門相談員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達相談 渡邊 恵理（東京大学病院こどもの心の診療部） ・心理相談 田島 昌子（臨床心理士） ・家族問題相談 都甲 絢子（金杉クリニック 精神科 臨床心理士） ・助産師さんとの懇談 廣田 真里・山本福美（助産師） <p>*スーパーバイザー</p> <ul style="list-style-type: none"> 田島 昌子（臨床心理士） 龍野 陽子（子どもの虐待防止センター元専任相談員） 新澤 誠治（子育てひろば推進センター みずべの会代表） 		今年度	前年度	・新規登録者数	763名	483名	・子ども延べ利用者数	14,323名	8,847名	・親延べ利用者数	12,809名	8,141名	・親子計	27,132名	16,988名	・相談件数	884件	593件	・体験学習事業参加	3,253名	1,848名	・ボランティア登録数	73名	64名	参加延べ時間 大人	615時間	367時間
	今年度	前年度																												
・新規登録者数	763名	483名																												
・子ども延べ利用者数	14,323名	8,847名																												
・親延べ利用者数	12,809名	8,141名																												
・親子計	27,132名	16,988名																												
・相談件数	884件	593件																												
・体験学習事業参加	3,253名	1,848名																												
・ボランティア登録数	73名	64名																												
参加延べ時間 大人	615時間	367時間																												

2012（平成24）年度 雲柱社 支援センターブロック 事業報告

施設名 江東区南砂子ども家庭支援センター
 記入者 依田幸子

<p>事業の総括</p>	<p>子どもを中心に繋がりあう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカの古い諺に「子ども一人育てるのに村中全員の力が必要」とあるように、子育てには多様な支えを必要とする。多くの親達は小さな子どもがいる生活を楽しんでいる一方、子どもと毎日一緒にいることが辛いと感じたり、社会と切り離された孤独を感じるという声も多い。子どもの発達への心配や自分の育て方への自信が持てないと不安を訴える親達にとって、現代の住宅事情も関係して、近隣からの苦情等は、子育ての負担感を一層強くしていると思う。マンションの下の階の人から、子どもの足音がうるさいと言われ、家で自由に子どもを遊ばせることができないという話しは決してめづらしくない。 子ども達が元気に遊ぶ声や泣く声が喧しいと言われてしまう現実の中で、センターからの情報誌や、地域の方々を対象にした講演会等で、子どもの健やかな育ちを保障するためには、親だけの子育てではなく、地域全体で子どもを守り、育てていく必要があることを訴え、共感を得られたと思う。 ・2012年3月に「子ども・子育て新システムの基本制度について」が決定され、①質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供 ②保育の量的拡大・確保 ③地域の子ども・子育て支援の拡充を図ることとしている。 生まれ、育つ子どもが周りの人たちに愛され、子どもらしくのびやかに子ども時代を生きる。賀川豊彦の言う「子どもには遊ぶ権利がある」こんな当たり前のように思われる環境を、今の時代に合った形で新たに創り出して想いを、地域の人達と共有し、それぞれが自分にできるところから始められたことは嬉しいことである。 <p>児童家庭支援士訪問事業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅の要保護児童を、ボランティアとしてサポートする事業において、8名の子どもへの支援を実践することができた。愛着の問題を抱えた子どもへの週1~2回の訪問で、勉強をみたり、一緒に遊んだりする。1年間の長い支援なので、子どもとの関係もでき、子どもが自分の辛さを語ったり甘える等、今までに見せなかった姿を出せてきたことは、この子ども達にとって、貴重な出会いであり、これからの生活に大きな影響を持つであろうと期待するところである。 	<p>事業目標・方針の総括</p> <p>1. ひろば活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2006年5月にひろばを開設して7年目を迎えたが、11月下旬に登録者が1万人を越えた。多い日には10組以上の新規の来所者があるが、慣れないひろばで心細い想いをしないよう常に心がけている。来所のきっかけで保健師や助産師から教えてもらったと話す人が増えているのは、育児不安の予防に繋がっていると思う。 ・親たちの自主活動（サークル）も盛んに行われ、新規の人たちを上手に誘う先輩たちの姿は、新規の方々は勿論、スタッフにとっても心強い存在である。 ・初めて行った夏まつりや作品展は、親の発案で企画、準備、実行までを多くの保護者が担ってくれた。子ども家庭支援センターの役割のひとつとして、子育て中の親のエンパワーメントということが挙げられるが、仲間と協力し自分達の想いを実現していく楽しさを多くの人が感じることで、今発揮されている力を今後継承していけるようにしていく。 <p>2. 相談活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門相談（グループ1/月 家族問題2/月 発達1/隔月） 「悩みを話すことで、こんなにも心が軽くなるのかと驚きました」という、グループ相談参加者の言葉からも分かるように、多くの親は自分の辛さを人に話せず自分一人で抱えていることが多い。安心できる相手に話すことで改めて自分達親子や夫婦の関係性の問題に自ら気づき、改善策を考え、行動できるように支えてきた。 ・児童虐待対応ホットライン 区は2009年2月に医療機関向けの虐待防止マニュアルを作成し、病院との連携も可能になった。同時に病院からの通告も増え、虐待が繰り返され再受理するケースや児童福祉施設から家庭復帰するケース、危険性が高く直ちに児童相談所に連絡するケース等、その内容は深刻化している。 虐待は貧困、DV、精神疾患、育児負担、児童の育て難さ等、多様な背景による不安や怒りが絡み合い、引き起こされるが、複雑な事情を抱えた保護者の現状を理解し、気持ちに寄り添うことから児童の安心で安全な生活を支援する方法を探ってきた。しかしご本人自身に支援を受け入れていただくことが難しい場合も多く、どのように親子との関係性を築くかは、ワーカーの課題の一つである。 <p>3. ひととき保育</p> <p>東陽子ども家庭支援センターの耐震工事のため南砂での利用希望者が増えた。東陽の支援士さんの協力を得ることで定員の枠を広げて事業を行った。第2子の出産直後やふたご等、他の人の手を必要とする場合の利用も多いが、対応の難しい子どもで、少し親子が離れる時間を意図的にとり、子どもの年齢相応の遊びができる場の確保として利用を勧め、子どもの育ちを促すことで親の負担軽減をも図ってきた。</p>
<p>環境・修繕の総括</p>	<p>1. 南砂ホットラインと江東区子育て支援課要保護担当をオンラインでつなぐシステムの導入によって、ケースの動きを、区とリアルタイムで共有できる点はメリットであったと思う。</p> <p>2. トイレの水道が故障するトラブルが続き、修繕費が予想外にかかってしまった。センサーがついている物だけに、職員では直せないのがデメリットと思う。</p> <p>3. 開設7年目ということもあるのか、外倉庫の扉・センター正面で入り口の扉が開閉できなくなり、これもまた業者に頼む必要のある物で、頑丈にできている反面、修繕も難しい。</p>	<p>年間利用者数</p> <p>ひろば事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規登録者数 1,248人 ・子ども延べ利用者数 19,623人 ・相談件数 826件 ・ボランティア登録者数 41人 <p>ひととき保育事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規登録者数 296人 ・支援士登録者数 40人 <p>・総登録者数 10,347人</p> <p>・親延べ利用者数 16,482人</p> <p>・親子合計 36,105人</p> <p>・養困受理件数 115件</p> <p>・体験学習事業参加者数 4,294人</p> <p>（参加延べ時間数 538時間）</p> <p>・利用延べ人数 1,982人</p> <p>・予約延べ人数 2,603人</p> <p>・現在活動者数 22人</p>
<p>主な行事報告</p>	<p>母親・父親講座—自然と遊ぼう（3回）、おもちゃ病院（2回）、応急手当（1回）、元気講座（2回）、離乳食講座（3回）ベビーマッサージ（3回）</p> <p>グループ相談—12回（2テーマ）</p> <p>助産師個別相談—6回 助産師グループ相談—6回</p> <p>すこやかマンデー（障碍のある子どもと親の集い）—毎月1回</p> <p>誕生日会、すくすく成長記録、おはなし会—親御さんやボランティアさんの協力で行った。</p> <p>みずべ会議—6回（親、ボランティア、職員の意見交流）</p> <p>自主活動—分ち合いバザー、入園を祝う会、3歳児遊び隊、うたい隊、本友会、ママズコットン、ボランティア・支援士学習会、感謝会</p> <p>出張ひろば—今年度から月2回行った。支援センターから少し離れている地区集会所を借りて、少人数のひろばで落ち着いて過ごせた。</p> <p>中学生職場体験・江東区新任教員研修・専門学校実習等受入れ</p>	<p>人事その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター長 1名 ・子ども家庭支援ワーカー 3名・非常勤3名（地域活動ワーカー1名一兼務） ・保育支援ワーカー 1名・非常勤2名 ・虐待対策ワーカー 4名・非常勤心理1名 ・育児休業 1名 ・専門相談員 櫃田 紋子（浦和大学 こども学部教授） 井上 明子（臨床心理士） ・スーパーバイザー 龍野 陽子（元子どもの虐待防止センター専任相談員）*専門相談員も兼任 新澤 誠治（子育てひろば推進センター みずべの会代表） 高岡 昂太（千葉大学大学院 子どものこころの発達研究センター 特任助教）

支援センターブロック

南砂（指定管理）

<p>事業の総括</p>	<p>1. ひろば ・プログラム活動 「ベビーマッサージ」…とても人気のあるプログラムで、毎回申し込みが多い。しかし、“ベビーマッサージが無料で出来る”と来る人も多く、私達の望んでいる意図(人をつなぐ、ひろばへのきっかけ)が本当に伝えられているのか?と迷うことも多かった。名称、中味の再度の話し合いを、次年度への課題としている。 「ちくちく倶楽部」…家では出来ない(針しごと)ことが出来る。縫物は苦手だけど、ここでなら自分にも作れるかも。子どもに手作りの名札を付けてあげたいと、参加する保護者たちの思いが嬉しい。できた名札を付けて見せてくれる時の、保護者の嬉しそうな顔は、私達の励みになる。</p> <p>・育ち合う姿 悩みや心配事をよく話していたお母さんが、親支援プログラム「ノーバディーズパーフェクト」に参加したり、ひろばに頻繁に来所し、他のお母さん達と話すことで、明るく活発になっていく様子は、見ている私達も嬉しくなる変化である。ひろばは、気持ちが楽になる場所であり、出会いが育ち合いにつながっている姿が嬉しい。</p> <p>2. 一時預かり ・6ヵ月～就学前の幅広い年齢の子どもたちが集まる。年齢の幅ゆえの、ここならではの得難い異年齢の関わり姿もあれば、難しさも大きい。昨年同様、とにかく一人一人の子どもに寄り添う気持ちを忘れずに関わりを持ちたいと思いながらやってきた。そして同じように親御さんにも丁寧な関わりを心がけ、子どもの様子を伝えることで、良かった、という気持ちになってもらいたいと思っている。毎回の振り返りと預かりの話し合いで、子どもの姿の共有と対応についての話を大切にしている。 ・相談から預かり保育につないだ人はもちろん、保健師さんからつながってきた人など、お互いに連携して丁寧に支えていけるようにしてきた。</p> <p>3. トワイライトステイ ・ほぼ毎日連続して利用する子どもがいなくなり、単発の残業時利用などで後半は利用人数が以前に比べると少なくなってきた。小学校入学、保育園の延長を利用できる等をきっかけにトワイライトの利用をやめていく人が何人かいた。それはつまり、仕事の仕方そのものを見直している事ようである。 ・今年度も小学生の過ごし方が大きな課題であった。家で自由にしたい(来たくない)気持ちからの葛藤があったり、まだまだ1対1で甘える姿を見せたり、大きいからこそその本人の葛藤を受け止めながらの試行錯誤であった。長い時間を預けられる子ども達なので、一人一人を丁寧に見られるよう日々の様子の伝え合いを大切にしている。</p> <p>4. 相談活動 ・「ココの会」…相談を受けてくる中で、子どもへの具体的な接し方を保護者と学び合う学習会を持ちたい、という思いが出てきて、保育から学ぶグループ学習「ココの会」を企画した。お母さんの学びであったと同時に、その場での保育は子どもの成長と変化も見られて良かった。次年度も継続して行なっていきたい。 ・ハーフタイム(母親のグループミーティング)や要保護児童などの親子について、職員間で援助方針や情報を共有し、見守ることができた。また、ひろばのふりかえりやスーパーバイザーを加えた事例検討会などで対応を話し合った。</p>	<p>事業目標・方針の総括</p>	<p><ひろば活動> ・ひろばに来た親子にとって、ここが心地よい場所であること、その為に一人ひとりに丁寧な対応を皆で話し合いがけてきた。お母さんやお父さんが、ここで少しゆっくりした気持ちになれると同時に、子ども達にとっても、安心してのびのびと遊べる場所であるよう、子どもにも寄り添う姿勢を大切にしたい。 ・保健師さん、助産師さんがひろばを勧めて、つなげてくれる機会も多くなっている。そこから、助産師さんのお話の企画も生まれた。今後も同じ建物に保健相談所がある利点を活かして繋がりを深めていきたい。</p> <p><一時預かり> ・ひろばと同じ場所で同じスタッフが保育することが、お母さん達にとって大きな安心感になっている。お母さんにとって安心して任せられる場所であり、子どもにとっては、のびのびと自分をだせる場所であることを大事にしてきた。 ・集団保育のおもしろさ(同年齢、異年齢の関わりや成長)も充分活かしつつ、一時預かりなので、更に一人一人への丁寧な対応が必要で、毎回の振り返りと、職員会の話し合いでの共有を大切にしてきた。子ども集団の中でのお子さんの姿を伝えることで、親子でいる時には見えない子どもの姿を知ってもらい、共に成長を楽しめる場所でありたいと思う。 ・法人で委託している光が丘第六保育園の園内研修と一緒に参加させてもらい、保育の視点での学びの機会を得たことは大きかった。これからも学ばせてもらい、一時預かりの保育を考えていきたい。</p> <p><トワイライト> ・小学生がいる異年齢活動の日が多かった一年で、とても楽しい時と、力の大きさに小さい子が圧倒されてしまう時とがあり、小学生にとっての長時間の預かりの難しさを感じることも多かった。 ・子ども達が長時間安心して楽しく過ごすために、引き続きスタッフ間で子どもの姿を共有し、みんなで考えていくようにしていきたい。</p> <p><相談活動> ・子どもとのかかわりの場面に特化してテーマを設定したグループワークの「ココの会」は、保護者同士の、子育てのアイデアを交換出来る場にもなった。プログラムの関係で、保護者同士の話し合いの時間が短かったという反省点をふまえつつ、改善しながら次年度も続けていこうと思う。 ・龍野さんの事例検討会は、常勤、非常勤ともに貴重な学びの時間なので、有効に活用したい。</p>
<p>主な行事報告</p>	<p>・すぽっとタイム 第2・4火曜日<第4火曜日は、誕生会も行なっている> ・たんじょうカード (メッセージを書いてもらい、誕生会にメダルにして、その場で読んでもらう) ・すくすく測定(身体計測) 第1・3火曜日 ・クリスマス会 (お母さん達とスタッフが一緒に行なう) ・助産師さんによる母乳育児と卒乳の話 ・小児救急ミニ講座 年2回 講師:練馬区医師会飯島医院院長 ・看護師さんに聞く 年2回 講師:近隣の区立保育園看護師 ・栄養士さんに聞く 年2回 講師:近隣の区立保育園栄養士2名 ・ノーバディーズ・パーフェクト 全6回 ファシリテーター 林田道子氏</p>	<p>環境・修繕の総括</p>	<p>・光が丘第六保育園の園内研修に職員が参加し、遊具や保育環境を共通の視点で話し、変えていくきっかけになった。 ・ひろばに置くベビーベットを区からもらったので、昼寝の赤ちゃんの安全の確保ができた。 ・今年度は、ひろばの人数が多い時と制作の時に、会議室を開放して使った。今後も会議室の有効な使い方を考えていきたい。</p>
		<p>年間利用者</p>	<p>ひろば 新規登録者数(子) 1,307名 延べ利用者数(子) 16,896名 (親) 15,478名 育児相談 443件 一時預かり 新規登録者数(子) 271名 延べ利用者数(コマ数) 2,160名 トワイライトステイ 新規登録者数(子) 25名 (総数 191名) 延べ利用者数 726名(昨年 884、一昨年 1,433) 相談件数 719件(新規 166) ひろばでの相談除く</p>
		<p>人事・その他</p>	<p>センター長 子ども家庭支援ワーカー 5名(内、リーダー2名) 非常勤職員 13名 スーパーバイザー 龍野陽子(元子どもの虐待防止センター専任相談員) 藤尾静枝(支援者のための研究室 悠 代表 保健師・精神保健福祉士) ※グループミーティングも担当</p>

2012（平成24）年度 雲柱社 支援センターブロック 事業報告

施設名 練馬区立大泉子ども家庭支援センター
記入者 新澤拓治

<p>事業の総括</p>	<p>・2010年5月に事業を開始し、3年目の運営となった。1年目、2年目、3年目をホップ・ステップ・ジャンプととらえ、3年目はジャンプの年という目標で事業を進めてきた。 ・2年目には職員の異動や産休のため、メンバー構成に大きな変化があり、様々な経験を積み上げていくという意味では、多少途切れて再スタートという感もあった。一方でメンバーが大きく変わっての2年目ということで、着実に変化を遂げたのではないかと思う。 ・職員の異動には様々な側面があるが、プラスの面としては、江東区の支援センターから異動になった職員がおり、新たな風を吹き込み、活動を実施出来た事が、良かった点ではないかと思う。練馬地域の支援センターでは、もともと区直営で実施してきた子育てのひろばを引き継いでいる為、自分たちらしさを活かしたひろばの実現が中々出来なかった部分があるが、2年目以降徐々に変化を遂げてきた。利用者の方々の自己発揮、事業への参加と参画性の高まりが大きくなり、その部分が3年目としての大きな成果だといえる。 ・子育てのひろばでは、利用者からの提案で、それぞれの特技を生かしたミニ講座の実施や、節目の行事などでは利用者自らが実行委員となり、企画から運営、司会進行まで実施するという、大きな展開が見られた。これはぜひ伝統のひろば文化として残ってほしいものである。 ・乳幼児一時預りについては、3年目はさらに利用者が増えた。水曜日、日曜日の週二日の実施だが、両日ともに平均利用数は変わらなくなってきている。 2011年度 水8.4名 日6.7名 ⇒2012年度 水9.2名 日8.1名 ・トワイライトステイについては、極めて低い利用状況の為予算が大幅に減額されたが、3年目に入り利用数は77⇒230と大幅な増加をしている。但し、大幅減額となった予算の影響もあり、職員配置の実態と予算が合わず、収支としては苦しい状況にある。 ・相談事業については、大幅な件数の増加ということはないが、練馬区との連携を含め、安定性、確実性の向上がみられた。それは相談担当者が細かく丁寧に区担当者と連絡をとってきた成果といえる。 ・2011年度に練馬区内で起きた幼児の虐待による死亡事例について、直接的ではないにしろ、相談として関与をしているケースの死亡事例検討会が区で行われた。その際に、初動での連携、連絡から記録に至るまで、区の窓口としての一端を担うという点で、区直営の子ども家庭支援センターは先駆型の子ども家庭支援センターと何ら変わらない責任性というものがあると改めて認識し、意識と質の向上をさらに進めていくことは必須である。</p>	<p>事業目標・方針の総括</p>	<p>1. 地域における信頼関係の発展 ・施設のある地域の町会では防災に力を入れており、センターとしても集合場所の提供や、地域の総合防災訓練への参加など、地域の一員としての役割を果たした。 ・隣接する、障害者地域生活支援センター（他法人運営）の年度途中での所長交替があり、全体の施設運営についての新たな関係づくりを行った。 2. ひろば活動のジャンプの時期に ・前述したが、様々な活動について、従来利用者だった方が企画者、運営者へという活動が大きく転換された年となった。 3. 相談活動の深まりと重層的な対応 ・相談担当者、ひろばスタッフとの連携を密に行い、情報の共有もし、センターとひろばが一体となった活動を目指してきた。物理的に階が分かれてしまっているが、記録の共有等工夫をして進めてきた。 ・スーパーバイザーから定期的にサポートを受ける。藤尾静枝先生からは親のメンタル面などを中心に（毎月）龍野先生からはひろばでの関わり方（隔月）を中心にアドバイスを受けた。 4. 一時預かり、トワイライト事業の安定化と質の向上 ・一時預かりはニーズが高く、毎月1日の予約開始日は混雑し、希望の日時が取れないという状態が続いた。年度内に区と検討を重ね、初日に予約数の制限を実施することとなった。これは、苦肉の策と言えるが、地域全体として受容と供給のバランスが極めて悪く、今後自分たちはどのように考えていくのかは大きな課題である。 5. 各種講座内容等の充実 ・各種講座については、利用者のニーズをとらえて実施と計画をしていたが、利用者提案のミニ講座等の実施が出来、その面で充実が図られた。 6. チームワークのよい職場環境作り ・長時間開所の宿命である職員の勤務時間がバラバラまた非常勤の数も多いといった状況下で、職員同士のコミュニケーションが課題となっていた。今年度はそれぞれの職員が忌憚無く、意見を述べ合い、大きく歩み寄れた部分も大きかったのではないかと思う。 ・しかしながら日曜や祝日、夜間の勤務については、労働時間数という点だけでは割り切れない、負担感、疲弊感があるのは事実である。施設内においても平等に担えればよいが、必ずしもそうはいかず、シフトの組み方に偏りが生じてしまうことが課題としてあげられる。今日の福祉課題・状況からすれば致し方無い面もあるが、職員が働き続けられない状況になってしまう恐れがあればやはり何らかの形で改善をしていく必要性が非常に高く感じられる事案である。</p>
<p>年間利用者数</p>	<p>子育てのひろば 新規登録（子）966名 延べ利用数（子）12,430名（保護者）11,509名 ひろば開催日数 年間253日 平均利用者数94.6名（子+保護者）昨年度92.0 乳幼児一時預かり 新規登録（子）222名（累計690名）延べ利用数1,783コマ（1コマ3時間） 実施日数 年間103日 平均利用数（定数10名） 水曜9.2名 日曜8.1名 トワイライトステイ 新規登録（子）13名 延べ利用数230名 平均利用数 0.48名 実施日数 年間359日 利用が入った日数 161日 相談 144件（電話・面接） 813件（ひろばでの相談） グループミーティング 実施24回 延べ参加者数 87名</p>	<p>環境修繕の総括</p>	<p>ひろばは明るく開放的であるが、3面ガラス窓で覆われているので、非常に外気の影響を受けやすく、エアコンもなかなか効かないという状況であった。2012度は、昨年度末に施工してもらった断熱フィルムの影響もあつてか、若干の改善は見られた。躯体そのものに大きな補修の必要性はみられないが、3年も立ってくると随所に汚れも目立ち始め、自分たちで出来る範囲については、清潔を保っていきたい。 年度末に、全カーテンのクリーニングとエアコンの洗浄を実施、エアコンについては大掛かりでひろばを一日お休みしての実施となった。今回畳の張替えについては見送られた。</p>
<p>主な行事報告</p>	<p>・毎月定例のもの スポットタイム（2回） 計測（2回） カプラで遊ぼう（1回） 土曜日スポット（1回）ねりマイクメンパプロジェクトによる実施 ・たんじょうカード作成（常時受付） ・季節の行事 七夕たんざく ひなまつり クリスマス会・お楽しみ会（実行委員形式） ・看護師さんに聞く 7/19、2/5 年2回（講師：公立保育園 看護師） ・栄養士さんに聞く 11/29、1/22 年2回（講師：公立保育園 栄養士） ・ノーバディズ・パーフェクト 9/11～10/23 全6回（ファシリテーター 林田道子さん）</p>	<p>人事その他</p>	<p>所長 1名 リーダー：ひろば担当 1名 リーダー：一時保育担当 1名 常勤職員（トワ・ひろば・相談） 3名 1名育児休暇（3/1復帰） 常勤（正規）6名 他 パート職員 10名 スーパーバイザー 龍野陽子（子どもの虐待防止センター 元専任相談員） 藤尾静枝（支援者のための研究室 悠 代表 保健師・精神保健福祉士）</p>

事業の内容と展開総括

<p>市内で唯一の子ども家庭支援センターとして、市内各方面からの期待もますます高まってきていることを感じている。先駆型として歩み始め 4 年がたったが、気がかりな家庭が増えてきており、子ども家庭支援センターがどこまで受けていくのか、指定管理事業者としての立場で権限のないところでの対応は課題が多い。児童相談所、市などとも連携を密にして、協議を進めていかなければならないと感じている。</p> <p>1. ひろば事業</p> <p>○親子が安心して集える場、居心地の良い場所としてひろば運営を行ってきた。その中で親子が共にゆったりと過ごせる場が、いかに必要かを実感させられている。赤ちゃんの時に遊びに来ていた親子が転居後しばらくして「久しぶりー、大きくなったでしょ!」と顔を見せてくれるのは嬉しい。年度途中でスタッフが昨年に引き続き、産休・育休に入り、新しいスタッフが加わった。ひろば事業の相談員としてベテランの子育て支援者が指導に当たり、紆余曲折はあったがスムーズに進めることができた。ひろば事業での親子の遊び、子ども同士の遊び、親たちの出会い、学びあいの効果の大きさが見られるが、これもさりげなく介入するスタッフの働きの成果であると考えられる。ひろば事業を継続利用しつつも数年経ってやっと相談のできる人もいるので、スタッフが同じ思いになり問題を共有できる時間の必要性を感じ、毎日短い時間ではあるが、スタッフ同士で振り返りをしながら検討し学びの時を今後も充実させたい。</p> <p>○法人内では他区での支援センターの運営経験が長いので、相談研修、ひろば研修などを通して参加者から話を聞き学び合い、雲柱社のひろばとしてのの良さが増々生かされることを考えていきたい。</p> <p>○相談事業にスタッフの人数を必要とするのであるなら、ひろば事業を見直し、より先駆型としての機能を充実させて欲しいとの市の意向はあるが、ひろばから相談に繋がるケースも多く、仲間づくりの場であるひろばは親子の孤立化を防ぎ、事業の中心はひろば事業であることをスタッフ間で確認し、その思いを貫けたことは良かった。先駆型として、虐待対策ワーカー3人で各機関、近隣からの通報を受け、調査、面接、支援を行っているが、まだ隅々まで十分に対応し切れていないと感じている。</p> <p>○親たちもプログラムに参加し、活動が活発になってきているので、今後も利用者の自主活動を支援していきたい。</p>	<p>事業目標・方針と展開</p>	<p><目標></p> <p>○地域の中で子ども達を見守り育てていくことへの関わりの重要性を、ひしひしと感じさせられている。</p> <p>○小平はワーカーが動けばケースが増えてくると言われており、一つの機関の限られた人数が八方手を尽くしても、対応し切れない現状がある。これを打破していく為には、地域の協力者の援助が必要だが(秘義務遵守の中での動きとなるのは当然であるが)幸い学校、民生委員等各関係機関との連携がかなり出来てきているのでありがたい。</p> <p>○いつの時代にも弱い立場の子ども達を守っていくことは、雲柱社としてのやるべき仕事と考える。子ども家庭支援センターの第一の事業は虐待の予防と考えているが、問題が複雑化している中で先駆型として対応がどこまでやれるのか、どこまでやってよいのか、迷いながらの関わりでもあった。虐待問題も誰かが支援していかなくてはならないとするならば、それは雲柱社のなすべき事ではないかと思っている。問題の背景には貧困があり、親世代の成育の問題があり、発達障がい児を育てる親自身に発達上の問題があり、支援する者の専門性を問われることが多くなっている。ひきこもり、非行、不登校等、小学校高学年から上の子どもに対する支援の場が少ないのが今後の課題だ。</p> <p><方針></p> <p>○ひろばでの利用者同士の関わり、体験はほぼ援助の目的に沿って進んできていると思うが、こうした場を作っていくのが現代の問題を予防する重要な支援のベースになると考えている。「ひろば」は雲柱社の子ども家庭支援センターの中心である。</p> <p>○父親のひろば利用も増えてきているので父親講座の充実を考え、専門相談員を中心に実施した。子育ての密室化、負担感を減らすためにも、父親の子育て参加は不可欠なのでこれからも大事にしていきたい。</p> <p>○相談は充実してきている。ひろば事業と専門相談もケースを補完しあっている。経過をたどりつつ改善を見守る。</p> <p>○虐待防止機能の強化、要保護児童対策協議会、実務者会の充実が図られ関係機関との連携も強化されつつある。学校との連携を図っているが、学校からの要望も多く、人手不足が大きく問題となってきた。昨年度から東京都の補助により、虐待対策ワーカーが1名増員され、相談システムの導入もあり(24年度から)事務処理が簡略化されてはきている。しかし時間の確保が難しく課題は多い。しかしワーカー2人での訪問、見守りなどを積極的に行っていければと考えている。</p> <p>○今年度、市で特別支援協議会が発足された。子ども家庭支援センターも参加メンバーとして、これまで以上に期待されており、役割が増えていくと思う。</p> <p>○多くのケースを抱えるワーカーの負担をどう支えていけるかは今後も管理職の課題となっている。</p> <p>○小平地区は法人の事業所が少ないが、仕事内容を考えると産業医の配置を一日も早く取り入れてほしいと願っている。</p> <p>○今年度も個人の訴訟保険についての対応を検討しつつあるが次年度持ち越しとなっている。</p>																		
<p>○各年齢講座、講習会等は専門相談員やボランティアで来てくださっている先生たちの協力が得られ実施できた。</p> <p>○CSP（コモンセンスペアレンティング）は必要性を感じ、専門相談員を中心に2回行った。以前のように6回というのではなく、必要と感じた時に企画したことはセンターにとっても利用者にとっても負担にならず良かった。</p>	<p>環境整備・修繕</p>	<p>○相談室の床のカーペットが古くなり気にしていたが、ようやく取り替える事が出来た。</p> <p>○ひろば事業としてはマンネリ化しないよう、後半おもちゃを少し購入した。利用者から狭いという声も出ているので狭いながらも利用しやすい部屋作りを考えていきたい。ひろば事業や小平元気村東おがわ内で子どもの行事がある時は、来所者も増え、座る場所も無くなるほどである。講座、遊びのサークルなどの時は青少年の部屋を借りているが、日常でも借りられる場所があればと考えている。(市との交渉)</p> <p>○電話が繋がらないと評判が悪く、家庭用電話から業務用電話に取り換えてもらえるよう市に依頼している。1度は承認されたが予算の都合で来年度の補正予算時に再度依頼する。</p>																		
<p>3. 相談事業</p> <p>○近年は乳幼児だけでなく中高生に関する相談も多くある、その為、センターを頼ってくる児童が増え、時間外の対応になることで、相談スタッフの超過勤務増となっている。精神的疾病、家族問題、貧困、虐待傾向家族(世代間連鎖)、親子ともに問題を抱えている要支援家族が増え問題が山積みになっていく中で、市の関係機関との連携、どのようにサービスを提供できるのか、相談員としての力量が試されることばかりである。(市の機関からも一目置かれもしているスタッフではあるが)</p> <p>○支援方針会議(週1回)、受理会議をしっかりと行い、ケースの共有化、支援方針の検討を行ってきた。訪問、関係者会などで外に出ることが多く、ワーカー3人揃うことが少ないが、出来る限り情報共有に努めてきた。</p> <p>○課題になっていたケースの整理、パソコンでのケースの共有化、進行確認等を相談システム導入によって実現した事は良かった。それによって深刻なケースの気がかりだった個人情報の管理が守られるようになったのでほっとしている。しかし小平市の個人情報を指定管理の事業所で法人の責任で保持し管理することについての課題は残る。また、システム入力が閉館後になるのでワーカーの時間外勤務は多くなっている。</p> <p>○月1回、児相のチーフとスーパーバイザーに入ってもらい虐待ケースの検討を行った。新人ワーカーが加わったので関係者会や訪問などは初めは2人で行うようにしてきたが、経験者としてのワーカーの負担は大きい。</p> <p>○虐待対応としては、児童相談所が後方支援にまわったことで、子ども家庭支援センターがやらなくてはいけないケースが増え、小平市子ども家庭支援センターとしては、機能をフル回転して対応してきているが、人手不足は事実である。昨年度途中よりワーカーが1名増えたが、ケースの重篤さを考えるとまだまだ足りない面がある。他市での不幸な事件を聞く度に地域の中で拾い上げきれない家庭がないようにするにはどうしたらいいのかを考える。民間としての努力だけではやり抜けないものを感じ、どうクリアしていくかを迫られている。また、雲柱社の理念に基づいた利用者主体の支援を考えながら、これからも関係機関との連携を密にしていきたいと考えている。</p>	<p>数 年間利用者</p>	<table border="0"> <tr> <td>・新規登録者数</td> <td>565 人</td> <td>・総登録者数</td> <td>6,272 人</td> <td>・虐待相談受理件数(新規)</td> <td>470 件</td> </tr> <tr> <td>・年間子ども利用者数</td> <td>6,144 人</td> <td>・年間利用者数</td> <td>11,193 人</td> <td>・虐待年間延べ件数</td> <td>1,408 件</td> </tr> <tr> <td>・新規相談件数</td> <td>1,108 件</td> <td>・年間相談数</td> <td>2,276 件</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(2月末現在)</p> <p>※システムの都合上3/1～2/28の一年間の件数となる。</p>	・新規登録者数	565 人	・総登録者数	6,272 人	・虐待相談受理件数(新規)	470 件	・年間子ども利用者数	6,144 人	・年間利用者数	11,193 人	・虐待年間延べ件数	1,408 件	・新規相談件数	1,108 件	・年間相談数	2,276 件		
・新規登録者数	565 人	・総登録者数	6,272 人	・虐待相談受理件数(新規)	470 件															
・年間子ども利用者数	6,144 人	・年間利用者数	11,193 人	・虐待年間延べ件数	1,408 件															
・新規相談件数	1,108 件	・年間相談数	2,276 件																	
<p>○課題になっていたケースの整理、パソコンでのケースの共有化、進行確認等を相談システム導入によって実現した事は良かった。それによって深刻なケースの気がかりだった個人情報の管理が守られるようになったのでほっとしている。しかし小平市の個人情報を指定管理の事業所で法人の責任で保持し管理することについての課題は残る。また、システム入力が閉館後になるのでワーカーの時間外勤務は多くなっている。</p> <p>○月1回、児相のチーフとスーパーバイザーに入ってもらい虐待ケースの検討を行った。新人ワーカーが加わったので関係者会や訪問などは初めは2人で行うようにしてきたが、経験者としてのワーカーの負担は大きい。</p> <p>○虐待対応としては、児童相談所が後方支援にまわったことで、子ども家庭支援センターがやらなくてはいけないケースが増え、小平市子ども家庭支援センターとしては、機能をフル回転して対応してきているが、人手不足は事実である。昨年度途中よりワーカーが1名増えたが、ケースの重篤さを考えるとまだまだ足りない面がある。他市での不幸な事件を聞く度に地域の中で拾い上げきれない家庭がないようにするにはどうしたらいいのかを考える。民間としての努力だけではやり抜けないものを感じ、どうクリアしていくかを迫られている。また、雲柱社の理念に基づいた利用者主体の支援を考えながら、これからも関係機関との連携を密にしていきたいと考えている。</p>	<p>行事報告</p>	<p>各行事とも利用者から好評だった次年度も充実したプログラムを考えていきたい。</p> <p>・各年齢別講座:(ねんね、げんき):月1～2回</p> <p>・父親講座:年2回 ままらっこ障がい児を持つ親の会:月1～3回</p> <p>・ベビーマッサージ:年1回 りぼんの会(助産師さんによる相談):月1回</p> <p>・コモンセンスペアレンティング講座:年2回</p> <p>・誕生会:年12回</p> <p>・おめでどうの会:年1回 その他テーマ別講座</p>																		
<p>○虐待対応としては、児童相談所が後方支援にまわったことで、子ども家庭支援センターがやらなくてはいけないケースが増え、小平市子ども家庭支援センターとしては、機能をフル回転して対応してきているが、人手不足は事実である。昨年度途中よりワーカーが1名増えたが、ケースの重篤さを考えるとまだまだ足りない面がある。他市での不幸な事件を聞く度に地域の中で拾い上げきれない家庭がないようにするにはどうしたらいいのかを考える。民間としての努力だけではやり抜けないものを感じ、どうクリアしていくかを迫られている。また、雲柱社の理念に基づいた利用者主体の支援を考えながら、これからも関係機関との連携を密にしていきたいと考えている。</p>	<p>人事報告</p>	<table border="0"> <tr> <td>センター長</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>虐待対策ワーカー</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>子ども家庭支援ワーカー</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>地域活動ワーカー</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>ひろばワーカー</td> <td>1名(非常勤)</td> </tr> <tr> <td>専門相談員</td> <td>2名 発達相談:松田景子(言語聴覚士)、こころの相談:丸谷充子(臨床心理士)</td> </tr> <tr> <td>スーパーバイザー</td> <td>1名 龍野 陽子(子どもの虐待防止センター 元専任相談員)</td> </tr> </table>	センター長	1名	虐待対策ワーカー	3名	子ども家庭支援ワーカー	3名	地域活動ワーカー	1名	ひろばワーカー	1名(非常勤)	専門相談員	2名 発達相談:松田景子(言語聴覚士)、こころの相談:丸谷充子(臨床心理士)	スーパーバイザー	1名 龍野 陽子(子どもの虐待防止センター 元専任相談員)				
センター長	1名																			
虐待対策ワーカー	3名																			
子ども家庭支援ワーカー	3名																			
地域活動ワーカー	1名																			
ひろばワーカー	1名(非常勤)																			
専門相談員	2名 発達相談:松田景子(言語聴覚士)、こころの相談:丸谷充子(臨床心理士)																			
スーパーバイザー	1名 龍野 陽子(子どもの虐待防止センター 元専任相談員)																			

2012（平成24）年度 雲柱社 支援センターブロック 事業報告

施設名 小平市ファミリー・サポート・センター
 記入者 武井 まさ子

事業の内容と展開総括	<p>小平市でのファミリー・サポート・センター事業開始8年目。活動全般としては安定していると思われる。雲柱社が受託して5年目であったが、継続の中で見直しつつ内容的にはほぼ定着してきている。</p> <p>当初からの会員も、アドバイザーも落ち着いて活動をしている。</p> <p>会員数は大きな変化はなく、横ばい傾向ではあるが、アドバイザー達の努力もあり、少しずつでも増えている事を大切にしていきたい。会員確保のため市民に向けてのアピールが必要と思われる。保育園、小学校、各ひろば等に説明に向く事も増やしている。</p> <p>○養成講座 年間2回の養成講座で70名近くの新しい提供会員が加わっているが、支援の回数が少ない、小さい子を預かるのが不安と退会する会員もいたりして横ばい状態だ。 利用者は多いが提供会員の数に地域的な差があり、提供会員の少ない所で説明会を増やし開催した。講師や場所の都合でひとつひとつの講座の間隔が開きがちだが、早めの講師依頼、部屋の確保をすることで、1か月を超過しないように心がけてきた。</p> <p>○フォローアップ研修 提供会員の中には久しぶりに小さい子どもと接する人もいるので、ひろば体験が必要と感じ、今後も小平市子ども家庭支援センターで体験者を受け入れていく。</p> <p>○交流会 全体の会（利用会員、提供会員、アドバイザー） 子どもも参加して欲しいと、人形劇を市内のグループにお願いした。利用会員、提供会員も参加し楽しむことができた。お楽しみした後、参加した保護者を対象にファミサポのサービス内容の説明を行い、また提供会員を対象に情報交換会を行った、日頃のご苦労を感謝する会となったのは良かった。</p> <p>○ファミサポサロン 提供活動はほとんど1人で行う支援なので、日頃、共有共感する場が少ないため、ファミサポサロンでお喋りができる事は大変喜ばれている。サロンという形で立ち寄りやすい日を設定した。1回の参加人数は少ないが回数を多くして、今後も参加しやすいようにしていきたい。アドバイザーも話の中からニーズを聞きとってスタッフ打ち合わせ会で報告し合い、今後の活動に繋げている。</p> <p>○ステップアップ研修 利用会員の中にいろいろな家庭がありコミュニケーション不足によるトラブルになったりすることが起こってきている。そこで「コミュニケーション」講座を講師にお願いした。また「気がかりな子との関わりについて」をスタッフが講師になり実施した。参加した提供会員からは良い学びになったと喜ばれ、次年度も養成講座の中に「コミュニケーション」講座を加えた。</p> <p>○スタッフ・ミーティング 月1回 16:00～18:00 活動状況の振り返り、対応の反省、次月の活動内容の確認等を行い、アドバイザー達で現状や問題点を共有化する。気になった提供会員と利用会員との活動は事例を出し合い、話し合うことでより良いサービスを提供できるよう配慮した。</p> <p>○研修 女性労働協会の研修等、学びや情報を得ていく努力をしてきた。雲柱社で運営する3つのファミサポの合同研修や情報交換で今後もアドバイザーのスキルアップを図っていきたい。 利用会員の中には自分のやってほしいことを強く主張し、何故出来ないのかと怒ってしまう人がいる。アドバイザーもファミサポのルールを分かってもらうために対応に苦慮している。小平市子ども家庭支援センターの専門相談員に講師をお願いして「お母さんとの関わり」をテーマに研修を行った。まずは相手の話を聞き、受け入れることが大切と学ぶことが出来た。</p>	<p>事業目標・方針と展開</p> <p>○ファミリー・サポート・センターは、市民の相互援助としての活動を通じ利用者のニーズに応えている。しかし近年は預ける側のニーズが多様化している。アドバイザー達は多様化するニーズに応える工夫してきているがファミリー・サポート・センター事業の限界も感じている。</p> <p>○養成講座の充実を図り援助者のスキルを高めていく 利用者の多様性、ニーズの変化にそって講座のテーマも見直していく必要がある。利用者や提供会員の声を大切に受け止めていきたい。</p> <p>○アドバイザーの意識を高めつつ、話し合いを重ねて活動してきている。この仕事への理解と二者をコーディネートしていく事にやりがいを持ち、子どもと関わることを楽しむという気持ちを持って行きたい。</p> <p>○市内の他法人の子どもの預かりサービスと連携しつつ、利用者の立場になってサービスを提供していけるよう工夫する。 今年度の援助活動を振り返ると、子ども家庭支援センターに相談をするケース、子ども家庭支援センターからの聞き取りケースが多くなったと感じる。同じ法人としてプライバシーに十分な配慮をして支援してきた。この連携ができる事は強みである。</p>
	<p>利用状況</p> <p>会員数 総会員数 2,360人・利用会員 2,026人・提供会員 334人・両方会員 41人 提供会員養成講座 2回(6月、10月) 利用会員説明会 年間 41回(毎月) フォロー研修 2回(6月、10月) ステップアップ研修 2回(7月、9月) 交流会 1回(11月) サロン月1回(4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月)</p>	<p>人事報告</p> <p>センター長(小平市子ども家庭支援センター兼務) アドバイザー 4名 *常時2人体制での業務を行っている</p>

2012（平成24）年度 雲柱社 支援センターブロック 事業報告書

施設名 小金井市子ども家庭支援センター
 小金井市ファミリー・サポート・センター
 記入者 名取 知子

<p>事業の総括</p>	<p><子ども家庭支援センター> 1 ひろば事業 ・今年度は、“ひろばアンケート”を5年ぶりに行った。10月の1ヶ月の期間にひろばに来所された利用者、180名の方にアンケート用紙を配布し回答していただいた。子ども家庭支援センターが、利用される方達にとって安心、安全感を感じながら過ごしているか、安心してお子さんを遊ばせる場、気軽に相談できる場になっているかや、周知状況、感想や要望、様々な事業を利用した際の“気持ちの変化”などの把握を行った。回答結果としては、ひろばに対して、スタッフの関わりについても良い評価をいただき、比較的良い回答が多かった。厳しい意見は少なかったが、これに甘んじることなく今回のアンケートには、現れていない思いもある事をスタッフで確認しあい、今後も努力をしていきたいと話した。 ・日によってたくさんの事業が重なってしまい、スタッフも大忙しの日があったが、動きを皆で確認しあい、協力しあって進めていく事ができた。次年度は、行事や講演の日程を整理をし、ひろばにももう少しゆとりをもって、利用者に気持ちをむけられるようにしていきたい。又、センターから出て外で行う事業についても、もう少し広がるように検討していきたい。</p> <p>2 相談事業 ・相談に関しては、発達相談、心理の相談、どの相談も利用者に安心感をもたれた。「又何かあれば相談したい。」と専門相談の先生にも信頼をもたれている様子だ。ひろばを信頼して利用をされたり、ひろばだから相談がしやすい専門相談につなげやすい良さがあった。次年度から専門相談が直営に移るが、引き続き安心して相談につなげられるように直営の子ども家庭支援センターとも連携を深めていきたい。</p> <p>3 体験学習事業 ・1歳児保護者のグループワークなど保育つきでゆっくり話ができる内容の事業は、参加希望者が多く毎回抽選になってしまう。又、赤ちゃん達の親子教室もママ友づくりなどのきっかけにもなる為もあり熱心な応募者が多い。こちらが何をたえていくかが大切になるので、事業の整理をしつつ、つたえる内容について等を検討していきたい。</p> <p>4 情報提供事業 ・ホームページの見直しがなかなかできていない。古い情報もあるため、次年度事業内容の変更も含め見直しをする。</p> <p>5 自主サークル支援 ・ひまわりママは、次年度発達支援センターができる事もあり勉強会や意見交換会等積極的に活動がなされていた。逆に多胎児グループのさくらんぼはメンバーも入れ替わり、次の代の方たちがやり始めたところで、これからといった様子。あせらず一緒に考えていければと思う。</p> <p><ファミリー・サポート・センター> 1. ネットワーク人材育成事業 ・ファミサポの協力会員の講習会でひろばを知ってもらい、登録される方も増えつつある。又、学芸大学の学生さんで心理を勉強している方は、母子関係の見方も深く、スタッフも学ばせてもらう事も多い。 ・ひろばでのお母さんボランティアの継続が難しく、今後の検討課題である。</p> <p>2 ファミリー・サポート・センター事業 ・至急で利用したいが、予定されている説明会に参加できない方も多く、個別での説明も多くなってきている。逆に登録後すぐに利用予定はなく、何かあった時の安心の場と考えている人たちもいる。 ・依頼会員には様々な事情があり、電話対応の難しさを感じる。アドバイザーのスキルアップを図ることが課題である。要保護ケースの家庭への支援は、直営の担当者とアドバイザーとで連絡を密にとりながらすすめている。 ・通信に関しては、従来の紙面での配布の他、小金井市とも検討をし次年度からひろばのホームページに掲載していくことになった。</p>	<p>事業目標・方針の総括</p> <p>○今年度は、ファミリー・サポート・センターも子ども家庭支援センターの中に含まれる体制になった。ファミサポのスタッフには、昼の時間などひろばの事務室へ入ってもらい利用者に関わってもらった事は、実際に話を聞き活動につなげやすくなり、今後も続けていきたい。</p> <p>○ファミサポとひろばスタッフが一緒に龍野先生の研修を受けた事でお互いの様子が少し見えてきたところもあり、次年度も引き続きお互いの仕事を深めていきたい。利用者の立場に立って話を聴く。スタッフが自分自身の気持ちにも気付くと言う点では、まだまだ振り返りを皆で深めていく必要を感じる。</p> <p>○直営の子ども家庭支援センター、小金井市保健センターの保健師と月1回のケース検討会に参加することで、ひろばで気になる親子や健診からひろばでフォローが必要な親子を子ども家庭支援センターや保険センター保健師、ひろばへつなぐ事が少しずつできつつある。</p> <p>○今年度から、衛生委員会等で、法人内の愛の園保育園・かがわグループと合同研修・学習会でつながりをもてた事は良かったので今後も継続していきたい。</p> <p>○地域との連携では、小金井子育て子育てネットワーク事業に参加し、地域のNPO団体にも顔を知ってもらうよい機会になっているので今後も引き続き関わっていききたい。</p>																												
<p>環境・修繕の総括</p>	<p>○ひろばの出入り口、談話室（食事コーナー）の出入り口、事務室への出入り口の3か所のドアは、古くなり開閉がスムーズでないため、小金井市に依頼し新しくした。</p> <p>○利用者が増え、ひろばの赤ちゃんコーナーが狭いので少し広げた。利用者からも広がって良かったとの感想も聞かれた。</p> <p>○冬になると乾燥からか、ひろばの室内が滑りやすくなり、転倒するお子さんが多くみられる。加湿器が古かった為、新しい物を購入した。</p> <p>○アンケートからひろば用の雑誌・本などを見直し、利用者からリクエストされた本、雑誌などを購入した。</p> <p>○小金井市備品の電話が子機2台使用不能になり親機も調子が悪く、次年度は、購入を検討中。</p>	<p>年間利用者数</p> <table border="0"> <tr> <td>○子ども家庭支援センター</td> <td>・子ども延べ利用者数 12,631人</td> <td>・相談件数</td> <td>新規 356人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・大人延べ利用者数 10,983人</td> <td></td> <td>活動延べ件数 438人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ボランティア 登録者数 67人</td> <td></td> <td>こころの相談 33人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>活動実施回数 166回</td> <td></td> <td>助産師相談 19人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>参加者延べ人数 499人</td> <td></td> <td>育自相談 159人</td> </tr> <tr> <td>○ファミリー・サポート・センター</td> <td>・協力会員 166人</td> <td>・依頼会員 1,065人</td> <td>総会員数 1,275人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・両方会員 44人</td> <td>・活動件数 2,945件</td> <td></td> </tr> </table>	○子ども家庭支援センター	・子ども延べ利用者数 12,631人	・相談件数	新規 356人		・大人延べ利用者数 10,983人		活動延べ件数 438人		・ボランティア 登録者数 67人		こころの相談 33人		活動実施回数 166回		助産師相談 19人		参加者延べ人数 499人		育自相談 159人	○ファミリー・サポート・センター	・協力会員 166人	・依頼会員 1,065人	総会員数 1,275人		・両方会員 44人	・活動件数 2,945件	
○子ども家庭支援センター	・子ども延べ利用者数 12,631人	・相談件数	新規 356人																											
	・大人延べ利用者数 10,983人		活動延べ件数 438人																											
	・ボランティア 登録者数 67人		こころの相談 33人																											
	活動実施回数 166回		助産師相談 19人																											
	参加者延べ人数 499人		育自相談 159人																											
○ファミリー・サポート・センター	・協力会員 166人	・依頼会員 1,065人	総会員数 1,275人																											
	・両方会員 44人	・活動件数 2,945件																												
<p>主な行事報告</p>	<p>・お楽しみの時間…ボランティアによる子ども向けプログラム（月6～7回）</p> <p>・ゆりかごcafé…お茶を飲みながらの交流（月2回）</p> <p>・お父さんと遊ぼう…父親と子どもの遊び場提供（毎週土曜日）</p> <p>・クリスマスコンサート…ボランティアによるプログラム（年1回）</p> <p>・1歳のお誕生会…1歳親子のお祝い会（月1回）</p> <p>・エンジェル教室…育児教室（月2回）</p> <p>・かるがも教室…育児教室（月1回の3回連続開催）</p> <p>・0歳の集まり…0歳親子の集まり（月1回）</p> <p>・1歳児のグループワーク…グループワーク（月1回5回連続開催）</p> <p>・ひだまり…育児不安親支援事業（月1回）</p> <p>・お母さんグループ…グループワーク（月2回）</p> <p>・ひまわりママ…自主グループ支援（月1回）</p> <p>・さくらんぼママ…自主グループ支援（年4回）</p> <p>・おもちゃライブラリーとのイベント…共催出張ひろば（年3回）</p> <p>・中高生、専門学校体験学習、ボランティアの受け入れ（中学生ボランティア、中学生体験学習受入、高校生奉仕体験活動受入、大学生実習受入、専門学校実習受入）</p> <p>・小金井市子育て子育てネットワーク協議会参加</p> <p>・ボールプール、積み木で遊ぼう…遊びの提供（月3回）</p>	<p>人事その他</p> <p>○子ども家庭支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職 1名 ・子ども家庭支援ワーカー 3名（非常勤 1名） （地域活動ワーカー1名 兼務）・事務補助 非常勤 1名 <p>○専門相談員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達相談：松田景子（言語聴覚士） ・こころの相談：関戸百合子（臨床心理士） ・育児相談：宮澤陽子（臨床発達心理士） ・助産師相談：金岡直子（助産師） <p>○スーパーバイザー 龍野陽子（子どもの虐待防止センター 元専任相談員）</p> <p>○ファミリー・サポート・センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤 3名 																												

記入者 佐々木 宣 子

- ・児童発達支援センターの機能である「相談支援」実施の準備として、東京都相談支援従事者初任者研修に1名を派遣した。
- ・心理士による職員向け及び保護者向けの学習会を行い、心理士の役割について理解を深めた。
- ・小金井貫井北町地区の事業所を中心に今後の話し合いの土台作りとして、互いの業務内容を理解するための学習会を実施した。また、他ブロック交流研修として愛の園保育園へ職員2名を派遣した。
- ・東京都の中規模修繕補助金を活用し、鉄部塗装及び屋上防水工事を実施した。
- ・職員育成計画の検討、関係機関の見学の充実、指導手順書の活用等が課題である。

1 施設運営

(1) 事業実績

- ・集団療育と個別学習 年間療育日 279 日、延べ利用者数 8,038 人
- ・発達相談 76 件（在園児 44 件、外来 32 件）
- ・卒園生のアフターケア 必要に応じて就学先と引き継ぎ、学校見学を実施

(2) 児童の処遇

ア クラス編成（定員 35 名・現員計 66 名、3 月現在）

- ・週 5 日通園クラス 3 クラス（現員 27 名）
- ・週 4 日通園クラス 1 クラス（現員 6 名）
- ・週 1 日通園クラス 7 クラス（現員 33 名）

イ 健康管理（週 4、5 日通園クラス）

- ・内科健診 年 2 回（4 月、10 月）
- ・身体測定（身長・体重） 毎月
- ・身体測定（頭囲・胸囲） 年 2 回（4 月、10 月）
- ・歯科健診 年 1 回（11 月）
- ・蟻虫卵検査 年 1 回（5 月）

ウ 主な行事（週 4/5 日通園クラス）

4 月 入園式	5 月 春合宿	6 月 お楽しみ会	9 月 運動会
10 月 親子遠足	12 月 クリスマス会	2 月 親子スケート体験	3 月 卒園式・劇

エ 栄養管理

- ・職員会議内で給食会議を実施し、園児の様子や職員の意見を献立や配膳に反映させた。かがわ工房の場所をかり、給食試食会（週 4/5 日通園対象）と保護者アンケートを実施した。東京都による支援事業を活用し、給食食材（4 品目）の放射性物質検査を実施し、不検出となった。

オ 安全管理

- ・看護師による定期的な遊具の安全チェックを行った。
- ・小さな気づきからヒヤリハット記録を記入し、職員の安全意識を高めた。

(3) 職員の処遇

ア 職員構成

職 種	常勤（人）	非常勤（人）	合計員数（人）
施設長（管理者）	1（他事業所兼務）		1
主任（児童発達支援管理責任者）	1		1
児童指導員・保育士	15（内、4名他事業所兼務）	6	21
看護師		1	1

調理員	1 (他事業所兼務)	5 (他事業所兼務)	6
事務員	3 (他事業所兼務)	1	4
嘱託医		1	1
臨床心理士		1	1
スーパーバイザー (作業療法士)		1	1

イ 健康管理

- ・健康診断 年1回 (6～10月)
- ・細菌検査 調理員のみ毎月1回
- ・衛生委員会 年3回

ウ 職員会議

- ・グループかがわ全体職員会 (3回) ・児童部門会議 (6回)
- ・児童部門職員会議 (2回) ・職員会議 (12回) ・リーダー会議 (10回)
- ・ケース会議 (年10回) ・クラス会議 (基本的に週2回、個別のケース会議を含む)
- ・報告会 (平日療育日に毎回)

エ 職員研修

- ・法人本部研修 (経験年数別) …延べ8名参加
- ・かがわブロック研修 …年2回、延べ31名参加 (内、5名はパート職員研修Ⅱとして参加)
- ・スーパーバイザーによる支援についてのケースカンファレンス …4回、各回48名参加
- ・外部機関の主催する研究会・講習会の参加 …11講座、延べ12名参加
- ・学校・施設見学 (就学先見学含む) …18ヶ所、延べ25名参加

2 施設管理

(1) 設備関係

- ア 鉄部塗装及び屋上防水工事を実施した。
- イ 個別学習室のエアコンの買い替えについて助成金を申請中である。
- ウ 電気・配管等の修繕計画については未作成である。

(2) 備品関係

心理検査器具の購入について検討した。発達相談の実績と照らし合わせながら2013年度も継続して検討する。

(3) 災害対策

- ア 災害時に備え、避難訓練を毎月1回実施するとともに、保護者への引渡し訓練を8月～9月に各クラス1回ずつ実施した。また隣接する愛の園保育園、かがわ工房との合同総合避難訓練を10月に実施した。
- イ 防災設備の点検を委託により年2回実施 (9月・3月、内3月は消防署への届け出)、非常時食糧の確認を園の防火管理者が実施 (6月) した。
- ウ 災害時の連絡手段として、保護者に「NTT 災害伝言ダイヤル」についての案内を行うとともに、利用の訓練を年2回実施 (8月・2月) した。

3 地域社会との連携

- (1) 愛の園保育園との交流を、焼き芋などの行事を中心として計画的に行った。
- (2) 実習生やボランティアを積極的に受け入れ、障がい児やその家族に関心を持つ人材を育成するよう努力した。
- (3) グループかがわ後援会主催のバザー (11月) に職員、保護者が協力・参加し、近隣住民や地域の事業者との交流機会を作った。また、備品の貸し出しなどにより近隣の町内会行事への協力を行った。
- (4) 都立小金井特別支援学校の運営連絡協議会委員と小金井地域ケア連絡会に参加し、地域の関係機関との協力や情報交換を行なった。

1. 総括

- ・ 2012年度は、利用者18名からスタートした。10月に1名退所し、17名となる。
- ・ 2013年度4月から生活介護及び就労継続支援B型との多機能型へ移行するための準備を行った。
- ・ 正規職員は、1名増え3名となる。しかし、非常勤職員の急な退職および正規職員が11月より産休に入ったため、非常勤職員の募集を7月より行った。11月によりやく補充が行えた。
- ・ 下請け作業の受注作業では、新しく菓子箱づくりの仕事を受注したが、業者から駐車場がなく効率的にトラックが回れないとの理由で2ヵ月後断られる。しかし、ポスターの両面テープ裏貼りや数年前からDM封入作業を受注していた業者から新しい作業を依頼されるなど、細かく単発の仕事を行うことができた。
- ・ 65歳を超えた利用者、ご家族と相談を重ね、介護保険サービスへスムーズに移行することができた。
- ・ 日帰り旅行は、日本未来科学館へ。一泊旅行は、横浜中華街・カップヌードルミュージアム・八景島シーパラダイスへ行った。チキンラーメン作りが、大変好評だった。
- ・ 防災用品として、ヘルメットの購入、5年保存非常食・飲料水の入れ替えを行った。
- ・ 火災・地震など、いろいろな場面を想定し、避難訓練を行った。

2. 施設運営

(1) 実施事業

・ 作業内容

受託作業：福祉会館内清掃・福祉会館風呂清掃・小金井市凧制作
割り箸袋入れ・説明書折・付録袋詰め・DM封入作業

(2) 利用者の支援

ア. 利用者定員 20名 利用者現員 17名

イ. 支援方針

- ・ 明るく、楽しい作業所の雰囲気大切に、毎日の職員会で作業面・生活面ともに個別の援助内容を考え継続的に支援した。
- ・ 意欲的・安定的に作業へ取り組めるよう作業配置、作業内容を提案し環境及び作業備品を整えた。
- ・ 支援にあたっては、利用者の自主性を尊重し、行事の企画等も利用者話し合い実施した。

ウ. 健康管理

12月10日 健康診断 小金井市障がい者検診
2月14日 内科検診 嘱託医

エ. 主な行事

4月19日 花見会
6月15日 日帰り旅行
10月12日・13日 一泊旅行
12月25日 クリスマス会
2月26日 慰労会

(3) 職員の処遇

ア. 職員構成

所長	1名（兼務）
主任支援員	1名
支援員	2名（正規職員）
支援員	4名（週3日パート職員）
支援員	1名（障がい者雇用職員）
嘱託医	1名
相談員	1名

イ. 健康管理

健康診断 年1回

ウ. 会議

法人全体集会	3月23日
GK全体職員会	7月21日、12月8日
成人部門全体会議	2月2日
運営会・成人部門会議（所長、主任）	月1回
職員会議	月1回（ケース会議含む）
ショートミーティング	毎日

エ. 研修

法人内研修	グループかがわ内研修	年2回	各3名	4年目研修	1名
法人外研修	虐待防止法について		1名		

3. 施設管理

(1) 設備関係

- ・会館設備管理は、小金井市より指定管理を受けている小金井市社会福祉協議会が行う。
- ・作業室をパーティションで仕切り事務所を設ける。
- ・相談室の設置。

(2) 備品関係

- ・事務棚を購入した。

(3) 災害対策

- ・避難訓練…福祉会館全体避難訓練 7月31日、2月19日
小金井市福祉共同作業所内避難訓練 月1回
- ・利用者、職員分のヘルメットを購入した。
- ・家具転倒防止設置中。

4. 地域社会との連携

- ・希望者は、月1回地域のボランティアさんと陶芸を行った。
- ・福祉会館まつりやバザーに参加し、陶芸品の販売を行った。
- ・福祉会館利用者が主催する会に参加し、合唱・踊り・お茶会などで交流した。
- ・障がい者週間では、例年通り利用者がポスターを描き、市内の公共施設へ展示された。
- ・東京都立けやきの森学園高等部より2年生2名、東京都立田無特別支援学校より1年生1名の実習生を受け入れた。
- ・大学生2名、高校生1名をボランティアとして受け入れた。

。

1. 総括

- ・登録利用者数は現在90名で、昨年度より微増した。利用希望の問い合わせは引き続いており、2013年度はあと10名以上の契約をして登録利用者数100名を目標にしたい。
- ・グループかがわは自閉症の利用者が多いが、当事業所は自閉症や軽度の知的障がいがある方に加え、ダウン症の方などの申込が増加してきた。一人ひとりに合ったきめ細やかな支援をする必要がこれまで以上に高まっている。
- ・児童だった利用者が思春期に入り行動の抑制が難しく、屋外で支援することが困難になるケースが増加した。安全面での配慮や支援方法の検討等より専門性の高いヘルパーの養成と確保が必要とされているが、安定的な人材確保が難しい状況であった。
- ・学校の夏休み期間などは利用者の希望に応え合同プール企画などを実施したが、マラソン大会の伴走、宿泊の外出、親子参加が原則の行事への代理付き添いなど、現状の支援体制枠を超えた内容の依頼が寄せられ、これらのニーズに対して今後の方針を検討していく必要がある。
- ・利用者の人数が多くなったことで連絡・調整業務が増加し、連絡漏れや連携不備が以前より増加した。職員や他事業所との間で連携をこれまで以上に密にとっていく必要がある。
- ・事業収入増と利用者の利便性の向上を目的とし「日中一時支援事業」を申請したが、運営面、収入面等から鑑みて検討した結果、事業廃止の手続きをした。利用者からのニーズは大変高いが、経済的および運営的な観点からは安定したサービスの提供が大変厳しい現状が継続しており、次年度以降はかがわブロック内における移動支援、余暇支援事業について根本的な見直しを図りたい。

2. 施設運営

(1) 実施事業

- ①知的障がい児・者 居宅介護事業・行動援護事業
- ②知的障がい児・者 移動支援事業（各市町村の地域生活支援事業）
- ③その他有料の預かり事業

※ウイングス登録利用者の80%以上は②の移動支援事業

(2) 利用者の処遇

ア 登録利用者数

総利用者数 90名（移動支援 74名 行動援護 16名）

【利用者分布一覧】

市町村	小金井	国立	府中	小平	杉並	日野	国分寺	東村山	武蔵野	多摩	その他
人数	37	7	13	14	1	2	8	1	1	2	3

イ 利用者支援について

- ・利用者個々の意向の尊重に基づいた余暇充実を目指し、実施した。

- ・保護者との連絡は電話やメール等でこまめにとるようにした。かがわ工房、かがわの家、さくらの木所属の利用者が多いため、職員間でも都度連絡をとり、情報の共有を図った。
- ・2～3月のインフルエンザ流行の時期はヘルパーのマスク着用、手洗いの徹底などを周知した。
- ・安全管理については主任及び支援員が事業所名義の携帯電話を常に携帯し、事務所に職員が不在のときにでも転送されてきた電話やメールに即対応が可能な体制にしている。また、災害発生時は伝言ダイヤルサービス(171)を活用する等の災害時マニュアルを作成し、文書で利用者とヘルパーの双方に配布し周知徹底した。
- ・活動としては平日の放課後支援や、土曜日、祝日のお出かけや長期休みの預かり企画等を個々の希望に合わせて行なった。

(3) 職員の処遇

・職員構成

施設長1名(兼務) 主任1名 支援員2名(日中活動事業所と事務との兼務) 登録ヘルパー17名(非常勤)

- ・課題としては、ヘルパーにより支援の質にばらつきがあり利用者から指摘や要望も増えてきているので、ヘルパー支援マニュアルの改善や職員の同行による指導を増やし、人材育成に力を入れる必要がある。
- ・また、ヘルパーはこれまでは大学のボランティア活動などで障がいのある方と接する経験のある学生が主だったが、最近は未経験者のヘルパー希望者が増えてきているので、主任等が新入ヘルパーに同行指導する等現場での人材育成のきめ細かなフォローが不可欠となっている。厳しい職員配置のなか即現場で動ける人材育成も急務とされつつ日々の対応にも追われ、支援数の安定的な確保が難しく経営も厳しい状況が続いている。
- ・退職職員及び兼務職員の兼務先の異動に伴い、2013年度は依頼提供に応じきれない、また支援数の減少が予測されている。今後の対策を検討する必要に迫られている。

【ヘルパー数】 ※2013年3月時点 太字の丸文字は常勤ヘルパー

	週5回以上支援	週3回以上支援	週1回程度支援	月1～2回程度支援	それ以下の頻度
男性	①	①+2	5	①+1	0
女性	1	1	4	2	1

3. 施設管理

- ・小金井 KAGAWA 館301号室を事務所として使用。日常的には利用者の出入りは少ないが、雨天時や屋外での支援困難者などの支援の際に奥の保育室を利用するため、衛生面の管理を徹底した。
- ・避難訓練は小金井 KAGAWA 館全体で合同で実施した(年2回)。また、震災を機に改めて防災対策を強化し、避難経路の確保や安全設備の点検を行った。

4. 地域社会との連携

- ・「居宅ネット」(東京の居宅介護・移動支援事業所の連組合)との連携を強化し、合宿や総会などにも出席した。ガイドヘルパー養成研修の講師は居宅ネットに依頼し、協力をお願いした。

1. 総括

・以前よりご家族の方からのケアホームへの入所希望があり、2012年12月に新しいケアホームソレイユⅠ・ソレイユⅡ・ソレイユⅢと3つのユニットを開所した。利用者は19名で、かがわの家は全ユニット合わせて46名となった。各ユニットの場所が点在している状況の中、地区（貫井北町・桜町・あきる野）ごとに日中事業所と連携体制をとり、利用者の支援を行った。また、各ユニットの状況に応じて職員、非常勤職員を配置し、勤務体制を整えたが、夜間の支援に従事してくれるパート職員の確保が追い付かず、体制上は正規職員の負担によるところが多いのが現状である。

・月に一度、地区の代表者（サービス管理責任者・統括リーダー）で会議を行い、勤務・体制状況、利用者の状況等、全体の把握や確認を行った。

・災害対策として、各ユニットが点在する場所に応じた災害時の体制、対応、連絡方法等をまとめた。かがわの家は平日だけではなく休日も利用があり、また、いろいろな職員、非常勤職員が勤務するため、災害時の動き方、連絡のとり方等をわかりやすく掲示し、周知していくよう見直しをしながら、今後も整備していく必要がある。

2. 施設運営

(1) 施設体系（2013年3月）

施設体系	定員	利用者数
ケアホーム（共同生活介護）	45名	45名
グループホーム（共同生活援助）	1名	1名

(2) 利用者の支援

・利用者数（2013年3月）

ホーム名	定員	利用者数
シリウス	6名	6名
ミラ	5名	5名
カペラ	5名	5名
ベガ	4名	4名
ジュピター	7名	7名
ソレイユⅠ	7名	7名
ソレイユⅡ	7名	7名
ソレイユⅢ	5名	5名
計	46名	46名

- ・安定して生活できること、身の回りのことが一人でできることを目標に、個別支援計画を作成し、個人面談時に家族からの同意を得た。
- ・ソレイユが開所し、早番・遅番と必要人数を配置して対応した。各ホーム非常勤雇用が増えてきたため、連絡、引き継ぎ、利用者に対する日々の支援の確認がますます重要になってきた。

- ・ 行事、余暇活動については各ユニットで年間計画をたてて実施し、費用に大きな差が出ないように調整して行った。利用者の希望を取り入れながら、各ユニットの楽しみに合わせた内容を実施した。
- ・ ケアホーム・グループホームに帰宅時の手洗い、うがいをを行い、病気の感染予防に努めた。また、朝の検温を毎日行い、体調管理の把握をしている。その他食事、睡眠などについては、家庭や日中事業所とも連携して様子を把握し、健康管理に留意した。保護者の定期的な通院付き添いが困難な利用者については、職員が付き添って医師と

(3) 職員の処遇

- ・ 職員の構成
施設長 1 名(兼務) サービス管理責任者 2 名 生活支援員 29 名(兼務)
- ・ 生活支援員 20(非常勤) 業務委託 3 名
- ・ ソレイユⅡの利用者には夜間の対応が必要なため、状況に合わせた配置を組んだ。
- ・ 職員の健康診断は年 1 回実施した。
- ・ 会議は、グループかがわ全体職員会(年 3 回)、成人部門全体職員会(年 1 回)、グループかがわ運営会議(月 1 回)、成人部門運営会議、かがわの家地区会議(月 1 回)を実施した。また、ケース会・行事前打合わせは随時実施した。
- ・ 研修は、法人研修・東社協研修等に参加したが、勤務体制上全員が参加することがなかなか困難であった。

3. 施設管理

(1) 施設整備

- ・ ジュピターのエアコンが故障し、旧式の型だったため、事業所負担で利用者の各居室のエアコンを新しく設置した。(1,861,429 円)

(2) 設備関係

- ・ シリウスの建具の修繕を行った。(45,150 円)

(3) 災害対策

- ・ KAGAWA 館の耐震検査を補助金で実施し、結果は特に問題がなかった。
- ・ 防災倉庫の備品を確認して整備した。
- ・ 各ユニットの場所に応じた災害時の体制、連絡、対応方法をまとめた。
- ・ 避難経路や消火器の設置場所を確認し、非常時に対応できるようにした。
- ・ 消防設備の点検を実施した。
- ・ 避難訓練を年 2 回、KAGAWA 館のミラ・カペラはさくらの木の職員と連携して行った。

4. 地域社会との連携

- ・ お祭りや資源回収など、町内会の行事には積極的に参加した。また、町内の会議には定期的に施設職員が出席し、地域の方の理解を得られるように努めた。
- ・ 職場への通勤など、近隣とのトラブルにならないように、利用者によっては職員が付き添うなど配慮した。
- ・ 小金井グループホーム連絡会に参加し、市内の関係機関との連携を深め、情報を取り入れた。

1. 総括

- 平成24年度は、実習所利用者の家族から要望のあったケアホーム開設(ソレイユ)に向けて、かがわの家と協力しながら12月の開設に向けて準備を進めた。障害程度が最重度の方や難治性癲癇発作のある方など、対応が難しい方々もいるので、実習所職員も全面的に協力しながら事業を進めている。
- 東京都による利用者トイレ改修工事が1~3月の期間で行われた。トイレ床が乾式タイプになり、清潔で清掃等で使いやすいものとなった。
- 事業の安定化を図るために、生活介護事業に2名(うち1名は就労Bより移動)、就労継続支援B型事業に2名の利用者を受け入れた。
- 短期入所は、継続で利用してきた方が新しいケアホームに入居した為、12月以降の稼働率が下がってしまった。今後は、アルバイト等の専門スタッフを活用し、地域のニーズに応えていける体制の整備を図っていきたい。
- かがわの家(ベガ、ソレイユⅠ、ソレイユⅡ、ソレイユⅢ)と連携を取りながら事業を進め、会議や行事等についても合同で行っている。

2. 施設運営

(1) 実施事業(現員は平成23年度3月末時点)

生活介護事業…定員32名(現員36名) 音楽・陶芸・散歩・試験管袋詰め・廃油回収
 就労継続支援事業(B型)…定員10名(現員13名) パン製造、販売・付録袋詰め
 ショートステイ事業…2床(平成24年度延べ利用者数160名)

(2) 利用者の支援

- 年度初めに作成した個別支援計画に基づき支援を行った。個別支援計画は、半期毎に見直しを行い、家族から同意を得ている。
- 生活介護事業では、利用者の障がい特性や年齢、ペース、希望を基にグループ分けを行っている(3グループ)。活動プログラムや活動場所等は全てグループごとに設定している。
- 家族連絡会(年2回)、個別面談(年2回)、グループ別参観日、クリスマス会など家族の方々から意見や要望を積極的に聞き、交流を深める機会として開催した。また、家族から問い合わせのあった保険について、1月に代理店の方に来てもらい、関心のある方を対象とした障がいのある方でも加入できる保険についての説明会を開催した。
- 支援に役立てるため利用者アンケートを実施した。
- PT相談や整形検診を実施し、麻痺のある方や身体機能に心配のある方に対してアドバイスをうけている。また、PTには実際の活動を見てもらいプログラムに対してのアドバイスも得ている。
- 就労Bでは、利用者ミーティングを継続して開催し、行事の内容やグループ内の係分担決め等を利用者本人の意向を確認しながら話し合っている。また、毎週1回選択作業の日を設けた。
- 一泊旅行は、2回に分けて開催し、行き先は日光・那須塩原方面とした。(費用計1,288,821円のうち1,218,000円は運営経費補助金より支出。行事昼食代として利用者から500円を徴収。残りが事業所負担。)
- 給食については、給食の時間がより楽しめるようにし、利用者が「選択できる」機会を増やしていくため、バイキング食と選択食をそれぞれ年1回実施した。また、主任・支援員・調理師が参加する給食会議を定期的に行い、調理と支援の連携を図った。
- 外出は、1年に2回の一日出外を実施した。外出の内容は各グループ(就労B、生活介護3グループ)で利用者の意向や特色に合わせた内容にしている。利用者送迎の時間の制約上、行き先が限られてきている現状があるので、次年度はグループ別の外出と利用者が選択できるような外出を検討したい。

・第三者評価を受審した。

(3) 利用者健康管理

・内科検診（年10回）、整形外科検診（年2回）、耳鼻科検診、レントゲン検診、蟻虫検査を行なった。また、毎月の身体測定や内科検診の結果が記載されている健康カードを用いて、家庭と連携を図り健康管理を行った。

・病状や加齢に伴う状態の変化等で、通院の同行を行うケースが年々増えてきている。健康上の配慮が必要となってきた方も多く、今後も通院の同行等を行い医療面からのアドバイスを受けていきたい。

(4) 職員の処遇

・職員構成

施設長1名(兼務) サービス管理責任者(主任)1名 生活支援員16名(兼務)

職業指導員1名 調理員1名(兼務) 生活支援員9名(非常勤)

看護師2名(非常勤) 調理員3名(非常勤) パン製造職員3名(非常勤)

運転士6名(非常勤) 清掃職員1名(非常勤) 事務員3名(兼務)

・9月から産休・育休に入った職員が1名いた。また、子育てしながら働く職員もいるので、女性が育児をしながらも働きやすい環境にしていくように努めた。

・職員健康診断を年1回実施した。

・地域の障がいのある方の雇用機会を広げるため、また職員の業務内容の軽減を図るため、清掃業務についての障がい者雇用を引き続き行なった。

・法人内研修(経験年数別)、ブロック内研修(年2回)、外部研修に職員が参加した。外部研修では、障害者虐待防止法の施行にあたって、人権擁護や虐待防止の研修に積極的に職員を派遣するよう努めた。研修に参加した職員は、職員会等で報告を行った。

3. 施設管理

(1) 施設整備 (東京都所有の土地、建物を無償貸与を受けている)

・東京都による改修工事を行い、1階2階の利用者トイレと1階職員用女性トイレの床やブース、天井、便器等の工事を行った。工事期間中、トイレ天井の配管から水漏れしていたことが判明し、事業所負担で修繕を行った。また、2階トイレの改修工事で洗濯機置き場が使用できなくなることに伴い、利便性も考慮して2階身障者用トイレの1カ所を洗濯室に改修した。(水漏れ修繕と合わせて費用計626,430円)。

(2) 設備関係

・公益信託西村良枝記念知的障害者福祉基金の助成金を利用し、老朽化により壊れたが修繕不可だった多目的ホールのスクリーンプロジェクターを購入した。プロジェクターは利用者の希望によるDVD鑑賞等で活用している。

・送迎車(6台)も購入から6年が経過し、部品交換等の保守管理費用が膨らんできている。ガソリンの高騰と共に大きな課題となっている。

(3) 災害対策

・毎月1回の避難訓練と報告会では避難経路や避難誘導の対応について職員間で確認を行なった。また、災害用伝言ダイヤルの利用訓練をスタッフ・家族とともに実施した。

4. 地域社会との連携

・ホールや備品の貸し出しを地域の団体に向けて行なった。

・3月に「みのりフェスタ」(実習所祭)を開催し、近隣の住民や関係団体にも声をかけ、当日は盛況で終えることができた。

・地域に開かれた事業所を目指し、実習生やボランティアを積極的に受け入れた。特に、ボランティアで週1回活動に参加してくれている地域の方がおり、とても助かっている。

1. 総括

- ・生活介護事業の日中活動プログラムとして、「健康」を気遣うご家族からの要望に応じてウォーキングの時間帯を増やすように努めた。創作的活動時間では、手芸、絵画等を実施した。
- ・下請け作業は、通常の作業以外に他冊子の挟み込みがはいる、一定のペースで作業の時間帯があった。DM 作業の受注がなくなった。
- ・パン・焼き菓子作業の上半期は、暑さの影響もあって売上が伸び悩んだが、下半期はバザーやクリスマスクッキーの注文が増えてきたところである。
- ・工賃収入としては、2011 度より減少している。作業日額 400 円工賃＋ボーナス（2012 年度 8,000 円）の維持が難しい見通しである。生活介護事業でもあり、対応困難な利用者さんも抱えているなかで日中の居場所機能としての意味合いがより強くなっていると、思われる。
- ・余暇活動として、年間行事のほか利用者の方の要望に沿ったグループ活動を企画・実施し好評であった。それぞれの希望や特性に配慮して今後も実施したい。
- ・充実した個別支援提供のために、アセスメント・個別支援計画・中間報告のケース会を行なった。必要に応じて個別の事例について検討した。
- ・防災対策としては、避難訓練の充実を図り、広域避難場所の学芸大学への避難経路の確認や防災備品の補充、災害用伝言ダイヤルの利用などご家族とも行った。今後もより具体的な想定をした防災対策の充実に努める。

2. 施設運営

(1) 実施事業

- ア. 受託作業…付録の袋詰め、プラスチック試験管の袋詰め、封筒制作、会報紙の封入、アロマオイル取扱い説明書の折り・ケース組み立て、チラシ広告組み合わせ、アルミ缶回収事業、ポストイング、宅配寿司お食事セット袋詰め、公園清掃等を行った。かがわブロック間で作業の連携と分業を行なってきた。地域のつながりのある業者さんから作業を継続して受注した。
- イ. 自主製品パンの販売・焼き菓子製造・販売…夏場の猛暑の影響で売れ行きが落ちたが、秋から冬にかけてバザーやお祭りでの販売や法人内の事業所より行事クッキーの注文を頂き、宅配便でお届けした。
- ウ. リサイクル事業…アルミ缶回収を行った。
- エ. ボランティア活動…公園清掃作業を月 1 回実施した。

(2) 利用者支援

- ア. 利用者数 定員…25 名 現員…24 名
- イ. 支援方針
 - ・個別支援計画に基づいて、ひとりひとりの利用者の方の意向や状況に応じて支援を行った。
 - ・かがわの家利用者が半数おり、利用者の方の生活をトータルで支えるため職員の兼務体制をとり、情報交換や支援の協力と連携を図った。
 - ・移動支援利用者のために、ヘルパーとの情報共有を図った。
- ウ. 健康管理
 - ・看護師により、血圧測定・検温、服薬管理、急病や怪我の処置等日常的に健康管理を行った。
 - ・訪問歯科診療を行い、希望者が受診した。
 - ・細菌検査は、毎月調理職員、焼き菓子製造担当職員・利用者が行った。
 - ・内科健診 年 1 回 ・健康診断 年 1 回 武蔵野三鷹地域センター

エ. 主な行事

- 6月1日 春の日帰り旅行 東京都青梅丘陵ハイキング
- 10月19日～10月20日 秋の一泊旅行 静岡県伊豆
- 12月25日 クリスマス会
- 3月8日 慰労会 埼玉県毛呂山いちご狩り

オ. 給食

- ・利用者の状態に応じて分量の調整や食器の工夫をした。
- ・季節感や行事を盛り込んだメニューを提供した。

カ. 安全管理

- ・防災訓練 年6回 ・賀川学園との合同訓練(6月15日)・引渡し訓練(8月27日)
- ・三施設(愛の園保育園・賀川学園・かがわ工房)合同総合避難訓練(10月29日)
- ・防災設備点検(年2回)
- ・災害伝言ダイヤルの利用訓練を職員・ご家族とともに実施した。
- ・防災備品の点検・補充。

キ. 第三者評価機関による利用者調査を受審し、サービスの向上に努めた。

(3) 職員の処遇

ア. 職員の構成

施設長…1名(兼務) リーダー(生活支援員)…1名(常勤兼務) 生活支援員…7名(常勤兼務) 1名(常勤パート職員) 10名(パート職員) 看護師…1名(パート職員)
事務員…1名(兼務・パート職員) 調理員…1名(常勤兼務) 5名(兼務・パート職員)
嘱託医…1名 相談員 …1名

イ. 健康診断 年1回実施 若年健康診断 生活習慣病予防健診

ウ. 会議

法人全体会 かがわブロック施設長会(月1回) グループかがわ全体職員会(年3回) 職員会
成人部門合同会議(年1回) 運営会(月1回) 成人部会(2ヶ月1回) ケース会議

エ. 研修

- ・法人本部研修(経験年数別) 8名 パート職員研修Ⅱ 1名
- ・かがわブロック全体研修年2回 ・他事業体験研修(香川学園・さくらの木) 2名
成人部門研修 9名
- ・小金井地区3グループ合同研修 ・外部研修(行動障害の理解、サービス管理責任者研修、労働法、防災) 5名

3. 施設管理

- (1) 設備関係…ガス空調器(GHP) 修理 52,000円 食器洗浄機修理 29,000円
- (2) 災害対策…自衛消防訓練 年6回実施 ・防災設備の点検委託 年2回

4. 地域社会との連携

- ・町会祭り、福祉会館祭り、他事業所祭り等に出店し、備品の貸し出し等で協力した。
- ・パン、焼き菓子の販売店やアルミ缶回収などで各施設、地域住民との交流をもった。
- ・障害者週間では実行委員として企画に参加。ポスター絵画に参加、展示された。
- ・グループかがわ後援会主催バザーで、会場として賀川学園と共に施設開放を行った。
- ・特別支援学校実習生、社会福祉援助実習生、介護等体験等学生、保育実習生、ガイドヘルパー実習生を受け入れた。

1. 総括

- ・生活介護事業として作業活動、創作的活動、農作業、ウォーキング等の活動を行った。
- ・受注作業の状況は、年度当初、プラスチックの加工の仕事が入り、忙しかったが、それが入らなくなり、付録の袋入れ、部品入れ、及び各種加工の仕事も受けてきた。年度後半になってD-BOX（土のう袋）の仕事も入り、年度末には利用者に賞与も支給できた。
- ・農作業は、夏の時期、ナスや枝豆、ジャガイモなど順調に収穫ができた。
- ・創作活動、自主製品は、アイロンビーズに加え、はぎれを使った小物づくりにも取り組み、福生駅のプチギャラリーでの展示・販売など、出店・販売の機会を増やしている。
- ・春の日帰り旅行はあきる野市内のハイキング、秋の一泊研修は、共同募金の配分金を受けて実施、伊豆のアニマルキングダムとサイクルスポーツセンターに行き、宿舎は「伊豆潮風館」を利用した。
- ・ワークスタジオまつりは天候にも恵まれ、多くの方にご来場いただいた。地元のお囃子のほか、手品のグループにも出演いただいた。当日、西多摩新聞の取材を受け、後日記事が掲載された。
- ・あきる野市地域自立支援協議会では、市の防災課とも協議を行ない、防災ネットワークの構築を進めている。
- ・あきる野市地域自立支援協議会の権利擁護プロジェクトにも参加し、障がい者の虐待防止についても学習している。

2. 施設運営

(1) 実施事業

- ・作業内容…付録の袋詰め、部品入れ、プラスチック製品の加工、各種加工、D-BOX、
- ・自主製品の製造・販売…ポストカード、手焼きせんべい
- ・その他…アルミ缶、農作業、施設内外の清掃、アイロンビーズ、手芸

(2) 利用者の処遇

ア. 利用定員 定員…20名 現員…23名

イ. 処遇方針

- ・作業と生活面から利用者の状況、課題を検討し、個別の支援計画をたて、支援内容の充実を図る。

ウ. 健康管理

- ・6月28日 内科健診 9月13日 健康診断
- ・毎週検温、毎月体重測定、血圧測定
- ・昼食後、歯磨き。毎週木曜日に訪問歯科の治療や歯磨き指導を受けた。
- ・月1回利用者の健康促進のため、ロングウォーキングやアスレチックなどの取り組みを実施した。

エ. 主な行事

- ・5月11日 日帰り旅行 あきる野市内ハイキング
- ・9月27日、28日 一泊研修 伊豆
- ・12月22日 クリスマス会 ゲーム、ゴスペル鑑賞
- ・3月16日 鉄道博物館

オ. 給食

- ・アレルギー、肥満など利用者の特性に応じた特別食や行事食など、健康への配慮やより楽しく食

事ができるよう工夫している。

カ. 家族懇談会 3月8日

キ. 第三者評価…サービス評価（訪問調査は11月14日）

(2) 職員の処遇

ア. 職員の構成

管理者（施設長）1名 サービス管理責任者（リーダー）1名 看護師 1名（非常勤）

生活支援員 5名（兼務） 生活支援員（常勤パート）3名

生活支援員 12名（パート職員） 栄養士 1名（非常勤）

調理員 3名（非常勤） 事務員 1名（兼務） 嘱託医1名

相談員 1名（非常勤）

イ. 健康管理 健康診断 年1回

ウ. 会議

法人全体集会1回 GK全体職員会3回 運営会月1回

成人部会2ヶ月1回 成人部門全体会1回 職員会議月1回

ケース会議

エ. 研修…法人研修、ブロック内研修、外部研修（東社協、福祉施設士会、福祉医療機構等が主催）

3. 施設管理

ア. 建物・設備関係

- ・建物の漏水調査を行い、漏水個所の工事を実施した。
- ・トイレ、食堂の手洗い場の修理を行った。
- ・壁の破損については随時修理を行った。

イ. 備品

- ・利用者休憩用のソファが壊れたため、買い替えた。

ウ. 防災

- ・BCPを作成し、職員や利用者・ご家族への周知を図った。
- ・防災用のヘルメット、災害用トイレ、非常食等を購入した。

4. 地域社会との連携

- ・10月20日（土）に実施したワークショップまつりでは、地元のお囃子やマジックのグループにも参加いただき、地域の皆さんとの交流を行う。後日、「西多摩新聞」に記事が載った。
- ・西多摩療育センター「ミニ作品展」に、自主製品を出品した。
- ・あきる野学園の研修会（1月25日）で、自主製品を販売した。
- ・あきる野市地域自立支援協議会の関係部会やプロジェクトに参加した。
- ・あきる野学園や羽村特別支援学校の生徒の実習を受け入れた。
- ・白梅学園短期大学の学生2人を実習生として受け入れた。

1. 総括

- 平成24年度で東京都・小金井市の補助金事業終了に伴い、平成25年度からの事業継続に向けての見直しと検討を行った。24年度は新しい事業の展開を見据えた職員の育成と指導枠の維持・増加を図り、職員数を4名とし、業務委託職員を増やし、指導枠の増加をすることで事業収入の増加を見込んだ。
- 新人職員や業務委託の指導員も新しく代わったことで、指導への共通理解やスキルの向上のために、ケース会議の日程を増やし、引き続き学習会を定期的に行った。毎年度3～4回取り組んでいた体験学習の回数を1回に減らし、小金井市から委託されている「日曜クラブ」の事業についてもウィングスと協力することで職員の負担を減らした。
- 正規職員の雇用や建物の老朽化による度重なる修繕など、年々支出が増大していく傾向が顕著である。収入は限られているため、職員間の経費節減への意識を高め、光熱水費の使用削減・消耗品の使用・廃棄について効率的な方法を周知し、実践するように努めた。
- 引き続き賀川学園と兼務体制をとり、運営の安定化を図った。
- 災害時の緊急連絡用カード・避難場所の確認を職員と保護者に周知した。

2. 施設運営

(1) 実施事業

通常の個別指導、ペア指導、グループ指導の他に余暇支援としての体験学習を年1回、夏にキャンプ、冬にスケート体験を実施した。年間の指導日は延べ207日、補助金事業対象者の年間延べ利用者数は3,395名であった。その他、さくらの木相談室年34回、学校相談年8回、コミュニケーションブック・レシピ集・指導書31冊頒布した。

(2) 利用者の支援

自閉的傾向や発達に遅れのある子どもとその家族が、社会の中でより豊かに暮らしていけることを目指して支援を行った。指導内容は主に日常生活における基本的動作及びコミュニケーション手段の獲得、集団生活の適応を目標にひとりひとりの子どもの発達に応じたプログラムを立て取り組んだ。さらに、家庭の中で1日を過ごすことが難しい子どもたちや預ける場所がない家族のために、余暇支援として利用者の休日に、ウォーキングを実施した。

ア 利用者年齢構成

	利用者数（名）
幼 児	6
小学生	74
中学生	13
高校生	10
合 計	103

イ 地域別利用者数

	利用者数 (名)		利用者数 (名)
小金井市	26	府中市	13
小平市	7	国分寺市	13
国立市	7	日野市	6
東村山市	1	西東京市	1
武蔵野市	5	調布市	4
その他 (昭島市・青梅市・あきる野市・杉並区・練馬区など)			20
合 計		103	

ウ 健康管理

利用者の健康状態に留意し、軽い怪我には対応できるような薬を常備した。

(3) 職員の処遇

- ・施設長 1 名(兼務)、主任 1 名、指導員 3 名、業務委託職員 21 名で指導にあたった。
- ・職員には年 1 回の健康診断を行い、健康の管理に努めた。
- ・会議は事業所内の職員会議 (原則、週 1 回) を中心に、法人全体集会 (年 1 回)、グループかがわ運営会議 (月 1 回)、グループかがわ全体職員会 (年 3 回)、ケース会議 (月 4～6 回) を行い、運営上の課題、支援の方法等を話し合った。
- ・研修は法人研修、発達障害に関する専門性向上を目的に、他機関主催の研修に 1 人年 1 回、学習会 (月 1 回)、学校等の関連機関の見学 (延べ 17 件) や学校関係者の見学・相談の受け入れ (延べ 8 件) を積極的に実施した。また発達障害に関する書籍を購入し、研鑽に努めた。

3. 施設管理

- ・KAGAWA館の耐震検査を実施したが結果は特に問題なかった。
- ・共同募金の配分金で、ドアの取り換え工事を行った (130, 000 円)。
- ・年に 2 回、消防用設備の点検を実施した。

4. 災害対策について

- ・災害の規模により、災害伝言ダイヤルの利用・避難場所を職員と保護者に周知した。
- ・緊急連絡用カードの作成

5. 地域社会との連携

- ・賀川学園の卒園生の他、小金井市及び近隣市区町村在住者の利用も受け付けている。
- ・発達障害や事業への理解を促進し、近隣との良好な関係を保つため、ボランティアや見学者を積極的に受け入れた。また、グループかがわ後援会主催のバザーや自治会に参加するなど、地域住民との交流を図った。